# kamipro

MMA & PRO-WRESTLING

enterbrain MOOK

大会速報、選手ブログは携帯で!
kamiproMove

2010
153
特別定価940yen

12.11 K-1WGPで“外敵”が“主役”になる!
日本に残された最後の怪物

## アリスター・オーフレイム

幸せミニ特集
すてきな奥さん2010

# UFC?

迫りくる帝国の魔の手!!

# 世界の格闘技はUFCのためにあるのか

エメリヤーエンコ・ヒョードル／ダナ・ホワイト
ファブリシオ・ヴェウドゥム／ケイン・ヴェラスケス
石井慧／小見川道大／北岡悟／中井りん
桜井マッハ速人×長南亮／マッスル坂井／安田忠夫

# 前田日明

凱旋帰国マッチ実使用

ポールオンドーフ戦
1983年4月

スペースローンウルフ
1986年10月

# 武藤敬司

テレビ東京系
「開運!なんでも鑑定団」
に当館長が鑑定士として出演

## 高価買取・格安販売

マスク,ベルト,Tシャツ,ビデオ,本,雑誌,パンフ,CD,フィギュア他...50,000点!

闘道館 検索
詳しくはWebで!

▼携帯からも注文できます!

〒101-0061
東京都千代田区三崎町
2-9-9ナガヤビル5F&6F
(JR水道橋徒歩3分)
03-3512-2080
午前11時~午後9時(年中無休)

# kamipro

2010 No.153 CONTENTS

表紙写真／吉場正和

マット界を支えるピュアワイフたち!

ミニ特集 すてきな奥さん2010

奥さん写真館も見てね ウフフ〜♪

## MMA & K-1



## Lovely Wife



## PRO-WRESTLING



## Columns

例年ならば、すでに大晦日『Dynamite!!』のカードが何かしらアナウンスされている頃だが、11

まえのものは俺のもの」とうそぶいてやまない。
その戦場はあのBJペンですら

戦士たちが雨後の筍のごとく群がり、しのぎを削っている。
●イギリスに続いてカナダに

# 怪物化するMMA帝国
# 世界はUFCのためにあるのか

例年ならば、すでに大晦日『Dynamite!!』のカードが何かしらアナウンスされている頃だが、11月15日締め切り現時点で何かカードが内定したという情報は耳にしていない。

主催者によれば、噂となっていた青木真也vsギルバート・メレンデスの再戦も「最終調整中」とのことで発表は土壇場で延期に。

このリベンジマッチ、一説によればDREAMサイドとストライクフォース（以下、SF）とのあいだではおおむね合意しているが、メレンデスとSFのあいだの契約見直しが進んでおらず、その影響で成立が遅れているというが……。

このピンチにFEGの谷川代表は「石井慧vs○○」「桜庭和志vs△△」という2大サプライズカード実現のため奔走しているが、どうなるか。頼むよサダハルンバ！

いずれにせよ日本格闘技界が不安定な状況下にあることは間違いなく、それは日本のマーケット自体の失点もさることながら、圧倒的快進撃を続けるUFC帝国と比べての見劣りからも生じてはいないだろうか。

勢いを増すUFC帝国の世界征服物語――。かつて世界の中心だった日本MMA界の隆盛も、しょせんはこの物語に花を添えるものだったのだろうか……。んあ～！

カジノグループの総帥が皇帝に君臨するUFC帝国は、世界に名だたる剣闘士を数多く抱え、それを指揮するダナ・ホワイト大将軍は「おまえのものは俺のもの」とうそぶいてやまない。

その戦場はあのBJペンですら「過去の人」になりかねない激しいもの。他国を圧倒する帝国最大の武器はその新陳代謝の活発さだ。

強い者が頂点に勝ち進み、王者は挑戦者を拒めない。格闘技が持つあたりまえの醍醐味を支えるのは、揺るぎのない興行論にある。競技性だけで見ようとしても帝国の本当の姿は見えてこない。その恐ろしさをあらためて箇条書きにしてみた。

●7階級王座制定団体。ズッファ傘下のWECを統合したことでフェザー級とバンタム級の階級も加わった。各王者はほぼ4ヵ月に一度のタイトルマッチをこなしている。

●ほぼ月イチ以上のペースで開催されるナンバーシリーズ。毎大会事に『PRIDE男祭り』クラスの収益を上げているという。

●ほかの格闘技団体を突き放す圧倒的なPPV件数。ブロック・レスナーがメインイベントを務めた先日の『UFC121』は100万件超えが推測される……。

●ナンバーシリーズ以外に『UFN』や『UFC on Versus』といったケーブルテレビ向けのイベントも開催している。

●UFCファイター新人オーディション番組『ジ・アルティメット・ファイター』に集うファイターたちのレベルの高さ。日本のメジャー団体経験者も番組トライアウトに挑戦。日本では人材難であるミドル級以上の戦士たちが雨後の筍のごとく群がり、しのぎを削っている。

●イギリスに続いてカナダに本格進出を計画中。来年にはアブダビ、オーストラリア、ブラジルへの再進出も内定していると言われる。

●2011年にはスタジアムイベントを計画中。5万人規模興行。北米MMAでは、あの『Dynamite!! USA』以来のスタジアムイベントとなるが、ダナとしてはそんな前例はなかったことにするだろう。

●大会開催2カ月前にはほとんどのカードがアナウンスされる。厚い厚い選手層……。

●ファイトマネーのほかにファイト・オブ・ザ・ナイト（ベストバウト賞）、サブミッション賞、KO賞で数百万円のボーナスが支給される。ダナのきまぐれボーナスもあるから選手はいい意味で油断できない。

●俺のものは俺のもの。おまえ（他団体）の選手も俺のもの。他団体のトップファイターはいつ何時でも手に入れようとしている。アリスター・オーフレイムにも興味津々だという……。

迫りくる帝国の魔の手！ 恐るべしUFC!!

「ジャパニーズMMA」という言葉の意味が「日本人の手により日本で行なわれる」こと以外に見出せなくなってしまったいま、我々はこの帝国の猛攻の前になすすべがないのだろうか……。う～ん、なんとかしてくれ、谷川黒魔術！

White

ダナ・ホワイト

# 異常進化UFC!

## BJペンに続き、レスナーも陥落!!

# 「ヒョードルにもはや用はない 完全に過去の人間になったんだよ!」

UFC PRESIDENT

# Dana

毎月2回のペースでビッグイベントを実現させ、その勢いはとどまることを知らないUFC。
10.23『UFC121』ではあのブロック・レスナーがケイン・ヴェラスケスに敗れ、王座転落!
恐ろしいほど速い新陳代謝で進化を続けている。そんなUFCの現在をおなじみダナ・ホワイトに直撃。
止まらない高笑いとジャイアン節を聞け!

聞き手&撮影/石井史彦　構成/堀江ガンツ　試合写真/Josh Hedges(UFC)、gettyimages

**いまMMA界で最も忙しい男、ダナ・ホワイト。を、本誌は10・23『UFC121』の大会前と大会後の二度にわたって直撃！**

**まず『UFC121』二日前の声をお届けしたあと、大会終了後のインタビューを独占で掲載いたします！**

——今回もダナ・ホワイト社長の話が聞きたくて、ここアナハイムまで来てしまいました（笑）。

**ダナ**　何を言ってるんだ。ブロック・レスナーvsケイン・ヴェラスケスというスーパーカードがあるからだろう。おまえのところのマガジンは、こういったビッグファイトだけは見逃さないからな（笑）。

——ま、実際はそういうことです（笑）。このレスナーvsヴェラスケスという今年最大とも言える闘いを控え、いまの気持ちはどうですか？

**ダナ**　みんなと同様に俺もエキサイトしているよ。レスナーvsヴェラスケスは真のビッグファイトであり、リアルヘビーウエートだからね。NCWA（全米大学レスリング）のチャンピオンでWWEスーパースターが、MMAキャリアわずか4戦でUFC世界ヘビー級王座に就き、絶対王者として君臨している。それがブロック・レスナーだ。対する挑戦者ケイン・ヴェラスケスは、同じNCWAのチャンピオンでありレスリングをベースにしてオールラウドのタレントを持ち、MMA8戦全勝を記録している。この二人がついに闘うのだから、MMAファンのみならず、レスリングファン、あらゆるマーシャルアーツファン、さらに一般の家庭でも注目される試合なんだよ。

——MMAの枠を越えたビッグファイトなわけですね。

**ダナ**　とくに若いヴェラスケスには注目しておいたほうがいい。ヴェラスケスは彼のマネージャーであるボブ・クックから紹介されて初めてその試合を観たとき、まさにケージのドミネーター（支配者）という言葉どおり、止まることなく常に攻め続ける闘いぶりに驚いたんだ。チーク・コンゴ戦では、ビッグショットをもらっても逆にテイクダウンして、パウンドで攻め続けただろう？

——あのタフさとスタミナには、みんなが驚いたと思います。

**ダナ**　だから土曜日（10月23日）は、オールラウンドのスキルと無尽蔵のスタミナを持った無敗のヴェラスケスと、強靭なパワーを持ち毎試合成長ぶりを見せるレスナーの二人が、世界最強を決めるリアルファイトを見せてくれることになるだろう。これほどエキサイティングな試合、ほかにどこにもないよ！

——ファンのあいだでは、2005年のエメリヤーエンコ・ヒョードルvsミルコ・クロコップ戦以来の、真のヘビー級最強対決という声もありますが、どう思いますか？

**ダナ**　そのとおりだよ。いまでこそヒョードルは、現役なのかどうかもわからない男になってしまったが、確かに2005年の時点では世界最強と言ってもいい存在だっただろう。そして、ミルコ・クロコップも彼のキャリアのハイライトと言うべき試合だった。だが、いま現在、真のヘビー級最強、MMA世界最強を決めるリアルファイトはブロック・レスナーvsケイン・ヴェラスケスだということだ。

——このレスナーvsヴェラスケスをどう予想しますか？

**ダナ**　アスリートとして、またMMAファイターとして驚くべき才能を持った二人がオクタゴンの中でUFCヘビー級のタイトルを賭けてぶつかり合うんだ。どんなことでも起こりえるっていうことさ。この試合についての予想なんて、何千回も聞かれたけど、正直どうなるかなんてまったく想像もできないね。

Dana White

## ストライクフォースのヘビー級は下級レベルが集まっているだけだ！

——ストライクフォースのスコット・コーカーCEOは「ヒョードル、アリスター・オーフレイム、ファブリシオ・ヴェウドゥム、ジョシュ・バーネット、アントニオ・シウバ、アンドレイ・アルロフスキーといったビッグネームが揃った我々こそ、最高のヘビー級だ」と言っていますが、どう思いますか？

**ダナ**　おいおい、もしおまえらメディアが、そんなローワーレベル（下級）の団体の寝言を聞いて「ストライクフォースのファイターがトップ5にランキングされている」なんて思っているならシットだぜ。いまのUFCのヘビー級の"1軍"は完全にトップレベルのファイターで埋めつくされているんだ。ここまでタレントが揃ってるなんて、MMAの歴史上なかったことなんだよ。よく聞け！　ストライクフォールに関しては、ローワーレベルの団体でローワーレベルのファイターがいるということだけだ！

——では、話を変えて、秋山成勲vsマイケル・ビスピンの感想を聞かせてください。

**ダナ**　UFCロンドン大会のメインイベントを飾るにふさわしい素晴らしい試合内容だった。ファイト・オブ・ザ・ナイトに選ばれたことがそれを証明しているだろう？

——秋山選手は連敗で、UFC1勝2敗となりましたが、あなたの秋山への評価は下がっていない？

**ダナ**　アキヤマはこの3試合、観客やテレビの向こうの視聴者をエンターテインしてくれている真の戦士だよ。そして、自分の持っているものをすべて出しきって、いつでもベストの試合をしてくれる、アンビリーバブルなファイターだ。もちろん俺だってアキヤマのUFCでの戦績は知っているけど、アキヤマのようなすべてを出しきって闘う勇敢なファイターには、そういう一般論は通用しないんだ。俺はアキヤマを一個人としても、またファイターとしても尊敬しているよ。

——ベストファイトを続ける秋山選手に、あえてつける注文はありますか？

**ダナ**　階級を170ポンド（ウェルター級）にするべきだ、ということぐらいだな。彼が170ポンドに落とせば、間違いなく鋭い槍のような存在となるのに、なぜ185ポンド（ミドル級）にこだわり続けるのか理解できないんだ。アンデウソン・シウバに挑戦したいからなのか？

——アンデウソンではなく、ヴァンダレイとの対戦は熱望していましたが、あとは「自分のベストは185ポンド」という思いが強いようです。

**ダナ**　「185がベスト」というのは彼自身が思い込んでいるだけで、周りの誰に聞いても「170ポンドにすべき」と言うはずさ。いま185ポンドは本来ならライトヘビー級のようなビッグガイでも、ウェ

そこまで高いということですね。同じく日本人ファイターの岡見勇信選手につい

# アキヤマのような自分にタフな選手を俺は尊敬する。あと10試合くらいUFCで闘ってほしいと思ってるよ

ずさ。いま185ポンドは本来ならライトヘビー級のようなビッグガイでも、ウェートカットして挑んでくる階級だからね。その階級でアキヤマが闘うのは賢明ではないよ。

――今回の敗戦で、秋山成勲vsヴァンダレイ・シウバ戦は完全になくなりましたか？

**ダナ**　ヴァンダレイがいつ復帰できるかにもよるけど、いまはまったく白紙の状態だ。

――秋山選手に勝ったマイケル・ビスピンが、ヴァンダレイとの再戦を希望していますが、こちらが実現する可能性は？

**ダナ**　どうなるかわからないけど、そのカードを考えたことはなかったよ。俺としては、ヴァンダレイ・シウバvsクリス・リーベンを実現させたいね。

――7月に秋山選手を破ったリーベンとヴァンダレイの試合ですね。これはヴァンダレイ自身も希望していました。

**ダナ**　アグレッシブで荒々しいファイター同士だから、凄まじい闘いになるんじゃないかと思っているんだよ。

――秋山選手の次戦は、いずれにしても崖っぷちのカードになりますか？

**ダナ**　連敗しているのだから、負けられないのは当然だろう。ただし、俺自身はここ3試合でアキヤマが見せたような、ダメージを恐れず闘い、試合後にMRIなどメディカルチェックをしなくてはいけないほどになるファイターを尊敬するし、その試合スタイルが大好きなんだ。同時に試合を観るのが恐怖であることは事実だけどね。いずれにしても、アキヤマのような「自分にタフである」ファイターにとって、UFCはいつでもホームなんだ。俺自身としては、アキヤマにはUFCであと10試合はやってもらいたいと思っているよ。

――あと10試合！　秋山選手への評価はそこまで高いということですね。同じく日本人ファイターの岡見勇信選手についてですが、チェール・ソネンのドーピング違反により、アンデウソンへの挑戦者が変更になりましたが、岡見選手ではなくビクトー・ベウフォートになった理由はなんですか？　やはりPPVのことを考えてのことですか？

**ダナ**　ノー！　すべてタイミングとの兼ね合いだ。ビクトー・ベウフォートが元ヘビー級とライトヘビー級のチャンピオンだったという実績を忘れているんじゃないのか？　確かに、わけのわからないヤツが「ビクトーがタイトル挑戦だって？」と言っていたのを聞いているけど、そういう実績を持った選手であるビクトー・ベウフォートがアンデウソン・シルバとのビッグファイトに挑戦するのは当然なことなんだよ。

――1月1日に予定されている五味隆典vsクレイ・グイダ戦の見どころは？

**ダナ**　間違いなく、わくわくするようなファンファイトになるね。アグレッシブな二人のファイターがぶつかり合うから、一時も目を離さずに観てほしいんだ。いまから「ファイト・オブ・ザ・ナイト」候補試合として期待していてほしい。

――五味選手がグイダに勝ち、その次も勝つと3連勝になります。そうすればタイトル挑戦もありえますか？

**ダナ**　ゴミはUFCデビューの敗戦から立ち直るべく、ようやくKO勝利を収めたばかりだ。まずは数試合しないと、タイトル挑戦の可能性はないだろう。これは（マウリシオ・）ショーグンのケースと似ているんだ。ショーグンも才能豊かでPRIDE王者になったエキサイティングなファイターだが、ご存知のとおりUFCに来たばかりの頃は、あまりいい結果が残せな

かった。ゴミにもショーグンと同じようなことが起こっていただろう？

——確かにそうですね。

**ダナ**　しかし、ショーグンは自分をあらためて磨くことで、オクタゴンでも結果を出し始め、自分の力でタイトル挑戦のチャンスをつかんだ。ゴミも前回はいいシェープでオクタゴンに戻ってこれたので、このままのペースでトレーニングを怠ることなく、アクティブに試合をしていけば、タイトル挑戦も見えてくるんじゃないかと思っている。

——いまライト級は1位がフランク・エドガー、2位がギルバート・メレンデス、3位が青木真也となっていますが、どう思いますか？

**ダナ**　ハッハハハハ！　毎度おなじみのことを聞くんじゃない！　言うまでもなくわかってることだろう！

——すいません（笑）。

**ダナ**　そんなくだらないランキングを発表していること自体が、自分たちのレベルの低さを露呈しているんだよ。

——このまま五味選手と岡見選手が勝ち続けたら、来年、東京でミドル級とライト級のダブルタイトルマッチ開催なんていう可能性もありますか？

**ダナ**　可能性という点だけで言うのならもちろんある。しかし、まだ具体的な話ではないけどね。何度も言っているとおり、我々は近い将来、必ず日本大会を実現しようとしているからね。

——わかりました。では、期待して待っていますよ。

**ダナ**　そうしてくれ。そして、まずは土曜日のビッグファイトを楽しんでくれよ。

**【10年10月21日／米国カリフォルニア州アナハイム、ホンダセンターにて収録】**

**大会前の忙しいなか、インタビューに答えてくれたダナ。そして、予想を超えるド迫力の一戦となったレスナーvsヴェラスケス戦を終えたその夜、追加のインタビューのため、再びダナを直撃した！**

——まずは凄まじい闘いとなった、ブロック・レスナーvsケイン・ヴェラスケスの感想を聞かせてください！

**ダナ**　おまえもいまさっき、あの凄まじい闘いを観ただろう！　俺はいまUFCヘビー級が、これまでのMMAの歴史上最高レベルになっていることに興奮しているんだ。レスナーvsヴェラスケスという史上最高のヘビー級ビッグファイトが終わったばかりだというのに、ジュニオール・ドス・サントスという、タフな挑戦者がすぐに控えているんだよ。新チャンピオンとなったヴェラスケスとドス・サントスの試合も、今夜と同じように素晴らしい闘いになることは間違いない。とにかく、いまはレスナーvsヴェラスケスの興奮と、次のヴェラスケスvsドス・サントスへの期待で、とんでもなくエキサイトしているよ。

——今夜の闘いを終えて、あらためてエメリヤーエンコ・ヒョードルをどう評価していますか？

**ダナ**　ヒョードルは最低だ！　もう完全に過去の人間さ。あいつら本気で試合をしたがっているのか？　みんなも知っているとおり、我々は彼と契約を結ぶべく敬意を表わしたオファーを持って、わざわざヒョードルのいる地の果てみたいな島に出向いてやったのに、試合をする意思なんかなかったんだよ。

——ヒョードルは最初から試合をする気がなかった？

**ダナ**　ああ！　ヤツらは本当は試合なん

くなっていく

観戦しているが、確かに今夜のレスナーvs
ヴェラスケス戦と比べても、勝るとも劣ら

なく大きなものなんだよ。
——一方、敗れたブロック・レスナーの今

# 今日からヴェラスケスの時代になった。だが、レスナーはまだまだ強くなる

かしたくないんだ。名前で金をせしめようとしているだけさ。それで、どこかの田舎団体（ストライクフォースのこと）と契約したと思ったら、試合に負けたんだぜ。信じられるかい？　もうヤツらにはなんの価値もないよ。

――今夜のメインイベントをどう評価していますか？　あなたはかねてから、昔PRIDEで行なわれたノゲイラvsミルコのヘビー級ファイトを高く評価していましたが。

**ダナ**　言うまでもなく、今夜のメインイベントは最高だった。いまMMAにはいろんな階級の素晴らしいファイターがたくさんいるが、ファンが本当に観たい試合というのは、ヘビー級のトップ同士がぶつかるド迫力の闘いなんだよ。アリーナであの大歓声を聞いただろう？

――ほかの試合とは比べものにならない大歓声でした。

**ダナ**　レスナーvsヴェラスケスのような試合をファンは待ち望んでいるということなんだよ。そしてノゲイラvsミルコのことだよな？　あの試合は俺も会場で生観戦しているが、確かに今夜のレスナーvsヴェラスケス戦と比べても、勝るとも劣らない素晴らしい試合だった。あの歴史に残る名勝負をこの目で観ることができたメモリーは永遠だ。でも、いま現在の最高峰は、間違いなくレスナーvsヴェラスケスだったということだよ。

ブロック・レスナーに圧勝した新王者ケイン・ヴェラスケス。まだ28歳であり、これからさらに強くなっていくことだろう。初のメキシコ系UFC王者ということで、ラテン系市場の開拓も期待されている。

――ただし、PPVの稼ぎ頭であるレスナーが敗れたことは、今後のUFCのビジネスにとって大きな打撃とはなりませんか？

**ダナ**　俺はファイターたちを集金マシーンのような目で見たことはないんだ。俺たちのやっていることはファイトビジネス、「試合に勝った者が勝者である」という簡単なルールしかないんだよ。ビジネスに影響が出るからこれをやろうとか、これはやめておこうなんて、考えたことすらない。BJペンvsフランキー・エドガーを見ればわかるだろう？　ライト級のスーパースターであるBJは、フランキーに2連敗もしてしまったんだ。もし、俺がBJ敗戦によるビジネスの影響を考えていたら、ほかのアレンジをしていたよ。

――でも、逆にヴェラスケスが勝ったことで、メキシコへの進出、ヒスパニック系のファンの開拓が容易になった部分はあるんじゃないですか？

**ダナ**　結果的にだが、それはもちろんあるだろう。ヴェラスケスの両親は、メキシコから子どもを連れてアメリカ国境を渡ってきた人たちなんだよ。アメリカでの成功を夢見てね。ヴェラスケスの胸に掘られている「BROWN PRIDE」というタトゥーは、知らないヤツが見たら「なんてイカれたヤツなんだ」と思うんじゃないかい？（笑）。でも、メキシコ人であることの誇りというのは、ヴェラスケスにとって間違いなく大きなものなんだよ。

――一方、敗れたブロック・レスナーの今後はどうなりそうですか？

**ダナ**　今回の負けで、彼が本当の負けず嫌いかどうかがわかるんじゃないか？　ヴェラスケス戦が終わったら、ハンティングに行き、家族との時間をすごす計画は聞いているけど、その休日計画は短くなるんじゃないかと予想している。

――早期復活を予想しますか。

**ダナ**　昨日までレスナーの時代だったが、今日からはヴェラスケスの時代になった。しかし、レスナーはまだまだ強くなると思っている。彼はまだUFCで5戦しかしていないんだ。まずはスタンドの強化に取り組まなければいけない。彼のパンチがいまよりよくなったら、とんでもないことになるよ。

――では、ブロック・レスナーの大復活に期待してますよ。

**ダナ**　それは俺も同じことだ。ヘビー級だけじゃない。来年はUFC全体がとんでもないことになるから、楽しみにしていてくれ。今日はここまでだ！

【10年10月23日／米国カリフォルニア州アナハイム、ホンダセンターにて収録】

DANA WHITE■1969年7月28日、米国コネチカット州マンチェスター出身。プロボクサーのマネージャーを経て、高校時代の同級生であるロレンゾ・フェティータがオーナーを務めるUFC運営会社ズッファ社の社長に就任。UFCを急成長させ、いまや世界ナンバーワンのMMA団体となっている。

［10.11.13 UFC122 MARQUARDT vs OKAMI］
ドイツ・オーバーハウゼン、ケーニッヒ・ピルスナー・アリーナ

**○岡見勇信 vs ネイサン・マーコート×**
（3R終了 判定3-0）

ドイツ大会のメインイベントとなったこの試合。序盤からテイクダウンを仕掛ける岡見に対し、マーコートも岡見を強引に押し潰して上をとる拮抗した試合に。しかし結果的にはスタンドで終始プレッシャーをかけ続けた岡見に軍配。試合後のマイクでは「いい試合ができなくてすみません」とコメントしたものの、「世界王者になりたい」と悲願の王座挑戦へ意気込みを見せた。

UFCにとって失敗できない大会。『UFC122』は、そんな位置づけがなされるべき大会だった。

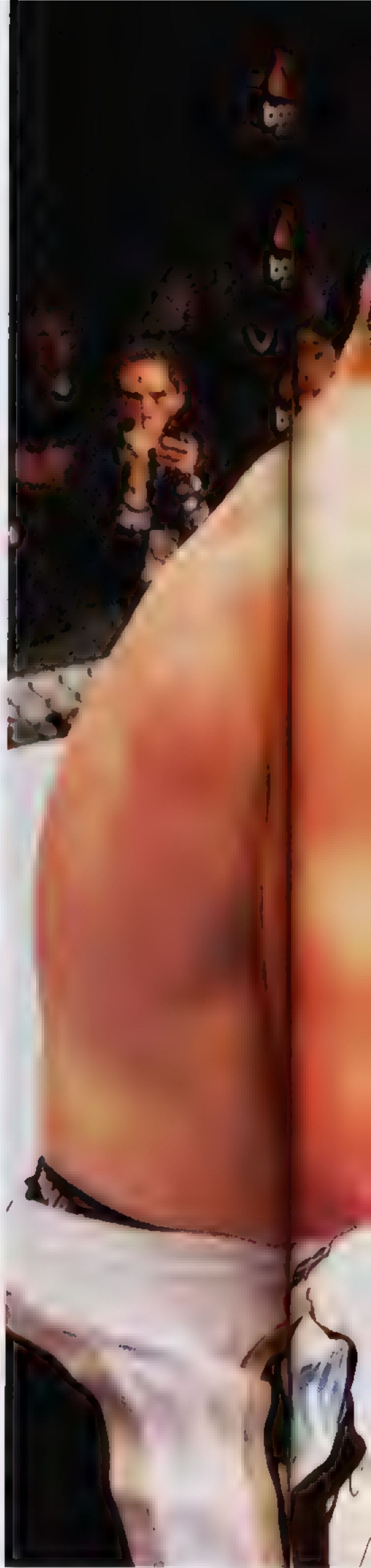
それは17ヵ月前に開催され、大成功に終わった前回のドイツ大会の流れを途切れさせることなく、ヨーロッパの橋頭堡としてドイツでのUFC人気を確立しようとしている点もあるだろうし、ドイツで再び起こっているMMA規制の声に対して、UFCの存在感を見せつける意味もあっただろう。

そして前回大会ではリッチ・フランクリンvsヴァンダレイ・シウバというキラーカードをメインに、ケイン・ヴェラスケスvsチーク・コンゴ、ミルコ・クロコップvsムスタファ・アルタークといった地元ヨーロッパの攻撃的なファイターを揃えて勝負をかけたものであったが、今回はドイツ出身のデニス・シヴァーやピーター・ソボタのほか、イギリスやクロアチアなどのヨーロッパの選手たちも取り揃えたラインナップにもかかわらず、UFCのナンバーシリーズという華やかさとは無縁の、豪華さが足りないものであったことは否定できない。

しかしUFCはこの大会のメインイベントに、次期UFCミドル級王座挑戦者決定戦というカードを配置。絶対王者アンデウソン・シウバが君臨するこの王座への挑戦権は、多くの選手が求めてやまない狭き門だ。

その貴重な権利をかけて、UFCミドル級で自他ともに認めるトップコンテンダーである岡見勇信とネイサン・マーコートの一戦が、本大会のメインイベントで組まれたのだ。

高峰のUFCミドル級チャンピオンシップを争う男はこいつだ！」という思いを持てたとは思えない。もちろ

メインイベントで組まれたのだ。

会場にはドイツをはじめとするヨーロッパ諸国の観客だけでなく、駐ドイツ米軍の兵士やその家族も多数招待されていたようで、アメリカ人選手の試合の際には小規模な「USA！」コールも発生するなか、大会は事前の想像以上に低調なものとなった。前座試合はメリハリのある好試合が連発したが、PPVマッチに入ってからの3試合は、どれもグダグダな判定試合ばかり。セミでは地元のシヴァーが快勝したことで、なんとか会場を温めてメインイベントにバトンを渡したかたちだった。

第二次世界大戦でともにアメリカと戦った日本選手ということもあるのか、温かい歓声のなかで迎えられた岡見。対してマーコートの入場時には、ブーイングも起きないが逆に歓声も起きない。もしかしてドイツの観客はこの二人を知らないんではないかと心配になるほど、観客は冷静に両者をオクタゴンに迎え入れた。

試合は開始早々、岡見のタックルを受け止めたマーコートがギロチンを敢行。しかし岡見は冷静に外して上をキープする。マーコートは下からも積極的にアタックを敢行。最後には岡見がテイクダウンを奪って1ラウンドが終了した。2ラウンドは

# 快挙!
# 岡見勇信
## 日本人初ミドル級王座挑戦へ!!
## されど求められる
## メインイベンターの覚悟

**岡見勇信、ついにミドル級王座挑戦権獲得! 難敵マーコートを下し、日本人初の快挙を成し遂げた岡見。だが、UFCのトップに君臨するにはさらなる覚悟が必要であることは確か。ドイツで行なわれた今大会を振り返るとともに、岡見の次を考察した。**

文／髙橋ターヤン　写真／Josh Hedges(UFC)、gettyimages

オクタゴンの中央に岡見が陣取り、その周りをマーコートが動くという展開に。両者のどの仕掛けも派手なものではなく、ラウンド終了時には大きなブーイングが発生していく。

さらに3ラウンドは展開が2ラウンドとほぼ変わらず、マーコートの動きはさらに消極的ととらえられても仕方のないものとなっていた。両者は最後まで致命的なダメージをお互いに与えることができないまま、試合を終えることとなった。

マーコートは二度のテイクダウンに成功したが、スタンドでは常に岡見の後手となり、消極的な印象に。岡見はスタンドでプレッシャーをかけ続け、手数でもマーコートを圧倒。

しかしダナ・ホワイトから提示されていた課題である、積極的な姿を見せることは最後までできなかった。そして判定の結果、ジャッジはユナニマス・ディシジョンで岡見の勝利を支持。岡見は絶対に落とせない試合で勝ち残ったことになる。

しかしこの試合は、重要な試合であるがゆえに、両者の慎重に闘おうとする姿勢が全面に出てしまった。この試合を観た誰もが「1月に行なわれるアンデウソン・シウバとビクトー・ベウフォートの勝者と、世界最高峰のUFCミドル級チャンピオンシップを争う男はこいつだ！」という思いを持てたとは思えない。もちろん試合自体は緊張感あふれる好試合であったことは認めるが、この試合でUFCの重点攻略目標であるドイツの観衆にその素晴らしさをアピールできたとは思えない。

ちなみに試合前の煽りでは、ジョー・ローガンがこの試合が次期ミドル級タイトル挑戦者となることを名言するも、煽りVは岡見とマーコートがこの試合にかける意気込みを語るだけの簡単な作りのもの。この手の煽りVに登場して試合の位置づけや選手の特性を熱く煽るダナ・ホワイトが登場しなかったことも、いまとなっては何か意味があるのかと勘繰らせるものであった。

だが筆者は、この試合は失敗試合であったとは決して思わない。エキサイティングな試合ではなかったが、スポーツとしてコンペティティブなものであり、「残酷すぎる」との理由でMMAのテレビ放送が規制されるドイツでは、健全なスポーツとしての大きなアピールになったはず。また宇野薫以来、8年ぶりにUFCのチャンピオンシップに挑戦する日本人として岡見が登場したことは、うまく転がせばUFCの日本進出のキラーカードとなりえることとなる。

ただ、試合後のインタビューを聞いても、現時点で岡見がUFCの王者として世界の格闘技界を牽引するほどの求心力を持った選手になったとは言いがたい。次のチャンピオンシップの際には、覚悟を決めた岡見が観たい。夢を見させてくれ！

『ジ・アルティメット・ファイター』の成功によって、UFCは一企業が主催するスポーツイベントとしては前代未聞の巨大帝国を築き上げた。チャック・リデル、ランディ・クートゥアー、フォレスト・グリフィン、クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン、ジョルジュ・サンピエールといったセレブリティ格闘家を多数輩出し、大会ごとに60万件以上ものPPVを売り上げるUFCの栄華は頂点をきわめていると思われていた。

しかしそのUFCに巨大な異物が混入する。元WWEスーパースターのブロック・レスナーだ。レスナーはWWEを離脱後、NFLのトライアウトを受けるも挫折。新日本プロレスを経て、2007年の『Dynamite!! USA』でのキム・ミンス戦で、MMAデビューを飾っている。そして同年にはUFCと契約。UFCがキャリア1戦の選手と契約を結ぶことは異例中の異例であり、レスナーはUFC登場時から破格の存在であったのだ。

UFC初戦は落としたものの、続くヒース・ヒーリング戦では古豪ヒーリングを圧倒。UFC参戦3戦目にしてヘビー級タイトルマッチに抜擢されるという厚遇を受けている。その期待に応えてレスナーはタイトルマッチで、ランディ・クートゥアーを撃破。こうしてUFC史上最もキャリアの少ない王者が誕生したのだ。続くフランク・ミアへのリベンジマッチ、シェーン・カーウィンとの大激闘で、レスナーはMMAへの適性を開花させていくことになる。そしてレスナーという異物の混入によって、頭打ち状態であったUFCのPPVの販売実績は天井知らずの状態になり、とくに記念大会である『UFC100』では160万件を超える莫大な販売実績を計上。『ジ・アルティメット・ファイター』が最大のブームを巻き起こしていた06年に樹立した105万件という記録を、1.5倍以上上回る凄まじい販売件数を記録したのだ。

それだけではなくレスナーの出場する大会のPPVは、軒並み好セールスを記録。デビュー戦以外のすべての大会で100万件超えという記録を樹立している。しかしレスナーの人気は、あくまでもヒールとしての人気であった。レスナーのトラッシュトークや行動のすべてが物議を醸すものであったし、そもそも北米のハードコアなMMAファンのプロレスラーへのアレルギーは、日本のファンの比ではない。

レスナー自身は心の底からMMAという競技を愛し、真摯に向き合って過酷なトレーニングを積んでいるのだが、MMAファンにとってレスナーは、MMAの正統性を踏みにじる外敵でしかなかった。

そんなレスナーによって、クートゥアーやミアのようなレジェンドたちが次々と破れていくのは、ファンにとっては耐えがたいものとなっていた。そしてレスナーがUFCに参戦するのとほぼ軌を一にして、ケイン・ヴェラスケスというモンスターがUFCに上陸した。ヴェラスケスはレスナーと同じように大学レスリングで全米のトップとなり、「ジ・アルティメット・ファイター」効果で大流行していたMMAに転向。鳴り物入りでデビューしたレスナーと異なる。またヒスパニック系は低賃金を背景とした移民の大量流入と、高い出生率によって、アメリカでの人口

# 2010.10.23 UFC 121
# LESNAR vs VELASQUEZ

## 怪物同士の激闘が切り拓いたUFCの新たなるステージ

10.23「UFC121」アナハイム大会。メインではUFC最大のスター、ブロック・レスナーをMMA無敗の新星ヴェラスケスが一方的な試合内容で下し、新UFC世界ヘビー級王座を戴冠した。この一戦の結果を通して、成長し続ける怪物イベントの今後を考察する。

文／高橋ターヤン　撮影／Josh Hedges(UFC)、gettyimages　構成／鈴木佑

[2010.10.23 UFC121 LESNAR vs VELASQUEZ]
米国カリフォルニア州アナハイム・ホンダセンター
○ケイン・ヴェラスケス vs ブロック・レスナー×
(1R 4分12秒 TKO)

開始と同時に飛び込んできたレスナーを、パンチで迎撃するヴェラスケス。レスナーがテイクダウンするも、ヴェラスケスは素早い反応で体勢を入れ替えてパウンド。スタンドでもヴェラスケスはパンチをクリーンヒットさせると、最後は崩れ落ちたレスナーに猛攻を加えてレフェリーがストップ。ヴェラスケスが新UFC世界ヘビー級王座に輝いた。

闘で、レスナーはMMAへの適性を開花させていくことになる。そして

ングで全米のトップとなり、「ジ・アルティメット・ファイター」効果で大流行していたMMAに転向。鳴り物入りでデビューしたレスナーと異なり、地道に前座からスタートして連勝街道を突き進んでタイトルマッチにたどり着いた、ある意味正統的な手順を踏んできたMMAファイターである。

そんな二人が激突する「UFC121」の舞台は、カリフォルニア州南部の都市アナハイム。メキシコ国境に近く、人口の50パーセント近くがヒスパニック（アメリカに居住するスペイン語を話す中南米系移民およびその子孫）であり、さらにヴェラスケスの地元であるアリゾナ州ユマからもほど近い都市であるだけに、当日は大ヴェラスケス応援団が会場を埋めつくしていた。

ヴェラスケスの入場時には当然のような大歓声が巻き起こり、王者レスナーの入場時には盛大なブーイングが浴びせられた。

そして試合は、会場に陣取るメキシカンの希望どおりの展開となり、ヴェラスケスはレスナーを一方的に殴り倒して勝利をものにしたのだ。UFC最大のスターであるレスナーはヴェラスケスに完敗した。

これでUFCのスター・システムによって手にした成功は頓挫してしまうのだろうか？　いや、じつはこれからがUFCの本当の快進撃の始まりなのだ。まず勝利したヴェラスケス。ヴェラスケスは、初めてのメキシコ系UFC王者である。現在、アメリカ合衆国におけるヒスパニックは、黒人を抜いて全人口の15パーセントを占める最大の少数民族となっている。またヒスパニック系は低賃金を背景とした移民の大量流入と、高い出生率によって、アメリカでの人口を増やし続けている背景がある。2050年にはヒスパニック人口は1億3000万人を超えると言われており、アメリカ人の3人に一人がヒスパニックという時代はすぐそこまで来ているのだ。そんなヒスパニックの60パーセントを占める最大勢力が、ヴェラスケスの属するメキシコ系アメリカ人なのだ。

1億人を超えるヒスパニックと、その背後に控える人口1億人のメキシコ。彼らはUFCの新たなターゲットである。

そして敗れたレスナー。これまでもタフな試合を続けてきたレスナーであるが、MMAファンに受け入れられてきたとは言い難い。しかしレスナーは今回の試合でMMAファイターとして確実な進化を見せたし、この敗戦で「MMA戦士が打ち倒すべき悪魔的な怪物」というイメージから脱却したはずだ。そしてファンの視点は「誰がレスナーを倒すのか？」から、「レスナーがどんな復活ロードを歩むのか？」にシフトし、レスナーを応援すべき対象として見るファンも増えることであろう。当然、見世物的な意図でレスナーのPPVを購入していた層は、変わらずPPVを購入し続けるはずだ。

つまり今回のUFCヘビー級タイトルマッチによって、UFCは新たなビジネスのステージに立ったと言える。UFCの快進撃はまだまだ止まることはなさそうだ。

UFC世界ヘビー級王座奪取、おめでとうございます！　チャンピオンになったいまの気持ちは？

にかく自分のすべてを、このMMAというスポーツでの成功に懸けてい

## ブロック・レスナーに圧勝!
## MMA界の新たな“怪物”はこの男だ!!

### UFC世界ヘビー級新王者

# Cain Velasquez
## ケイン・ヴェラスケス

# 「家族のよりよい人生を夢見て国境を越えた父に感謝したい」

**10月23日（土・現地時間）、米国カリフォルニア州アナハイムのホンタセンターで開催された『UFC121 LESNER vs VELASQUEZ』のメインで、王者ブロック・レスナーをスピード、精度で圧倒し、完勝し[illegible]ケイン・ヴェラスケス。[illegible]たな時代の到来を告げるUFC世界ヘビー級新王者に試合直後、直撃することに成功した。**

[illegible] 構成／堀江ガンツ　試合写真／Josh Hedges（UFC）、gettyimages

ＵＦＣ世界ヘビー級王座奪取、おめでとうございます！　チャンピオンになったいまの気持ちは？

**ケイン**　グレートの一言だね。長年、ハードなトレーニングに耐えてきたことが、やっと報われた感じだよ。

――デビューからわずか4年で世界の頂点に立ったわけですが、ご自身でもこんなに早くチャンピオンになれると思ってましたか？

**ケイン**　アリゾナ州立大学でレスリングをしていたときから、卒業後はプロフェッショナルのＭＭＡファイターとしてチャンピオンになることを目標にしていたんだ。それが実現するのが2年なのか4年なのか、または10年かかるのかはべつとして、その頂点に立つために、ＡＫＡのコーチたちとゲームプランを立てて、どんな相手にも立ち向かえる準備をしてきたんだ。だから、早いとか遅いとかっていう感じではなく、そのチャレンジするチャンスが4年目で来て、そのチャンスを今回モノにできたということだと思う。

――ただ、このレベルが急速に上がっているＭＭＡの世界で、4年でヘビー級の頂点に立ったのは快挙だと思います。あなたがこれだけ早く世界王者になれた一番の理由はなんだと思いますか？

**ケイン**　理由と言われても、答えるのが難しいね。ただ、一つ言えることは「絶対にチャンピオンになるんだ」という自分の意志が強かったこと。そのためにコーチの言うことをすべて聞き入れて、目標達成のために必要と言われれば、どんなハードな練習にも耐えてきたからだと思う。とにかく自分のすべてを、このＭＭＡというスポーツでの成功に懸けていたんだ。

――では、レスナー戦についてうかがいたいのですが、今回はどんな作戦でしたか？

**ケイン**　距離をとり、キックは頭だけを狙い、ボクシングで試合をコントロールし、チャンスがあればテイクダウンを取るという作戦だったんだ。同時に、ハビア（・メンデス＝ＡＫＡオーナー＆ヘッドコーチ）からは「ゲートが閉まったら、ラッシュで攻めてくるから気をつけろ！」って言われていたんで、その準備はしていたつもりだったんだけど、さすがに試合開始直後のレスナーのラッシュには驚いたよ。あれほどの破壊力あるパワー、スピードというのは、自分の想像以上だったので、正直あの最初の攻撃には度肝を抜かされた。

――でも、逆にあのレスナーの強烈なタックルを受け止めて、テイクダウンさせなかったことに驚いた人が多いと思いますよ。あそこが勝負の分かれ目であったとさえ言われています。

**ケイン**　そうだね。その一瞬のショックが治まり、普段の自分に戻れたあと、逆にテイクダウンを取ることができた。あの瞬間から完全に自分を落ち着かせることができて、その後は「自分のゲームになる」って確信したんだ。

――実際に闘ってみて、ブロック・レスナーの印象を聞かせてください。

**ケイン**　恐ろしいパワーとスピードを持った偉大なるチャンピオンだね。今回の敗戦からさらに強くなってケージに戻ってくるだろうし、そう簡

単にはリタイアしないだろうから、近い将来にリマッチが組まれるんじゃないかと思う。そのときは当然、今回よりさらに凄まじい闘いになると覚悟しているよ。

――今回のレスナーには、何かミスがあったと思いますか？

**ケイン** いや、今回の結果というのは、今日現在のベストのヴェラスケスとベストのレスナーがぶつかった結果だと思う。あの最初のラッシュを俺が予想してなかったら、あのままやられていたかもしれないからね。だからレスナーの作戦を予想したハビアを尊敬するし、感謝しているんだ。レスナーのミスらしいミスといえば、細かいことだけど、レスナーがテイクダウンを奪い自分をグラウンドでコントロールする際、間違った足をつかんでいるんだよ。

――あ、そうだったんですか。

**ケイン** 本来はマットから見て下の足をコントロールすべきだったのに、上の足をつかんでいた。俺はデイビッド・カマリロ（AKAグラップリングコーチ）指導のもと、下になった状態から立ち上がるドリルを何度も繰り返し練習していたから、レスナーの強烈な押さえ込みからも立ち上がることができたんだよ。

――レスナーと闘うにあたって、一番警戒していたことはなんですか？

**ケイン** パワーのあるストライキングとレスリング。とくにストライキングに関してハビアからは、「右の長いリーチから繰り出されるスピードのあるハードパンチには警戒して、動き回るように」と指示されていたんだ。

ほぼダメージなしで新王者に輝いたヴェラスケスは、スタンドでも終始レスナーを圧倒。パンチを嫌がったレスナーはテイクダウンを狙ったが、クリーンヒットを浴びて防戦一方に。

――あとはあのレスナーに対して、レスリングでも負けなかったことも大きかったと思います。

**ケイン** レスナー対策として、ダニエル・コーミー（オリンピック・米国レスリング代表2回、アテネ4位。ストライクフォース契約MMAファイター）とトレーニングしたこと功を奏したと思う。レスナーからテイクダウンを奪ったのは、まさに彼から教わったテクニックそのものだからね。

――では、ストライキング、グラップリング、レスリングとすべての面で準備万端だったわけですね。

――今回の勝利は、ご家族もさぞ喜んでくれたんじゃないですか？

**ケイン** 家族はもちろんのことだし、ファンのみんなも喜んでくれているよ。ファンのためにチャンピオンになれたことは本当に幸せなことだし、自分が少年たちの目標となれるのであれば、喜んでサポートしたい。そういう目標となれる存在でありたいと思ってるんだ。

――ご両親は、家族のみんなにチャンスを与えるためにメキシコから国境を越えてアメリカに来たわけですが、その報いがあったと思いますか？

**ケイン** 父親が自分自身と家族みながチャンスをつかみ、よりよい人生が送れるために、国境を渡る決断を下したことに感謝しているよ。俺がケージに入るときの入場曲（メキシコの曲）は、その父親に捧げるものなんだ。あの歌は「一人の男がよりよい人生を夢見て、そのチャンスをつかむために、何度も国境越えにトライして最後にはその夢をつかむ」というものでね、まさに父親そのものなんだ。

――貧しい移民の家庭で育ったあなたにとって、UFC世界王者になったことはどんな意味がありますか？

**ケイン** 両親が頑張ってくれたおかげで、食事もないような飢えは経験したことがないけど、お金に不自由しなかったとは言えない生活だった。ただ、そのことに対しても両親が一言も弱音を吐かず、我々子どもたちを育ててくれて、いまの自分があるんだよ。UFC世界王者になれたっていうことは、そこには自分だけじゃなく、家族のすべての意味が含まれているんだ。両親は一言も不平を口に出さず、ただひたむきにできることをやってきて、自分たちを育ててくれたし、いまもその姿はまったく変わっていない。そのひたむきさを父親から受け継いだ俺は、「チャンピオンになる」という目標のために、すべてをつぎ込んでいったんだよ。それらが報われたということと同時に、その考え方を教えてくれた父親には感謝しているんだ。

――「ひたむきさ」という父親の生き様を受け継いだことが、今回の戴冠につながったということですね。

**ケイン** これは同時に、誰にでも成功するチャンスはあるということなんだ。ただし、そのためには目標に向かって、「あれがない」とか「これが必要だ」とか不平を言わず、ただひたすらにできることを実践することが重要だということを証明しているんだと思う。人生においては、挑戦することは苦痛でなく、挑戦しないことが苦痛になるということさ。

――UFCファイターとして連勝を続けるなかで、あなた自身の生活は変わりましたか？

# 王座を守るという課題ができたことで、よりハングリーになれる

**ケイン** ノー。まったく変わってないよ。いまだにハングリーだし、タイトルを守り続けるという厳しい課題ができたことで、よりハングリーになってきてるんだ。これから毎試合、その時点で一番タフな相手が俺に挑んでくるんだ、それを跳ね返すためには、もっともっとハードなトレーニングに耐えなければならないからね。MMAファイターとして要求される柔術、レスリング、ボクシング、ムエタイ、ゲームプランニングのすべてを、コーチたちと一丸となって向上しないとこのタイトルは守ることはできない。でも、どんな挑戦者がこようが絶対にこのタイトルは渡さないよ。

――今回、メキシコ系アメリカ人が多数いるアナハイムでの試合ということは、強く意識しましたか？

**ケイン** もちろんだよ。アナハイムはホームタウンだということを感じさせてくれた。でも、いつも大勢のラテン系ファンばかりだけでなく、人種を越えたさまざまなファンと一緒に闘っているという意識を持っているんだ。

――では、メキシコ系アメリカ人のあなたがチャンピオンになったことで、このスポーツがさらに多くの人たちに愛されるようになると思いますか？

**ケイン** それはわからない。ただ、自分としてはそうなることを祈ってる

し、そのために自分ができることがあればやるつもりだよ。とくに子どもたちに「こういうスポーツもある

タイトルを守るためにも、すでにコーチたちがゲームプランを考え始めているんだ。

発もらっても、KOされなかったんだからね。

あなたがドス・サントス以外で

アイターであって、現時点で闘う可能性のないストライクフォースのフ

かというのが課題であり、だから対戦相手が決まったときにコーチと練

# ヒョードルはいまでもヘビー級で最強の一人だし、尊敬している

し、そのために自分ができることがあればやるつもりだよ。とくに子どもたちに「こういうスポーツもあるんだ」っていうことを教えてあげたいんだ。俺が子どもの頃には、MMAというスポーツもなかったし、自分のような存在もいなかった。だから俺が活躍することで、いまの子どもたちに「どうすれば成功するのか」ということを感じさせてあげて、「自分の夢を実現するためには、いまできることを精一杯やることが重要だ」ということ、「そうすれば、必ずその夢は実現できるんだ」ということを教えてあげたいね。あとは「安易に学校をドロップアウトせずに、大学までいってからでも充分間に合うんだ」ということもね。

——メキシコ人は気質的にMMAに向いていると思いますか?

**ケイン** 間違いなく向いていると思うよ。ディエゴ・サンチェスはその代表で、まさにメキシカンハートで闘っているよね。その血が我々には流れているし、メキシコ民族であることに誇りを持っているんだ。

——初防衛戦の相手であるジュニオール・ドス・サントスについて、どのように評価していますか?

**ケイン** とても危険なストライカーでアスリートとしても素晴らしいと思ってるよ。UFCの試合では見せたことがないけど、柔術ゲームにも長けてるっていうという印象だね。タイトルを守るためにも、すでにコーチたちがゲームプランを考え始めているんだ。

——もう防衛戦のために動き始めていますか。

**ケイン** レスナーとはまた違ったチャレンジになるだろうから、また違った面を強化する予定だよ。

ドス・サントスはロイ・ネルソンをKOできずに苦戦しましたが、あの試合についてどう思いますか?

**ケイン** あの試合は確かに、ドス・サントスがロイ・ネルソンをKOできずに苦戦したっていう見方もできるけど、それよりもKOされずに闘ったロイ・ネルソンがいかにタフか、ということをもっと評価してあげるべきだと思う。これまで強豪をKOしてきたドス・サントスのパンチを何発もらっても、KOされなかったんだからね。

CAIN VELASQUEZ■1982年7月28日、米国カリフォルニア州サリナス出身。メキシコ系アメリカ人で、卓越したレスリングテクニックと打撃を武器にキャリア9戦全勝（全勝）にしてブロック・レスナーを破り、第15代UFC世界ヘビー級王座に就いた。

## Cain Velasquez

——あなたがドス・サントス以外で強敵だと思うヘビー級ファイターは誰ですか?

**ケイン** シェーン・カーウィン、フランク・ミア、それにドス・サントスと対戦したロイ・ネルソンらは間違いなくタフで危険はチャレンジャーだろうね。それとブレンダン・シュワブも素晴らしい試合を見せてるから今後の注意しないといけない存在だね。

——いまストライクフォースのヘビー級戦線も充実していますが、UFCヘビー級とストライクフォースヘビー級のレベルについて、どう思っていますか?

**ケイン** ストライクフォースもUFCも、どちらのプロモーションも素晴らしいヘビー級のファイターが参戦して充実してきているので、まったく同じレベルにあると思う。ただ、自分が気にしなくてはいけないのは、同じリーグで対戦するUFC契約ファイターであって、現時点で闘う可能性のないストライクフォースのファイターを気にする余裕なんてないというのが、正直なところだよ。

——それでもあえてうかがいますが、あなたはエメリヤーエンコ・ヒョードルをどう評価していますか?

**ケイン** 俺はヒョードルの大ファンだし、MMAの試合のなかでヒョードルの試合を観ることが一番好きなんだ。

——へえ、そうなんですか。

**ケイン** ヒョードルはいまでもヘビー級世界最強の一人だし、とても尊敬している。とにかく自分が言えることはヒョードルの大ファンだっていうことなんだよ。

——では、ヒョードルの敗戦をどう見ていますか?

**ケイン** 何が起こったのかを想像するのは非常に難しいね。彼は10年以上も無敗を守り通した男だから、「今回も勝つ」と自身を持ちすぎた結果かもしれないし、ファブリシオの戦略にかかり、単にグラウンドゲームでミスを犯して、極められてしまったということかもしれない。ただ、ヒョードルというファイターをあの一試合だけで評価するのは、大きな間違いだよ。

——では、ストライクフォースのヘビー級王者アリスター・オーフレイムをどう思いますか?

**ケイン** 彼もパワフルな打撃を持った素晴らしいファイターだね。

——もし、あなたが闘うとしたら、どう闘いますか?

**ケイン** 試合というのは、常に対戦相手の武器となる面にどう対応するかというのが課題であり、だから対戦相手が決まったときにコーチと練習方法も含めてゲームプランを立てるんだ。だから、さっきも言ったとおり、自分が気にしているのはUFCで次に闘う相手だけなので、〝もし〟という言葉はないんだよ。

日本格闘技界にはどんなイメージがありますか?

**ケイン** 世界で最もMMAを理解した、ベストのファンがいる国というイメージかな。彼らはテクニックだけじゃなくて、マーシャルアーツのフィロソフィー（哲学）やコンセプト（観念）を理解しているからね。

——その日本で行なわれていた、全盛期のPRIDEをどう評価していますか?

**ケイン** 素晴らしいイベントだったし、もちろんPRIDEの大ファンだったよ。PRIDEがもう少し長く続いていてくれたら、俺が闘うチャンスもあったかもしれないね（笑）。

今後のファイター人生の目標を聞かせてください。

**ケイン** 俺の目標は、このUFCヘビー級のタイトルをできるだけ長く防衛して、ファンに愛され記憶に残る偉大なMMAファイターとして足跡を残すことなんだ。それを達成するためにもより厳しい練習に耐えなくちゃいけないって自分を追い込んでいるのさ。また人間としては家族愛を大切にし、また子どものローモデル（模範）となれるように頑張りたいし、自分にはその責任があるんだという使命を感じているよ。

【10年10月23日 米国カリフォルニア州アナハイム、某ホテルにて収録】

# 怪物はここにもいる!

## K-1 WORLD GP2010の主役はこの男だ!

# Alistair Overeem

## アリスター・オーフレイム

# 「ダナ・ホワイトの言うことをいちいちまともに聞いちゃダメさ!」

強豪ガイジンファイターが次々と北米に向かうなか、日本格闘技界を主戦場とする"切り札"的存在、それがアリスター・オーフレイムだ。ストライクフォースのヘビー級王者でありながら、昨年に続き今年もK-1 WORLD GPに出場。優勝候補にも挙げられているこの怪物に意気込みを聞いてみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／吉場正和　試合写真／乾晋也

――今回は12・11『K―1 WORLD GP決勝戦』のプロモーションのための来日なんですよね？

**アリスター** ああ、そうだね。いろんな取材が入ってるけど、これも俺の仕事だし、エンジョイしようと思ってるよ。

――わざわざプロモーションのためにオランダから呼ばれたということは、まさに今大会の主役はアリスター・オーフレイムだという証拠だと思うんですけど。

**アリスター** 間違いなくそうだろう。いい気分だね。プロモーションで練習時間を取られることを心配してる人もいるみたいだけど、俺はここにくるまで、かなり追い込んだ練習をしてきたし、誰よりもモチベーションが高い。俺が優勝するシーンを一人でも多くの人に観てもらうためにプロモーションしてるのさ（笑）。

――去年は「外敵」という扱いで、K―1の番組宣伝CMもバダ・ハリばかりでしたけど、1年でこれだけ状況が変わったことについてどう思いますか？

**アリスター** それによってモチベーションが上がってるよ。たった1年でK―1が〝俺のイベント〟になってるんだからね。だからこそ「俺が優勝しなきゃいけない」と思ってるし、そのために苦しい練習をしてるんだよ。

――あなたがK―1に出るきっかけになったのは、2008年大晦日にK―1ルールでバダ・ハリをKOしてからだと思うんですけど、あのときは自分がここまでK―1で活躍できるようになると思っていましたか？

**アリスター** そのときは思ってなかったよ。もちろんバダに勝ちたいと思って闘ったし、バダを倒したあとは、（レミー・）ボンヤスキーに勝ちたいと思った。ボンヤスキーには勝てはしなかったけど、そのあとK―1のレジェンドであるピーター・アーツを倒して、そのときハッキリと「『K―1 WORLD GP』で優勝したい」と思うようになったんだ。でも、去年は優勝できなかったから、今年こそはその目的をはたそうと思ってるよ。

# Alistair Overeem

## K―1、ストライクフォース、DREAM 3つのベルトを同時に巻きたいね

――では、バダ・ハリに勝ってから、自分の新しい可能性がどんどん開けてきた感じですか？

**アリスター** そうだね。

――ファイターとしての目標も全然変わりましたか？

**アリスター** K―1とMMA両方の世界チャンピオンになるという、誰もやったことのないことを成し遂げるのが、俺の目標だよ。MMAにいた頃はK―1のチャンピオンになりたいとは思わなかったけど、いまはK―1、ストライクフォース、DREAMという3つのベルトを同時に巻きたいね。

――以前はMMAファイターがK―1にチャレンジでしたけど、いまはMMAファイターであり、K―1ファイターでもあるわけですね。

**アリスター** YES！ それをどちらも高いレベルでできるのは、いまは俺だけだよ。自分がK―1ファイターであるからには、優勝を狙わなくては意味がないしね。

――いま世界的にはMMAが広まっていますけど、MMAの世界王者でもあるあなたにとって、とくに北米での名声を得るためにはMMAに集中したほうが得策であるとも思うんですけれど、それでもK―1でも闘うことを選んだ理由はなんでしょうか？

**アリスター** シンプルなことだよ。K―1のチャンピオンになりたいからさ。今年はラッキーなことにファイナルに残ることができたしね。俺はK―1が好きだし、日本が好きだし、日本のファンが好きだ。スシも大好きだしね。この取材が終わったら食べにいくんだけどさ（笑）。

――お時間を取らせてすみません（笑）。

**アリスター** 日本が好きで、ホントに住んでもいいくらいに思ってるんだよ。その日本で最もメジャーなK―1で優勝できるチャンスがあるんだから、自分の2010年の後半を捧げようと思ったんだ。

――あなたは10年以上、日本で闘い続けていますよね？

**アリスター** リングスに初めて来たのが99年末だから、まる11年だな。

――その間、日本格闘技界のいいときも悪いときも見てきたと思いますけど、いまの状況をどう感じていますか？

**アリスター** PRIDEとK―1が張り合ってた頃と比べると、少しマーケットが小さくなっていることは確かだろうね。ただ、2009年の『K―1 WORLD GP決勝』イベント自体がとても素晴らしいものだったし、今年の3月の大会もよかった。DREAMも新興イベントとして頑張っているし、マーケットとしては新たな成長の過程にあるんだと思う。

――数年前の日本格闘技界は、PRIDE

ボンヤスキーに勝ちたいと思った。ボン

めにはMMAに集中したほうが得策であ

数年前の日本格闘技界は、PRIDE

## GP出場選手でモチベーションが高いのはサキぐらいのもんだな

とK　1両方にヘビー級のトップがいたんですけど、いまはその両方がアリスター・オーフレイムなんですよ。

**アリスター**　俺はMMAとK—1両方の新世代だからね。

——両方を背負わなければならない責任感みたいなものは芽生えてきましたか？

**アリスター**　もちろん俺はプロであり、メインイベンターだから、観客を満足させる責任感はいつも持っているよ。だからこそ、いつでもKOか一本勝ちしか狙っていないしね。ただ、これは俺だけがそう思ってもダメなことなんだ。出場するファイター全員がKOを目指して、素晴らしいファイトをする責任を持っているべきだと思う。KOを目指さないのならば、またエキサイティングな試合をする気がないのなら、そいつはリングに上がらず、家にいたほうがいい。ファンはお金を払って観に来てくれているんだから、ギフトを持たせて帰ってもらわなきゃいけないんだ。それがわかってないヤツは、プロのリングに上がる資格はないよ。

——それがあなたのプロとしての信条でもあるわけですね。

**アリスター**　俺もデビューして数年は、ただガムシャラに闘っていただけだったけど、いまはとくにそう思うようになった。俺の闘いによってファンにより多くのものを与えたい。それから俺にチャンスを与えてくれたK　1のスタッフや、フジテレビの人たちにも恩返ししないといけないという気持ちにね。とにかくモチベーションがないヤツは嫌いなんだ。俺たちは仕事をしに日本に来てるんだ。観光で来てるんじゃないんだよ。ちゃんと仕事しろよ！って言いたいね。

——あなたが、そういうモチベーションを持っているな、と認められるファイターは誰ですか？

**アリスター**　そうだな……あんまりいないな。

——いませんか（笑）。

**アリスター**　（グーカン・）サキは数少ない一人ではあるかな。ピーター・アーツも大ベテランにしてはモチベーションが高いと思うけど、彼ならばもっとできるはずだよ。

——そういう状況だからこそ、アリスター選手がよけい目立っちゃうんでしょうね。

**アリスター**　そうだろうな。ほかにも細かいことはいろいろあるんだけど、そういう細かいことにこだわって、他人より高い意識でやってるから、トップにいられるんだと思ってるよ。

——勝負事って、そういう小さな違いが大きくなるんでしょうね。いま本国のオランダ格闘技界はどんな状況なんでしょうか？

**アリスター**　かなり盛り上がってきているよ。K—1もテレビ放映がされているし、ファイターの認知度も上がってきている。少しずつだけど成長してきている。まだまだ日本ほどじゃないけどね。

——MMAよりK—1のほうがずっと知られているんですか？

## 欧州ではUFCよりK─1のほうが有名。どっちが〝ローカルイベント〟なんだ?

**アリスター**　YES。MMAの認知度はまだまだ全然低いね。
──そんなオランダからMMAの世界チャンピオンが生まれるというのもおもしろいですね。
**アリスター**　それは俺の気持ちのもちようがよかったことと、トレーニングがよかったんだろうな。俺の場合、兄貴(ヴァレンタイン・オーフレイム)も格闘技をやっていた関係で、日本のMMAというものを早くから知ることができたし、日本のリングを通じて、世界の強豪を知ることもできた。そういった環境も大きかったんだと思う。すべてがうまくいったんだよな。食べ物もよかったんだろうし。
──あなたはK─1、DREAM、ストライクフォースのトップファイターですが、UFCのダナ・ホワイトは「UFC以外はすべてローカル団体にすぎない」と発言していますが、この発言についてどう思いますか?
**アリスター**　それは単なるビジネス上の発言だろう。そう言うことで、周りにもそう思い込ませようとしているんだろうけど、俺は全然そうは思わない。事実、K─1は100カ国くらいでテレビ放映がされているし、全世界で何百万人もの人々が観ている。世界ナンバーワンのストライキングイベントだからね。UFCも確かにアメリカでは広まっているんだろうけど、ヨーロッパでは一部を除いてK─1のほうが浸透しているし、どっちがローカルイベントなんだ?って気もするけどね。
──ヨーロッパの感覚からすると、そうなのかもしれませんね。
**アリスター**　とにかく彼(ダナ)の言ってることを、いちいちまともに聞いてちゃダメだってことさ(笑)。
──なるほど(笑)。MMAにかぎっても、あなたが主戦場にするストライクフォースのヘビー級はUFCのヘビー級にも劣っていない自負はあるんじゃないですか?
**アリスター**　そうだね。強いファイターはたくさんいるよ。ヒョードルもいるし、彼を倒したファブリシオ・ヴェウドゥムもいる。ジョシュ・バーネットも参戦してくるし、アンドレイ・アルロフスキーなんかもいるからね。

右はマネージメントを行なうゴールデン・グローリーのバス・ブーン会長。セーム・シュルトも同じゴールデン・グローリー傘下の選手であるが、GP決勝での対戦にはなんの問題もないという。

# Alistair Overeem

──そんななかK─1、DREAM、ストライクフォースという3つの団体でトップを張るって大変なことですよね。
**アリスター**　大変だよ。試合数も増えるしね。
──それをどのようにこなしていこうとしていますか?
**アリスター**　常に健康でいることが大事だよ。コンディションさえ整えておけば、俺はヘビー級だから減量もないし、すぐに試合に向けた準備に取りかかれるからね。それともう1つ大事なことは、ファーストラウンドでKOするってことだな。
──なるほど。1ラウンドでKOすれば、試合をしてもさほどダメージが残りませんもんね。
**アリスター**　そのとおり。これが何ラウンドも闘ったり、KOされたりしたら、長い休みを取らなければいけなくなる。そんな状態じゃ、MMAとK─1の掛け持ちなんて、とてもじゃないけど、できないだろうね。
──これができるのは自分だけだという自負はありますか?
**アリスター**　とても誇りに思っているよ。
──いまは年末のK─1GPだけを考えていると思いますけど、そのあとのプランというものも一応考えていますか?
**アリスター**　『K─1 WORLD GP』を制覇して、大晦日の『Dynamite!!』に出るってことだね。
──おお!『Dynamite!!』出場を希望しますか。
**アリスター**　そこでDREAMのヘビー級タイトルマッチ(王座決定戦)を行ないたいね。
──となると、K─1だけでも3試合あるから、1カ月で4試合になりますね。
**アリスター**　すべて1ラウンドで終わらせるから、たった4ラウンドだよ(笑)。
──たった4ラウンド(笑)。
**アリスター**　しかも、みんな3分以内に終わるから、合計試合時間だって10分にも満たないだろう。問題ないよ(笑)。
──頼もしいですね~。来年はK─1とMMAを並行して行なう感じですか?
**アリスター**　もちろん。日本も好きだし、K─1もDREAMも好きだからね。ストライクフォースは夏までにタイトルマッチをやって、そのあとは2連覇目指して『K─1 WORLD GP』に出場じゃないかな?
──そんな青写真までできてますか!ストライクフォースのタイトルマッチは誰と闘いたいですか?
**アリスター**　(ファブリシオ・)ヴェウドゥムだな。ヒョードルでもいいんだけど、やっぱりヒョードルに勝ったヴェウドゥムが挑戦してくるのが普通だと思う。
──では最後にK─1GPへの意気込みを聞きたいんですけど、一番注意しているファイターは誰ですか?
**アリスター**　全員警戒してるけど、やはり一番と言えばセーム・シュルトだね。きっと彼と決勝でやることとなるだろう。みんな彼の倒し方がわからないから、やられてるけど、俺はいままでのファイターとは違う闘い方でセームを倒す。だいたい、ほかの連中と俺とではパワーが違うし、身体の使い方も違う。最後は左右のフックでセームを失神させて終わりさ!
──では、この年末の活躍に期待してます!

【10年11月2日/都内・某ホテルにて収録】

# 皇帝再臨へ 静かなる始動

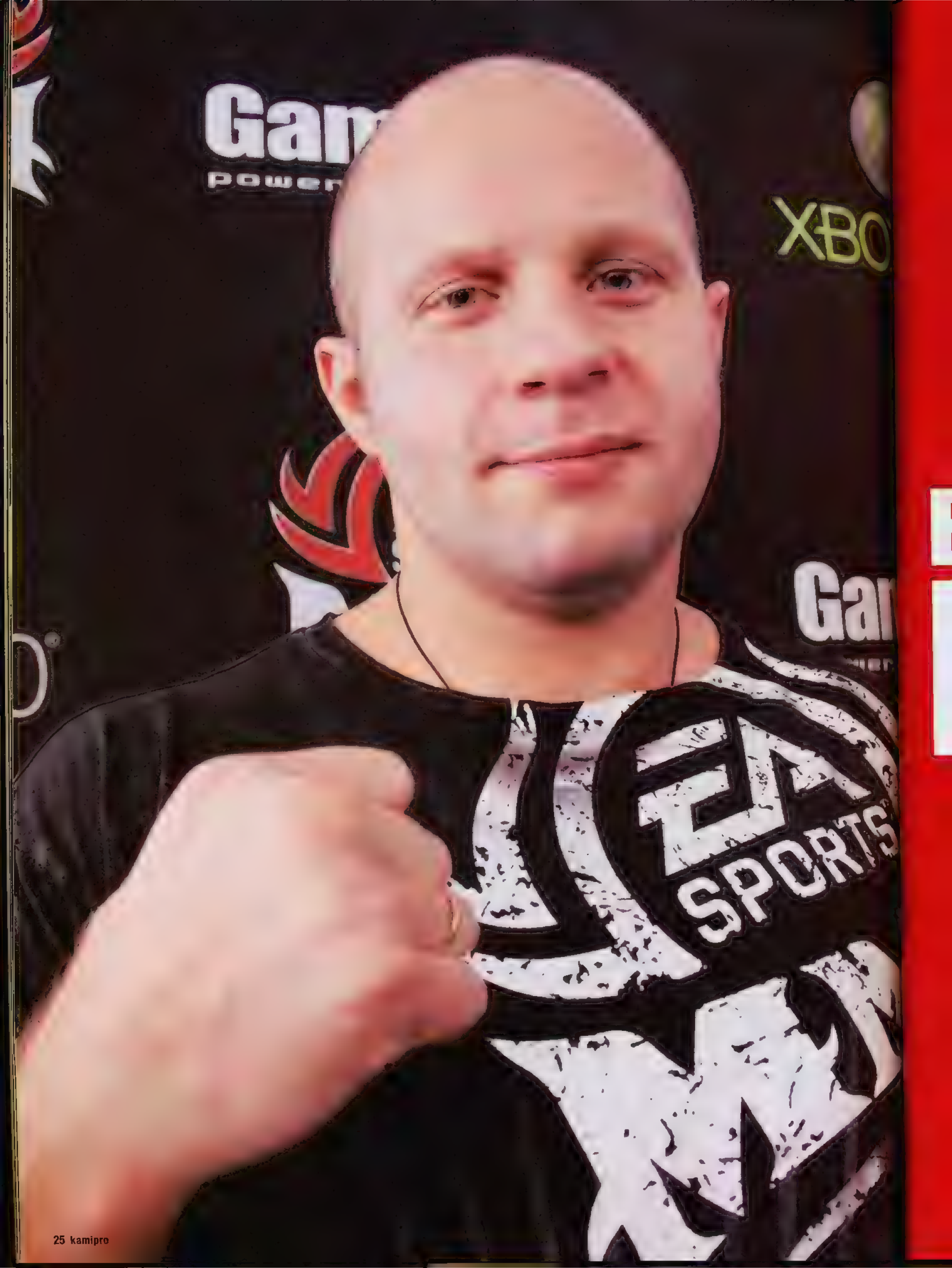
## 来年1月ストライクフォースで再起

# Emelianenko Fedor

エメリヤーエンコ・ヒョードル

## 「引退する気はありません。おそらく近い将来、ジョシュとも闘うでしょう」

今年6月のストライクフォースでファブリシオ・ヴェウドゥムを相手にまさかの一本負けを喫したヒョードル、ファブリシオ戦の敗因とはなんだったのか？　ストライクフォースとの契約、引退の噂など、最後の皇帝が今後について語った

聞き手&撮影　石井史彦　構成　堀江ガンツ　試合写真　Esther Lin/STRIKEFORCE

6・26ストライクフォース、ファブリシオ・ヴェウドゥム戦での衝撃の一本負けから4カ月。皇帝がいよいよ復活に向けて動き出した。

ヒョードルは10月19日に米国カリフォルニア州ロサンゼルスにあるユニバーサルスタジオ内で、格闘技ゲーム『EAスポーツMMA』のイベントに出席。同じくパッケージに写真が使われているランディ・クートゥアーとゲーム対決に興じた。

今回の渡米の目的はこのゲームのプロモーションであると同時に、再起戦に向けた自身のプロモーションでもあると思われるヒョードル。イベント終了後に独占インタビューを行ない、これまで、そしてこれからについて聞いてみた。

――ファブリシオ・ヴェウドゥム戦から4カ月が経ちましたが、本格的なトレーニングをもう始めていますか?

**ヒョードル**　トレーニングはいつもどおり、休まずやってます。もちろん試合前よりは軽めのものですけどね。私にとってトレーニングをすることは日常的なものですから。

――では、あらためてファブリシオ戦の感想を聞かせてください。敗因はなんだったと思いますか?

**ヒョードル**　試合を早く終わらせようと急ぎすぎてしまったことです。もっと時間をかけるべきでした。すぐにパンチでダウンを奪えたので、そこで試合を終わらせようとして、注意力が足りませんでした。

――ファブリシオは、あなたのライバルだったアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラと同じブラジリアン柔術出身のファイターですが、試合に臨んで実際に闘ってみてノゲイラよりも強敵でしたか?

**ヒョードル**　ノゲイラと試合をしてから、かなりの時間が経っていますし、MMA自体も変わってきているので、比較するのは難しいですね。もし当時のノゲイラということであれば、間違いなくノゲイラが一番の強敵でしたけど、今日現在どちらが強敵かという答えは困難です。

――あなたはノゲイラと対戦したとき、相手を徹底的に研究して試合に臨んだイメージがあります。ファブリシオ戦では研究と準備が足りなかったとは思いませんか?

**ヒョードル**　そんなことはまったくありません。もちろんファブリシオとの対戦

『EAスポーツMMA』で実現したヒョードルvsクートゥアーのドリームマッチ。勝利したヒョードルはレフェリーのビッグ・ジョン・マッカーシーからの勝ち名乗りを受けご満悦。

のときも充分な準備はしてきました。ただ、今回については私がミスをしてしまっただけです。

アイターを見渡しても当時の彼ら以上の強敵はいないんじゃないかと思います。

――となると、その二人に勝った当時のあ

**ヒョードル**　そうであればうれしいですね（微笑）。

――いま、あなたが最も闘いたい相手は、

りますか?

**ヒョードル**　私にとって大晦日に日本で闘うのは恒例行事でしたから、日本のプロ

# ストライクフォースとの契約はあと1試合。引退することは考えていません

のときも充分な準備はしてきました。ただ、今回については私がミスをしてしまっただけです。

あなたはリングスでデビューし、2001年からはPRIDEに参戦していましたが、これほど長く無敗が続くとは思っていましたか？

**ヒョードル**　無敗が続くというより、デビューしてしばらくしてから、試合に負けるということが想像できなくなりました。

――負けることが想像できなくなりましたか！

**ヒョードル**　ただし、私も普通の人間です。特別なわけではありません。当然、負けることもあったということです。

――無敗のまま引退したいという思いはありましたか？

**ヒョードル**　とくにそんなことは考えたこともなかったし、私はまだ現役を続けていくつもりですから。

――ファブリシオも含めて、これまで対戦した相手のなかで、一番の強敵は誰でしたか？

**ヒョードル**　それは間違いなく、PRIDE時代のノゲイラとミルコ・クロコップですね。

――やはりその二人ですか。

**ヒョードル**　はい。いま現在、世界中のファイターを見渡しても当時の彼ら以上の強敵はいないんじゃないかと思います。

となると、その二人に勝った当時のあなたが、やはり世界最強ですね（笑）。

**ヒョードル**　（微笑）。……そうは言いませんけど。私はいまもより強くなろうと努力しています。

――最も印象に残る対戦相手も、やはりノゲイラとミルコですか？

**ヒョードル**　過去の試合はすべて記憶に残っていて、印象深いものばかりです。ただ、やはりノゲイラ、ミルコ・クロコップとの対戦は非常にタフで、お互いが持っているものを出しきったベストのファイトだったと思います。

――それはファンにとってもそうだと思います。

EMELIANENKO FEDOR■1976年9月28日、ウクライナ・ルハンシク州出身。今年6月のストライクフォースでのファブリシオ・ヴェウドゥム戦で2000年の[illegible]以来、10年ぶりの敗北を喫した。183cm、[illegible]kg

Emelianenko Fedor

**ヒョードル**　そうであればうれしいですね（微笑）。

いま、あなたが最も闘いたい相手は、やはりファブリシオですか？

**ヒョードル**　もちろん負けた相手にリベンジしたい気持ちは持っていますが、ストライクフォースのタイトルにも興味があります。ただ、とくに誰と闘いたいという気持ちはありませんね。私はマネージャーとプロモーターが決めた相手と闘うことが仕事です。

――ストライクフォースとの契約はあと1試合だそうですが、その試合が引退試合になる可能性も一部でささやかれています。実際にそうなる可能性はあるのでしょうか？

**ヒョードル**　言われるとおり、ストライクフォースとの契約はあと1試合です。でも、私はまだしばらく試合をしていきたいので、引退することはまったく考えていません。ストライクフォースとの今後の契約がどうなるかは、私自身わかりませんが、発表を楽しみにしてもらっていいと思います。

――それを聞いて安心しました。

**ヒョードル**　私が政治家に転向するという噂もあるようですけど、私自身はファイターとして試合を続けていきたい気持ちが強いので、安心してください（微笑）。

――アリスター・オーフレイムが、「ヒョードルは自分との対戦から逃げている」と発言したことについて、どう思いますか？

**ヒョードル**　先ほども言ったとおり、マッチメイクはプロモーターとマネージャーが決めるもので、私が関与することではありません。私は決められた試合に全力をつくすだけです。

――今年の大晦日、日本で闘う可能性はありますか？

**ヒョードル**　私にとって大晦日に日本で闘うのは恒例行事でしたから、日本のプロモーターからオファーがあれば喜んで試合をしたいと思います。ただし、いまの日本にはPRIDEのような大きなプロモーションが存在しないので、3年前に試合をして以降、そういったオファーがないのが現実です。

――日本で闘うときと、アメリカで闘うときは、気分的にどんな違いがありますか？

**ヒョードル**　日本でもアメリカでも、試合があるときはそのことだけにフォーカスしているので、土地の違いということは気になりません。リングとケージで多少の違いがあるだけですね。

――ジョシュ・バーネットがストライクフォースと契約をしました。一度は流れてしまった彼との試合をあらためてやりたい気持ちはありますか？

**ヒョードル**　バーネットとの試合は、過去一度ではなく、じつは3度も流れてしまってるんですよ。でも、私と同じリーグに入ったことで、今後バーネットと対戦する可能性は高いだろうし、いつかはケージで向き合うときが来ると思っています。

あなたの次の試合は1月のストライクフォースと噂されていますが、どうなりそうですか？

**ヒョードル**　その噂どおり1月末にアメリカで試合ができればと思っています。いまはその正式なオファーを待っているところです。対戦相手にはこだわらないし、自分には選ぶ権利もないので、誰とでも闘いますよ。私は誰とでも闘える準備ができていますからね（微笑）。

【10年10月19日／米国カリフォルニア州ロサンゼルス、ユニバーサルスタジオにて収録】

## 日本か！ アメリカか!! そして大晦日は!?

# 小見川道大は いったい何を 考えているんだ!?

日本マット界が大晦日に向けてざわめくなか、海外からUFC&WEC統合というニュースが飛び込んできた。すなわち軽量級近辺の動きがめまぐるしくなると予想されるが、はたして海外進出も匂わせる小見川道大にはどう映っているのか。さっそく直撃してみた！

聞き手&撮影／堀江オンツ

――じつは今回の「kami-Pro」ですてきな奥さま特集」をやるんですが、小見川選手の奥さまにもぜひ出ていただきた

**小見川** ああ。ええっと、オファーがあったかどうかはオレはわからないですけど、WECがどんな感じなのか、ちょっと向こ

（笑）。でも、それでもいますぐ上がりたいとは……うーん、どうですかね。

闘いたいという思いもあるわけですね。

**小見川** そうですね。それが一番です。

# オレ、UFCで2連敗してるんで やっぱあの借りを返したいんですよね

――じつは今回の「kamipro」で「すてきな奥さま特集」をやるんですが、小見川選手の奥さまにもぜひ出ていただきたいと思っていたんですが……。

**小見川** もう、ウチは欠席ということでお願いします！（照）。

――了解しました、非常に残念ですけど（笑）。ただ、旦那さまのほうにはぜひお仕事のお話をうかがわないといけないということで、さっそくですが、なんだか格闘技界は動きがめまぐるしいですね。

**小見川** めまぐるしいですか？

――ええ。とくに軽量級方面は、UFCとWECの統合というニュースもあって、小見川選手自身も気になってるんじゃないかなって。

**小見川** ああ、そうでしたね。

――小見川選手自身にとってはめまぐるしくないんですか？

**小見川** う～ん、そうですねえ。まあ、正直UFCは凄く魅力のある舞台ですからね。フフフフ。

――やっぱりWECとUFCじゃ、魅力も違ってきますか。

**小見川** そりゃ、全然違いますね。もうまったく話が別になっちゃうくらい違いますよ。たとえば、UFCのチャンピオンとWECのチャンピオンってだけでも強さのイメージが相当違うじゃないですか。

――言葉の響きだけだと「1軍王者」と「2軍王者」ぐらい違いますよね。まだ統合前の話ですが、噂によると、WECから小見川選手にもオファーがあったとか。

**小見川** ああ。ええっと、オファーがあったかどうかはオレはわからないですけど、WECがどんな感じなのか、ちょっと向こうの話を聞いてみたって感じですね。

――交渉が持たれたということですね。その話し合いの時点で、WECに上がることを考えたときに何かネックになったものとかがあったんですか？

**小見川** う～ん、やっぱ一方的な向こうの条件だけじゃなくて、オレはオレでこれまで積み重ねてきたこともあるので、こっちの条件とかも聞いてほしいなというのはありましたね。まあでも、その時点ではオレもそこまでアメリカで試合をしたいというわけでもなかったんですけど。

©Josh Hedges（UFC）

マイク・ブラウンの持つWECフェザー級タイトルを奪取して以降、二度の防衛に成功しているフェザー級の絶対王者ジョゼ・アルド。小見川が舌なめずりして対戦を望んでいる選手の一人でもあるが、はたして対戦は実現することになるのか？

――しかし、それがUFCに統合されるという事態になって、やっぱり心境にも変化はありました？

**小見川** そりゃ、変わっちゃいますよねえ（笑）。でも、それでもいますぐ上がりたいとは……う～ん、どうですかね。

――小見川選手は以前、UFCで2戦闘ったことがありますね。

**小見川** だから、なおさらUFCでやってみたいというのがあるんですよ。負けてるんで、あの借りを返したいんですよね。

――それは、戦極のフェザー級GPを経て、あのときの自分とは違うぞという自負もあるわけですね。

**小見川** そうです。やっぱりUFCで試合して、勝てずに帰ってきたという心残りな部分が凄くあるんですよ。

――たとえば、今回のUFCとWECの統合というのは、小見川選手のように多くのフェザー級の選手に影響を与えると思いますか？

**小見川** う～ん、どうですかね。ほかの選手はどうなのかわからないですけど。

――でも、小見川選手は「やっぱり、いいなあ」とは？

**小見川** 思っちゃいますね。ハハハハハ！

――小見川選手にとって、UFCの一番の魅力ってなんですか？

**小見川** やっぱりPPV効果というか、UFCって全米で大人気じゃないですか。自分もあの舞台に上がったからわかるんですけど、ダイナミックな演出というか、観客がどんどん試合を盛り上げるじゃないですか。それがどんな演出よりも凄い空間を作ってるんで、そういうのもいいと思うし。でも、負けたらすぐリリースされるというシビアな世界というのもあって、そういうプロフェッショナルな感じがいいですよね。勝ったヤツしか報われないというか。

――やっぱり小見川選手もファイターであるからには一番レベルの高いところで闘いたいという思いもあるわけですね。

**小見川** そうですね。それが一番です。

――このところ、小見川選手はずっと強いヤツを求めて試合をするというかたちでやってますが、たとえば小見川選手が興味を抱いているマルロン・サンドロだったりビアーノ・フェルナンデスだったりが、今回のことでUFCと契約することになってしまったら、あまり日本で闘っていく意味はなくなってしまいますか？

**小見川** う～ん。日本にいる意味っていうか、いまのオレの夢は自分がどのくらいてっぺんで通用するのか、そこを試したいっていうところなんですよ。だからそうなってくると世界で一番になるために、アメリカで本物の夢を見ようかなって。

――それは自分の総合格闘技のキャリアのなかでいまが一番ファイターとしての状態がいいから、なんとかいまの時期に挑戦したいという思いもあります？

**小見川** それは大きいですね。一番いい時期にやりたいっていうのが率直な気持ちです。

――この年齢で一番いい時期が来た、と。

**小見川** そうですね。いまがいい時期です。これでやってやろうじゃないかっていう気持ちですよ。

――いまこの時期に世界のトップと白黒つけられたら、どっちに転ぶにしても気持ち的に納得できるというか。

**小見川** 納得できますね。とにかく強い相手と勝負したいんですよ。

――経済的な面において、WECというのはどうでした？

**小見川** やっぱりプロファイターとして闘っている以上は、そこらへんも高くやっていかないとって感じですよね。

――正直、WECってチャンピオンクラ

スでも、人気選手はスポンサーにガッツリもらうにしても、ファイトマネー自体はそんなに高いイメージってないと思うんですよ。DREAMや戦極で軽量級が盛んになってきてから、いままでなかなかWECに日本人が参戦する機会はなかったのかなって思うんですが、そこは日本のプロモーションのほうが待遇面で上だったっていう部分もあるんじゃないかなって。

**小見川** はい、それはあると思いますけどね。でも、こうなってきたら……オレのなかではUFCかなって。

——UFCになったら金額も変わってきそうな気がしますしね。最近は海外の軽量級の映像はご覧になってますか？

**小見川** もちろんです。この前もジョゼ・アルド選手の試合はちゃんとチェックしてますよ。やっぱ、強かったですね。

——マンヴェル・ガンブリャンとのフェザー級タイトルマッチですね。やっぱりああいう試合を観るときは、「自分が闘うんだったら、こうやりたい」ってことを想像しながら観てるんですか？

**小見川** やっぱ、そういう目で見ちゃいますね。もう速いですよ、ローキックとかも。

——軽量級なのにローキックだけで試合を終わらせられる男ですからねえ（笑）。

**小見川** だから、あそこをどう詰めていくか。あのローキックより速く入らないといけないってことですからね。

——あれを観ちゃうと、「この階級の世界ナンバーワンだな」って感じですか？

**小見川** まあ。ただ、オレもパンチにはちょっと自信があるんでね。いろいろ身体合わせてみたいですよ。

——たとえば、もしWECというかUFCに上がるとなったら、すぐにタイトルマッチというわけにもいかないですよね。

たいこともあるし。

——それは青木選手に何か注文があるという意味じゃなく。

**小見川** それはもちろんそうですよね。向こうはオレの実力を目の前で観たことないんですから。

——前回のDREAMで高谷選手とビビアーノのタイトルマッチが決まりかけたときに「順番が違うだろ」という発言がありましたけど、これがUFCだったら「3回勝ったらタイトルマッチ」とかいう話になっても、それは納得できるという感じですか？

**小見川** それは全然。はい。

今年の『Dynamite!!』では高谷のフェザー級タイトル挑戦も噂されているが、一昨年の大晦日は小見川が高谷からKO勝利を奪っている。そういった状況を鑑みて、小見川が指名しているのが青木真也というから、ある意味では興味深い!?

——その違いはなんですか？

**小見川** いや、だから「順番が違うだろ」っていうのは、オレ、いきなりDREAM参戦ってわけじゃないじゃないですか。「じゃ、あの大晦日はなんだったの？」って話になりますよね？ そこなんですよ、オレがわかってほしいのは。

——1戦目とか2戦目とかの問題じゃなくて、09年『Dynamite!!』の高谷裕之戦を踏まえての話だ、と。

**小見川** そうそう、そこの実力の問題ですよ。……ったりに言ったりしたことと同じですからね。それを今度はオレがやってみたいっていうか。

# HIROMIGAWA

**一発もパンチもらってないんですよ。あんだけの勝ち方をしておいて……**

よ。なのに、なんでオレとの扱いが違うのかなって話であって。もう、だったら勝手にやっててよって感じなんですよね。

——高谷選手がトップコンテンダーであることは間違いないんですけど、小見川選手はそれに勝ってるんだから、タイトルマッチの挑戦権は小見川選手にあるんじゃないかってことですよね。

**小見川** だってオレ、一発もパンチもらってないんですよ。微妙な判定とかならわかりますけど、あんだけの勝ち方しておいて。それがわからないんですよねえ。

——それ以外に何を証明するんだってことですね。

その点、UFCではまだ証明できてない部分があるから……。

**小見川** （さえぎって）だから、あの2敗で火がついてますよ、クソッタレ魂に（笑）。あそこで赤っ恥かいてるんで、「やってやんないと」と思ってますから。

——実際、UFCに上がるとなったら、ケージというのはやりにくくないですか？

**小見川** あのときとは気持ちが違うんで、そういう問題よりも、闘いに迷いがあったかな、と。いまはもう迷いはないですから。

——ルールや舞台の違いではなく、自分の闘い方がまだ見つかってなかった、と。

**小見川** 精神的な問題ですね。でもいまは自分の闘い方はできてると思ってるんで。

——なるほど。それで、話は日本格闘技界に戻りますが、じつは今日『Dynamite!!』の開催発表会見があるんですよ。

**小見川** あ、そうなんですね。

——そっちは考えてはいますか？

**小見川** はい、もちろん。出るならもう、強い選手がいいですよね、相手は。

——『Dynamite!!』でタイトルマッチをやりたいとか、そこはもう考えてないんですか？

**小見川** タイトルマッチは……まあ、もういいです。

——あ、いいんですか!?

**小見川** 63キロまで落ちないんで、オレ。ハハハハ。

——となると、小見川選手が闘いたい相手はどんなファイターになってくるんでしょう？

**小見川** 大晦日か……。大晦日ですからねえ。階級の枠、越えちゃったりするのもアリなんじゃないですか？ たとえば青木選手だったり。

——ほう、青木真也ですか！ それはまたどうして？

**小見川** 青木選手との試合ってどれもけっこうスリリングじゃないですか。あの感覚をちょっと味わってみたいですね。試合のなかで、肌で伝えたいってこともありますし。

——肌で伝えたいこと、と言いますと？

**小見川** 彼も柔道をやってたじゃないですか。道着に袖を通す者同士、試合で伝え級を越えてそういう青木選手とやってみたいですね。それはべつにDREAMにと言いませんから。

——ちなみに、去年はDREAMと戦極

# 青木選手の生き方を肌で感じてみたいし　オレの生き方もぶつけてみたい

ッチというわけにもいかないですよね。

たいこともあるし。

――それは青木選手に何か注文があるという意味じゃなく。

**小見川**　いや、そういうわけじゃなくて、「オレの生き方は、こういう生き方なんだ」みたいな。それを肌で感じてくれて、またオレも青木選手の生き方を肌で感じてみたいって感じですね。それに、いろいろおもしろいじゃないですか、青木選手だったら。階級を越えた闘いっていうのも、彼が以前、マッハだったり秋山（成勲）選手だ

**小見川**　そうそう、そこの実力の問題です

ったりに言ったりしたことと同じですからね。それを今度はオレがやってみたいっていうか。

――なるほど。あのとき、マッハ戦前の青木選手の発言なんかはどう思いました？

**小見川**　でも、青木選手本人はただ単にマッハ選手が強いから闘いたいって、純粋にそこだと思うんですけどね。だから対戦するためには何をしてもやる、と。だからそこが凄いと思うし、本当にやっちゃうじゃないですか。だから大晦日だったら、階

# MICHIHIRO OM

**小見川**　精神的な問題ですね。でもいまは

級を越えてそういう青木選手とやってみたいですね。それはべつにDREAMに持ち越してでもってわけじゃないですよ。年を越えちゃうとねえ……。

――夢のカードとしてやってみたい相手だというわけですね。

**小見川**　大晦日だからですよ。大晦日だからね。

――もちろん勝つ自信があるからの対戦表明ですか？

**小見川**　もちろん。自信なきゃ、こんなこ

おみがわ・みちひろ■1975年12月19日、茨城県出身。柔道からMMAに転向し、05年5月に『PRIDE武士道』でプロデビュー。09年『戦極』フェザー級GPでは現王者マルロン・サンドロを判定で下し準優勝。同年大晦日には高谷裕之を撃破。UFCとWECが統合したことで、その行方が気になるフェザー級の要注目人物。168cm、65kg。

すか。道着に袖を通す者同士、試合で伝え

と言いませんから。

――ちなみに、去年はDREAMと戦極との対抗戦というのがありましたが。

**小見川**　え？　今年も対抗戦があるんですか？

――いえいえ、今年はまだそういう話は。というか、SRCは前日の30日に興行がありますからね。朝から晩まで30試合くらいやるって話を聞いております。

**小見川**　さ、30試合！　それって、なんの試合を30試合もやるんですか？

――立ち技やグラップリングマッチも含めて、いろいろやるみたいです。

**小見川**　はー、でも、そんなにたくさん観られないですよねえ。ちょっとどんな感じなのか想像がつかないですねえ。

――SRCのほうから試合のオファーが来ることはないんですか？

**小見川**　それはないでしょ（笑）。というか、その30試合の中にはあんまり入りたくないですねえ（苦笑）。

――「第28試合目にお願いします」とかオファーが来たらどうします？

**小見川**　ハハハハハ！　お客さん、もう寝てますよ！（笑）。

――じゃあ、やっぱりいまは大晦日に向けて調整していこう、と。

**小見川**　そうですね。いつ試合が組まれてもいいように身体作って待ってますから。

――もうトレーニングも本格的な感じになってきてるんですか？

**小見川**　徐々に走りだしてますね。まあ、いい相手に当たることを願ってますんで。ホント、強い相手と大勝負をしたいですね。

――いいですね。小見川選手らしい試合が決まることを期待してます！

［10年11月6日　都内・J-ROCK ワークアウト・スタジオにて収録］

恥ずかしいけど統合しました!!

# 軽量級の最高峰 WECとは何か？

文／高橋ターヤン

長らく噂されてきたが、ついにUFCとWECが統合されることが発表された。世界最大のMMA団体と軽量級世界最高の舞台の統合によって、世界のMMA市場はどのような変化を見せるのか？

もともとWECはカリフォルニア州のインディアン居住区にあるタチ・パレスホテルを中心に、細々と活動を続けてきた弱小MMAプロモーションであった。01年に活動を開始し、旗揚げ戦ではダン・スバーン対トラヴィス・フルトンを組むというレジェンドファイターを客寄せパンダにした、典型的な泡沫団体であった。

しかし、DREAMでもおなじみのコール・エスコベドがフェザー級王者に、フランク・シャムロックがミドル級王者、ニック・ディアスがウェルター級王者となるなど、徐々にMMA団体としての体裁を整えていく。

ただ弱小団体の悲しさか、王座戦を行なって王者を決めても、まったく防衛しないままチャンピオンが離脱するため、ほぼ毎大会タイトルマッチを実施しなければならなくなるという展開。

レギュラー選手の定着もなく、2軍級の選手が入れ替わり立ち替わり登場するWECは、カリフォルニアのいちローカルイベントとして知る人ぞ知るマニアックな存在でしかなかった。

そんなWECの運命は06年に劇的に変わることになる。まず3月の「WEC19」へのユライア・フェイバーの参戦だ。軽量級がほとんど認知されていない時代、カリフォルニア・キッドとあだ名されるユライアは、ローカル団体で抜群の輝きを放つスターの原石であった。WEC参戦初戦で、エスコベドの持つフェザー級タイトルに挑戦したユライアはエスコベドを圧倒。見事に第2代WECフェザー級王者となったのだ。

そして12月には、すでに世界最大のMMA団体となっていたUFCによる買収が発表。当初はエリートXCとケーブルテレビ局大手のHBOの契約に横槍を入れる目的であったか、エリートXCとHBOの交渉は決裂。IFLが同じくケーブルテレビ大手のヴァーサスとの契約交渉に動いていることを察知したUFCは、先手を打ってWECとヴァーサスを契約させることに成功する。こうしてWECは望外のスター選手とテレビ契約の両方を手に入れた。

当初はUFCの2軍大会としての用途で買収されたWECだったが、ユライアをはじめとする軽量級の選手の活躍によって、徐々に方向性が定まっていく。

08年にはWECのミドル級以上の階級は廃止され、09年にはウェルター級も選手をUFCに移管。WECは軽量級に特化したイベントとして、脚光を浴びるようになっていく。

そしてユライアだけでなく、ミゲール・トーレス、ジョゼ・アルドといったスター選手が次々と登場。独自の世界観を確立した矢先に、今回の統合となったのであった。

これによって、UFCは複数のメリットとデメリットを抱えることとなる。一つめのデメリットは選手数の増加だ。開催するイベント数に対して、選手数が多すぎることになるため、各階級でリストラが行なわれることになるだろう。とくに階級がかぶるライト級は大ナタが振るわれる可能性は高い。

しかしそうした統合にまつわる庶務の苦労を上回るメリットがあることも確かだ。これまで試合はおもしろくても露出の少なかった軽量級は、UFCの試合として放送されることにより、これまで以上の人気を博することになるだろう。それによって選手はより大きなマネーチャンスをつかむことになる。また軽量級で活躍するヒスパニック系ファイターの大量露出によって、これまでボクシングに重きを置いてきたヒスパニック層を、UFCの新たな顧客として取り込める。ただ軽量級の試合は、UFCの重量級の試合の中に埋もれてしまう可能性は否定できない。

今回の統合が吉と出るか凶と出るか。結論は来年、出ることになる。

浅草キッドの玉ちゃんと語る!

# 俺たちのブロック・レスナー&大晦日変態座談会

今月もダメな大人たちが『加賀屋』で酒を飲みながら語りまくる、変態座談会のお時間がやってまいりました! 今回もブレーキの壊れた変態メンバーが、愛しのブロック・レスナー、そして開催だけは発表された日本の大晦日興行を肴に、変態的に語り明かします!

構成／堀江ガンツ

## 俺たちが観たい大晦日のカードはこれだ!

脱するため、ほぼ毎大会タイトルマ

の契約に横槍を入れる目的であった

文

リットとデメリットを抱えることと

か。結論は来年、出ることになる。

# レスナーvsヴェラスケス戦はまた"田コロ"が舞い降りてきたよ

**ガンツ**　さて、毎月恒例の変態座談会を始めさせていただきます。
**玉袋**　おう、始めよう。今日は生ビール大ジョッキ3つ！
**ガンツ**　今日は大ジョッキで（笑）。
**玉袋**　おう、そうだよ。
**椎名**　今日はなんの話？
**ガンツ**　今日はですね、年の瀬も近くなってきたので、「大晦日変態座談会」といきたいんですけど、その前にブロック・レスナーvsケイン・ヴェラスケスの話をしておきましょうか。
**椎名**　あの試合は凄かったね！
**玉袋**　だから普段は中ジョッキなのに今日は大ジョッキってことだよ！度肝を抜かれたブロック・レスナーの怪物としての魅力。肉体としては、神様が与えた傑作だよな、ありゃ。
**椎名**　ヒゲ面もいいよね！
**玉袋**　いいんだよ！ドン・レオ・ジョナサンかと思ったよ。
**ガンツ**　木こり系ですよね（笑）。
**椎名**　胸板がとんでもなく厚いし、あとセンスがいいから入れ墨もカッコイイ！日本人だとどうしてもゴチャゴチャしちゃうけどさ。
**玉袋**　和彫りで登場されても困っちゃうしな。でもさ、柔と剛の対決で、ついに柔が勝ったわけだろ。驚きの結末だよ。
**椎名**　ここにきて、ヘビー級もすべての技術が揃ってるヤツがチャンピオンになったんだって気がしましたけど。最初のスピアー（超突進タックル）を止められれば、あとは技術の勝負だぞっていう。
**玉袋**　でもよ、止めるって言ったって、あのスピアーは凄いぜ！
**椎名**　凄いです。いつも相手が浜辺
**玉袋**　だから、WOWOWは入場時の実況アナは問題だけど、TKの解説は最高なんだよ！

のビーチパラソルのように遠くまで吹っ飛んでますからね。最初に観たとき『ええ～!?　こんなことってあり？』って思いましたもん。
**玉袋**　千代大海のぶちかましより凄いよな。
**椎名**　全然凄いです。
**ガンツ**　まさに、リアル「ブレーキの壊れたダンプカー」ですよね。
**玉袋**　ホントだよ。思い出したね。バトル・オブ・スーパーヘビー・ウェートを。
**ガンツ**　またアメリカに田園コロシアムが舞い降りましたね（笑）。
**玉袋**　田コロだよ。ハンセンvsアンドレだよ。でも、まさかレスナーが負けるとはな～。
**椎名**　じつは俺は試合前から「ヴェラスケスが勝つ」って言ってたんで
**玉袋**　暴れん坊だらけのなかで育ってんだもんな。
**ガンツ**　巨大な暴れん坊を世界中か

すよ。
**玉袋**　ほう、椎名先生はヴェラスケスに張ってたか。
**椎名**　でも、ブロック・レスナーが入場ゲートに出てきた瞬間、すぐにレスナーに変えました。「こいつに勝てっこねぇ～」って（笑）。
**玉袋**　あれ見て「こいつ負けるな」って言うヤツ誰もいねえよ！
**ガンツ**　凄いオーラでしたもんね。

**椎名基樹**
1968年4月11日、静岡県出身の42歳。本誌の好評長寿連載コラム「サムライ二昧」でもおなしみ、変態座談会癒しの重鎮。構成作家、放送作家　レスナーvsヴェラスケスの戦前、「ウェラスケスか勝つ」と予想し、ズバリ的中させたト変態。

**玉袋筋太郎**
1967年6月22日、東京都出身の43歳。子どもの頃から蔵前国技館に通った変態プロレスエリート。過去に松永vsボーゴの「人間焼肉マッチ」を、テリー伊藤氏と一緒に叙々苑の前掛け着用＆箸持参で観戦した経験を持つ。

**堀江ガンツ**
1973年9月14日、栃木県出身の37歳。変態座談会主宰者。ちっちゃい頃から変態的プロレスファン＆格闘技ファンとしてならし、UWF研究家を自称。変態心をくすぐる独特のマッチメイクセンスに興味を示すイベント関係者も多い？

身体は巨大な岩石みたいだし。
**玉袋**　まさに「ブロック」だよ！
**椎名**　で、今回のレスナーvsヴェラスケスもちろん凄かったんだけど、ヘビー級はここまでの流れがよかったんですよ。ミアを倒したカーウィンをレスナーが倒して、ヴェラスケスはノゲイラをKOして上がってきて。事実上の最強決定トーナメ
オランダに行ったとき、路地裏に引きずり込まれたことあるからね。
**玉袋**　オランダで？

ントみたいだったから。とんでもないですよ、一連のあの闘いは。
**玉袋**　毎回、田コロなんだよな。ハンセンvsアンドレ、ハンセンvsブロディ、ブロディvsアンドレとか毎回やってるようなもんだろ。
**ガンツ**　しかもストーリー展開が早すぎるんですよね。
**玉袋**　そうなんだよ！　PRIDE時代、ヒョードルvsミルコなんて、どんだけ待ったことか。でも、UFC頂上対決が簡単に実現しちゃうんだよな。
**椎名**　だからレスナーはちょっとかわいそうですよ。カーウィンにメチャクチャ殴られながら逆転勝ちした3カ月後にヴェラスケスですよ!?
**玉袋**　カーウィンだって大変な敵だぜ？
**椎名**　怖いですもん！
**玉袋**　だからよ、俺たちが大興奮して観てたPRIDEヘビー級GPなんかが、じつはスケールアップして、いまUFCでやってるんだよな。
**椎名**　あと、みんなパワーがとてつもなくあるから、どの試合もだいたい1ラウンドであっという間に決着ついちゃうよね。
**ガンツ**　攻撃力、殺傷能力が高すぎるんでしょうね。人間が耐えられない攻撃力。
**玉袋**　身体のどこかに「KOMATSU」って彫ってそうだよ！　人間というよりコマツフォークリフトだもん。
うとしたんだけど「いくらでも」が、通じなかった（笑）。

重機同士が闘ってるようなもんだ！
**ガンツ**　怪獣大戦争でもありますしね。
**玉袋**　俺、あの場にいたら興奮してしょんべんもらしてるかもしれないよ。ロボット大戦だもんね、あれ。マジンガーZ vsデビルマンでデビルマンが勝ったようなもんだよ、柔らかさで。レスナーなんてジャイアントロボだよ、ホント。このロボット大戦には、もうノゲイラやミルコは入ってこれなくなっちまったのかね。
**ガンツ**　ちょっと難しくなってますよね。
**椎名**　ノゲイラはフランク・ミアとやりたいんでしょ？
**ガンツ**　そうなんです。前回負けたときは病気だったから、万全でリマッチしたいって。
**椎名**　これでミアに勝てば、まだまだわかんないでしょ。
**玉袋**　ただ、ノゲイラは打たれ弱くなってるだろ。壊れちゃってんじゃねえのかな。
**椎名**　それでもノゲイラは下から攻められるから。絞め技があるからね。
**玉袋**　でも、いまアナコンダチョークなんて、みんな平気でやってんだろ？
**椎名**　確かにアナコンダだけで何パターンもあるんですよね。TKが解説で「これはワールドという技です」とか言ってましたけど。「なんだよ、ワールドって」とか思って（笑）。進化早すぎ。
なのにデカすぎるじゃん。
**玉袋**　だから俺はいまこそ金網で観

**玉袋**　だから、WOWOWは入場時の実況アナは問題だけど、TKの解説は最高なんだよ！

**椎名**　ときどきおもしろいことも言うんですよね。しかも、暴力的なタイプが好きみたいで、理屈っぽくないのがいい。

**ガンツ**　そのへんは、リングス出身ですからね。

**玉袋**　暴れん坊だらけのなかで育ってんだもんな。

**ガンツ**　巨大な暴れん坊を世界中から集めてきた、ビックリ人間団体ですからね（笑）。

**玉袋**　アスリートだけじゃなくて、ストリートもかなり混じってんだからな（笑）。

**椎名**　オランダ勢は怖いでしょ。俺、オランダに行ったとき、路地裏に引きずり込まれたことあるからね。

**玉袋**　オランダで？　こええ！　護身術で骨法習ったほうがいいよ！

**ガンツ**　目突きと金的で逃げないと（笑）。

**椎名**　立ち向かったら、撃たれる可能性あるから（笑）。それで、マネー いくらでも」って言って難を逃れようとしたんだけど「いくらでも」が通じなかった（笑）。

**玉袋**　オランダは怖いなぁ。オランダといえば、俺はアリスターやセーム・シュルトをUFCで観てえよ。

**椎名**　K－1で観るとシュルトって、あんなに優勝してるのに「強い」って思う前に「ズルい」って思っちゃうんだよね（笑）。だって、立ち技格闘技なのにデカすぎるじゃん。

# UFCのヘビー級は人間というよりコマツフォークリフトだもん！

10.23（現地時間）「UFC121」でのブロック・レスナーvsケイン・ヴェラスケスの一戦は、ヴェラスケスがTKO勝利でヘビー級新王者に！

**玉袋**　だから俺はいまこそ金網で観てえんだよ。K－1 WORLD GPでは今年もどうせ優勝するんだから。そんな想定済みの結果よりも、あらためて「どうなるんだろう？」って向きにいってほしいよ！

**椎名**　シュルトがUFCやPRIDEに出てた頃って、まだタックルを切る技術が流行ってなかったんだよね。だからハリトーノフに倒されて、パウンドと鉄槌でひどい目に遭ったけど、あの身体だったら練習すれば、タックル切れる感じがする。

**ガンツ**　本来、懐に入るのも大変ですからね。

**椎名**　そしたら、立ったままジャブ、ヒザ蹴り、前蹴りだけで勝っちゃう気がするじゃん。寝技だってできないわけじゃないんだし。

**玉袋**　シュルトがMMAグローブで殴ったら、めちゃくちゃいてえっていうからな。そういう闘いが観てえんだよ。シュルトvsレスナーとか、アリスターvsレスナーをいまこそ観たいよ！

**椎名**　このあいだ『kamipro』でヒクソン（・グレイシー）も「レスナーに勝てる」って言ってたよね（笑）。

**玉袋**　まだ言ってんだよな。そこがいいんだけどさ。

**椎名**　でも、トップクラスの柔術家だったら、あのUFCヘビー級の怪物たちを極められそうな気もする。

**ガンツ**　このあいだファブリシオ・ヴェウドゥムにインタビューしましたけど「レスナーを極めるなんて本当に簡単なことだ」って言ってましたからね。

**椎名** 凄いな、ヴェウドゥムそんなこと言ったんだ。ノゲイラだったらレスナーとやったらいけるかもしれないね。レスナーって、柔術強いのはミアぐらいとしかやってないじゃん。しかも、ノゲイラは下からの極めが強いんだから。

**玉袋** ノゲイラvsレスナーは観てえ！ それで「俺たちのノゲイラ」が勝ったら、俺は泣くね。

**ガンツ** あとは〝最強のデブ〟ロイ・ネルソンvsレスナーっていう噂もありますね。

**玉袋** いいね〜。あのデブはマット・ガファリとは違うんだよなあ。

**椎名** ロイ・ネルソンはデブのくせに戦術に長けてて、ずるいんですよ。

**ガンツ** デブのくせに（笑）。

**玉袋** でもよ、レスナーは誰とやっても黄金カードだよな。

**椎名** 同感です。観たい試合が多すぎる。

**玉袋** それはやっぱりキャラがいいっていうのと、レスナー自身にストーリーがあるからいいんだろうな。大学でレスリングの全米王者になって、WWEでスターになって。辞めてフットボールの再テストを受けて落っこって、そこからUFC王者になるんだから凄いよ。俺はブロック・レスナーと友だちのマサ斎藤がうらやましい（笑）。

**ガンツ** あんな群れない男が、マサさんには心を許してるんですよね（笑）。

**玉袋** UFCはレスナーを中心にこうやってヘビー級だけでも、観てえカードがどんどん出てくるんだよ。その点、ちょっと日本は心配なんだよな。大晦日が近づいてきてるのに、全然、注目のカードとかが開こえてこねえんだよ。

**椎名** 今年はまだ何も決まってないの？

**ガンツ** とりあえず「今年も大晦日に開催します」とだけ発表されましたね（笑）。一応、「〝サプライズ〟はあります」とは言ってますけど。

**玉袋** 誰なんだよ。こっちも感覚麻痺しちまってるからよ、ちょっとやそっとじゃ驚かないよ。

**椎名** そりゃあ、秋山でしょう！（自信満々に）。

**ガンツ** なんでですか？

**椎名** 秋山vs石井をやるしかなくない？

いまこそセーム・シュルトのMMA出撃を！「本来、檻に入るのも大変」「立ったままジャブ、ヒザ蹴り、前蹴りだけで勝っちゃう気がする」「MMAグローブで殴ったらめちゃくちゃ痛いらしい」と変態メンバーの期待も大きい。

**ガンツ** でも、秋山がUFCリリースされなきゃできませんよ。

**椎名** もうリリース近いでしょ？ 連敗して。

**ガンツ** いや、3試合連続でファイト・オブ・ザ・ナイトを獲得して評価高いんですよ。ダナは「あと10試合やってもらう」って言ってましたから（笑）。

**椎名** マジで!?

**玉袋** 評価がたけえんだなぁ……。

**椎名** じゃあ、大晦日に秋山は観られないんだ。

**玉袋** そうなると、誰が出るんだ。飛び道具だと押尾（学）か？

**椎名** 押尾はシャバにまだいるんですか？

**玉袋** まだいるんだよ押尾vs高相（祐一）！

**椎名** レフェリーはマーシーで（笑）。

**玉袋** ラウンドガールはのりピーがやってさ！ で、選手もレフェリーもすべてドーピングでノーコンテスト！

**ガンツ** とんでもなくアンダーグラウンドな試合（笑）。

**玉袋** でも、マジメな話をすると、サプライズなら朝青龍しかねえんじゃねえか？

**ガンツ** 何度も噂されてましたからね。でも昨日、バラさん（榊原信行氏）に会ったんですけど、バラさんは「朝青龍は100パーセントないね」って言ってましたけどね。なんでバラさんが言うんだろうって思ったんですけど（笑）。

## どうせ優勝するK−1より いまこそ金網でシュルトが観てぇ

**玉袋** そうなんだ〜。じゃあ、どうするんだよ大晦日。琴光喜なら出られるか。

**椎名** 琴光喜、かわいそうだから出してあげたいよね（笑）。

**玉袋** この際、千代大海、琴光喜、貴闘力、まとめて出そうぜ！

**椎名** リングでやる必要ないし!!

**玉袋** だから土俵でやるんだよ！ 相撲を！

**ガンツ** お騒がせ力士大集合（笑）。でも、それはNHKで『紅白』潰してやってください！

**玉袋** あと元横浜ベイスターズの古木が出るなら、清原、伊良部も出しちまうとかなぁ……そうだ！ 清原vs朝青龍がいいよ！

**ガンツ** 絵図にインパクトがありすぎて、なんの対決だかわからない（笑）。

**玉袋** 真っ黒対決。いろんな意味で黒〜い試合。違う意味のダークマッチ。

**ガンツ** これまたアンダーグラウンドな匂いがしてきましたね（笑）。

**玉袋** これが実現したらすげえけど、やってることはWWEじゃねえかってな。

**ガンツ** 発想は『レッスルマニア』の目玉を決めてるのと一緒ですもんね。

**椎名** やっぱり本戦で燃えられるカードが観たいですよね。

**玉袋** でも、なかなかいねえんだよな。PRIDE絶頂の頃はさ、ミルコvsヒョードル、小川vs吉田、髙田vs田村とか、「無理だろ？」っていうカードをどんどん実現させてきたんだよな。いまは、そのカード自体が思い浮かばねえ。小川vs石井っていうのはいいけどな。

**椎名** それはいいですね。

**玉袋** オーちゃんは絶対バリューがあるから。吉田戦ぐらいのファイトマネーさえもらえれば出るだろ。

**ガンツ** 小川はそれを引退試合にするかもしれないですね。

**玉袋** その線はあるな。「小川直也、石井慧に負けたら即引退スペシャル」だよ！

**椎名** それは完璧！ これでようやく、カード決まりましたね（笑）。

**玉袋** 決まりだな。K−1からは誰か出ねえのかよ？

**ガンツ** シュルトとアリスターあたりが候補なんでしょうけどね。

**玉袋** バダ・ハリは無理なのか？

**ガンツ** バダ・ハリはちょっと前まで行方不明でしたけどね（笑）。

**椎名** カッコいいね。行方不明（笑）。

**玉袋** 沢尻エリカ、中森明菜、バダ・ハリ、この3人は共通して同じワガママな血が流れてるから！

**椎名** あとアリスターは出るでしょ？

**ガンツ** 候補の一人ですけど、まだわかりませんね。

**玉袋** 俺、じつは明日、アリスター

## SRCはテリー伊藤プロデュースで開催される噂があるんですよ

とロケだよ。

**椎名** えっ⁉ 何するんですか？

**玉袋** K-1の前打ち企画でよ、アリスターと回転寿司に行ったり、アリスターvsネイチャー寺門とかやるんだよ。

**椎名** アリスターvsネイチャー寺門！ そんな黄金カードを大晦日に取っておかないで、やっちゃうんだ（笑）。

〈※このロケ前日、寺門ジモンのほうからスケジュールのバッティングの一報が入りアリスターvsジモンの夢の異種格闘技戦は持ち越しに……ダナがUFCで咄嗟の好カードを連発するところと正反対のマッチメイク不備を露呈してしまったという〉

**ガンツ** そして12月11日にK-1 WORLD GPがあるから、アリスターが大晦日に出られるかどうかは微妙ですよね。

**玉袋** でも、アリスターとシュルトがK-1GPの決勝でやったあと、大晦日に今度は総合ルールでリマッチとかさ。いまの状況考えたら、四の五の言わずになんでもやるしかねえよ。そうじゃねえと、やべえぞ。

**椎名** 実現性のこと考えちゃうと、なかなか夢のカードが出てこないもんね。

**玉袋** やっぱりいまはよ、役者が揃わねえんだよな。PRIDEがあった頃は、七並べでもスムーズにいってたのがよ、いまはUFCが重要なトランプ持ってて、止めちまってんだよな。

**椎名** そのカードを持ってるのはわかってんだから、出せよ！って（笑）。

**玉袋** あとはストライクフォースが持ってたり、誰かが止めちゃってる。しかも、パスできねえ状態だから。2パスしたら、日本格闘技界自体が成立しないで流局だよ。

**ガンツ** いまは流局の危機ですよね。

**玉袋** だってよ、秋山も五味もミルコもノゲイラもUFCが持ってて、止めちゃってるんだもん。ヒョードルは来れんのか？

**ガンツ** ヒョードルは契約的には大丈夫なんですけど、1月にストライクフォースに出るみたいなんですよね。あとはファイトマネーが高いから、出せるかどうか……。

11.8「K-1 WORLD MAX」で柴田勝頼をDREAMルールで一蹴した石井慧 試合後、大晦日「Dynamite!!」への参戦を否定したが、当然出場が期待される

**玉袋** でも、ヒョードルvs石井ぐらいやんねえとな。このカードならインパクトあるよ。

**椎名** 石井vs篠原監督とかできないですかね。

**玉袋** 篠原は出てこねえだろう。井上康生も出るわけねえしな。

**ガンツ** 柔道界引退したYAWARAちゃんならいいんじゃないですか。RENAvs谷亮子でいきましょう！

**玉袋** それだ！ それしかない！ 女子も入れていいんならよ、玉袋筋太郎vs中井りんの男女ミックスドマッチも入れてほしいね。

**一同** ダハハハハ！

**玉袋** 三角絞めで絞められながら、ガンガン殴られてな。それでも絶対にギブアップはしない。最後は昇天だよ。

**ガンツ** くだらないですね（笑）。

**玉袋** でもよ、大晦日もこの程度の案しか出てこねえんだから。これはちょっとマズいぞ。しかも、12月30日にはSRCもやるんだろ？

**ガンツ** 有明コロシアムでやりますね。この大会には、ちょっと眉唾ものの噂があるんですよ。

**椎名** どんな噂？

**ガンツ** テリー伊藤プロデュースで行なうってことなんですけどね。

**玉袋** テリーさんやんのかよ？ まあ、ドン・キホーテと仲いいから、ありえねえ話じゃねえな。

**ガンツ** なんでもダンスイベントと融合させるらしいんですけど、荒唐無稽な話すぎて、誰にも信じてもらえないんですよ（笑）。

**玉袋** 俺はやると思う！ っていうか、格闘技のドン詰まり感を吹っ飛ばすのは成否うんぬんよりもドン・キホーテ&テリー伊藤の「メタメタサービス精神」しかない！

**ガンツ** もし、本当にテリーさんがプロデュースしたら、どんなイベントになるんでしょうね？

**玉袋** そりゃ、まず大仁田は出すだろうな。基本は松永vsポーゴの人間焼肉マッチが好きな人だから。戸田オートレース場の駐車場に叙々苑の前掛けして、箸持っていったのは、俺とテリーさんだけだよ。

**ガンツ** 焼肉を食べる正装で行きましたか（笑）。

**玉袋** 前掛けしちゃって、叙々苑の小皿とハシ持ってよ、「焼肉マッチだろ？」って、そういう人だからなあ。

**ガンツ** 凄いシャレでやる可能性があるわけですね。

**玉袋** でも、まったく発想の転換を求めるかもしれねえな。普通の試合なんてやらねえんじゃないか？ テリーさんだったら、土台からまるで違ったことを考えるだろうね。

**椎名** だってSRCなんて、いまのまま普通の興行しようって言っても駒がないもんね。

**玉袋** だから、開き直って格闘技でもなんでもねえことをやるかもしれねえな。客を呼べるならなんでもいいってね。

**ガンツ** 全国からB級グルメの店を集めて、有明コロシアムで出店させたり（笑）。

**玉袋** そういう発想だよ。格闘技より「つけ麺屋大集合」を売りにしたりさぁ。でも、本当はもっと凄いことやらかそうとする人だよ！ テリーさんの基本は北朝鮮のキム・ジョンウンvsキム・ジョンナムとか考える人だからねえ……。

**椎名** できないけどやりそう……。でも、スケールダウンで同じ兄弟で貴乃花と花田勝のちゃんこ対決になったりして！

**玉袋** いいね～。ちゃんこで若貴対決実現！ ちゃんこダイニング若倒産で貴乃花の不戦勝とかな。

**椎名** でも、ホントに青木真也とか、バリバリのメンバーは命懸けのガチンコで、あとは清原でも誰でも、呼んでくるっていう方法しかないでしょう。

**玉袋** 花相撲かガチンコか、初っ切りかガチンコかしかねえよ！

**ガンツ** では、世間がぶっ飛ぶ初っ切りカードの発表を待ちつつ、お開きにしましょう！

【10年11月5日 都内・「加賀屋」中野坂上店にて収録】

# WECがUFCブランドに!!
# 軽量級大革命ウラ・オモテ

## 日本に与える影響とは何か？

アメリカ在住スポーツマネージャー

## シュウ・ヒラタ

アメリカよ、あめりかよ!!（落合信彦調）。軽量級最高峰の舞台として活動してきたWECが同じくズッファ傘下のUFCに統合! さらなるパワーアップを図られることになったが、日本でも活気づく軽量級戦線にどんな影響が出てくるのか？ 事情通のシュウ・ヒラタ氏に聞きました!

聞き手　ジャン斉藤

ヒラタさん、今回はUFCに統合されるWECについて聞かせてください。

た感じですよね。で、その前ぐらいからヴァーサスでUFCの大会をオンエアし

私が考えるWECの一つの失敗、まあ失敗とは言えないんですけど、6年間続いてあ

ですね。そうなるとUFCというブランドに取り込んだほうが、大きい大会も打

――ヒラタさん、今回はUFCに統合されるWECについて聞かせてください。

**ヒラタ**　はい。

――マニア層からは軽量級世界最高峰の舞台として認知されているWECなんですが、UFCと比べるとブランド力の面ではどうだったんでしょうか。

**ヒラタ**　日本のファンにとってわかりやすく説明すると、PRIDEとPRIDE武士道の関係に近いですね。要するにWECはPRIDE武士道みたいなものだったんですけども。露出度という点に関しては、WECのテレビ中継はヴァーサスというチャンネルでやってたんですが、このヴァーサスが衛星中継のディレクTVから契約を外されてしまったんですよ。なので地上波の衛星ケーブルでオンエアされてるスパイクTVのUFCと比べると、視聴者数からしたら3分の2ぐらいに減ってしまったので、露出は弱かったという感じですよね。

――PPV中継もついこないだ初めてやったんですよね。

**ヒラタ**　はい。じつを言うとそこがポイントなんですけども、前座の試合がスパイクTVで流れたんですよ。これまではスパイクとUFCは独占契約があるのでWECというブランドを流せなかったわけなんですね。イコール、選手のグローブにいつも入っているWECのロゴがなかったんですよ。リングアナもUFCでおなじみのブルース・バッファーに変わった。あの時点からUFCに移行していった感じですよね。で、その前ぐらいからヴァーサスでUFCの大会をオンエアし始めたんです。

――『UFC on Versus』というイベントですね。

**ヒラタ**　それはディレクTVのアクセスを失なってヴァーサスをUFCが助けた。UFCからすれば今後の取り引きをうまく進めるという考えもあるでしょう。一方でUFCは大会も多いですからいくらでも選手を組み込めますし、WECというブランドをプッシュしてもそこまで売れなかったので統合したという背景もあるでしょうね。

――つまり、WECに見切りをつけたのも理由の一つなんですね。

**ヒラタ**　ええ。なので「そろそろ吸収をするんじゃないか」とにらんでたんですよ。

## WECのギャラは5000ドル+勝利賞5000ドルのスタートが多い

私が考えるWECの一つの失敗、まあ失敗とは言えないんですけど、6年間続いてあれだけの選手を集めてたわけですから。

――WECが失敗なら、ほかのイベントはすべて大失敗です（笑）。

**ヒラタ**　そうですね（笑）。ただ、WECはどうしてもラスベガスの試合が多かったじゃないですか。ベガスでは圧倒的にUFCのブランドが強いわけなんですね。そうするとUFCの裏庭でちょこちょこやってるだけであって、WECはベガスでも強くなかったんですよ。選手たちも「もっとビルボードとか広告を打てばいいのに。宣伝も改善が見られない。パンフレットだって作ってない。やっぱりこれじゃあWECはUFCの裏庭でやってるようなものだから厳しいよね」と。

――このタイミングでの統合は計画どおりだったんでしょうか?

**ヒラタ**　そうじゃないかと私は思いますね。ディレクTVを失なったヴァーサス、大会数の増えていくUFCという状況からして、これはもう自然な流れだったと思うんですよね。

――なるほど。

**ヒラタ**　UFCが成功してる一番の理由はブランド戦略じゃないですか。UFCって名前が一番売れていて、田舎のあまりMMAを知らないファンは誰と誰が試合をするっていうことよりも、UFCが来たから観に行くという感じだと思うんですね。そうなるとUFCというブランドに取り込んだほうが、大きい大会も打てますし、選手たちもお金を稼げますし、いい方向に向かってると私は思うんですね。

――選手サイドからは「これでビッグになれる」っていう声が相次いでますもんね。

**ヒラタ**　このスポーツをやる一つの理由はスターになること。イコール、ビッグマネーを稼ぐことじゃないですか。WECだとファイト・オブ・ザ・ナイトが1万ドルだったのが、UFCだと4万から10万ドルに跳ね上がるわけですからね。

――いきなり5～6倍に!

**ヒラタ**　もちろん多くの選手がUFCに出るようになったら、選手は次の契約更改のときにギャラアップを要求すると思うし、ダナさんも「多くの選手がバンプアップする必要があると思う」と発言してるぐらいですから。

――やっぱりファイトマネーはUFCと比べても低いんですよね。

**ヒラタ**　良くて5000ドル+勝利ボーナス5000ドルぐらいからのスタートですから。しかもWECは1000ドルずつぐらいしか上がらない契約が多いじゃないですか。たとえばいまのバンタム級チャンピオンのドミニク・クルーズでも、この前の試合は1万ドル+1万ドルでしたよね。チャンピオンにしては非常に低いほうですよ。ドミニクは3000ドル+3000ドルくらいから始めてるんですよ。あとはアメリカではバンタム級とフェザー級を組む大会が非常に少ないじゃないですか。選手にとってはほかで試合できないわけですから、WECに出られるんだったらファイトマネーが安くてもやるしかない。そこはもう需要と

© Josh Hedge／UFC

現在のWECの顔といえばフェザー級王者のジョゼ・アルドだが、日本のファンにはユライア・フェイバーのほうが知名度は高いかも。そのユライアのファイトマネーは2万ドル+勝利ボーナス2万ドル。UFCの他階級のトップと比べると……

供給なんですよね。

―統合によって劇的に待遇面は変わるものですか？

**ヒラタ**　いや～、そんなに凄くは変わらないと思うんですけどね。いまUFCを観ている多くの一般ファンはWECを知らないと思うんですね。ですから、まずは選手たちを視聴者やファンに覚えさせなくちゃいけません。UFCは来年も凄く大会数があると思いますので、1月からWECの選手はUFCの大会に出るようになると思いますよ。私がマネージメントさせていただいてるWECの選手たちも、2月や3月の大会に出る話を進めてますし。

――そこで気になるのは日本の軽量級はどうなるんだろうってことなんです。まだファイトマネーの点では日本のほうが高いんじゃないかって話もありますよね。

**ヒラタ**　実際に日本は高いですよ。ただ、UFCに統合されることによってちょっと上がると思いますので。そこは魅力に映ると私には思えますけど。

―日本のファンが気にしてるのは小見川道大選手の動向なんですね。

**ヒラタ**　小見川選手は凄くいい選手だと思います。ただ、残念なことにアメリカでの評価はとびきり高いというわけではないんですよ。たとえば高谷選手を倒したことはあまり評価はされてないんですね。

――ああ、高谷選手はWECからリリースされてますもんね。

**ヒラタ**　そういうことなんです。高谷選手は元WEC王者のチェイス・ビービに勝ったりしてますけども、チェイス・ビービはWECが大きくなってからの王者ではないわけですよ。で、小見川選手はマルロン・サンドロや日沖選手を倒してるけど、判定は微妙だ、と。

そう考えると小見川選手の実績があっても、5000ドル＋5000ドルのスタートが妥当ですか？

**ヒラタ**　でしょうねぇ。ただ、UFCになるわけじゃないですか。そうしますと小見川選手が1～2試合くらいいい勝ち方をしたら、2万ドル＋2万ドルぐらいだったらいけるんじゃないかなっていう気はしますけどね。

――いまのユライア・フェイバーと同じ条件ですね。たとえば日沖選手はどんな評価をされてるんですか。

**ヒラタ**　う～ん、日沖選手もいい選手なんですけども、ちょっとムラがあるというか……。ただ、マッチメイカーのショーン・シェルビーは必ず「日沖選手がほしい」とは言いますよね。

――日本を主戦場にしているビビアーノ・フェルナンデスやマルロン・サンドロはどうですか。

**ヒラタ**　二人とも凄くほしいと思いますよね。ダナさんは世界中のすべてのいい選手を取るのがゴールですから。でも、ボクが彼らのマネージャーだったら、まだ日本に残りますね。選手も団体も一番いいときに契約しますよね。

――そうすると、今回の統合はいますぐ日本に影響があるわけではない、と？

**ヒラタ**　日本に直接そんなに影響はないと思います。ただ、選手たちは皆さん目標を持って頑張ってると思うんで、海外でやりたいなと思ってる選手はモチベーションが上がってると思いますよね。

―日本である程度やりつくして海外に行くっていう選手だって、そうそういませんもんね。

**ヒラタ**　やっぱりそこは何を目指すかだと思うんですよね。ただ、フェザーとバンタムの選手にとってより一層、海外が魅力的に映るようになりますよね。

――UFC自体もこれで一大帝国。競技者であるならばUFCを目指さなきゃならないムードって、また高まりましたよね。

**ヒラタ**　そうですねぇ。野球やサッカーも選手がどんどん海外に出てるじゃないですか。それと同じで自分に自信がある選手だったら短い選手生命ですから、そりゃあ世界に出て試してみたいと思いますよね。ただ、ちょっと日本の選手とのあいだで間違った認識がありまして。

――なんでしょう？

**ヒラタ**　UFCで試合すると、ファイトマネーから30パーセント源泉徴収されたりするから、何人かの選手が赤字になったと聞きますけど、ちゃんと確定申告すればほとんどお金が戻ってくるんです。30パーセント源泉されたぶんの20パーセントぐらいしか戻ってこないですけども。日本とアメリカのあいだでは日米租税条約というのがありまして、ちゃんと日本で税金を払ったということになって、日本で払わなくちゃいけない税金が免除されるんですよ。前田（吉朗）選手が「赤字になった」と言ってるといろんな人から聞きましたが、「遅くないから、いまからでも確定申告しなさい」って僕は言いたいですね（笑）。

――前田さん、ということです（笑）。

**ヒラタ**　あ、もう一つ大事なことを言い忘れた。さっきWECとUFCが統合したことによっていいことしかないって言ったじゃないですか。じつを言うと一つだけ大きな選手にとって問題があるんですよ。それは、スポンサー営業なんです。なぜかといいますと、UFCは今年の初めぐらいから「選手のスポンサーをするんだったら、業者さんは選手に払う以外に10万ドルをズッファに払わなくちゃいけない」っていうルールができたんですよ。

――10万ドル!?

**ヒラタ**　たとえば選手をスポンサードするとしましょう。ロゴが入ったパンツを穿いてもらいます、と。で、選手には3000ドルのお金を払います、と。そうしたらズッファは「選手に3000ドルを払ってかまわないけども、こっちには10万ドルを払ってください」ということです。

――……その金額って高くないですか？

**ヒラタ**　そのとおりなんです。ですから映像を確認していただいたらわかると思

© Josh Hedge (UFC)

WECで生き残ってる唯一日本人選手が水垣偉弥。彼も今後は"UFCファイター"となる。ちなみに水垣は「WEC52」にてユライア・フェイバー戦という大勝負を迎えたが、無念にも1ラウンド4分50秒で一本負けに。

いますけど、普通のMMAショップがスポンサーから撤退してるのは10万ドルなんてとても払えないからですよ。僕、あるMMAショップの人と直接話したんですよ。そうしたら年間広告費予算が8万ドルだった、と。なのに10万ドルをズッファに払って、それで選手にも払えるわけないって。

――WECではどんなルールだったんですか？

**ヒラタ**　WECは自由にスポンサー営業ができたんですけども、UFCに移行することによって、これからは10万ドルを痛くもかゆくもなくポーンと出してくれるようなスポンサーを探さなくちゃいけないっていうことなんですよ。

――なんでそんな10万ドルルールなんて作ったんですか？

**ヒラタ**　やっぱりUFCもお金があるところから収入を得たいということなんだと思いますよ。会社によってはそれが8万ドルになったりするかもしれませんけど、基本的には「スポンサーシップタックス」という名目で払わないといけないんですよ。たとえば日本人選手がUFCと契約したとするじゃないですか。そうすると応援する周りの方々がいますから、スポンサードの話を選手にしてくるんですよ。「10万ドル払えるのか」っていうのを知らないで勝手に約束したら大変なことになるっていうことをわかっといたほうがいいと思うんですよね。

――しかし、10万ドルはビックリですね

# UFCの独擅場はまだ続くと思いますが対抗策があるとすれば……

え（苦笑）。

**ヒラタ**　2011年になってもこの10万ドルルールが続くのかどうかはわからないですよ。けど、UFCのやってることはなんとなくわかるんですよ。もっともっと成長していくためには、もっと大きいスポンサーをつけたいという気持ちがあると思うんですね。ですから私は最近は大きい企業しかあたってなくて、それぐらいの金銭的体力がある企業でないと、来年再来年とお付き合いできないと思うんですよね。残念なことに。

――UFCはイケイケですね。

日本のメジャー団体で活躍する日本人ファイターの転出はいますぐはない、というのが業界筋の見方。そう言われると見たくなるのが人情というものだし、外国人ファイターはどうなるのかな……。

**ヒラタ**　ホントにビッグビジネスになってるってことなんでしょうね。いまUFCはホントに凄いですよ。ニューヨークの一番いい位置にビルボードをバーンと置いてますし。ベガス興行の売れ行きは昔ほど勢いはなくなったって聞いてますけど、地方都市ではあっという間に売り切れますし。「超人気バンドが来た！」って感じで町全体が盛り上がりますから。

――カナダに本格進出するって話もありますもんね。

**ヒラタ**　中国のオフィスも開けましたしね。カナダのオフィスもかなりの人を雇ってますし、ロンドンのオフィスだって50人ぐらい社員がいるって聞きましたから。あと、いま自社ビルも二つになりました。二つめの自社ビルは編集プロダクションオンリーの自社ビルだそうですよ。

――編集プロダクション？

**ヒラタ**　要するに、UFCはすべてを自分のクルーで賄ってるんですよ。カメラマンから編集から、すべて自分のところの社員がやってるんですね。ですから、そのプロダクションチームのための自社ビルができたそうですよね。

――放送スタジオを自前で持ってるジャパネットたかたを超えてますね（笑）。

**ヒラタ**　このプロダクションの自社ビルに凄く注目しているのは、アメリカでは、たとえばストライクフォースでもショータイムとか大きいネットワークと契約してオンエアされるときは、収録はテレビ局がやるんですよね。で、UFCはそれを絶対にやらないんですよ。だからいろんなテレビ局と交渉が決裂してるのは、ダナ様が「ウチのクルーを絶対に使え」っていう一点を絶対に譲らないからなんですね。

――UFCのブランド管理を徹底してるってことですね。

**ヒラタ**　だからこの自社ビル第二号の編集プロダクションは、僕から言わせれば、これを軸にホントにネットワークを落とせるのかなあと思って見てるんですよ。もし実現したらテレビ業界でもスポーツ業界でも前代未聞のことなんですよ。たとえばMLBでもMBAでも自前のクルーで撮ってるなんてありえないんですよ

――う～ん、UFCはホント帝国化してますねえ。

**ヒラタ**　はい。だからホントはドン・キングだとかお金をかき集められるようなプロモーターが出てきて、こんなことありえないと思うんですけど、たとえばBJペンがUFCとの契約が終わった時点で引き抜いてエディ・アルバレスやギルバート・メレンデスと闘わせる。いわゆるボクシング形式のインディペンデントモーションでPPVが20億とか売れるような時代になれば、UFCの独擅場にはならないですけどね。

――でも、この状況って10年ぐらい崩せないような気がするんですけども。

**ヒラタ**　僕もそう思います。ただ、MMAってのが北米では凄くビッグビジネスになってきてるんで、私の感覚では2～3年に一回どっかのわけのわかんない金持ちが出てきてトライを試みたりすることはあるんだろうなって僕は思います。僕にだって1年間に5～6人ぐらいから電話がかかってきますよ。わけのわかんない投資家から。「20億あるからどうだ」とかね（笑）。ほとんどマジメに聞かないようにしてるんですけども。

――いや、現われてほしいです！（笑）。今日はありがとうございました!!

【10年11月4日　電話取材にて収録】

# 国内戦線異状あり!

## 刻一刻と変化する軽量級情勢 世界的スター候補は誰だ?

文／高崎計三
構成／鈴木佑
試合写真／乾晋也

UFCによるWEC統合で、日本のフェザー・バンタム級戦線にもさまざまな影響が出てくることは想像に難くない。DREAM、SRCの両メジャーで軽量級が盛り上がり始めた矢先に……という気がしないでもないが、選手たちにとっては「世界最高の舞台」UFCで軽量級が開始されるのは喜ばしいことだろう。

さて、そのフェザー級。現在、国内の情勢はどうなっているのだろうか。まずDREAMから見ていくと、今年になって小見川道大の参戦があり、ヨアキム・ハンセンや石田光洋らがライト級から落としてきたことで一気に層が厚くなった。

現在は63キロに設定されているが、来年からは65キロのフェザー級と61キロのバンタム級に分けられる予定になっているので、また情勢は変わってきそうだ。

日本人選手としては先に挙げた小見川、石田のほか、元から活躍していた山本"KID"徳郁、高谷裕之、所英男、前田吉朗、DJ.taiki、今成正和、大塚隆史、宮田和幸、西浦"ウィッキー"聡生といったところがレギュラー～準レギュラーだ。

一方のSRCはというと、前王者・金原正徳を筆頭に、日沖発、星野勇二あたりがレギュラーで、育成選手として大澤茂樹がいる。ほかに戸井田カツヤ、鹿又智成が最近、参戦してきている。

DEEPでは主要選手が軒並みDREAMに参戦している印象があるが、大塚を下して新王者になったばかりの松本晃市郎のほか、昇侍、山崎剛、三島☆ド根性ノ助らが名を連ねる。先日のJCBホール大会で勝利を挙げた中村"アイアン"浩士や中村優作、彼らに敗れた寺田功に和田竜光、それから北田俊亮、杉内勇らがそのあとを追いかけるかたちか。

前田吉朗らが先陣役となってフェザー級を形成したパンクラスでは、現王者はSRC王者でもあるマルロン・サンドロだが、日本人選手としては前述の鹿又がランキング1位。パンクラスismのアライケンジは引退を発表したばかりで、ほかには内山重行（耳が取れてしまった選手、といったら思い出してもらえるだろうか）、滝田J太郎、田辺宗右という面々がランキングに並んでいる。正直なところ、パンクラスではやや活気が足りない印象のある階級だ。チャンピオンのサンドロが強すぎるせいか。

修斗では65キロはライト級にあたる。5月に世界王者になった日沖はSRCに参戦しており、その日沖に敗れて王座を失なったリオン武は9月にDREAM初参戦をはたした。そのほかでは"カリスマ"佐藤ルミナ（世界ランキングには入っていないが）、その愛弟子で環太平洋王者の土屋大喜、KRAZY BEEの田村"聖"、「戦極」にも参戦した門脇英基、不死身夜天慶といったところが主力だ。また、グラウンド技術が一部で評判を呼んでいる佐々木憂流迦（うるか）の名前は今後、覚えておいたほうがいいかもしれない。

ZSTフェザー級は所、金原がそれぞれDREAM、SRCで活躍中のほか、勝村周一朗がレギュラー。その勝村は修斗では一つ下の60キロ（修斗ではこれがフェザー級なのでややこしい）で世界王者になっている。

ケージフォースは選手が固定していない傾向があるので難しいところだが、ここまで他団体で名前が挙がっていないところでいえばRUNKI、市川ランデルマン、津田勝憲というところがレギュラー化しつつある。

ずらずらと名前ばかり挙げてきたが、それだけこの階級は、日本人の層が厚いということだ。読んでいただければわかったと思うが、全体的に活気のある階級だけに団体間の選手の行き来も活発で、メジャー参戦選手のあとをピタリと追いかける「予備軍」も多い。それだけに今回の軽量級解禁で、日本メジャーを通過せずにUFCでいきなり「世界デビュー」をはたしてしまう選手も出てきてもまったくおかしくないのである。「明日の成功者」は、ここに挙げた中であなたが「知らないなあ」と思った選手から誕生するのかもしれない。

# 私は格闘技をおろそかにしているわけじゃありません

シヨツク!!

ダッダーン! ボヨヨン! ボヨヨン!

まさかのセクシー写真

封印!!

ヴァルキリー無差別級王座戴冠目前!!

# 中井りん

**今号も"21世紀のレジー・ベネット"中井りんインタビューをお楽しみください!……と煽ろうかと思いきや、多くの「りんオジ」は写真が一枚もないことにガッカリしたのでは!? その理由は、格闘技に必死に取り組んでいる中井りんの決死の覚悟からきたものだった! いったいどういうことなの?**

聞き手／松下ミワ

——中井選手、今日も電話取材になりましたが、どうぞよろしくお願いします。

**中井** こちらこそ、よろしくお願いします！

——さっそくですが、中井選手の記事はいつもの凄い反響があるんですが、雨の湾岸で撮影した前号もたいへんな反響がありました。ツイッターとかでも評判になってるみたいなんですよ。

**中井** エヘヘヘヘ。そうなんですかあ？ うれしいです。

——中井選手としては、ご自身の写真はいかがでしたか？

**中井** あの、撮影も凄く楽しかったです。外で撮影していつもと違う感じで。それに、雨上がりの樹木がとてもキレイだったので、ね。こっちでも凄く反響がありました。

——というと、もしかして今回も四国に「kamipro」がなくなる勢いだったんですか？

**中井** えーっと、たぶん、なかなか買えないかなと思いますよ。アハハハハ（笑）

——うわー、うれしいですねえ。ところで、そのインタビューを収録した同じ日に某格闘技雑誌の取材を受けたというお話をされてたので気になって読ませていただいたんですが、一つ「中井選手がパフォーマンスでやっていることが一部で物議を醸してますが……」という質問がありました。

**中井** ふ、物議を醸している……？ 賛否両論あるって言われた部分ですよね？

——ああ、そうです。そう聞かれたとき、率直にどう思われました？

**中井** う～ん、そうですねえ……。べつにいろんな意見があって当然だろうと思ってます。そのことについては、冷静にそう

思いましたね。

——というと、中井選手自身は賛否両論といえども、あまり周囲の声は気にせず

——たとえば、競技がおろそかになるんじゃないか」みたいな考えもあるかもしれないですよね。

のパフォーマンスはいつ頃から始めたことだったんですか？

中井 セクシー写真は……けっこう前か

うのは全然なくて。

——それとはまた別の話だということですか。

思いましたね。
——というと、中井選手自身は賛否両論といえども、あまり周囲の声は気にせずこのままパフォーマンスを続けていこう、と。
**中井**　そうですね。いろんな意見がありますし、私としては自分にできることは何かしないといけないと思っていて。やっぱり私は都内にいる人と違って、四国に住んでいるというのがあるので自分を売り込むことをしないと試合に呼んでもらえる回数が少ないんじゃないかと思うんですよ。
——地方選手であるがゆえに、ということですね。
**中井**　なので、ああいう感じで頑張ってアピールしているんですけど。あの……毎回恥ずかしいんですけど、自分としては努力してるつもりなんです。
——賛否両論あるということ自体は、中井選手はなんとなくわかっている感じだったんですか？
**中井**　う〜ん、そんなに気にしてはいなかったんですけど、取材のときに初めて言われたという感じですね。
——「あ〜、そうなんだ」と。でも、賛否両論あるということは〝否〟が部分もあるという意味だと思うんですけど、その〝否〟の部分についてはどう思われます？
**中井**　う〜ん……。でも、格闘技だからっていっても女は女なんで、女性の魅力というか、できることを伝えていければいいかなと思ってて。だから、自分としてはそういう努力をしているつもりなんです。ただ、私のセクシー写真に関して否定している人に「こう言いたい」とかっていうのは、まったくこちらからはないんですね。
——たとえば、「競技がおろそかになるんじゃないか」みたいな考えもあるかもしれないですよね。
**中井**　でも……中井は、試合を観ていただいたらわかると思うんですけど、格闘技をおろそかにしているわけじゃないと思うんですよ。
——確かに、現在まで無敗なわけですからね。
**中井**　でももし、そういうふうに思っている人がいるんだったら……今回のインタビューは写真を載せてもらわなくてもかまいませんよ。
——……えっ！　セクシー写真、封印ですか！
**中井**　それでもかまいません。いつも1試合、1試合、真剣に格闘技と向き合っていることをわかってほしいので、次の試合でヴァルキリーのベルトを獲ったらというふうにしていただいてもいいと思ってます。
——なるほど。逆に言うと、中井選手は本業をおろそかにせずに、なおかつセクシー写真を披露していたところが素晴らしかったのですが、ここであえて封印する、と。
**中井**　そうですね。『kamipro』さんには申し訳ないんですけど。
——確かに、弊誌でそうするのも不思議な話です（笑）。では残念ですが、今回は中井選手の写真はナシということで……。しかし、そもそもの話、ああいったセクシー写真を披露するという中井選手のパフォーマンスはいつ頃から始めたことだったんですか？

## そう思ってる人がいるなら今回はセクシー写真はなくてもかまいません

**中井**　セクシー写真は……けっこう前からしてるんですよ。
——確かに、中井選手のブログをさかのぼるとけっこう長くやられてますよね。
**中井**　だから、ブログを始めた頃から写真をアップし始めたという感じでしょうかね。
——ちなみに、ブログを始めたのは09年1月ですね。では、ブログを始めた時点でこういうパフォーマンスもやっていこうという方針だったんですか？
**中井**　最初は、私が四国に住んでるので、皆さんに会う機会も少ないので、日頃の様子をアップしていくというか。
——日々こんなことをしていますよ、と。
**中井**　だって、都心から離れてたら普段何してるかわからないじゃないですか。なのでアップしていって、徐々にこんな感じになってきました。
——中井選手のデビュー戦は06年の10月ということですが、その当時はとくにそういうパフォーマンスは考えてなかったんでしょうか？
**中井**　デビュー当時はまだそんなにないですね。
——じゃあ、プロとして活躍していくなかで、やっぱり地方だと試合数も少なかったり、思うように試合ができなかったりという思いもあった、と。
**中井**　いや……興行側の人は凄くよくしてくれますし、興行の方たちに不満というのは全然なくて。
——それとはまた別の話だということですか？
**中井**　う〜ん、別でもないんですけど……（苦笑）。
——別の話でもない、と（笑）。
**中井**　ただ、呼んでもらえる回数が少ないんで、努力して自分を知ってもらうようにアピールして、ファンサービスも兼ねて、ですね。
——それが、いろんなアピールの仕方があるなかで、なぜセクシーショットに行き着いたかという部分では、やっぱり中井選手自身「セクシー写真を撮りたいな」というのがあったりもしたんですか？
**中井**　「やりたいな」というのはないんですけど……恥ずかしいんですけど、自分としては努力してて、いろいろなところで、皆さんの強い要望があって、その要望に少しでも応えられたらと思うようになってやっているというか。やっぱり私は女性なんで、男性には男性の強さやカッコよさがあるし、女性には女性の素晴らしさや魅力があると思うんです。
——格闘技というと、男性のファンが多いだろうなというのも狙ってたということですか？
**中井**　そうですね、男性ファンももちろんです。そんなにピンポイントにいってるわけではないんですけど、皆さん、気にしてるというかこういう要望が多いので。
——実際、要望があったんですね。
**中井**　はい、なんか、そうですね。掲示板やメール、電話や同じような格闘技をしている人たちと話をしたときとか、たくさんあります。だから喜んでもらえればと思うんですけど。
——そういうファンの期待に応えたいと

## 私も雑誌のグラビアを見て ポーズだったり服装だったり 努力して研究してるんです

いう中井さんのプロ魂があってのことなんですね。

**中井**　そうですね。女性なんで、女性らしさを伝えられればと勝手に思ってます。

―興味深いですねえ。それってお手本にしてるタレントさんとかもいるんですか？

**中井**　憧れの女性とかはとくにないんですけど……雑誌のグラビアとかを見て研究してます。

―えー！　グラビアを見て勉強しているんですか⁉

**中井**　はい、そうです。本とかも見てますし、雑誌も見たりとか、ポーズとか自分で研究して撮ってるので。そういう雑誌みたいなのって、いろんなとこにあふれてますよね。だから……アハハハハ。

―はー、先ほどから「努力、努力」という言葉がたくさん出てきてましたが、中井選手が言う「努力」とはそういうことだったわけですね！

**中井**　そうなんですよ！　ポーズもそうですし、服装とかも努力して頑張ってるんですよ。

―たしか、衣装も中井選手自身が選ばれているという話でした。

**中井**　はい、私が選んでるんですけど、それもやっぱりグラビアとか雑誌を参考にしてるんですよ。……同じような服はなかなか入らないんですけど。けど、なんとか頑張ってます。

―ちなみに、衣装はどこで購入されてるんですか？

**中井**　衣装は、普通の服屋さんというか、デパートとか町の服屋さんです。

―ああいう衣装って普通に売ってるもんなんでしょうか？

**中井**　売ってますよお。私、試着荒らししてるんですけどね。エヘヘヘヘ。

―いやいや、やっぱり着てみないとわからないですもんね。

**中井**　ですよねえ！　それで、松山の大街道というところによく行くんですけど、わかります？　松山の中心街で、一番賑わってる商店街があるんですよ。そこに服がいっぱい売ってあるんで。

―そこで試着荒らしをしているわけですか。

**中井**　そうなんです。アハハハハ！　でもめったに合うのがないんですよお。

―あらら。しかし、それは格闘家の性というか、身体が資本ですもんね。着てみたいなと思った服を着れなくてガッカリしたこともたくさんあるんですか？

**中井**　それはありますね。なぜかかわいい服って小さいサイズが多いんですよお。だから、ガッカリはよくしてます。とくに腕や脚が入らなくて、筋肉が大きくて引っかかってるんです。

―「もし着れるんだったら、こんな格好もしてみたかったな」というのもあります？

**中井**　ありますね！　いますぐはちょっと思いつかないんですけど、ショートパンツとかスカートとか。でもまだ入るものは探せばあるので、頑張ります！　そのために身体を小さくしようとは全然思いませんし。

―そのへんの軸はやはりまったく揺れないんですね。

**中井**　もちろんです、格闘技が一番です。

―ちなみに、中井選手はセクシー写真という武器がある一方で、なぜそんなに格闘技一直線なんですか？　たしか、小さい頃は器械体操や柔道もやってたということを聞きましたけど。

**中井**　ああ、器械体操は小学校の6年間やってましたね。柔道は3歳からやってて。だから小学校の6年間はと毎日柔道と体操やってました。中学校からは柔道だけにしたんですね。19歳まで柔道をしていて、それから総合格闘技を始めたんですけど、それはいまの館長と知り合ったからやってみたんですよ。

―あ、そこで館長と運命の出会いがあったわけですか！

**中井**　エヘヘヘ。そうなんです。柔道をやってるときはほかの格闘技をあまり知らなくて、正直に言って総合格闘技のことはよく知らなかったですね。

―じゃあ館長に教えてもらってから「こういうものなんだ」と。

**中井**　そうです。全然わからなかったんです。エヘヘヘヘ。

―そうなると、総合を始めたのは19歳ということですよね。それで……。

**中井**　デビューしたのは06年10月の伊藤あすか戦だったんですよ。

―はー、そんなに早くデビューの話が来たんですか。それでいまだ負けなしという状態なわけですね。

**中井**　エヘヘヘヘ。私が凄いんじゃなくて、館長が凄いんですよお。でも、無敗とかあんまりそういうのは気にしないほうがいいかなと思ってて。一戦、一戦を大事にしてるんで。一戦、一戦を重く受け止めてますね。

―じゃあそれと並行してファンアピールもという感じで。それもプロになってから誰かにアドバイスをもらったりもされたんですか？

**中井**　もちろん「プロとは何か？」とかそういう考え方は館長に教えてもらいますけど、まあ自分でも考えてやってます。だからプロ意識とかは考えますね。プロだからこそ恥ずかしいけど出す、みたいな。

―プロはやらなきゃならない、と。

**中井**　そうです！

―しかし、中井選手の写真でどんどん話題が広がっていて。我々も含めていろんな人が注目し始めてますよね。

**中井**　エヘヘヘ。うれしいですね。努力が報われてるんですね。でも最近は自分も楽しんで、服選びだとか、研究とかも楽しんでるんですよ。

―でも途中、迷うこともありました？「私、なんでこういう格好をしているんだろう」みたいな。

**中井**　アハハハハ！　迷うことはないんですけど、でも恥ずかしいですよね。

―それで、話はいろいろ膨らんでおりまして、一部では『Dynamite!!』にも中井選手に出てもらったほうがいいんじゃないかという意見まで出てきてるんですよ。

**中井**　『Dynamite!!』って、年末ってことですか⁉　でも、そういうオファーは来てないので……ないと思いますけどね（冷静に）。

―いやいや、年末はけっこう急なオファーもあるので、いきなり来るかもしれないですよ。1週間前とか。

**中井**　1週間前⁉　1週間前はちょっとキツイです。中井はそういう人じゃないので。もちろん呼ばれるのであれば出た

あの長寿番組である『笑っていいとも！』（フジテレビ系）の出演も断ったと聞きました。

上げたい」という発言がありましたが、それまではあまりそういう感じの発言はな

ーナメント決勝戦もいよいよ11月28日ですね。

中井　1週間前!?　1週間前はちょっとキツイです。中井はそういう人じゃないので。もちろん呼ばれるのであれば出たいですが。

――中井選手はそういう人じゃないですか。

中井　はい。……まあ、館長に聞いてみないとわからないですけど、出ないとは言いきらずに考えてみたいですね。

――でも、大晦日はテレビにも映りますし、どんな選手でも大晦日は出たいという感じがするんですが、急なオファーだと中井選手は出ない、と。

中井　もちろんできるかぎり頑張って出たいというのは変わらないですけど、ちょっとわかりません。

――そこは頑ななんですね。やっぱり中井選手としてはベストなパフォーマンスが出せない舞台には出たくないという感じですかね。

中井　やっぱり、調整がありますので。それに、一つ一つの試合を大事に頑張ってて。もちろんオファーがあれば出てみたいんですけど、女子はあんまり大晦日にはやらないですよね。

――でも、今年は女子が盛り上がったので期待感も高まってるんですよ。

中井　ああ、そうなんですか。うーん、確かに観てる人の数が違いますからね、大晦日は。テレビで何時間もやりますし。

――煽り番組なんかでも、どんどん出ちゃいますよ。

中井　露出も増えますよね。知名度もグッと上がりそうですし。でも……。

――やっぱり迷いますか。ちなみに、テレビつながりで聞きますが、中井選手はあの長寿番組である『笑っていいとも!』(フジテレビ系)の出演も断ったと聞きました。

中井　ああ、ありましたね。でも『いいとも!』はちょっと企画が合わなかったので……。

――でも『いいとも!』っていうと、みんな注目するテレビじゃないですか!

中井　うーん、もちろんいろんなテレビに出ていきたいんですけど、練習と試合を最優先してるので。でももちろんできるかぎり出たいことには変わりはありません。

――そうですか。いや、『kamipro』にはよく出ていただけるんですけど、じつはテレビ嫌いなのかなって。

## 『いいとも!』からの出演依頼?ちょっと企画が合わなかったのでお断りしたんです……

中井　いえいえ、そんなことはないです。調整ができれば『Dynamite!!』にも出たいですし、『いいとも!』にも出たいですよ。『kamipro』の表紙にもなりたいですし。

――なるほど(笑)。それで、ちょっと話は脱線しましたが、1試合、1試合が大事だという中井選手にとっては、やっぱり大晦日とかボンヤリした話ではなく、まずはヴァルキリーの試合を大切にしたいという気持ちですか?

中井　はい。次の試合が何より大事なので。ほかの試合はそのあとですかね。

――前回の取材で「ヴァルキリーを盛り上げたい」という発言がありましたが、それまではあまりそういう感じの発言はなかったように思うんですけど、やっぱりベルトに向けて挑戦するなかで、ヴァルキリーに対する愛情も出てきた感じですか?

中井　もちろん、自分を使ってもらってるヴァルキリーさんには愛着と言ったらおかしいですけど、そういうのは思いますし、やっぱり女子格闘技全体のことを考えて盛り上がればいいなと思ってますから。

――その第一歩がヴァルキリーを盛り上げて、と。

中井　そうです。出してくださることもだし、今回ベルトを賭けたカードを組んでくださることもそうだし、本当にスタッフの皆さん、ありがとうございます!!って思います。

――前回の試合で話に出た「世界を目指す」というのも、その先の話というわけですね。

中井　もちろんです。世界も目指したいというのは本当の気持ちですけど、やっぱり日本の女子格闘技を盛り上げたいというのがありますから、世界を目指すといっても日本で試合をしないわけではないですし、はい。

――もちろん中井選手には世界を目指してほしいですけど、そこはファンは心配でしょうね。

中井　いや、心配しないでくださいって言いたいです。中井は日本人ですから。

――その初のベルト獲得を目指すヴァルキリー無差別級トーナメント決勝戦もいよいよ11月28日ですね。

中井　そうですねえ(しみじみと)。いい練習ができてるので、早く試合をしたいです。

――自信もあるわけですね。

中井　試合なので何があるかわからないですけど、必ず勝つつもりでいます。ずっとチャンピオンベルトがほしいと思ってたんですよ。なので勝ち取ります。

――ベルトを巻いてる姿も想像したりしますか?

中井　ベルトをちょっと見たことがないので、どんなベルトなんだろうを思ってるんですけど。ちゃんと獲って確かめたいなって。

――いや、我々も中井選手のベルト姿とともに、セクシー写真が解禁になる日を待ち望んでおりますので。

中井　エヘヘへ。ありがとうございます。ファンの皆さん、中井は頑張ります!それから、11月28日は会場に観に来てね。中井より♥。

――……ありがとうございました!

【10年11月5日／電話取材にて収録】

あの日、あの号のインタビューもまだまだハッスルしてます!

# kamipro & kamipro Special バックナンバー絶賛通販中!

kamipro
**No.152**

### 世界最強のバンド、衝撃デビュー!?「特集・闘う音楽」

■狂乱のボーカル&ギター ジェイソン・"メイヘム"・ミラー■バンドマン時代を赤裸裸トーク!! 高阪剛■亀田大毅の「俺がリングで歌うわけ」■スペシャルメタル対談! ヨアキム・ハンセン×マーティ・フリードマン■伝説の「めちゃイケ!」歌へた王座決定戦の真実! 藤波辰爾■マット界一のビートルズマニアが熱く語る! 越中詩郎 ■ザ・グレート・サスケ「私はボン・ジョヴィを超えた」■菊地成孔、音楽とツイッターを語る! ほか

kamipro Special
**2010 NOVEMBER**

### 日本の救世主か? 理解不能の怪物か!? 石井慧は必要なのか?

■未完の怪物"放言"の中に"本音"は見えるか? 石井慧 独占インタビュー■桜庭和志から初の一本勝ちを勝ち取った男ジェイソン・"メイヘム"・ミラー■くそったれ!を超えたイライラが爆発!! 小見川道大インタビュー■DEEP現役王者がついにUFC出陣! 福田力インタビュー■女子プロレス界のキーパーソン・さくらえみが語る奇妙奇天烈なレスラー半生!■佐伯繁の「男はつらいよ」DEEP50回達成特集! ■立ち技再編成! 各団体の思惑を探れ!! ほか

kamipro
**No.151**

### デビュー50周年記念「猪木とは何か? クレイジー編」

■小川直也が猪木、ZERO1、ハッスル、石井慧を語る! ■出会いから巌流島まで、獄門鬼・マサ斎藤が生涯のライバルを語る! ■ユセフ・トルコ「それでも私は猪木を殺すまで死ねない!」■仙波久幸、政治家・猪木を"愛で殺した"葛藤を語る! ■言うちゃ悪いけど、井上節がここに復活! 編集長の喫茶店トークラウド再録■この兄にしてこの弟あり! 猪木快守登場! ■アントンの姪・ファニー猪木が語る猪木事務所とジャングルファイトの真実 ほか

kamipro
**No.150**

### ゲームで燃えろ! ゲームを通じてプロレス&格闘技に昇竜拳!!

■ゲーム界最強最後の"プロレスラー"の極意 高橋名人インタビュー ■ゲームで萌えろ!! "ツヨカワカール" RENAが、あの春麗に変身!「コスプレは今回が最初で最後ですよ(笑)」■マット界一難解な男・中邑真輔が語る「ファイプロ」の変態的楽しみ方 ■「ファイプロ」開発者・須田剛一が語るプロレスゲーム黄金期■ファイヤー原田が語る「魅惑の恋愛シミュレーションゲーム」■元ひきこもり女子レスラー真琴が語るゲーム更生録 ほか

kamipro
**No.149**

### 格闘技のロマンは映画として昇華した! 特集・闘う映画

■ブルース・リーは強かったのか? ■ショー・コスギ「撮影で何度死にかけたか、わからない」■宇梶剛士が語る映画「お父さんのバックドロップ」壮絶舞台裏 ■いま最もエッジが効いた映画評論家RHYMESTER 宇多丸が「闘う映画」を熱弁 ■上映中止騒動とはなんだったのか?「一水会」最高顧問・鈴木邦男が語る「ザ・コーヴ」■最強の映画&アクションスターを大槻ケンヂが分析!?「スティーブン・セガール格闘映画最狂列伝」ほか

kamipro Special
**2010 AUGUST**

### ヒョードル敗れる! 世界規模のヘビー級戦国時代に突入!!

■ブロック・レスナー「最強幻想強奪」■ダナ・ホワイト UFC代表 独占インタビュー「よくわかっただろう? これが現実だ」■エメリヤーエンコ・ヒョードル「ファブリシオとのリマッチを実現させてほしい」■ファブリシオ・ヴェウドゥム「いまでも、まだヒョードルが世界最強だ」■スコット・コーカー ストライクフォースCEO「契約更新するかどうかはヒョードル次第」■浅草キッドの玉ちゃんと語る俺たちの皇帝ヒョードル変態座談会、ほか

kamipro
**No.148**

### マンガみたいなホントがほしい!「闘うマンガ!!」大特集

■ハロルド作石「やっぱり「何が一番強いのか」に興味があるんです」■車田正美「創作の疲労度は肉体的にも精神的にもプロ格闘家と変わらない」■ゆでたまご嶋田隆司「マンガも格闘技も一番大事なのは"闘う理由・動機づけ"です」■宮下あきら「マンガの醍醐味とは荒唐無稽にあり!!!」■みのもけんじ「MMAスターウォーズ」■浅草キッドの玉ちゃんと語る「『あしたのジョー』変態座談会」■つの丸「"ファン気質"と作品の関係性」ほか

kamipro
**No.147**

### 特集!! リングか、ケージか。鎖国か、開国か。幕末のマット界!

■川尻達也 インタビュー「青木くんが負けたいま、とにかくケージで闘いたい」■桜井"マッハ"速人 インタビュー「日本人みんな負けちゃって、俺がやるしかないでしょう」■榊原信行 元PRIDE運営会社DSE代表「日本の格闘技は一度ぶっ壊したほうがいい」■JJサニー千葉「日本人が勝つには"忍者の手"しかない」■ビビる大木 インタビュー「幕末浪漫でもっとも〜!」■二又又二 インタビュー「竜馬とたけしと猪木と前田」ほか

kamipro Special
**2010 JUNE**

### 青木完敗 この現実にどう向き合うべきか?

■青木真也 ロングインタビュー「もう少しだけ格闘技がやりたくなった」■川尻達也 インタビュー「俺がメレンデスをブッ倒すしかないでしょ!」■ギルバート・メレンデス 独占インタビュー「ズバ抜けた武器を一つ持っていてもここアメリカで王者にはなれない!」■ニック・ディアス「なぜアオキが俺たちに勝てないのか教えてやろう」■北岡悟「青木は日本でぶっちぎりに強いわけで、それが勝てなかったのがすべてです」ほか

kamipro
**No.146**

### 特集・破壊と建設のエンターテインメント1990年代!!

■北斗晶「アタシがデンジャラス・クイーンと呼ばれていた頃」■福澤朗 アナウンサー「ブ、ブ、ブ、プロレスニュースの秘密を全部語る!」■武藤敬司 インタビュー「ファンがJWFの"地味プロ"に飽きてたんだよ」■髙造 インタビュー「脱ストロングスタイルを図ったこの男はA級戦犯なのか?」■小島聡 インタビュー「本当は恐ろしい佐々木健介」■ザ・グレート・サスケ×ウルティモ・ドラゴン「ジュニア黄金期のルーツはユニバにあり!」ほか

発行 株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区一番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)
発売 株式会社角川グループパブリッシング
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/

# 笑いあり、涙あり
# 祝! DEEP 10年目突入!!

## 男・佐伯繁、50回大会を無事突破!

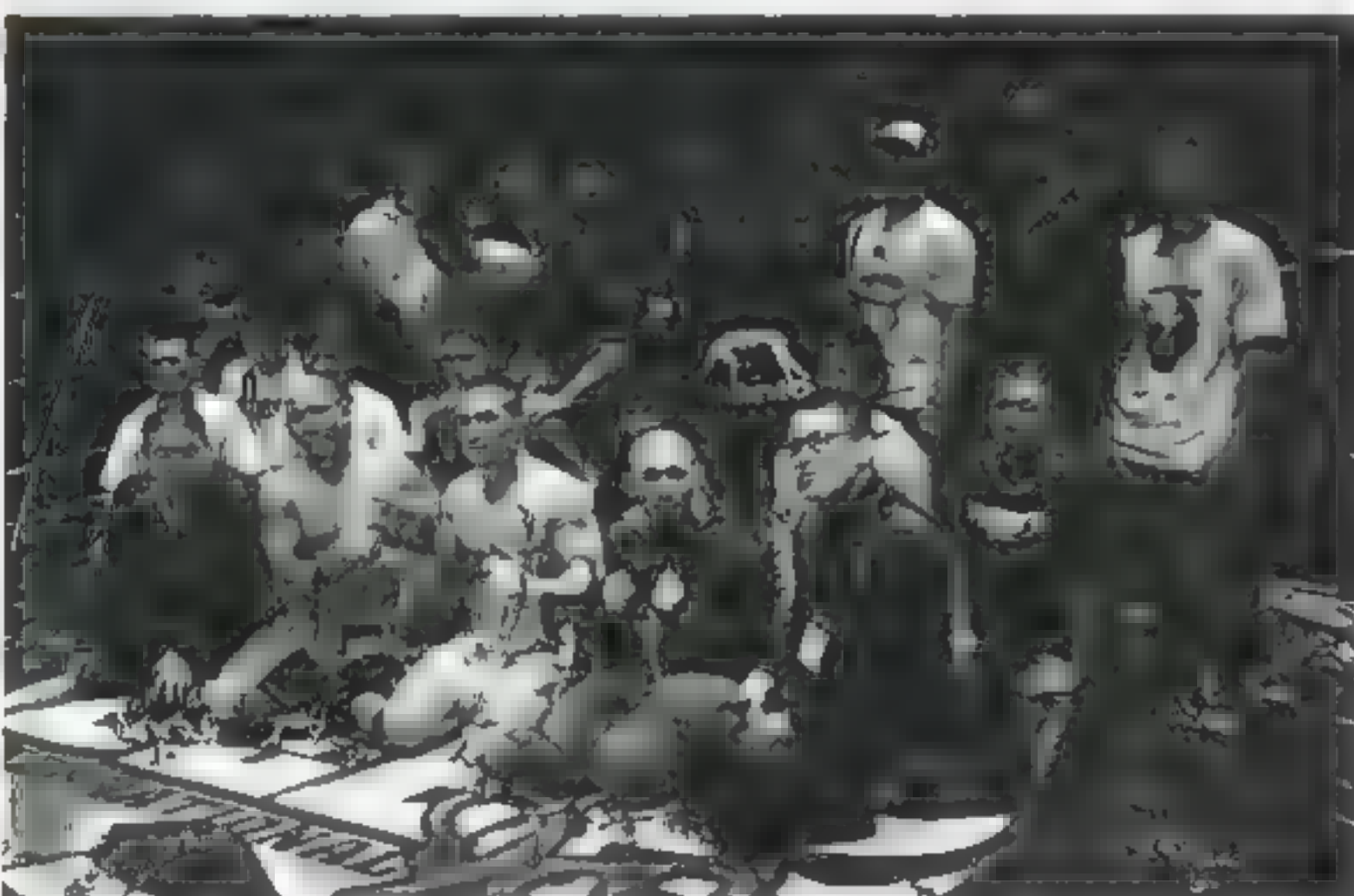
そうそう！
みんなそれしか言えないよ！

されど話は中村屋と
格闘技界の二大

# DEEP10

# 桜井マッハ速人×

長南　マッハさん、この前カズ(中村和裕)の店に行ったんですよね?(笑)。
マッハ　あ、そうそう!　でも、せっかくご祝儀持ってって「よろしくお願いします」って言ったらさ、「来週、閉店します」って言われてビックリしたよ、もう。
――ダハハハハ!　閉店を知らずにご祝儀持参ですか(笑)。
長南　でも、まだオープンして半年ですからね。まだ開店祝いが通用する時期ですよ。だからカズもカズですよね。あんなに雑誌とかで紹介してもらったのに、「切り替えが早すぎるぞ、おまえは。もっと借金背負ってでも続けろよ」っていう。無責任な意見ですけど、応援していましたからね。
マッハ　あれ見たらやりようはいくらでもあると思うけどね。だから俺も「なんでやめちゃうの?」って言ったんだよ。そしたら「おもしろくないです。オレ、やっぱり格闘技がおもしろいっす」って。「だったら始めっからそれでいいじゃん!」って話なんだけどさ。
長南　ガハハハハ!　中村屋のことだけで、一冊本が作れそうですよ(笑)。
――売れるかどうかはともかく(笑)。
マッハ　ただ気になったのはね、あそこ値段が高かったんだよなあ。それはちょっと痛かった。それ以外はオレは手羽先もうまかったし、おでんもうまかったよ。
長南　ふーん……よくなったんですかねえ。だって、オープン当初は大丈夫かな?　って思いましたよ。もう閉めるって決まったから言いますけど、ネタの仕入れ先がそのときはスーパーでしたもん!　さらに恐ろしいのが、「大会の打ち上げとかでウチでやりますよ」って言うから、一人5000円の飲み放題だということで中村屋に行ったんですよね。で、人数もけっこう集まってて最初に大皿がいくつかあったんですけど一人3つまみぐらいすると料理がもうなくなるんですよ。それが3皿ぐらい出てきたら、もう料理がストップって。遅れて行った俺は何も食えなかった。
マッハ　あらら。そりゃ、困る。
長南　さすがにオレが「おい、頼むよ。なんか出してよ」って言ったら「ないんです」って。「なんでねえんだ」って厨房に聞いたら、「仕入れ値を抑えろって言われてて」って、上からの命令でそうなってるらしいんですけど、団体で入るってわかってんのに仕入れ値を抑えるってどういうことだ!　って(笑)。結局、出てきたのがポテトチップスとスルメが入った皿で「家飲みかよ!」って状態で。
マッハ　だからさあ、いくらでもやりようはあるんだよ、あの店は。
長南　まあ、ツッコミどころ満載でしたね。楽しかったですけど。
――というわけで、残念ながら今日のテーマは中村屋閉店問題ではなくですね、お二人にはDEEPについて語っていただこうと思っております。さっそくですが、先日のDEEP50回大会はいかがでしたか?
マッハ　まあ、ウチからは菅原ブンタ(和政)って高校生が一人出ましたけどね。彼もKOで勝って凄くよかったし、あとはやっぱりセミとメインがおもしろかったですね。菊野克紀vs帯谷信弘と白井祐矢vs岩瀬茂俊。

吉田秀彦引退興行での敗戦を受け、DEEP50回大会にてチャ・ジョンファンとのリベンジマッチが組まれた長南だったが、ジョンファンの欠場により対戦相手はムン・ジュンヒに変更。そのムン・ジュンヒに貫禄の判定勝利を挙げた長南。ホームリングに花を添えた。

今大会、マッハは解説者として参加。しかし、オープニングファイトを含めて16試合もあった大会だっただけに、覚えているのはセミとメインという、マッハらしいコメント。さすがです!!

## 10周年を間違えてたという時点でだいぶテンション下がりました(長南)

――ライト級とウェルター級のタイトルマッチですね。
マッハ　とくに白井のミドルキックがよかったなあ。あれ、効いてたよ。それとさ……あれ?　あれ?　中西(良行)って誰とやったんだっけ?
長南　柴田(勝頼)ですよ!　マッハさん、解説やってたじゃないですか!
マッハ　いや、とにかく最後の2試合が濃かったからさ、あれでやっぱだいぶ忘れたね(アッサリ)。
――あ、忘れちゃいましたか(笑)。ちなみに、長南さんは今大会はやっぱり記念大会だから自ら佐伯さんに出場を名乗り出たというかたちだったんですか?
長南　いや、そうでもないんすよ。というのは、50回大会ってキリはいいんですけど、「10周年を間違えてた」という時点でだいぶテンションが下がりましたから(笑)。
――ホントの10周年は来年ですからねえ。
長南　一年ぐらい前からこの大会のためにけっこう気合いれてたんです。「来年はDEEPで大会があるから、ちゃんとインパクトを残すような試合をしよう」って。でも10周年じゃなかったんで「だったら来年使ってくださいよ」って。そしたら佐伯さんは「おまえ、そりゃないだろ」ってことだったんで、「じゃあ、出ますよ」って感じで。
マッハ　まあ、佐伯さんってそんな人だからねえ。
――でも、そういう佐伯さんも含めて、やっぱりお二人はDEEPには思い入れがあるんですね。
長南　自分は「ホームだと思ってる」って常々言ってますしね。UFCとかDREAMとか大きいイベントがあるなかで、それでもDEEPで試合することは必然だと思ってます。
マッハ　まあDEEPももちろんそうなんだけどさ、佐伯さんがね。だって格闘技界で誰よりも深くいろいろ話を聞いてくれるのは佐伯さんだしさ、とにかく話しやすいじゃないですか。それが好きですよね。だいたい俺らって上から目線で言われちゃう感じが多いから、困ったときとかも本音で相談しづらい部分ってあるんですよ。でも佐伯さんだとなんでも話せるからさ。
長南　さらにオレぐらい佐伯さんを熟知してくると、あれは相手を選んで話してるなというのがバッチリわかるんですよ。だから「話を聞いてくれる」というのは、マッハさんだからなんですよね。逆に佐伯さんにガンガン言われる選手もいるんですよ。
マッハ　まあ北岡(悟)くんも相当怒られたって言ってたからね。それでアイツだいぶ変わったと思うんだよね。
――そうなんですか?
マッハ　北岡くんも昔はわけわかん

## 修斗からDEEPへ？　それを言われると罪悪感がありますね（マッハ）

なかったから。幽霊部員みたいな感じで全然マジメにやってなかったもん。俺、前はパラエストラにもよく練習に行ってたんですけど、北岡くんはジムに来ても見学ばっかしてて。

**長南**　たしか、前は佇まいとかも含めて〝特攻野郎〟みたいな感じだったんですよね。やたらギラギラしてて、しかも試合でギラギラしてるわけじゃなくて、控室でギラギラしてたというか（笑）。だから「なんだ？　こいつは」って思ってたんですけど、自分が山形で大会を開いたときにセコンドで来てて、「わざわざ来てくれたんだね」って話しかけたら、凄く礼儀正しかったんですよ。まあ、佐伯さんの一言なのかはわかんないですけど、佐伯さんが北岡くんに話した内容を聞くかぎり、凄く愛がありましたね。だからぜひ北岡くんにもその件でインタビューしてほしいですよ。

**マッハ**　でも、ウチの道場も地方から来る子はそういう子が多いんだよね。やっぱり選手やってると練習してもなんでもさ、伸び悩むじゃないですか。北岡くんも奈良から出てきて「何やってんだろう？」とか考えたりしたんじゃない？

**長南**　そもそも地方から出てきていきなり格闘技ってあんまよくないですよね。この業界おかしいヤツだらけなんで。その点オレは大工の寮に入ってしばらくプレハブ暮らしをしたりしながらひたすら働いてたのもあったから、なんとなく世間というのがわかってきてたというか。ま、大工の業界もまともじゃなかったですけど。

――でもちゃんと働いて、お給料をもらってっていうシステムがあったわけですからね。

**長南**　そこらへん、もう格闘技界はメチャクチャっすからね。ありえないことがたくさんありすぎる。

**マッハ**　……うーん、オレはけっこう普通だと思ってたんだよなあ。

――あ、マッハさんにとっては普通でしたか（笑）。

**マッハ**　たぶんオレがヘンなヤツだからかなあ（真剣に）。いやでもさ、長南はたいしたもんだよ。だって大工って職があるんだもん。オレ、格闘技辞めたら何をやるんだって言われたらホント困るもんね。だけどさ、長南はいいよ。

**長南**　ま、格闘技辞めたら大工かおでん屋でしょうね（笑）。

――ダハハハハ！　中村屋の遺志を引き継ぎますか。

**長南**　でもマジメな話、あんまり保険みたいにして仕事やんのもよくないかなって思うんですよ。格闘技が中途半端で「まあこっちに行けばいいや」って思っちゃったらダメだと思うし。

　その点、佐伯さんなんかは選手の生活なんかも考慮しながらカードを組んでくれるんですよね。

**長南**　「負けたから使わない」とかは絶対にないですね。気持ちがない選手は使わないと思うんですけど、ちょっとやそっと負けたぐらいで使わないっていうことはないっすよ。そこらへんは、UFCとは大きく違いますよね。

――長南さんにはそういう気持ちが見えたから、若手の頃からどんどん使ってくれてたんでしょうね。当時の修斗チャンピオンだった須田匡昇選手との試合も大抜擢でした。

**長南**　そのときもじつは試合の10日ぐらい前に大けがしちゃって普通だったら出られなかったんですけど、代役を探すにしてもメインだからイベント自体もダメになるつって、だったらオレがやれるだけやろうと思って出た試合だったんですよ。負けたら負けたで「やっぱ修斗は強い」って盛り上がるから大会自体は成功じゃないですか。

――そうですね、興行全体を考えると。

**長南**　そういう気持ちが出てた試合だったと思うし、何よりそこをわかってくれたのが凄くうれしいですよね。

――一方、マッハさんも修斗で負けたりしたときに、ちょうどDEEP参戦という話があったんですよね。

**マッハ**　うーん、そうっすね……たぶん。

**長南**　マッハさん、もう覚えてないんじゃないですか？　あの頃のこと。

**マッハ**　あの頃ねえ……全然覚えてない（笑）。

――ダハハハハ！

**長南**　オレがいろいろ聞いたのは、マッハさんはもうPRIDE武士道参戦が決まってたんですよ。でもオレはDEEP愛があったから、「DEEPでぱぱっと試合をしてPRIDE参戦します」というのが、「DEEPを軽く見てるのか」って思って怒ってたんですよ。でも、あとでマッハさんとしゃべったら、なんにも気にしてないんですよね（笑）。

**マッハ**　あ、そうだっけ？

――でも、マッハさんが最初にDEEPに出るというときは、「修斗の象徴がDEEPに行っちゃう」ということで格闘技界ではかなり大事でしたよね。

**長南**　マッハさんは修斗からメジャーに飛び出したパイオニアっすよね。いまでこそみんな大きい舞台に出ていきますけど。

**マッハ**　でも、オレあんまり自分を高く評価してないですもん。執着してもしょうがないよ。それよりもどんどん新しいもん作んないと。

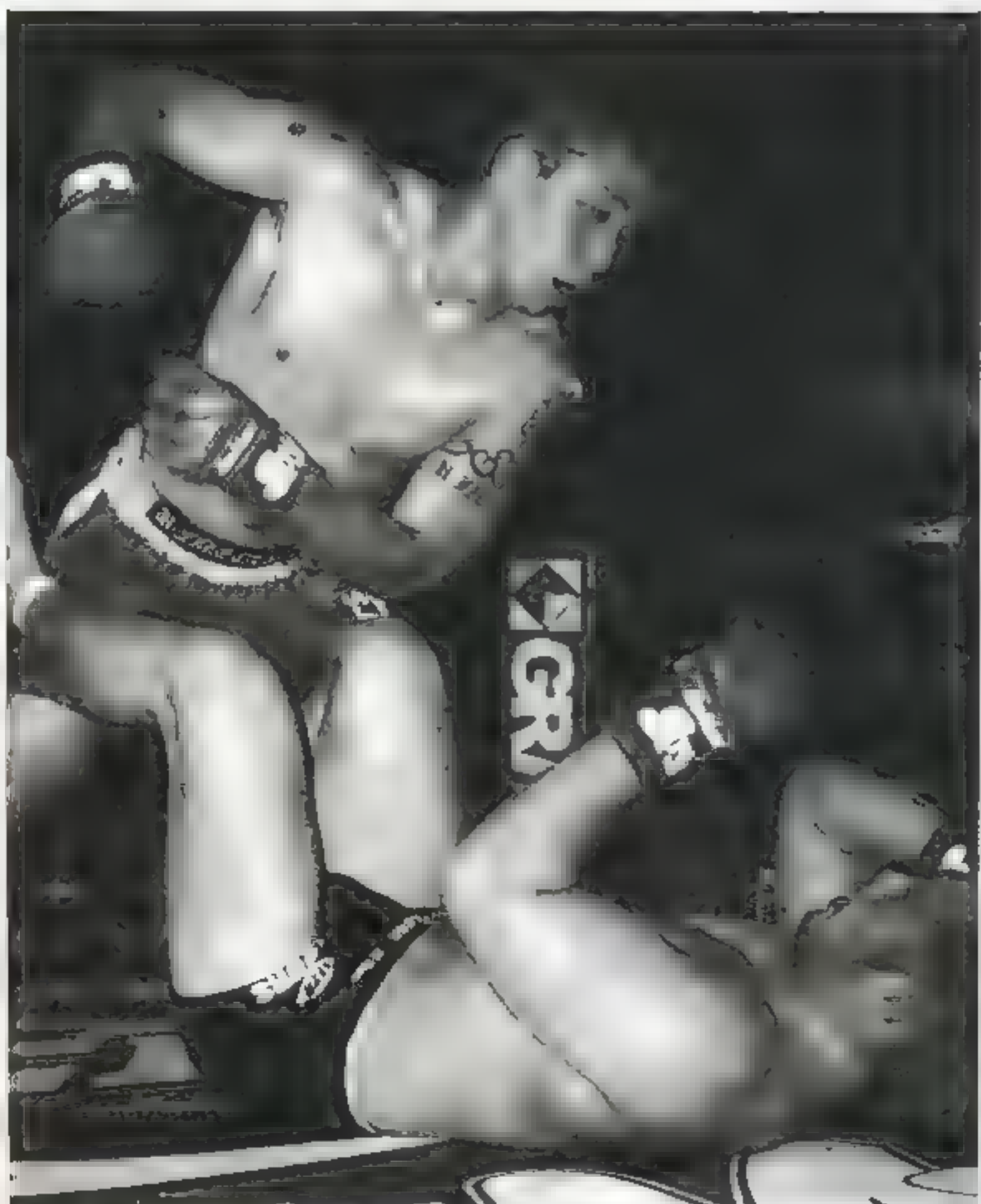
――でも、図らずもマッハさんが作ったというか、風通しがいい世界になりました。

**マッハ**　それを言われるとけっこう……なんつうか罪悪感ありますね。でも、修斗がMMAを始めたところに、佐伯さんとかいろんなプロモーターと呼ばれる人たちが集ってきちゃったわけじゃないですか。それで選手だけ「修斗にいろ」ったってそりゃあ無理だったよね。

**長南**　そこらへんは佐伯さんは儲かってはないけど、みんな集まってくるのが不思議なんですけどね。

――で、そのあとにマッハさんと長南さんの試合があるわけですけど、あの試合はPRIDE武士道も含めてある種、中軽量級の分岐点になりました。

**長南**　……まあ、古い話ですよ。

**マッハ**　でも、俺たちいまも生き残っ

03年9月15日に行なわれた『DEEP12』にて対戦したマッハと長南。当試合の3週間後に行なわれるPRIDE武士道にマッハが参戦することが濃厚だったが、長南の怒りの打撃が炸裂し、マッハは右目上をカット。試合は長南のTKO勝利となり、マッハはケガにより武士道参戦が見送りとなった。

てるから凄いじゃないですか、ねえ！

**長南**　俺も一発屋じゃなかった（笑）。これで食って生計を立てていけてるっていうことはそうですよね。これで将来的にマッハさんみたいに道場をやれたら最高なんですけどね。

**マッハ**　ああ、いいね！　でも東京でやるとキツいよ。もうジムが密集しすぎてるから。だって、ここ巣鴨で何件あると思います？

**長南**　トライホースとノバウニオンと……3つですか？

**マッハ**　いやいや、キックもあるし、あと修斗もあるんですよ。

**長南**　そんなにあるんすねえ！

**マッハ**　それにね、まあウチは子どもが多いんだけど、でも最近はなかなか入んないですよ。テレビでけっこうKOシーンとかあるじゃないですか。あれが、マズイっていうか。

――親御さんが怖がっちゃうんですねえ。

**マッハ**　子どもはやりたがってるんだけどね。ただ、そこは宮田（和幸）んとこがうまいんだよなあ。あれ、レスリングだもんね。だから子どもが60人いるってよ。

**長南**　60人！

**マッハ**　だからあいつまだ国体なんか出てるでしょ。出なくてもいいのにね。ハハハハハ！

――なるほど、そういう戦略がありましたか（笑）。

**マッハ**　でもオレは逆に格闘技が終わったら大工でもなろうかなあ、なんてね。

――え？　マッハさんが大工に、ですか!?

**長南**　……いや、マッハさんってじつは建築現場とかで材料上げとか、トラックから物を降ろして配ったりする専門の仕事があるんですけど、それをアルバイトでやってるんですよ。

――えー！　そうなんですか!?

03年3月の「DEEP8」にて、修斗を飛び出しDEEPに初参戦したマッハ。上山龍紀との対戦は会場をおおいに盛り上げ、大会は大成功に。それ以降、修斗からDEEPやPRIDE武士道に参戦するファイターが増えたが、道を作ったのはこのマッハのDEEP参戦だったと言える。

**マッハ**　一応、足腰の鍛錬でね。

**長南**　たまに現場に知ってる人がいて、マッハさんが働いてるのを見て「格闘技だけじゃ食えないんだなあ」って言われるんすよね。

**マッハ**　いやいや、そういうのじゃなくて、あれはトレーニングになるからやってるんですよ。ああいうのが一番いい！　だってさあ、ただ一人でトレーニングするのって、トレーナーがいなかったらあんなのただの自己満足じゃないですか。そうじゃなくて何時までって時間区切って、要はサボらずにやるというかね。

**長南**　それは人によるんじゃないですか？（笑）。オレはわりと一人でやるほうなんでわからないんですけど。でも、マッハさんは一人では減量もあんまりできないですからね（笑）。

――ダハハハハ！　減量はやっぱり大変ですか。

**マッハ**　甘いものが好きなんでねえ……。

**長南**　DREAMでジェイソン（・“メイヘム”・ミラー）か誰かのセコンドで行ったときに、マッハさんを見た外国人選手たちが「あいつ何キ

## 没収だよ。200万負けたんだから。でも、ほら、人生明るくね！（マッハ）

## マッハさん、ラスベガスで金色のロレックスを手放したんですよね（長南）

ロあるんだ!?」って言って驚いてましたよ。

**マッハ**　そうそう。一回、前田日明さんに「あれ、小路（晃）やないか」って間違えられましたからね（笑）。

――ダハハハハ！　でも、長南さんとマッハさんって、あの対戦が終わったのをきっかけに飲みに行ったりするようになったんですか？

**マッハ**　たしか、何かのパーティでひさしぶりに再会したんだよね。

**長南**　ああ、そうですね。さすがに俺とマッハさんだけじゃ試合した者同士なんでギクシャクするところがあったんですけど、仲介役をしてくれた共通の知り合いがいて。それ以降はまあぼちぼち飲んだりとか、俺がいなくても、自分の後輩とマッハさんが飲んでたりとかしてますね。

**マッハ**　……まあ、オレも酒では失敗したから最近ではほとんど飲まなくなったけどね。

――いろいろよくない思い出があるわけですね（笑）。

**マッハ**　あ、酒で思い出したけどさ、俺、ワケわかんないホームレスのオヤジが新宿で「酒！　女！　ギャンブル！」ってずっと大声で繰り返しながら歩いてたのを見たんだけど、なんだろ？　オレに言ってんのかな」と思ってドキッとしたんでだよね。

**長南**　ガハハハハ！　「酒！　女！　ギャンブル！」でその人がそうなったんですよ、きっと（笑）。

**マッハ**　あ、そうか。「オレのこと言ってんのかな、すいませんでした」って思っちゃったよ。

――身に覚えがありましたか（笑）。というか、マッハさんと長南さんといえば、ラスベガスのカジノで壮絶エピソードがありましたよね。

**長南**　ああ、マッハさんが大負けした話ですよね？（笑）。

**マッハ**　いや、あれはまいった！　ホント長南はね、やっぱ勝負強いわ。長南はたぶん何をやっても生きていける！　もうオレはどんどんどんどん底にはまっていくよ。だってね、最初借金いくらだったんだっけ？

**長南**　いや、だから俺はバカラをやってて最初10万ちょっと負けてて、次で負けたら30万だったんですよ。でも、格闘関係者の方に金を借りてやってたんで、「とことんまでいってしまったら試合して身体で払わなければいけない。絶対、勝って逃げなきゃ」と思って（笑）、それで勝負してチャラにしたんですよね。

**マッハ**　でも俺はダメだったなあ……。

**長南**　ククク。マッハさんは俺がやっているのを見てバカラ始めて、一発目でいきなり10万円儲かったんですよ。で、俺は試合前のカズと一緒に身体動かすことになってたんで、そこでやめたんですけど、マッハさんはそのまま続けてて。そしたらある情報筋から「マッハさんが大

さくらい“マッハ”はやと■1975年8月24日、茨城県出身。柔道をバックボーンに96年に修斗でデビュー。03年3月からDEEPで3戦し、その後、PRIDE武士道、『やれんのか！』を経て、DREAMにて活躍中。キャッチフレーズは野生のカリスマだが、ギャンブルでのカリスマ性は現在休止中!? 171cm、76kg。

ちょうなん・りょう■1976年10月8日、山形県出身。01年にDEEPにてプロデビュー。02年の須田戦、そして03年のマッハ戦での大勝でその実力を開花させ、04年にはPRIDE武士道に参戦。その後UFC、そして現在はDREAMで闘っているが、定期的にDEEPにも参戦している。175cm、77kg。

変なことになってる！」って。

――そんな噂がラスベガスに飛び交いましたか（笑）。

**長南**　途中「60万勝った」とか聞いてたんで「スゲエな」と思ってたんですけど、「大変なことになってる」って言うから行ってみたら、逆に60万円くらい負けてるんですよね。しかも、すっごい落ち込んでるんですよ（笑）。でも「マッハさん、これは勝負して取り返すしかないですよ！」って自分がアドバイスしたんですけど、それが逆にマズかったんです。

**マッハ**　うん、うん。

**長南**　でも、バカラってプレイヤーか親かどっちかに賭けるだけなんで、どっちかにずっと賭けてたらいつか勝てるじゃないですか。なのにマッハさんが負けが込むといきなり賭けるほうを変えたりするから、それでまた負けてって（笑）。それで200万を失なったんですよね。

――に、200万も！

**長南**　で、そのときはPRIDEが儲かってた時期だったんで、「マッハさん、これもう勝負するしかねえっすよ」つって。ちなみに、そのとき○○さんもマッハさんが賭けるほうに同じように賭けてたんですよ。

**マッハ**　そうそう、俺に便乗してんだもん。「乗った！」とか言って（笑）。

**長南**　○○さん、最終的に「マッハ、もうあっち行け。おまえといるとオレもダメだ」つって（笑）。そのときマッハさんは金色のロレックスをしてたんですけど、それがなくなってましたから。

**マッハ**　没収だよ。200万ちょっと負けたんだから。まあでもさ、ほら、人生明るくね！

**長南**　いやー、そうやって言えるところがマッハさんの凄いところですよ。オレの勝負強さよりもスゲエなと思いますね。

**マッハ**　まだ明るくいられる金額だからいいじゃないですか。ねえ？　ゼロがもう一個ついたら、どうしようもないよ、ホントに。

――いや、200万でも大変です（笑）。というわけで、ちょっと脱線してしまいましたが、最後にお二人は今後のDEEPに期待することなんかはありますか？

**長南**　100回大会に向けて頑張ってほしいってことですね。もちろん試合にも出ますし、いろいろと力添えするつもりですし。これから期待するというより、ずっといまのDEEPが続いてくれればいいなって。でも、そこらへんは佐伯さんの健康にもかかってるんで。もしダメだったら、オレらで佐伯さんの遺志を継いでやりますよ（笑）。

**マッハ**　あとさ、やっぱ太りすぎを注意しないとダメでしょ！（キッパリ）。採血してちゃんと健康診断をしないと。

**長南**　いや、主治医もいるし健康診断はやってるんですよ。でも全然言うこと聞かないっていう（笑）。

**マッハ**　あらら。でもさ、佐伯さんにとってDEEPというのは好きなことをやってる場だろうから、佐伯さんが健康なかぎりは永遠に続くだろうし、意志が曲がったりもないだろうしさ。だからやっぱり健康なんですよね。

**長南**　誰に聞いてもその二つしか出てこないんじゃないですかねえ。「このままやってくれ」「健康でいてくれ」って。

**マッハ**　でも、佐伯さんって、一番初めに会った頃は痩せてたんですよね。まだ佐伯さんが金持ちだった頃なんだけど。なんか辰吉みたいな蛍光ピンクのスーツ着てさ、ハデな人だなあと思ってたんだけど、だんだんスーツが地味になって太っちゃったよね。

**長南**　ストレスから食に走っちゃった人ですからね。

**マッハ**　けっこうきめ細かい人だから。そういう意味では食わずにいられないんでしょう。ただ、逆にまったく食わないっていうのもストレスを還元できるらしいですよ。でも無気力になるらしいんですけどね。

**長南**　でもそんなヤツのイベント、誰も観に行きたくないですよ！　無気力なプロデューサーがやってるイベントなんて（笑）。

**マッハ**　ガハハハハ！　そりゃそうだ。無気力なイベントはダメだな。

――じゃあ、今日の結論としては佐伯さんは食べすぎに注意、マッハさんは飲みすぎに注意ということですかね（笑）。

**マッハ**　だから俺はもう飲んでないって！　ね、飲んでないよね？

**長南**　う～ん、俺はなんとも言えないっす（笑）。とにかく「酒！　女！　ギャンブル！」には気をつけてください。

**マッハ**　ガハハハハ！　それを言われると困っちゃうよ。

【10年10月27日　マッハ道場のとなりの喫茶店にて収録】

# 僕は佐伯さんに救ってもらいました

## DEEP記念大会で菊野克紀と死闘を展開!

# 帯谷信弘

DEEPのオールスターキャスト登場となった10.24「DEEP 50 IMPACT」。そのメインで菊野とのライト級タイトルマッチに臨んだ帯谷信弘に、場内を興奮の渦に巻きこんだ一戦を振り返ってもらうと、そこには衝撃の発言が! さらには日本格闘技界の抱える"政治"についても言及!? とにかく読むべし!

聞き手/高崎計三 構成/鈴木佑 試合写真/平工幸雄

――帯谷選手、今日はこの取材の前に病院に行かれていたという話でしたが、菊野克紀戦での負傷ですよね？

**帯谷** そうなんですよ。（包帯が巻かれた右拳を見せながら）今度は2本折れてました（苦笑）。

――指2本ですか！ 復帰してまた早々に……。全治どれぐらいですか？

**帯谷** 2〜3ヵ月って言われました。

――……。とりあえず、菊野戦をあらためて振り返っていただけますか？ 国内では10ヵ月ぶり、今年初戦で、復帰戦でもあり、DEEP記念大会のメインでタイトルマッチというたいへんな舞台でしたが……。

**帯谷** やられちゃいましたけどね（笑）。もともと、Barbaro44戦も復帰戦でメインだったじゃないですか。それで眼窩底骨折をやって、復帰のISE戦もメインだったんですよね。だからいつも、復帰戦がメインなんですよ。

――確かにそうですね。

**帯谷** 今回はとくに、メイン中のメインって感じじゃないですか。やらせてもらって光栄なんですけど、本当に気力でたどり着いたって感じですね。とくに今回はDEEPの記念大会で、佐伯さんには最初から出たいって言ってあったんですよ。タイトルマッチになるのかワンマッチになるのかはわからなかったですけど、日にちも決まってたんで照準も合わせてたんですよね。だけど、試合でのケガはどうしようもないじゃないですか。

――「気をつける」とかいう話じゃないですからね。

**帯谷** ただ筋を伸ばしたとかいうんじゃなくて骨折ですからね。Barbaro戦の頃から考えると、試合が終わってケガを治すのに3ヵ月ぐらいかかって、そこから強くなる練習をするんですけど、試合が決まってると試合用の練習をやるので精一杯なんですよ。

――フィジカルをじっくり作るという時間はないですよね。そのなかで菊野戦というのは、気持ちとしてはどう迎えてたんですか？

**帯谷** いや、モチベーションはこれ以上ないぐらい高かったですよ。毎回フルでやってますけど、今回はとくに。ただ、その心と身体のバランスの悪さっていうのが、1ラウンドに出ちゃったんじゃないかなとは思いますね。

――1ラウンド、菊野選手は鬼のような猛攻でしたよね。

**帯谷** そうですね。ここ数試合、俺の試合を見てもらうとわかるんですけど、1ラウンドは立ち上がりが悪いんですよ。ブランクとか、自分はあんまりそういうの関係ないほうだと思ってたんですけど、5月にマカオでやった試合もそうだったし。1ラウンドはどうしても打たせて様子を見るという、本来の俺じゃない感じなんですけど、事実上そうなっているというか。俺もファイトスタイル的に倒しにいくほうですけど、リーチがないのでどうしてもカウンターとかになるし、大きく振らなきゃいけないし……そのスタイルを変えればいいのかもしれないけど、変えないでいくためには1ラウンドがどうしてもああなっちゃうんですよね。

## 世界で一番五味さんに殴られたのも一番殴ってるのも俺なんですよ

――実際、変えたくないという前提があるわけですよね。

**帯谷** はい。別のところでも話したことがあるんですけど、頭の中に天使と悪魔がいるとかいうじゃないですか。ルミナさんとかも言ってましたけど。でも俺の場合は両方が「行け」「行け」って言うんですよ（笑）。

――誰も止めてくれないんですね（笑）。

**帯谷** だからどうしても、打たせながらガードはしてたんですけど、行くところを探すんですよね。パンチが来ても見てたし、「どこで倒そうかな」と思いながらずーっと打たれてたって感じですね（笑）。まあ、作戦としては向こうはそう来るだろうなとは思ってましたけど。あと、蹴ってこなかったですよね。

――はい。やっぱり蹴りが来ると思って組み立ててたわけですか。

**帯谷** そうですね。対策っていう対策はしてないんですけど、蹴り主体の人とスパーリングしたりはしてましたから。「うすうす、蹴ってこないかもな」とは思ったんですけど、とりあえず蹴りに合わせる技はいくつか用意してましたよ。会見でも言ったんですけど、みんな蹴りを警戒しすぎて、パンチで倒されてたじゃないですか。だからむしろパンチの精度を上げて、カウンターで倒しにいくっていう練習をしてたんですけどね。

序盤、帯谷は菊野の圧力の前に劣勢となるも、後半に盛り返しを見せて場内は大熱狂。判定4-1で敗北を喫したが、メインにふさわしい激闘を展開した

――セコンドに、空手家で総合も無敗の鈴木信達選手がついてましたよね。やはり相手が空手ということもあって？

**帯谷** いや、五味さんとかもそうなんですけど、そんなに考えてやらないんですよ（笑）。「ああ、空手家ね」とか「ああ、柔術ね」ぐらいな感じで。きっと向こうとは対照的ですよね。高阪さんはいろいろ見て対策練ってきてたでしょうし。もともとウチの師匠の木口先生は、桜の木を引っこ抜ければ勝てると思ってた人ですから（笑）。

――それは対策どころじゃないですね（笑）。

**帯谷** 俺のなかでは勝つだけっていうのは、アマチュアだと思うんですよ。人それぞれのやり方や考え方があるから否定はしませんけど、やっぱり俺はプロなんで、お客さんが観に来てくれて、期待されてると思うんですよ。

――ああ、「あいつは何かやってくれる」みたいな。

**帯谷** そうですね。だから3ラウンドの4分30秒まで押されてても、お客さんが「まだ30秒あるからあいつなら倒せるはず」と思ってもらえるのがプロだと思うんです。そして倒しちゃうのがプロ中のプロなんじゃないかって。

――その考え方は、五味隆典選手をそばで見てきた影響もありますか？

**帯谷** まあ、一番凄まじいときにずっと一緒にやってましたからね。たぶん、世界で一番五味さんに殴られたのは俺で、一番殴ってるのも俺なんですよ（笑）。

――そうか、それは凄い！（笑）

**帯谷** あの頃はヤバかったですからね。いつもオープンフィンガーグローブ着けて、ガチでスパーでやってましたから。試合のほうが全然楽でしたからね。

――あれに比べれば、と。さて試合の話ですが、1ラウンドの猛攻をしのいで、2ラウンドになると菊野選手もやや失速してきました。

**帯谷** はい。俺も2ラウンドの途中からエンジンがかかってきたのがわかったんですよ。絶対に失速するのは

# 試合後に佐伯さんにも話したんですけどこれで一回、引退ですね

わかってたし、スタミナには自信があったというか、その練習しかできないじゃないですか、ケガしてるあいだ。だから最初は見てたんですけど、1ラウンドの最後にグラウンドになったときに攻めさせちゃったのがよくなかったですね、いま思えば。パウンドも効くのをもらってればあわてたでしょうけど、そういうのもなかったんで。疲れてるのはわかってたし、時間も残り少なかったから、いいや、やらせちゃえって。あれがよくなかったですね。振り払ってでも動くべきでした。

――しかし、それだけ冷静だったんですね。

**帯谷**　1ラウンドの途中にマカオで折った中指がまた折れた感触があって、でもまだ軽く握れるから打てるなと思ってたんですけど、2ラウンドに入って、右を打ったときにバキッて言ってるんですよ。映像観ればわかりますけど。それでもう一本が折れたなとわかって、どうしようかなと思って。これで今日は寝技ができないな、と。握れないですからね。パンチも狙って打たないと、ムダ打ちはできないじゃないですか。2本折れたんでどうしようとは思いましたけど、自分が倒れなければ絶対倒せると思ってましたから冷静ではいられました。

――骨折しながらの闘い方も、経験上わかっちゃってるんですね。いいことなのかどうか……（笑）。

**帯谷**　もう4回やってますからね（笑）。経験しなくてすめば一番いいんでしょうけど。ただ、手の骨折はまだいいんですよ。バンデージも巻いてるしグローブもしてるから、見た目にはわからないじゃないですか。自分で言わないかぎりは。

――ああ、出血とかとは違いますからね。ストップされないと。

**帯谷**　そうなんです。今後はケガしないようにしたいですけどね。まあ、手の骨が折れたぐらいですから。首とかだったら総合もできなくなりますけど。

――「折れたぐらい」って……（笑）。しかし、最後に追い込んだだけに負けは悔しかったんじゃないですか。

**帯谷**　このところずっとそうなんですけど、1ラウンドは見て相手の戦闘力がわかって、2ラウンドの途中から自分のエンジンがかかるのを感じて、それで倒しにいくんですけど、かかるまでの時間がだんだん長くなってるんですよね。ブランクの蓄積もあるんでしょうけど。

――ケガが続いて、このところは年に1〜2試合ですからね。

**帯谷**　だから試合後に佐伯さんにも引退のことを話したんですけど……一回、引退ですね（さわやかに）。

――えぇっ!?　「一回」って……？

**帯谷**　一回、引退です。こないだの

絶対王者時代の五味と行動をともにした帯谷は、PRIDE武士道で「王者の影武者」として紹介された。また、「DEEP CAGE IMPACT」でTKO勝ちを収めた際のマイクアピールでは「判定？ ダメだよ、KOじゃなきゃ」と五味の発言をオマージュ!!

試合もそこまでの道のりも後悔はし
てないし、できることはやってきた
すか（笑）。
――全然、引退じゃないじゃないで
ろ政治的な事情もあると聞いてる
んですが……
以外で何かないかなとか話したりし
てるんですけどね。アーチェリーと
て言ってたんですよ。
――もうすぐ42歳でバリバリやって

# 俺はいまの格闘技界でしがらみのど真ん中にいると思うんです

試合もそこまでの道のりも後悔はしてないし、できることはやってきたし……結果がついてくればよかったですけど、そうならなかったってことは、神様が「まだまだ」って言ってるんですよ。「まだまだ苦労しろ」って。手もちょうど折れてるし。

――それで……。

**帯谷**　ケガを治してちょっとじっくり身体を作って……65キロ級とかも考えますしね。

――あ、やっぱり考えますか。

**帯谷**　俺の場合、無理に増やして70キロでやってたところもあって、周りからは落としたほうがいいよって言ってくれる人もいるんですけど、修斗時代に「黄金のウェルター」（修斗では70キロ）に憧れたのもあったんですよね。

――まさに宇野薫選手、佐藤ルミナ選手、五味隆典選手らが活躍した階級ですよね。

**帯谷**　やっぱりそれを見てきたし。それに、落としてどうなるかはまだわからないじゃないですか。とにかくまずは拳を治して、次にリングに上がることがあるとしたら決まった日付に合わせるんじゃなくて、しっかり作り上げてからにしたいですね。連勝しててベルトを獲るまでが1章で、ケガしたのが2章で、復活して3章。だから次が4章なんですよ。俺のなかではそういう時期なのかな、と。

――全然、引退じゃないじゃないですか（笑）。

**帯谷**　ハハハ！　でもわからないですよ。作っていく途中で気持ちが続かなくなったりしたら、本当に辞めるかもしれないし。フィジカルを作る途中で首とかやっちゃったらできなくなるし。練習とかしてなくても、僕がやりたいって言えば試合はやれるとは思うんですけど、それじゃあやっぱり……。まだまだ自分のスタイルは変えたくないですから。引退まで変えたくないんですよ。でも、どれだけ荒々しくやっても、負け続けたら意味がないし。だから5年後とかになるかもしれないけど、やれるように、勝てるように作っていくというつもりですね。

――ただ、選手活動に関してはいろいろ政治的な事情もあると聞いてるんですが……。

**帯谷**　（苦笑）いろんなことがあって、今回もなかなか試合が決まらなかったんですよね。菊野戦も発表が遅かったですよね？　別に、俺が悪いことをしたというわけじゃないと思うんですけど……。

――ストレスの溜まる状況なわけですね。巻き込まれた結果、というか。

**帯谷**　う〜ん……、でも俺が動いてどうにかできる話ではないですし。この前の北岡選手の件とか、状況が同じというわけではないんですけど、俺も周りを全部リセットしたいという気持ちもあるんですよね。それも考えて、一回、引退です。

――環境も含めて整理するということですか？

**帯谷**　まだ何も決めてないですけど、もしかしたら木口道場も離れてフリーになることもあるかもしれないし、いろんな選択肢を考えてますけどね。トレーナーとかと、格闘技以外で何かないかなとか話したりしてるんですけどね。アーチェリーとか、カーリングとか。

――それは帯谷選手自身が燃えないでしょう？

**帯谷**　そうなんですけどね（笑）。「ケガしないヤツがいいよね」とか話してますよ（笑）。まあ、当面はいつまでに試合をしないといけないという契約とかもないし、ケガも指の骨ぐらいなんで、じっくりやりますよ。格闘技人生ももう10年になりますけど、初めてゆっくりできるんですよ。

――[illegible]一回、引退。

――ただ今回でいうと、そんな状況のなかでDEEPが救ってくれたということはあるわけですよね。

**帯谷**　そうですね。今回もなかなか[illegible]ならないなかで、佐伯さんは「もしやれなくなったら、俺が帯谷の格闘人生を考えてやるから」って言ってくれたんですよね。ときどき、男気を見せるんですよ（笑）。だから佐伯さんを裏切るようなことはしないですけどね。

――なるほど。しかし、いろいろたいへんそうですねえ。

**帯谷**　いまの格闘技界で、しがらみの渦中、ど真ん中にいるのって俺だと思うんですよ、ハハハ！　だからリセットします。一回、ポッと抜け出したいんですよね。心機一転じゃないですけど……どうしたらいいのかわからないんですよ。神様がいて、「こっち行け！」って言ってくれたら従いますよ！（笑）。ただこの前、大石真丈さんがパンクラスに出たんで、セコンドについたんですけど、大石さんが「総合は30歳からだからね」って言ってたんですよ。

――もうすぐ42歳でバリバリやっている大石さんに言われたら……（笑）。

**帯谷**　カッコいいなあと思ったんですよね。それでこの前の試合も圧勝して、あんな試合されたら何も言えないじゃないですか。説得力ありすぎで（笑）。やっぱりそうなのかなあと思いますよね！　ああいうファイトスタイルもアリだなと思いました。まあ、俺は真似できないですけど。

――グラウンド中心のいぶし銀的な闘い方の帯谷選手は想像できませんよ！（笑）。

**帯谷**　でも、俺が次に出るときはヤバイと思いますよ。ゆっくりして、ケガも治して身体もしっかり作り直して……70キロでやるか65キロでやるかはわからないですけど、そうなったら、絶対ヤバイことになると思いますよ。

――やっぱり全然辞めそうにはないですね（笑）。

**帯谷**　次があるかどうかはわからないですけどね（ニヤリ）。

――そんなふうに考えている人は、「次はヤバイ」なんて言いませんよ！「ヤバすぎる帯谷信弘」の復活を期待してますから！

**帯谷**　まあ応援してくれる人もいるし、リングに上がるとファンの歓声もうれしいですしね。そう考えるとずっと辞めない気もしますね（笑）。

――「燃える引退宣言」という、非常に珍しいものを聞かせていただきました（笑）。ありがとうございました！

［10年11月5日／都内・某所にて収録］

## 帯谷信弘

おびや・のぶひろ■1981年1月15日、千葉県出身。02年11月に修斗でプロデビュー。03年に修斗ウェルター級新人王を獲得。五味隆典とともに練習を積み、06年には[illegible]を破ってDEEPライト級王者に。その後、PRIDE武士道にも参戦をはたした。木口道場所属。[illegible]70kg。

DEEPイズム爆発!!

# 記念大会前日に死にかけた男

DEEP代表

## 佐伯 繁

**DEEP50回記念大会、大成功!! ……を収めた裏で佐伯さんが死にかけたことを知っているだろうか。DEEPイズム爆発としか言いようのないこの事件の全貌を知るため、三途の川……じゃないわ、DEEPジムに行ってまいりました!**

聞き手/ジャン斉藤

――佐伯さん! DEEP50回記念となったJCBホール大会は大盛況でしたね。

**佐伯** それがさあ、今回はチケット完売どころかグッズまで売れちゃったらしんだよ。記念大会に合わせて出した本(『日本格闘技界のウラ・オモテ』)もDVDも秒殺。これにはビックリしたわ!!

――じゃあ、普段の売れ行きはサッパリなんですか?(笑)。

**佐伯** うん。いつもはまったく売れないから(あっけらかんと)。選手や関係者で「本が読みたい!」という人が何人かいたから売店に行ったら「売れ切れちゃってもうないんですよ」って。

――しかし、記念大会大会当日にそんなケアまでしてるんですか。さすが佐伯さんですねぇ。

**佐伯** 今回はいつも以上にバックステージが大変だった。疲れたわ、ホントに。・番ムカついたのは入江(秀忠)!

――あ、それは今回にかぎった話じゃない気もしますけども(笑)。

**佐伯** 頭きたなあ。休憩のときにアイツのライブがあったでしょ。

――ありましたねぇ。カラオケなのにバンドを引き連れてきたんですけど(笑)。

**佐伯** その打ち合わせがあるから入江には昼の12時くらいに入るように伝えたのに一番忙しい10時に来やがって。それにバンドのヤツが子どもまで連れてきてさ。「あとにしてくれ!」って追い返したきり行方不明になっちゃって結局リハもできないの。

――あ、入江さんのリハはやってないんですか?

**佐伯** やってないのよ。結局、入江が来たのは試合途中だったから。で、入江は入江でキレてんだよ。「バンドが早く来たのに

入れなかった!」って。ふざけんな、あの野郎!(怒)。

――ククククク。

チャクチャ疲れちゃった。あれは予定外の時間がかかったなあ……。いま考えた

って、普通だったら前日から借りるんだけど、ウチはそんな予算はないから!

いくわけよ。

――あ、選手に混じって減量してました

入れなかった！」って。ふざけんな、あの野郎！（怒）。

――ククククク。

**佐伯**　こっちは入江どころじゃないんだから。だって今回はチケットが完売でないもんだから、当日会場の受け渡しで手違いがあるともうパニックじゃん。チケットが残っていれば振り替えができるんだけど、もうチケットが1枚も残ってないからさ。で、一番大変だったのは会場のイスが鉄製だったこと。パイプイスだと持ち運びが簡単だけど、鉄だからめちゃくちゃ重くて大の大人がやっと動かせる代物なの。

――じゃあ、追加席を設置するにしても大わらわというか。

**佐伯**　うん。バイト連中が席の設置でメチャクチャ疲れちゃった。あれは予定外の時間がかかったなあ……。いま考えたら14時開場なんてできないもん。でも、無理矢理開場したからねっ。

――無理矢理って（笑）。

**佐伯**　だってPPVの関係で21時まで終わらせないといけないからさ。

――あ〜、五味vs北岡があった『戦極の乱』のときみたいに尻切れトンボで終わることがないように。

**佐伯**　で、開場しようと思ったら、プレスルームの机がない、イスもない。プレスルームが空っぽ!!

――50回も大会を重ねてきた団体とは思えないですよ！（笑）。

**佐伯**　やっぱ初めての会場だったから勝手がわかんないんだよ〜。そういう場合って、普通だったら前日から借りるんだけど、ウチはそんな予算はないから！

休憩中に行なわれた入江秀忠さんのライブショー。多くの観客が冷淡な態度で眺めていたが、「緊張と緩和」の後者の役割をはたしていたのだっ!!　きっとね。

――存じ上げております（笑）。

**佐伯**　大変だったなあ……なんて言うのかな、大きな会場なんて二度とやりたくはないわな（笑）。でもJCBはきれいな会場で担当の人もいい人でした。またJCBやりたいな。

――いいイベントでしたからね。

**佐伯**　直前まで古木（克明）選手のケガ以外はうまくいってたんだけど、そういうときってかならずなんかアクシデントが起きるのよ。長南選手の対戦相手だったチャ・ジョンファン選手の交通事故とかあったじゃん。大会前日にオレが救急車で運ばれた件にしてもそう。

――大会前日の計量までに佐伯さんが82キロまで減量するという企画があって。体重は無事にクリアしたけど、体調は無事ではなかったという。あれ、命に別状はなかったんですか？

**佐伯**　あのね、命に別状はないと思うんだけど、身体が冷えきって吐き気も出てきたんですよね。で、体温を測ったら35度だったのよ。

――いったいどんなムチャをしたんですか（笑）。

**佐伯**　前々日の段階で残り5キロだったんですよ。

――前々日で5キロ！（笑）。

**佐伯**　計量当日の朝10時からジム近くのサウナに入ってさ。今成（正和）選手や白井（祐矢）選手はクリアしてジムに帰っていくわけよ。

――あ、選手に混じって減量してましたか（笑）。

**佐伯**　で、クリアしてからが問題。これは人によって言うことが違うんだけど、急激な減量で水抜きした場合は基本的に水以外は飲んじゃダメらしいのよ。ビタミン剤もダメ。でも、オレはもうガンガン、ビタミン剤を飲んでたし。

――ダハハハハ！　そういうことは医師の指導のもとにやってください（笑）。

**佐伯**　それで疲れてるし、いっぺん家に帰っても全然寝れなくて。すぐに『読売新聞』の取材があったんだけど、もう吐き気がして凄く気持ち悪くて……。その記者が俺を取材するのが初めてだったから「この本を読んでください。ここに全部、書いてあるんですよ」って。

――取材を受けたくないほど気持ち悪かった、と（笑）。

**佐伯**　ホントに。あの本にだいたい質問の答えは書いてあるでしょ。その人は試合後に取材をするってことで帰したの。で、とりあえず病院で点滴を打ってもらおうと思ってさ、公武堂の長谷川社長に「タクシーを捕まえてください」って頼んだ直後にジムの玄関で倒れちゃって。

――危ないですねぇ。

**佐伯**　症状としては急性胃腸炎みたいな感じ。気持ち悪くて吐き気もして足や手がこむら返りするんだよっ！

――うわ〜、あきらかにヤバイじゃないですか（笑）。

## 計量後、ジムの玄関で倒れちゃって。症状としては急性胃腸炎みたいな感じ

**佐伯**　手足が反り返って切れそうな痛さなの！　その前にオレ、コンビニのざるそばを食ったんだけど。

——もうちょっといいもん食ってくださいよ（笑）。

**佐伯**　いや、やっぱ消化のいいものを食べなきゃってことで。で、それについてた爪楊枝が机の下に落ちてたんだけど、オレ、それが拾えなかったの。

——その時点から危険信号が……。

**佐伯**　うん。とにかく起きれないし、どこも曲げられないんだよ。なんでそうなったかというと、カリウム不足らしいんだよね。減量中の選手もたまになるんだよ。でも、俺がそんなに大変なことになってても笑ってる選手が半分以上だから!!

——ワハハハハハハハハ！

**佐伯**　半分以上がそんなふうに笑ってたから。オレが「うわ～ッ!!」って大騒ぎしてるのにさぁ……。救急車をみんな笑顔で迎えてたらしいからね。

——まあ、DEEPらしいと言えば、そうなんでしょうけど……（笑）。

**佐伯**　で、救急隊員が「どうしましたか？」って聞くから、長谷川社長が「減量をしたところですね……」って言うと、「選手ですか？」「選手ではないんです」と……。救急隊員の人もわけがわかんなくなっちゃってさ。

——イチから説明したら怒られますよ！（笑）。

**佐伯**　そんで救急車で病院に運ばれて点滴やり始めてから10分ぐらいで寝て、目が覚めたら元気になってた。

——佐伯さん、結局何キロ痩せたんですか？

**佐伯**　最大で18キロ。

——前日だけで5キロですよね。それは凄いな（笑）。

**佐伯**　オレが行ってるサウナはホント凄いからね。熱くて頭が痛くなるんだよ。残り1キロ半ぐらいのときは「おお、あと1キロ半だ」と思ったんだけど、そこからまったく落ちなくて。そこまでは一回入ったら500グラム落ちてたのが100グラムぐらいしか落ちなくなってきて。ただささあ、やっぱりここで成功しなかったら言うだけ番長になっちゃうからさ。そこだけはオレも意地を見せなきゃさあ。

——選手はマネしないでくださいとしか言いようがないですけど（笑）。

**佐伯**　やっぱり計量当日にはやっぱり2～3キロくらいにしとかないとダメだわね。あとはすぐに点滴の用意をしとかないと。もう選手の計量なんてオレにとってどうでもよくなってたから。俺がジムに来たとき選手が計量やってたんだけど、もう機嫌が悪い悪い。

——青木真也並みにピリピリしてて（笑）。

**佐伯**　機嫌悪いっていうか、死にそうだったね。で、レフェリーの梅木さんが量るんだけど、またそれが長くてイライラするわけよ。もう一回サウナに行くのは無理だから「梅木さん、オレのパンツ150グラムくらいありますけど、わかってますよね？」みたいに注文つけてさ。

——梅木さんもある程度は大目に見ろって話ですよね。選手じゃないんだから（笑）。

**佐伯**　ホントに！

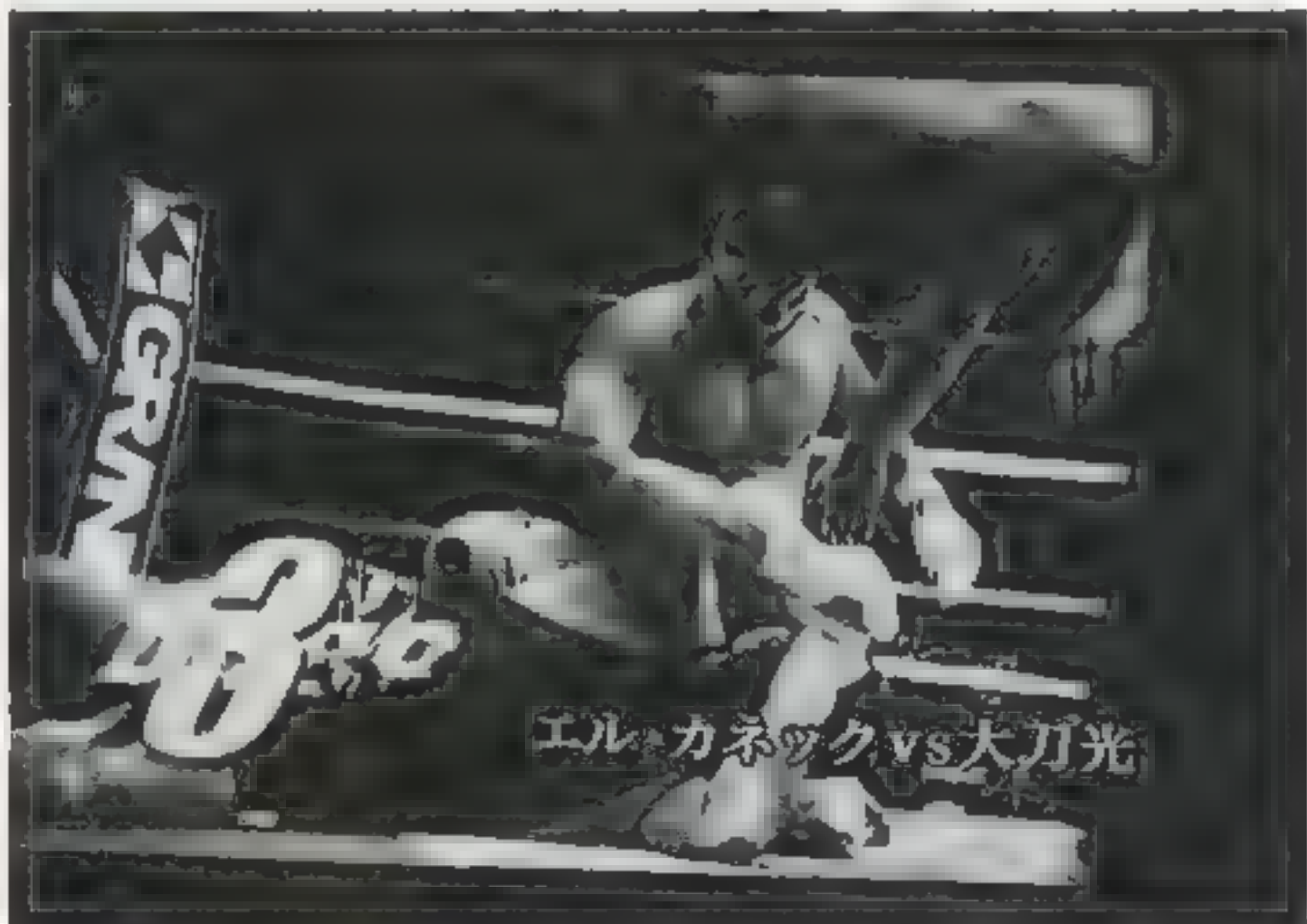
DEEPから上を目指す菊野、DEEPにすべてを懸ける帯谷の対決がメインイベント。多くの選手がDEEPから巣立ち、もしくはDEEPに救われてきただけにふさわしい試合なのだ。

## 「21時すぎたらPPVは切れますよ」って言われてから焦ってた

——減量話はまあまあそれくらいにして、今回で50回目を迎えたわけですけど、後楽園やディファ以外の大会場で超満員って初めてですよね。

**佐伯**　もちろん。ただ、愛知県体育館や有明（コロシアム）も入ってないけど、後楽園は過去に3回ぐらいチケットが全部なくなってるんだわ。後楽園って約1700人ちょいと入って、立ち見を含めると2000人は入るんですよ。

——超満員のJCBはどうでした？

**佐伯**　14時に開場したときにお客さんが並んでたんですよ。でも、そのうち並ばなくなったから「あ、今日はみんな早く会場

オープニング映像とメインの煽りVは佐藤大輔制作。DEEPの名シーンとともに50回までの道のりがカウントダウンされ、菊野vs帯谷という試合が持つ意味合いが観客の心に鋭く突き刺さった。みんなも観たほうがいいよ！

## JCBはお客さんに助けられた。会場の雰囲気が凄く良かった〜

に入ってるんだな」と思ったら、大会開始しても入りきれないお客さんがけっこういたみたいで。だからオープニング映像を観れなかったお客さんはけっこう多かったと思う。

――佐藤大輔制作のオープニング煽りV。

**佐伯**　やっぱみんなさあ、大会開始は遅れるもんだと思ってんのかなあ。

――DREAMだとオープニング映像もお目当ての一つですけど、DEEPにはそういう習慣がなかったかもしれないですね。

**佐伯**　だから「すばらしい映像なのにもったいないな〜」って。普通に15時きっかりで始めちゃったから。だってこっちはプレッシャーだもん、「21時すぎたらPPVは切れますよ」って言われてるんだからさ。

――予定終了時刻はどう設定してたんですか？

**佐伯**　20時半。普通に考えたら21時でアウトなのに20時半にしてるほうもマズイんだけどさあ。ずっと焦りながらやってたよ。

――あの試合数ですからね。14試合。

**佐伯**　計算上は「まあ20時半かな」って思ってたから。でも「万が一」っていうのが怖いんで。

――じゃあ入江アーティストのライブが飛ぶ可能性もあったんですね。

**佐伯**　いや、あれはね、飛ばすつもりはなくて、休憩時間にやってもらうものだったから。最悪、休憩になった瞬間に入江を出そうかと思ってました。そこで短縮するしかないなって話をしてね。

――まあ、どうやっても試合は短縮できないですからね。

**佐伯**　そうなんだよね。まあでも、自分で言うのはなんだけど興行は100点だね。

――100点！

**佐伯**　実際、青木選手やミノワマンの相手に不満の人もいたと思います。でも、「顔見せ」「勝負論」「これからの若いヤツ」っていろんなテーマがあるわけじゃん。じゃあ全試合、ガチガチの勝負論があって、3ラウンドまでもつれるような試合だったらお客さん疲れちゃってるよ。だからバボ選手（長尾浩志）みたいにすぐ終わる試合もあったし、そういう意味で100点満点だと思った。一つ大会の流れとしていろんなカードがあって。ま、今回メガトンは入ってなかったけど、そこのバランスが必要だし、試合順を含めて完璧だったなって思うんですよね。

――メインディッシュばっかりじゃ飽きちゃいますもんね。

**佐伯**　そのとおり。肉ばっかりじゃ疲れちゃうから、早く終わる試合だったり、ちょっと気楽に観られる試合だったりとか。だからこそ今成選手とDJ選手の試合って玄人にとったらたまらないと思うんですよ。でも、そこまで格闘技に詳しくない人は「この二人、何をしてんの？」って思うでしょ。

――わからないですよね。

**佐伯**　そういうお客さんは美濃輪選手が韓国人の巨体を投げただけで沸くわけですよ。そこはバランスだと思うんですよ。今成選手たちがああいう試合で判定までいっても内容的にはべつにいいし。あと、お客さんに助けられたね、雰囲気が凄く良かった〜。

――温かかったですね。

**佐伯**　そう。みんなが「楽しもう！」っていう感じで観てくれて、ホント、お客さんに助けられたなって思ったし。ボクは忙しくて何試合か観られなかったんですよ。だから、あらためてPPVを買って観たんだけど。佐藤さんの映像と立木さんの声っていうのがやっぱり凄くきっかけを作ったし、オープニング映像を見直したときにはホントにやった感はあったね。

――頼んでよかった、と。

**佐伯**　うん。あの映像は財産だよね。あと、なんといっても選手たちにも助けられた。「おまえら、うるせえな」って選手に思うときもあるじゃん（笑）。でも、今回JCBでビッグマッチをやっていくなかで選手にいろいろと気づかせてくれたところがあったと思うね。

――あらためてわかり合えたというか。「佐伯さんのためなら！」という心意気で出場した選手も多かったですし。

**佐伯**　普段は言えないことも多いしさ。そういう意味ではよかったよね。で、じつを言うと、まだまだ出したい選手はいたんだよね。三崎選手、マッハ選手、北岡選手、桜井隆多選手も三島選手も出てない。いっぱいいるわけですよ。あの大会だけがすべてじゃないから。その前に隆多vs福田っていう凄い試合もあったじゃないですか。だから「JCBに出るだけがすべてじゃないよ」っていう気持ちはあるし、大きい大会で目立たないんだったら、小さい大会で目立ったほうがオイシイんじゃないって思う部分もあるし。だからそれはタイミングの問題だし、来年にもあるからさ……。

――まあ、ホントの10周年はじつは来年ですしね。

**佐伯**　（急に小声になって）そうなんだよねえ。今年は10年目で10周年じゃないってJCBを押さえたあとに気づいちゃって……。

――ホントの10周年記念も期待してます！

【10年10月某日／都内・死にかけたDEEPジムにて収録……】

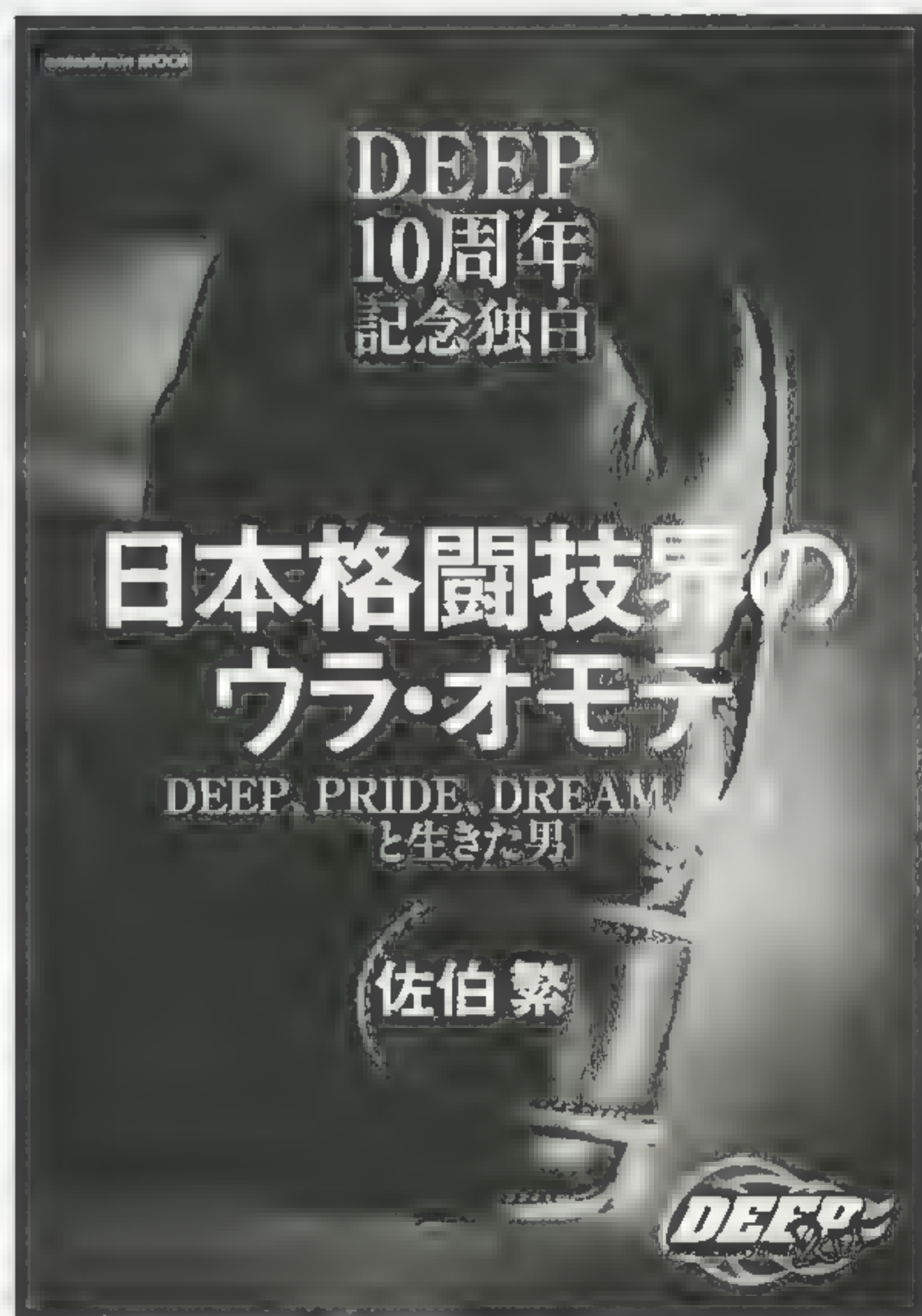
さえき・しげる■1969年6月24日、富山県出身。格闘技イベントDEEP代表。PRIDEやDREAMの広報としても活躍。多くの選手、関係者から慕われており「佐伯さんが死んだら業界は終わる」（長南亮）と言われるほど、ジャパニーズMMAには欠かせない人物だがや。

「10周年と10年目、わざと間違えたわけじゃないんですよ。パーティの会場まで押さえちゃったんですから」「DEEPの代表でパンクラス大阪のオーナー、何かよくわからないですね」「僕は“金的あり”でもいいんじゃないかと思っているんです」「後楽園ホールだと昼夜分けて借りなければいけないんですけれど、ディファ有明は一日単位で借りられるんです」「旅費も合わせると、ホイラー一人で1000万円以上かかったと思います」「北岡選手は『やれんのか!』の出場候補にもなっていたんですよ」「フジメグvsMIKU。今年の8月27日の後楽園ホール大会。そのメインでやるはずだったんです」「三崎選手はあの大会のバックステージパスを、お守りにするように、ずっと大事に持っていたんですよ」「PRIDE武士道はあらゆるネーミングを和風にしたほうがいいんじゃないかっていう意見も出ていましたね。信長級とかどうだろうとか」「名古屋でやってた会社は最終的に社員も100人以上になりましたね。その会社の名前が『DEEPインターナショナル』だったわけです」「結局、赤字が5000万円近くいったんじゃないですかねぇ。相場がわかんないから、そんなもんなのかなで払っちゃいましたけど」「いまでも覚えてるのは、夜中に船木さんから電話がかかってきたときのことですよ。すぐに髙橋vs坂田を組んでくれって」

A5判　224ページ　定価=本体1,143円+税

DEEP代表

# 佐伯繁が語る満腹2000年代!

## お買い得な価格で全国書店にて大絶賛発売中だがや!!

発行　株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)
発売　株式会社角川グループパブリッシング
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/

よき妻としてよき母として――
マット界を彩るご夫人方がエレガントに登場！

元気ミセスと充実する特集

# すてきな奥さん2010

これまで本誌では二度にわたり誌面を飾った「すてきな奥さん」特集。今回も元気ミセスたちのまぶしい笑顔をお届けしたいと思います。それでは、思わずコーヒータイムにお呼ばれしたくなるような特集、どうぞお楽しみください。うふふふふ。

!!

結婚、
ブログ
回は
〜。

――いやあ、しなしさん、すてきなお宅

私が勝ち組？
そんなことないですよ、うふふ

まさに格闘セレブ！

## 本誌認定「すてきな奥さん」No.1!!

DEEP女子フライ級王者

# しなしさとこのしなやかで華麗なる生活

**どーだい、この心がホッコリしそうな幸せ家族のすてきなショット！ 07年11月に結婚、そして09年7月に出産を経験した女子格トップファイター、しなしさとこ。そのブログではまさに"勝ち組"とも言えるようなセレブな日常がつづられているのだが、今回はその生活を探ろうとお宅に突撃訪問！ さぁ、さとこ姫劇場のはじまりはじまり〜。**

聞き手／鈴木佑　撮影／金山フヒト　試合写真／平工幸雄

――いやあ、しなしさん、すてきなお宅ですね！

**しなし**　いえいえ、そんなことないですよ、うふふ。

――こちらにはご結婚されてからお住まいに？

**しなし**　はい、そうですね。いまは主人と1歳になる息子の栖庵（すあん）と一緒に住んでます（ニッコリ）。

――幸せそうですね〜。さて、今回は女子格を代表するすてきな奥さんとして、すてきなエピソードを聞かせてもらえればと思います！

**しなし**　こちらこそ、よろしくお願いします！

――では早速なんですが、ご主人とのなれそめから教えてもらえますか？

**しなし**　あはは、なんか照れくさいですね、こういうの（笑）。えーと、最初は共通の友人の誕生日会で知り合ったんです。私はその二日後が試合だったんですけど、「チケットさばかなきゃ」みたいな感じで参加して。

――それはすばらしい商魂ですね（笑）。

**しなし**　そのときに、主人に「試合に勝ったら食事に連れてってあげる」って言われたのがきっかけですね。

――なんでも、それからわずか3カ月でスピード婚したとか？

**しなし**　はい！（ニッコリ）。しかもそのうちの50日間、私はブラジル、彼はアメリカに行っていてすれ違いだったんで、実際に会ってたのは1カ月ぐらいなんですよ。

――え、そうだったんですか？

**しなし**　うふふ、だから結婚って勢いが大切なんですよ（笑）。でも、自分で言うのもなんですけど、包容力のあるいい夫をつかまえたと思いますね〜（しみじみ

## 幸せいっぱい! ミセスしなしのお宅を大公開!!

自宅マンションは3LDK。広々としたリビングの一角にはテデン!と栖庵クンのスペースが。そして日当たりのいいベランダにはしなしが愛でる花々が並び、寝室には結■祝いのラブラブなポスター! ちなみに"栖庵"というすてきな名前は、ご主人がお坊さんっぽい名前にしたいということで命名。

と)。

——あ、いきなりおノロケですね(笑)。そもそもご主人は元プロゴルファーで、ご結婚を機に一線を退かれたんですよね。いまはどのようなお仕事を?

**しなし** もともと主人のほうの家系がパチンコやいろいろなレジャー産業を幅広くやっているので、それ関係の仕事を手伝ったり、そのほかに自分のお店も持ってるので、もの凄く忙しいんですよね。

——は～、ご主人はいわゆる御曹司なわけですね。しなしさんが言うところの〝勝ち組〟じゃないですか!

**しなし** いえいえ、そんなことないですよ～、うふふふふ。

ご主人の第一印象はどうだったんですか?

**しなし** 主人は名前が「光寿」と書いて「こうじゅ」って読むんですけど、その名前がすてきだなって。あとは見た目どおり大きいなって(笑)。190センチ以上あるので148センチの私とはホント凸凹カップルなんですけど。

——ズバリ、結婚の決め手はなんだったんですか?

**しなし** う～ん、やっぱり優しさかな。それにつきます、はい(ニッコリ)。

——ちなみにプロポーズの言葉なんて聞いてもいいですか?

**しなし** まあシンプルな感じですよ、うふふ(ごまかすように)。いやもう、ホントに結婚は勢いが大切だと思いましたね。「あ、この人!」と思ったときにしないとダメっていうか。私、たぶんあのときに結婚してなかったら、いまだに独身だと思いますもん。でも、私の自由奔放な性格を知ってる佐伯(繁DEEP代表)さんなんかには、「まぁ、もって1年だな」とか言われてたんですけどね(笑)。

——それも失礼な話ですね!(笑)。

**しなし** でも、もともと主人も格闘技にまったく興味がなかったですしね。

——あ、そうなんですか?

**しなし** だって最初、主人が私たちのキューピッド役になった友人に「誰か紹介してよ」って頼んで「格闘技やってるコがいるよ」って言われたときに、「俺、格闘技やってるヤツなんて絶対イヤだよ」とか言ってたらしいですから(笑)。

——ハハハハ! ご主人は結婚するときにしなしさんに引退するようには言わなかったんですか?

**しなし** それはまったくなかったです。もう「やりたきゃやれば」みたいな感じで。そもそも、ダメって言われるような人だったら私も選ばなかったですし。

——最初からしなしさんは結婚しても格闘技は続けていきたい、と?

**しなし** そうですね。いまはまだ子育てで練習もできませんけど、出産してから身体も元に戻ったし。まぁ、若干皮は伸びましたけど(笑)。

——でも、ブログでプールに行ったときの水着姿をアップしてましたけど、見事に腹筋が割れてたのには驚きましたよ!

**しなし** ホントに何もしてないんですけど、あれを見た青木(真也)くんからも「練習、始めたの?」って連絡があって(笑)。主人は体質なんじゃないかって言ってましたね。まぁ、子どもをおんぶしたりしてるといいトレーニングになりますから。

——なんでもかなりの難産だったとか?

**しなし** もう、チョ～難産でしたよ!(キッパリ)。切迫早産で産む1カ月前から入院してたんですけど、もう普通分娩ができない状態になっちゃったんですよ。そ

れで出産のときに意識が朦朧として、私、あくびが出てきちゃったんですね。それ

**しなし** 普通に「結婚するよ」って言ったら、「は!? いつ? 誰と?」って矢継ぎ

すかね。だから健康状態が凄く気になるんですよ。いまはとりあえず減量に成功

## 結婚してから「角がとれた」ってみんなに言われますね（笑）

れで出産のときに意識が朦朧として、私、あくびが出てきちゃったんですね。それは脳に酸素がいってない証拠なんですけど、子どものほうも心拍数が下がってきちゃって、結局は全身麻酔で帝王切開になって。

――うわ～、そんなに危険な状況だったんですね。

**しなし**　もう、出産はいままで闘ったどんな相手よりも強敵でしたね～（しみじみと）。で、産まれたばかりの子どもを見たら主人にそっくりで、ちっとも私に似てないんですよ（笑）。まぁ、やっぱりお腹を痛めて産んだ子なので凄くかわいかったですけどね（ニッコリ）。

――それから、出産しても現役は続行すると会見で発表して。

**しなし**　はい！　なんか女子格自体が、結婚や出産したら辞めるみたいな感じになってるのが凄くイヤだったんですね。それだったら私が新しい道を作れば、そのあとも続きやすいかなって。

――なるほど。

**しなし**　もちろんそれも主人や家族、周りの人たちが応援してくれるからこそなんですけどね。そこはもうホントに感謝してます。だから、環境としては恵まれてるんですけど、試合するならお客さんに見せられないレベルなのはイヤなので、しっかり準備してからDEEPのリングに上がりたいですね。

――ちなみに佐伯さんにはどういうかたちで結婚を報告したんですか？

**しなし**　普通に「結婚するよ」って言ったら、「は!?　いつ？　誰と？」って矢継ぎ早に質問して驚いてましたね（笑）。でも、佐伯さんには結婚する前から紹介してましたし、結婚してからも主人も含めて一緒に旅行に行ったりしてるんですよ。

――へ～、家族ぐるみのお付き合いなんですね。

**しなし**　そうですね。佐伯さんは独り身ですけど（笑）。

――ハハハ！　しなしさんにとって佐伯さんはどういう存在なんですか？　なんか一時期は「付き合ってんじゃないか疑惑」もありましたけど（笑）。

**しなし**　あははは！　いやもう、なんかお父さんというか、家族みたいなもんですかね。だから健康状態が凄く気になるんですよ。いまはとりあえず減量に成功しましたし、リバウンドに気をつけて長生きしてほしいですよね。でも、私、佐伯さんに凄く変わり者扱いされるんですよね～。まぁ、佐伯さんにかぎらずなんですけど（笑）。

――そういう声に対して、しなしさんも自覚している部分はあるんですか？

**しなし**　いや、最初は自分の言ってることは普通のつもりだったんで、「何言ってんだろう、この人たち？」って感じだったんです（笑）。でも、いまはいろいろ言われて多少は変わったりもしたのかな。

――結婚してから自分の性格面の変化って感じます？

**しなし**　なんか、みんなには「柔らかくなった、角がとれた」って言われますね（笑）。たぶん、いまは格闘技をやってないからピリピリしてないっていうのもあると思うんですけど。うん、人に優しくなったかもしれないですね。前は自分中心だったのが、少しは他人にも関心を持つようになったっていうか。

――それはよかったですね（笑）。さっきご主人に少し話を聞いたら、夫婦ゲンカも全然ないし、しなしさんも普段から怒ったりしないって言ってましたね。

**しなし**　うふふ。ケンカになっても「キー！」ってなることはないですよ、子ども

しなしの試合ではセコンドによき弟分（？）の青木の姿が。しなしいわく「お客さんに対する考え方は同じかなって思います」。また、「あの二人はいい意味でマイペースなところが似てますね」と、しなしのご主人

---

**佐伯繁DEEP代表が語る**

### しなしさとこ伝説

　プロモーターとして彼女と接してきて思うのは、とにかくプライドが高くて負けず嫌いってことだね。たとえば雑誌の記事なんかでも、同じ女子選手が自分より大きく扱われてると、もうそれだけで許せないのよ。俺に「しっかりマネージメントして！」ってクレームつけてくるんだから（笑）。

　しなしがDEEPの女子格部門を切り拓いたわけだけど、やっぱりリング上もさることながらその営業能力も凄いんだよね。一人で百枚単位でチケット売っちゃうし、買ってくれた人にヘタな試合は見せられないからちゃんと練習もして、なおかつ試合後には必ず打ち上げをやったりね。そういう意味ではファンを大切にしてるというか、「もっと私を持ち上げて」っていうさ（笑）。

　俺はしなしと仲いいって言われるけど、アイツとのケンカの数はそりゃハンパなかったよ。たとえばマッチメイクに関しても「いまはおまえの出番じゃないから、そういう流れじゃないから」って説明しても納得しないからね。

　で、一番ムカつくのは電話なんだよ。こっちが「いいかげんにしろ！」って叱ると、普通なら「すいません」ってシュンとなるところを、アイツは話の途中で「ガチャン！」って切るんだから（笑）。まあキ○○イだな、あれは。実際、青木真也と仲いいんだよ、ある部分では似た者同士。

　でもよかったよね、いい人と結婚できて。しなしは旦那の包容力にホレたって？　なんか噂だけど、「何カラットのダイヤがいい」「マンション買って」とか結婚の条件があったらしいよ（笑）。まぁ、それを含めての包容力ってことなんだろうな。

　なんにしろ彼女は女子格というジャンルの立役者だし、ちゃんとした復帰の舞台は用意してあげたいよね。でも、女子の選手なんかはプロ意識という点ではしなしから学ぶところも多いと思うよ、うん。まぁ、一応最後はこうやってフォローしとかんと、あとで文句言われるからな（笑）。

# え、いまの生活ですか？ 凄く幸せです！ でも私、満足しない女なんで（笑）

にマネされたらイヤだし、なるべくおだやかなほうがいいですよね（ニッコリ）。

——では、そんなおだやかな日常の具体的なスケジュールを教えてください！

**しなし**　えっと、毎朝主人の出勤に合わせて7時くらいに起きて、朝食を食べさせてから洗濯や掃除を片づけて、それから栖庵を公園に連れていきます。で、2時間くらいしてから家に帰って一緒にお風呂に入るんです。もう、砂場とかですぐに汚れちゃうんで（笑）。それからお昼を食べて、栖庵を13時から夕方までお昼寝させて、そのあとに夕食の買い物に行って。だいたいはそんな感じかな。

——なるほど。でも、しなしさんのブログを見たところ、ちょくちょく銀座にお出かけしていて非常にセレブな日常だなって思ったんですけど（笑）。

**しなし**　ああ（笑）。そうですね、銀座には行くことが多いですね。たまに栖庵を実家や義理のお母さんに預かってもらって。

——しなしさんくらい格闘セレブになるとプレイスポットは銀座なんですか？

**しなし**　というか、昔からそうなんですよ。実家もいまの家も日比谷線沿線なんで、買い物となると銀座が多くて。

——へ～。しかも凄くおいしそうなものばっかり食べてますよね？

**しなし**　うふふ。だから私、痛風になるんじゃないかって（笑）。一時期、足の甲が痛くなって、主人にも「絶対、痛風だよ」って言われちゃったんですけど。

——佐伯さんのこと言えないじゃないですか（笑）。でも、それも日々の息抜きみたいな感じなんですかね？

**しなし**　そうですね。子育てばっかりだとイライラの原因にもなるので気晴らしというか。あの、いまは銀座の三越にも託児所があって子どもを預けられるんですよ。それでちょっと気分転換にゆっくり食事したり買い物したり。

あ、お洋服も凄く買ってますよね？

**しなし**　いやもう、洋服が大好きなんですよ～。でも買い物上手になって、よけいなものは一切買わなくなりましたけど。

——でも、結婚してからのほうがご自分にかけるお金は増えたんじゃないですか？

**しなし**　……増えましたね（笑）。だから主人には「いらないものは捨てろよ」って言われるんですけどね。

——格闘技会場でもしなしさんはいつもエレガントなので目立ってますよ（笑）。

**しなし**　そういえばDEEPで真樹日佐夫先生と一緒に写真を撮らせてもらったんですけど、それを見た知り合いに「ハデさじゃ真樹先生に負けてなかったよ」って言われました（笑）。

——ハハハハ！　あ、ここに飾ってあるのは結婚式の写真ですよね？　この衣装もまた凄いハデですね～。

**しなし**　あ、これですか？　主人が在日3世なので、二回目の結婚式でチマチョゴリを着たんです。

——え、式を二回挙げてるんですか？

**しなし**　はい（ニッコリ）。結婚式って凄

しなしといえば有名なのが年賀状の特撮！　毎年セーラー服のコスプレから写真のような極妻ばりの艶姿など、そのたくさんすぎるサービス精神で見るものを驚かせてくれるのだ。さぁ、来年の年賀状はどんなことになっちゃってるのか？

く楽しいんですよ～、何度でもやってみ

主人をチラッと見ながら）。

江ちゃんは帰ってきたんですよね？

**しなし**　ファンクラブというか、私を中

く楽しいんですよ～、何度でもやってみたくなるっていうか。

――なんだか神田うのみたいですね（笑）。しかし、この衣装は歴史上の人物みたいですね～。

**しなし**　あははは！　私が「頭につける飾りはもっと大きいほうがいい」とか言ったら、さすがに主人に「もうやめてくれ」って言われましたけどね（笑）。でも、結婚式に関しては「好きにしていいよ」って言われたので凄くうれしかったですね。神父さんにも「こんなうれしそうな花嫁さん始めて見たよ」って言われるぐらい楽しかったです、うふふ。

――そんな幸せいっぱいなしなしさんは、いまハマってるものとかあるんですか？

**しなし**　いまはネイルアートですかね。妹がネイルアーティストの勉強をしてるのでよくキレイにしてもらって。あとはガーデニングですね。毎日お水をあげて、キレイな花が咲くとうれしいんですよ。息子にも花を見て「キレイだね」って言えるようになってもらいたいので（ニッコリ）。

――すてきだな～。ぶっちゃけ、これだけ優雅な生活をしてると周りの女子格の選手にうらやましがられたりしませんか？

**しなし**　どうですかね～、うふふ。そういえば、格闘技をやってる女の人って同じ格闘技の男性が好きですよね？

――ああ、そうなんですかね。しなしさんはそんなことはない、と？

**しなし**　私の父も柔道の道場をやってますし、格闘技をやってる男性はすてきだなと思うんですけど、お互い選手同士だと、いろいろ難しい部分もあると思うんですよ。もちろん友だちとしてはいいんですけどね。やっぱり私は結婚するなら包容力があって優しい人がいいですね（ご主人をチラッと見ながら）。

――なるほど～。しなしさん、いまは人生的に相当満たされてるんじゃないですか？

**しなし**　いや、でも私は満足しない女なので（笑）。

――ダハハハ！　満足しない女！（笑）。

**しなし**　常に向上心があるのはいいことだと思うんですけど、佐伯さんには「キ○○イレベルだ」って言われるんですけどね。

――逆にいまこれだけの生活をしているのに悩みとかはあるんですか？

しなし・さとこ■1977年1月29日、東京都出身。本名・尻無智子。学生時代に柔道で活躍し、卒業後にはサンボに転向。01年12月、スマックガールにてMMAデビュー。以降、修斗、DEEPなどさまざまなイベントに出場。05年11月、スマックガールフライ級王座■得。08年2月、初代DEEP女子フライ級王座獲得。148cm、48kg。

**しなし**　いや、そういうのはとくにないんですけど、常に上を見ちゃうのが……これ、本能なんですかね？

――そんなの知りませんよ（笑）。ちなみに復帰時期とかも考えてるんですか？

**しなし**　ホントは今年したかったんですけど、ファンの方からも「あせらなくていいよ。ただ、ちゃんと帰ってきてね」って言葉をもらってるので、まだ具体的には考えてないですね。そういえば（渡辺）久江ちゃんは帰ってきたんですよね？

――復帰しましたけどDEEPには上がってないですね。

**しなし**　もう久江ちゃんも三十路とかですよね？　やだ～、私、年明けの1月で34歳になるんですよね～（しみじみと）。

――ハハハハ。ちなみに久江さんとやったDEEP女子ライト級王者決定戦（06年8月4日）は女子格史上に残る試合でしたけど、やっぱり思い出深い一戦だったりします？

**しなし**　そうですね。結果的には負けちゃったけど男子の試合も食ったかなって。まぁ、私的には「なんでセミなの？」「メインじゃないの？」って感じだったんですけど（笑）。

――さすがです（笑）。しなしさんはいまの女子格を観てて思うところはありますか？

**しなし**　ちょっといろいろ厳しい部分もありますよね。また何か言うとあれなんですけど……（苦笑）。

――波風が立たない程度で一つ（笑）。

**しなし**　やっぱり若いかわいいコは出てきてるけど、それと実力が伴うかどうかは、また別の話ですよね。それにただ強いだけじゃなくて、興行なのでチケットも売らないといけないですし。

――しなしさんは手売りの枚数が女子の中ではズバ抜けてたって耳にするんですけど、どういうルートが多いんですか？

**しなし**　ファンクラブというか、私を中心としたサークルで「しなしクラブ」っていうのがあるんですよ。その仲間だったり、あとは父のつながりや、地方でも雑誌を見たっていう方にも来ていただいたり。

――枚数でいうとどのくらい？

**しなし**　う～ん、だいたい200枚とかですかね。

――200枚！　それ、新宿FACEだったら3人に一人はしなしさんのお客さんじゃないですか（笑）。

**しなし**　いえいえ、うふふふ。

――いま、注目してる女子格の選手はいます？

**しなし**　やっぱり（石岡）沙織ちゃんとか（瀧本）美咲ちゃんとかは、一緒に練習してたコなんで頑張ってほしいですよね。主人の別荘が箱根にあるので、合宿みたいな感じで一緒に行ったこともありますし。

――しなしさんの別荘で合宿ですか！　どうですか、もういっそのこと格闘技のスポンサーになりませんか？（笑）。

**しなし**　あははは！　でも、のちのち私も佐伯さんの役に立つようなことを何かやりたいんですけどね。まぁ、引退してからの話ですけど、そうすれば私も営業とかでいろいろ動けると思いますし。あの、やっぱり私は格闘技が大好きなんですよね。負ければクサったりもしますけど、格闘技をやってたからこそこれだけの出会いもあったし、そのおかげで主人とも出会えたと思いますしね（ニッコリ）。

――いやぁ、やっぱりしなしさんはすてきな奥さんですね～。そりゃ笑いも止まりませんね（笑）。

**しなし**　あははは！　そんなことないですよ、うふふふ。

**【10年11月1日／神奈川県・しなしさとこのお宅にて収録】**

専門誌初登場！

# “マッドネス”の妻

船木誠勝夫人

# 船木いづみさん with ライアンくん

「すてきな奥さん」といえば、ぜひ取材したかったのが船木夫人だ。ヒクソン戦直前という絶妙なタイミングで船木誠勝と結婚したといういづみ夫人。はたしてその後、船木誠勝とすごした壮絶な舞台裏とは？　そしてライアンくんの“船木誠勝ごっこ”にも注目!?

聞き手／小松伸太郎（THE PEHLWANS）　撮影／笹井孝祐

## 結婚したのはヒクソン戦の前なんです。「死ぬかもしれない」と言うので

――いづみさん！　早速なんですが、まず船木さんとのなれそめを教えていただけますか？

**いづみ**　ええっと、わかりました（笑）。あのー、共通の知人がいたんですよ。監督さんなんですけど、その方が劇団を持っていまして、あるとき、「観に来ない？」って誘われたんですね。

――そういえば、奥さまも舞台女優さんだったんですよね？

**いづみ**　そうです。ただ、私はその劇団を観たことがなくて初めて稽古場に観に行ったら、そこに主人も来ていて。それが初めての出会いですね。

――ちなみに第一印象はどうだったんですか？

**いづみ**　凄く悪かったですね（笑）。

――そんな、ひどい（笑）。

**いづみ**　私は最初、劇団員の人だと思ってたんですよ。みんな通し稽古前でバタバタと忙しく動いているのに、一人だけうちわをバタバタと扇いでいるので、「なんなんだ、この人は？」って思って（笑）。

――感じ悪いなぁ、と（笑）。奥さまは船木さんをご存知ではなかったんですか？

**いづみ**　その監督さんからは、そういえばちょっと聞いたことはあったなぁ……と、あとから思い出したんですけど、まったくプロレスや格闘技には興味もなかったので、「ああ、そうなんですか」みたいな感じでしたね（笑）。

――さっぱり興味なしでしたか（笑）。

**いづみ**　そういえば、私は接骨院でアルバイトをしていたことがあったんですよ。そこの先生はもともとミサワ接骨院の先生で。

――ああ、新日本プロレスのメディカルトレーナーをやってらっしゃる三澤威さんの。

**いづみ**　はい。その先生からは、「今日、ヒロ斉藤さんと飲みに行くんだけど、一緒に行かない？」って誘われたことはあったんですけど。

――凄いお誘いですね（笑）。

**いづみ**　でも、まったく興味もなく知らないのに行っても失礼だと思ったので、お断りしたんです。

――それはもったいない！　じゃあ、船木さんが格闘家だと紹介されたときはどう思われたんですか？

**いづみ**　格闘家っていうのがなんなのかわからなかったんですよ。

――どういう職業なのかわからない（笑）。

**いづみ**　はい。K-1とかも当時はやっていたと思うんですけど、知ってはいても観たことはなかったですからね。

――じゃあ、船木さんから交際を申し込まれたときはどう思われたんですか？

**いづみ**　「えっ？」みたいな感じです。（笑）。

――でも、船木さんに惹かれるところもあったわけですよね？

**いづみ**　そうですね。真面目だったんで。いろんなことに真面目に取り組むところはいいなと思いましたけど。

――なるほど。実際に船木さんがリング上で闘っている姿をご覧になって、どう思われました？

**いづみ**　いや、よくわからなかったですね。技もルールもわからないので、わけがわからなかったですねえ。それに、なんかパンクラスって独特じゃないですか？

――独特でしたね。

**いづみ**　みんながシーンとしながら観ているっていうか。

――まあ、固唾を飲んで見守るっていう雰囲気でしたよね。

**いづみ**　宗教的な雰囲気がありましたよね。しゃべりたいんだけど、しゃべったらいけないみたいな空気が流れていて。

――当時はそんな雰囲気がありましたね。

**いづみ**　だから、何がおもしろいのかもわからなかったです。

――バッサリですね（笑）。ご結婚されたのはいつなんですか？

**いづみ**　ギリギリ99年ですね。ヒクソン（・グレイシー）戦が決まったときだったと思います。

――おお！　なぜ、そのタイミングだったんですか？

**いづみ**　船木はヒクソン戦で死んでしまうかもしれないぐらいの勢いで臨んでいたんですよ。

――死を覚悟していた、と。

**いづみ**　はい。そこで仮に死んでしまったら、夫婦じゃないとバラバラになってしまうじゃないですか？　「一緒のお墓に入りたいね」っていう話をしていたので、そのためには結婚しないとっていうことで、急きょ入籍したんですよ。

――船木さんはヒクソン戦のときはそこまで思い詰めていたんですか？

**いづみ**　本当に大変でしたね。「もう、こんな思いをするのはいい」って思いました。だから、辞めるっていう発表をいきなりしたときはホッとしましたね。それと同時に、「本当に死んでしまうんじゃないかな？」っていう不安もありましたけど。

――試合が終わってからですか？

**いづみ**　はい。だから、家に帰って二人っきりになるのが凄く怖かったんですよ。それを高橋（義生）さんが察してくれて、試合の当日は家まで送ってくれたんですけど、「ずっと一緒にいてください」って言いたかったんですがいつか高橋さんもおうちに帰さないといけないし…（笑）。

――そりゃそうですよね（笑）。二人っきりになったときはどんな感じだったんですか？

**いづみ**　意外とそのときはホッとしたみ

日本格闘技の歴史の1ページである船木vsヒクソン戦。「一緒のお墓に入るために入籍した」という話は、船木の覚悟を思わせると同時に、いかにも船木らしいエピソードである。しかし、試合後はいづみ夫人もどれだけホッとしたことだろうか

たいでしたね。なんとなく緊張の糸が切れたみたいな。それが意外でした。

――では、恐れていた事態にはならなかった、と。

**いづみ**　はい。ただ、私にとってヒクソン戦の壮絶さはトラウマで、のちに「復帰しないんですか?」って聞かれるたびに、心が痛い、胸が痛いという感じでしたからね。

――奥さまも極限状態だったんですね。引退後、船木さんは俳優の道に進まれましたけど、パンクラスを辞められたあとは、俳優業一本で生活されていたんですか?

**いづみ**　そうです。

――その頃は生活の状況はどうだったんですか?　のちに復帰されたあと、『DREAM・6』で船木さんが工事現場で働いていたという煽り映像が流れて、衝撃を受けたんですけど。

**いづみ**　本当に苦しかったですね。みんなからは悠々とした生活をしているんじゃないかって思われていたみたいなんですけど、実際はそうではなかったですから。

――俳優のお仕事はあまり来なかったんですか?

**いづみ**　やっぱり、身体が大きいから、ほかの役者さんと大きさが見合わないわけですよね?　そうすると役柄も限定されちゃうんですよ。たとえば、サラリーマンの役をやりたくても、大きすぎちゃうし。

――あんな身体をしたサラリーマンもなかなかいないでしょうからね(笑)。

**いづみ**　だから、ほかの役者さんに近づかなきゃっていうことで、もの凄いダイエットをしていましたね。二回ぐらい倒れたこともありますから、糖分が足りなくなって。

――ええ!?　そんなに激しい減量をしていたんですか?

**いづみ**　現役を辞めてからのほうが食事制限はじつは厳しかったんですよ。

それだけ真剣に俳優業に取り組んでいたっていうことなんですね。

**いづみ**　真剣に取り組んでいましたね。現場に行くと、「真面目なんですね」って言われることが多かったですから。

――船木さんらしいです。それで、07年の大晦日に現役復帰されましたけど、そのときはご相談とかあったんですか?

**いづみ**　相談はなかったですね。「復帰しようと思う」って。私もあんまりそのへんの記憶が定かじゃないんですけど、もの凄く驚くっていう感じでもなかったんですよ。たぶん、あの頃は柴田(勝頼)選手のコーチをしていて、ひさしぶりに身体を動かすのが楽しかったみたいなんですよね。その姿を見ているので、「やっぱり、この人はそういう星のもとに生まれたんだな」って思って。

――反対する気持ちはなかったですか?

**いづみ**　私が反対してもやるときはやるかなって(笑)。

――確かにそうですね(笑)。でも、ヒクソン戦のときに凄いナーバスな状態だったとおっしゃっていたじゃないですか?　その生活にまた戻るのかっていう不安はありませんでしたか?

**いづみ**　たぶん、恐怖感はありましたね。でも、だいぶ薄れていたんですね、ハハハハ!

――忘れていたというか(笑)。

**いづみ**　うん。いろんなことがありすぎて(笑)。まあ、自分たちも人間的に成長しているし。

――でも、ケガとか心配じゃありませんでしたか?

**いづみ**　いや、それが一番心配でした。大ケガしなければいいなって。でも、あんまり「心配、心配」って言うと、主人が日々やっていることを信じてないのかなっていう気もするし。

## “マッドネス”の妻

――ああ、そこは微妙なバランスですね。

**いづみ**　そうなんですよお。

現役に復帰されてからは、食事も格闘家仕様に戻されたんですか?

**いづみ**　もともと、主人は自分で作るのであまり変わってないですね。ただ、プロレスに復帰してからはある程度脂肪をつけないといけないので、多少手料理を食べてくれるようになりました。

――え?　それまで手料理を食べてもらえなかったんですか?

**いづみ**　日々制限しているので、なんか作ってもちょっと迷惑って感じになりますね(笑)。

――それは寂しいというか、作りがいがないというか。

**いづみ**　新婚の頃はそうでしたね。主人から言われたものを用意するんですけど、何か一品、オリジナルのものを加えたいじゃないですか?

――新妻としては当然ですよね。

**いづみ**　最初はよかったんですけど、「これがちょっとよけい」みたいな感じで言われるんですよ。

――ショックですね、それは(笑)。

**いづみ**　自分で食べる量を設定しているので、オーバーするって。「毎日手料理を食べてもらうことができない人なんだ……」って思いましたけど。でも、それも仕事ですからね。

――致し方ない、と。昨年は全日本プロレスでプロレスに復帰されましたけど、その話を聞いたときはどう思われました?

「家族3人の写真を送っていただけますか?」とお願いしたところ、快く貸し出していただいたのかこの写真。雰囲気からすると、巡業中のワンカットかと思われるが、息子のフイアンくんはこういう場所で“巡業ごっこ”のネタを仕込んでいるのであろう

**いづみ**　その前にビッグマウス・ラウドで復帰するっていう話もあったので、自然の流れでしたよね。武藤さんからも凄く必要とされているのも感じたし。

——でも、それから巡業に出る生活が始まって、月の半分ぐらいは家にいないし、不安は感じませんでした？

**いづみ**　やっぱり、ずっと一緒にいた人がいなくなると不安ですよ。ケガも心配でしたし、息子もいますしね。

——お子さんはいつお生まれになったんですか？

**いづみ**　いま5歳なので5年前ですね。

——お名前はライアンくんですよね？　カタカナ表記で。

**いづみ**　そうです。

——船木さんが考えられたんですか？

**いづみ**　いや、主人は漢字の名前を考えていたみたいなんですよ。でも、私は当て字みたいなのが嫌だし、人と違う名前がいいなと思って。以前に富士サファリパークのライオンの赤ちゃんを抱っこしたときに、「こんな赤ちゃんがほしいね」って言っていたことがあったんですよ。

——ほほう。

**いづみ**　だから、私が「ライオンにしない？」って言ったんですけど。

——船木ライオン！

**いづみ**　でも、主人から「ライオンはちょっと……」って言われて。

——勇ましい名前ですけど、さすがに。

**いづみ**　それでまた二人で考えて、ライオンって日本語の発音じゃないですか？

——そうですね。

**いづみ**　そしたら主人が「海外でも通用する発音がいいよ」ってなって、ライオンを英語で発音すると、「オ」と「エ」のあいだの発音なんですよね。じゃあ、「ライエンはないだろうね。ライアンかな？」って。それで字画を調べたら、凄くよかったので、ライアンにしたんですよ。ライアンだったら、アメリカにもいっぱいいるじゃないですか？

——いやぁ、ノーラン・ライアンみたいでカッコいい名前ですよ！　ライアンくんもよく会場に来て、「船木頑張れ～！」って声援を送っていますよね。

**いづみ**　そうなんですよ。パパが負けると悔しくてしょうがないみたいで、悔し泣きですね（笑）。

船木夫妻の生活が落ち着いてきたタイミングで、ちょうど授かったのがライアンくんだといういづみ夫人。「船木を負かした相手は基本的に嫌い」という、会場では全面的にパパを応援するパパ大好きっ子なのである

## 息子はパパが負けると悔しくてしょうがないみたいで、悔し泣きですね

——パパが大好きなんですねえ。

**いづみ**　最初の頃は「なんで負けるんだ！」って凄く怒っていましたね（笑）。だから、対戦していた相手が嫌いになっちゃうんですよ。

——ああ、鈴木みのるさんとか（笑）。

**いづみ**　はい（笑）。鈴木さんのことはずっと嫌いでしたね。でも、いまは組んでいるので、「おかしいな？」って思っているみたいで。最近は声もかけてくれるので、「何、この人？」みたいな感じですけど、「パパと組んでいるからいい人なんだ」みたいな感覚になってきたみたいですね。組む人はいい人、対戦する人は悪い人っていう感じです。

——なるほど（笑）。お父さんみたいに格闘技やプロレスをやりたいとか言いませんか？

**いづみ**　最初の頃は言ってましたね。でも、一回全日本の道場で、「プロレスってこんな感じなんだよ」って投げられたみたいなんですよ。

——なんてことをするんだ！

**いづみ**　それが痛かったみたいで、「痛いからプロレスはやらない！」って言ってますね（笑）。本人は入場シーンとかが好きで、07年の復帰戦のときにマスクを被ってマントを着けて入場してきたのが凄い印象的だったみたいなんですね。それをずっとマネしてましたね。「船木ライアン選手の入場です！」って言って、キッチンから出てきてました。

——ワハハハ！　やっぱり、ああいう派手なシーンは印象に残るんですね。巡業中、お父さんが家にいないと寂しくないんですかね？

**いづみ**　最初は寂しくて泣いていました。「なんでパパがいないんだよぉ」ってポロポロって涙を流して。でも、最近は家で巡業ごっことかしてますよ。

——巡業ごっこ？

**いづみ**　カバンをたくさん持って、「行ってくるね」って（笑）。なんでもパパのマネなんですよ。おもちゃの車に乗って、これは巡業バスだからって（笑）。

——斬新な遊びですね（笑）。最後にお聞きしたいんですけど、奥さまは船木さんに対して、こういうところは直してほしいという要望はありますか？

**いづみ**　う～ん、最近、夜ごはんを食べる時間が早くなってきていて。

——どういうことですか？（笑）。

**いづみ**　息子が幼稚園から帰ってくる時間が、延長保育で6時半ぐらいなんですけど、それに合わせて食べていたんですよ。でも、最近は5時半とかになったりすることがあるんですよね。

——それは早すぎますね（笑）。

**いづみ**　もうちょっと遅めにしてもらえるとありがたいんですけど、お腹が空いているみたいなので（笑）。このあいだも5時すぎにできたときがあって、「食べる？」って聞いたら、「食べる！」って。ドンドン早くなってきたので、せめて6時半とか7時とかにしたいなって（笑）。

——普通の時間に食べてほしい、と（笑）。でも、直してほしいところはそれぐらいで、良き夫という感じですか？

**いづみ**　もちろん。私みたいな人間を支えられるのは主人ぐらいだろうなって思いますし。本当に凄くいい夫です。

——わかりました。では、末永くお幸せに！

【10年11月5日／神奈川県・たまプラーザの喫茶店にて収録】

永田さんと
ゼアッ！

破った魔裟
帰！

## 坂田亘夫人

ご存知、小池栄子さん。本誌115号では夫婦揃って登場。今年4月の新生「ハッスル」の旗揚げ戦も後楽園ホールのバルコニーから見守っていた心優しき奥さんですYO!!

## アントニオ猪木元夫人

元夫人、倍賞美津子さんは新日本30周年記念大会でアントンと一緒にダー！「けっこういいとこ、上がってたんですね」と、リング上が気に入った様子の女丈夫ぶりでした。

## 獣神サンダー・ライガー夫人

ちっちゃい頃の『紙のプロレス』(第18号) では、リバプールの風となった夫との出会いを中心に語ってくれた千景夫人。キューピッド役となった破壊王にまつわるエピソードは必読！

## 青木真也夫人

『DREAM 15』で川尻達也に一本勝ち直後に「結婚します！」と絶叫、ロマンチックが止まらなかった青木夫妻。顔出しは「闇の住人なので(笑)。内緒です！」とのこと。

## 藤波辰爾夫人

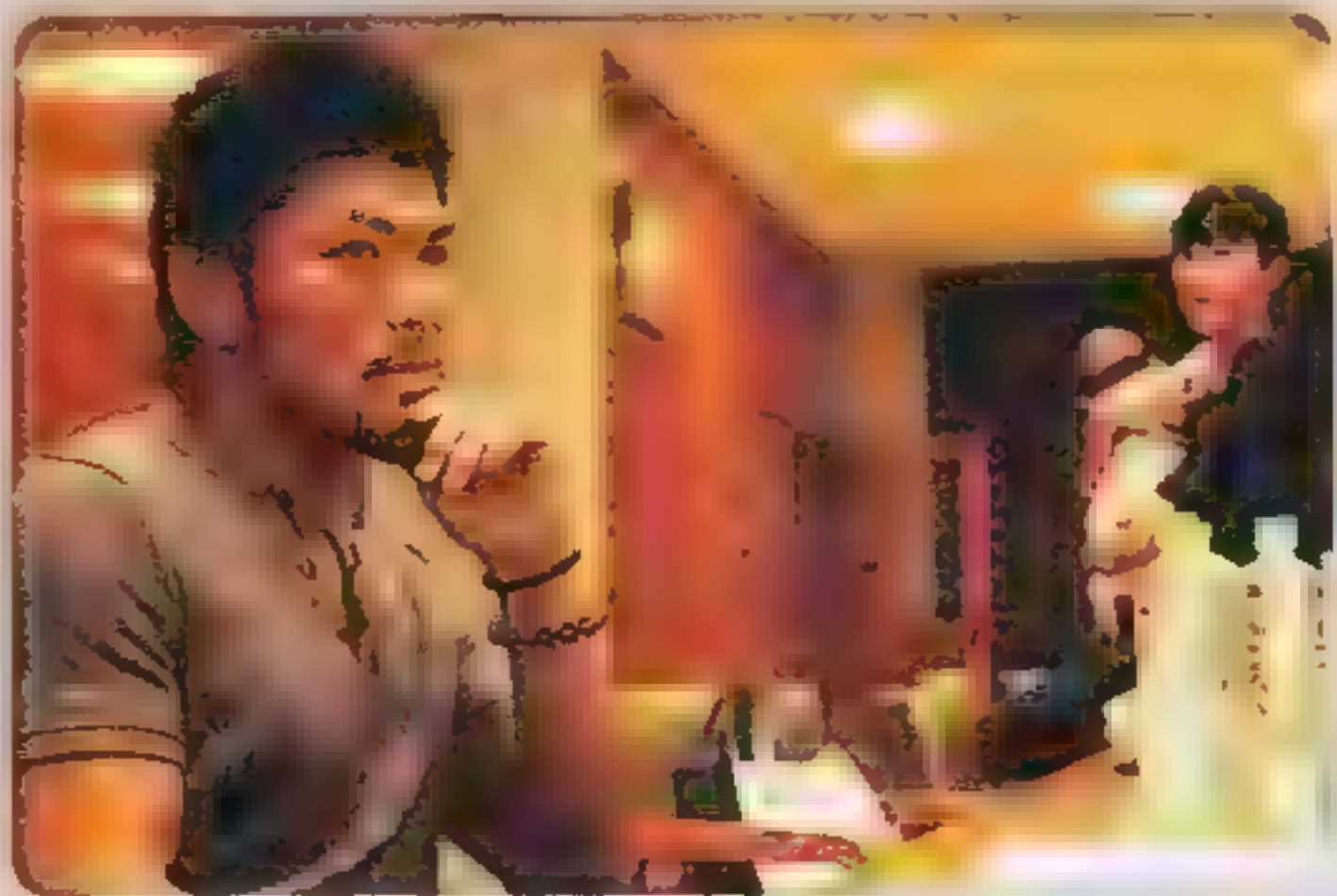
「ちょっと、ゴハン食べにこない？」という自著もある伽織夫人は、「キッチンナビゲーター」なる肩書きも持つドラゴンワイフ。モイスチャーミルクも配合してくれそう？

## ジャイアント馬場夫人

公での発表まで16年を費やした、まさに馬場さんを陰から支えた世話女房である元子さん。現在は馬場の肖像権管理会社の社長として、やっぱり馬場さんを支えている。

# な奥さん写真館

「すてきな奥さんの中の奥さん、出てこいや〜!!」ということで、ここでは闘う夫を支えるご夫人方を大紹介！『ゲゲゲの女房』ばりに献身的な奥さんの麗しい姿にクラクラしちゃってください！

構成／鈴木佑

## 小見川道大夫人

『DREAM 16』の煽りVでサブリミナル的に登場し、その美貌&ナイスバディが話題騒然となった小見川の奥さん。ズバリ言って、全然「クソッタレ！」じゃねえんです!!

## 長南亮夫人

"殺戮ピラニア"の奥さんは元DSE広報の臼杵彩子さん。初期『ハッスル』の広報でもあり、会見で小川直也にハッスルポーズを強要されたときの不満タラタラな表情がキュートでした！

## 永田裕志夫人

得意モノマネが薬師丸ひろ子という智恵子夫人は本誌113号に登場。永田さんとともに「リラクゼーションサロン"enishing"」を運営。YOGA、YOSA、ゼアッ！

## 小島聡夫人、武藤敬司夫人、佐々木健介夫人

これはじつに艶やか！ 左から小島夫人の蘭子さん（元デザイナー）、武藤夫人の久恵さん（元モデル）、そしてご存知、健介夫人の北斗晶さん。武藤社長就任3周年パーティでの一コマでした。

## 魔裟斗夫人

ご存知、タレントの矢沢心さん。内助の功はもちろん、夜遊びで門限を破った魔裟斗に背後から打撃を食らわすことも。立ち技で愛を確認しあう最強夫婦！

元気ミセスは美しい（内舘牧子調）

# 麗しのすてきな

# ファイターの[illegible]に[illegible]あり!

が動いてないのに、いつも
ういうことなの!?」
が深まるの

刃の剣
さて、ここ
雄を紹介しよ
のパッファ
列のでき
ンカは壮絶を
ルでの絞首刑&首筋
り。いわく「自分、一度殺
らね」とか。美人は夕
いるということだろう。

無論、美人妻は新日本系だけにか
い。坂田亘&小池栄子夫妻は言うにお
ず、一世代前の"20世紀最強レスラ
ンボ鶴田夫人の保子さん
人スチュワーデス。とは
田の浮気について「自分の彼が
れしいこと。バレない程度に」と、その大物ぶりを見せた一方で、保子夫人は「浮気したら絶対に家に入れません!」。「やっと人生のチャンピオンベルトを獲ったと思ったら、これからたいへんな防衛戦が[illegible]」（鶴田）との結婚会見のやりとりは有名だ。ちなみにプロポーズの言葉は「二人で世界最強タッグのベルトを獲ろう」。これに応じ、3人の息子を育てつつ、夫の逝去後はジャンボ鶴田基金を設立して頑張る保子夫人こそ、最強レスラー以上の強い女性であろう。

そして、プロレスラーの妻といえばこの方を忘れてはいけない。ジャイアント馬場夫人、元子さんである。猛女との評もあるが、トップの側にいる者が意図的に憎まれ役を買って団体を繁栄させるのは、業界の歴史が証明している。その影響力たるや、倉持隆夫、元日本テレビアナウンサーが自著を上梓する際に「これ、元子さん、読まないよね? 大丈夫だよね?」と心配したほどだ。

馬場さんとは文字どおりのベストカップ
ネェ馬場さん」なるほほえま
自著も上梓している元子さ
これも愛妻家として有名だっ
が自著で言うには、「ねぇね
俺がハワイで見たときは、
って言ってたぞ」とのこと。
さんの本のタイトルは偶然に
言」。

らの大物カップルといえば魔
気風のいいキャラで知られる
しつは繊細でマメなため、完璧主
裟斗も賛辞を惜しまない。しか
リケートな矢沢だけに魔裟斗が
たときにはリングサイドでうつ
ことも。とはいえ「縁起が悪い
のはよせ」と魔裟斗に注意され
ムからは魔裟斗が負けそうになる
と立 ってこう叫ぶ愛妻の姿があったそうだ。「稼いでこーい!」。やはり強い男を支えるのは、強い女で間違いないようだ。

さて、これから注目のすてきな奥さん候補といえば石井慧の奥さん、弱冠19歳の美香さんだ。美香さんはハワイ旅行中に石井と出会って意気投合。その後、いったん帰国したものの「驚かせようとした」と、その一週間後に石井に内緒で再びハワイへ。海を越えてのドッキリ成功をきっかけに付き合い始めた二人は、わずか交際期間3カ月で今年の4月にスピード婚。この美香さんの行動力は、その立ち居振る舞いがファンを戸惑わせがちの石井を、ある部分で凌駕しているだけに、これからどんなすてきな奥さん伝説を残してくれるか非常に楽しみだ。

# 創立10周年記念企画14誌合同

## 年間定期購読キャンペーン実施中!

エンターブレインは今年で10周年を迎えました。日ごろから読者の皆さまにはご愛顧いただき、厚く御礼申し上げます。
なお、このたび創立10周年記念企画といたしまして、エンターブレインが刊行している14誌合同での年間定期購読キャンペーンを実施中です。
下記のとおり4つの特典をご用意いたしました。これを機会にぜひとも年間定期購読をお申し込みいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

## kamiproではもれなく、ノベルティーグッズの特製Tシャツがもらえます!

kamiproの年間購読料は10,340円(送料込み)
特別定価が何回あっても、追加代金はいただきません!

## ここがスゴイ! キャンペーンで得する4つのポイント。

1. 年間定期購読で1ヵ月分サービス
(※週刊ファミ通、コミックビ－スログ キュン!、Fellows!は除く)
2. 特別定価と送料はサービス
3. 各誌ノベルティーグッズ付き
4. 申し込み2誌ごとに図書カード(500円分)をプレゼント

http://www.enterbrain.co.jp/10th/

### 定期購読に関する注意事項

- お申し込みは、弊社通販サイト【エビテン(ebten)】で受け付けております。
http://ebten.jp/eb-store/
- お届け開始号は、エビテンのお申し込みページをご確認ください。
- 商品のお届けは発売日から2～3日ほど遅れる場合がございます。
- 商品のお届け先は、日本国内に限らせていただきます。
- クレジットカードでのお支払いの場合、お届けを開始する月に決済を行ないます。
- 代金引換でのお支払いの場合、商品お届け開始号のみ佐川急便の宅配便にて発送を行ないますので1年分の代金を配達員にお支払い下さい。
- 年間定期購読をご契約いただきますと、中途解約に応じることはできません。
- 当キャンペーンのお問い合わせは、祝日を除く毎週月曜日から金曜日までの正午から午後5時のあいだに弊社カスタマーサポートで受け付けております。 ☎0570-060-555
- その他の注意事項は、申し込みサイトをご確認ください。

## 年間定期購読ができるエンターブレインの14誌&ノベルティーグッズ

※各ノベルティーグッズは変更になる場合がございます。 ※表示価格は、すべて消費税込みで掲載しています。

週刊ファミ通
毎週木曜日発売 定価370円
年間購読料＝18,000円

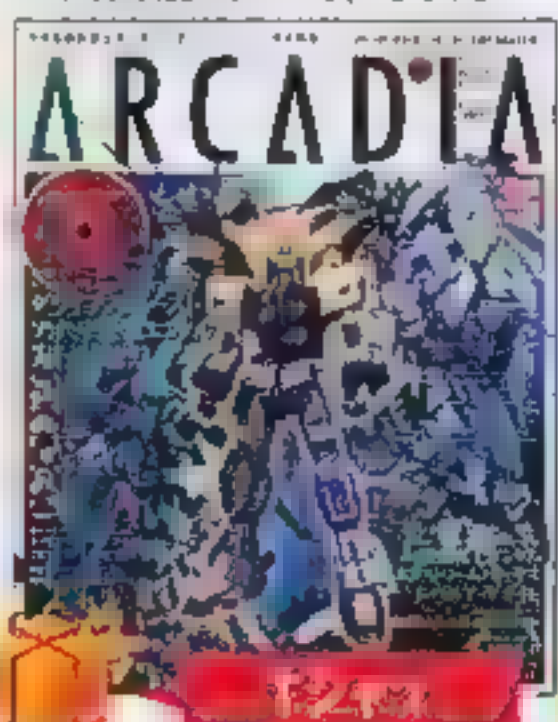
ファミ通DS+Wii
毎月21日発売 定価690円
年間購読料＝7,590円



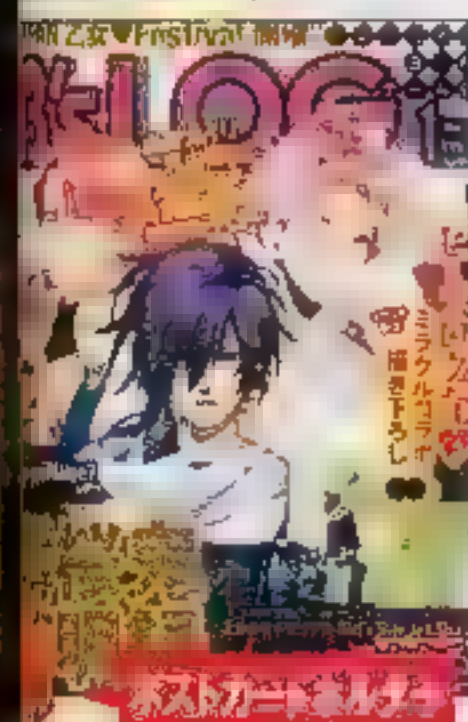
ファミ通Xbox 360
毎月30日発売 定価690円
年間購読料＝7,590円

ファミ通WAVE
毎月30日発売／定価990円
年間購読料＝10,890円



アルカディア
毎月30日発売 定価980円
年間購読料＝10,780円

サラブレ
毎月13日発売 定価720円
年間購読料＝7,920円

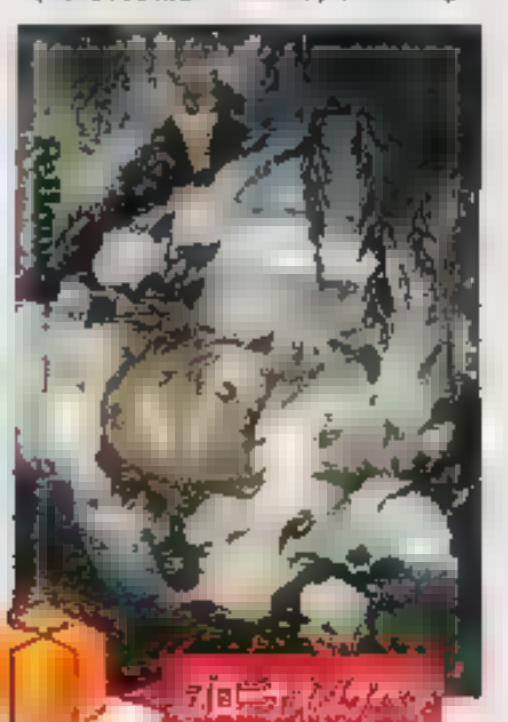
コミックビーム
毎月12日発売 定価540円
年間購読料＝5940円

B's-LOG
毎月20日発売 定価880円
年間購読料＝9,680円

GOLF mechanic
毎月4日発売／定価990円
年間購読料＝10,890円

ファミ通Connect!On
毎月27日発売／定価800円
年間購読料＝8,800円

Kamipro
毎月23日頃発売・定価940円
年間購読料＝10,340円

オトナファミ
11月から毎月20日発売 定価580円
年間購読料＝6,380円

キュン!
偶数月15日発売・定価680円
年間購読料＝4,080円

Fellows!
偶数月15日頃発売 定価680円
年間購読料＝4,080円

“すてきな奥さん”特集の後半は外国人奥さん!

# すてきなワイフ2010

# ガイジン奥さんいらっしゃ～い!

「すてきな奥さん」特集の後半は、なんと外国人奥さん大特集!
題して「すてきなワイフ」。プロレスラー&格闘家を夫に持つ外国人女性とは
いったいどんな人たちなのか?　そんな知られざる私生活をお届けします!

――先月『kamipro』でお子さんを
含めたメレンデスファミリーの写真を掲

ケリー　最初は地元サンフランシスコの

# ギルバート・メレンデスの
# フィアンセはキックボクサー

## メレンデスの婚約者
# ケリー・タイラーさん
## Keri Taylor

**本誌152号でパパになったギルバート・メレンデスへのインタビューページに掲載した
ママの美貌が読者のあいだで評判に！
これは「すてきな奥さん」企画にふさわしいとさっそくアプローチに成功したのだが、
なんと、かわいいママは「すてきなフィアンセ」で、しかも女ムエタイ戦士だった！
あのメレンデスを夢中にさせたケリー・タイラーさんの素顔、そしてメレンデスのプライベートに迫ってみた。**

聞き手＆撮影／石井史彦　構成／堀江ガンツ

——先月『kamipro』でお子さんを含めたメレンデスファミリーの写真を掲載させていただいたんですけど、読者から「ギルバートの奥さんがきれいだ」と評判だったんで、インタビューさせていただこうと思ったんですよ。

**ケリー**　評判だなんて……とてもうれしいです。ギルバートも喜んでくれるんじゃないかな。でも、じつはまだギルバートとは婚約中で妻ではないんですよ。

——あ、そうなんですか。

**ケリー**　子どもも生まれたし、もちろんこれから結婚するつもりですけど、いまはまだフィアンセなんです。

——では、「すてきな奥さん」ではなく「すてきなフィアンセ」ということで（笑）。ギルバートと知り合ったきっかけはなんだったんですか？

**ケリー**　いまから4年前、2006年にギルバートと共通の友人を通して知り合ったの。当時、私はタイボクシングをやってたんだけど、MMAなんてまったく知らなかったんですね。

——えっ!?　ちょっと待ってください、ムエタイの選手だったんですか？

**ケリー**　そう。プロアマ通算5勝2敗の戦績を残してるんですよ（笑）。

——へえ、全然知りませんでした。

**ケリー**　それで友だちが「ケリーはタイボクシングをやってるんだから、MMAファイターであるギルバートと会ってみたら?」という感じで紹介されたの。

——それでデートすることになったわけですか。もちろんギルバートが誘ってきて、交際が始まったんですよね？

**ケリー**　はい。

——ギルバートはどんなふうに誘ってきたんですか？

**ケリー**　最初は地元サンフランシスコのレストランに食事に行くことになったんだけど……、どんどんアルコールを飲ませて酔わせようとしてましたね（笑）。

——ダハハハ！　きたない男だ（笑）。出会った頃のギルバートのイメージはどうでした？

**ケリー**　それまでMMAの試合も観たことがなかったので、「MMAファイター」と言われてもピンとこなかったんだけど、会ってみたらとても優しくて親しみやすくて、魅力的だったの。それにいい身体もしてたし（笑）。

——やはりたくましい男がいいわけですね（笑）。ムエタイをやってたくらいだから、もともと格闘技は好きだったんですか？

**ケリー**　格闘技が好きというより、身体を動かしたかったので、2005年からタイボクシングを始めたんですけど、やってみたらおもしろくて、かなりハマりましたね。それでアマチュアの試合やエキシビションマッチを経験したあと、タイボクシングを始めて1年後にはプロデビューの話が来たんです。

——始めて1年でプロデビューですか。

**ケリー**　しかも相手は14勝無敗の強敵、スプリットの判定で負けてしまったけど、凄くいい試合だったわ。そのほかにもフロリダでシンドウ・クミテが主催していた空手の大会『ワールド・コンバット・リーグ』にも参戦して、2勝1敗の戦績を残していますね。それにギルバートと知り合ってからはMMAの練習も始めたの。レスリングと柔術ね。ただ、ここ1年は子どもを産んだり、練習相手が常に重い相手なのでヒザをケガしてしまって、思うように練習できてないのがちょっと残念です。

——MMAを知らなかったあなたが、ギルバートの試合を初めて観たときはどう思いましたか?

**ケリー**　最初に観たのは、クレイ・グイダとの試合ね（2006年6月9日）。その試合にギルバートは勝って、ストライクフォースのライト級チャンピオンになったの。「ワ〜ッ、ギルバートって素晴らしいファイターなんだ!」って、そのとき初めて認識したんです。それまではノーマルなナイスガイとしか思ってなかったので、本当に驚いたわ。

——そこからさらにトップファイターへと成長していきましたからね。一番最初にギルバートのどんなところを好きになりましたか?

**ケリー**　ファミリーマンで家族を大切にするところ。ダウン・トゥ・アース（地に足がついて現実的でしっかりしている）であること、そしていつも私を笑わせてくれるところ。また、周りにいる人たちへの気遣いとか、どんな人に対しても尊敬の念をもって接するところ、これはチャンピオンになっても全然変わってないの。

## 最初に食事に行ったとき、どんどん飲ませて私を酔わせようとしてたの（笑）

——でも、ボーイフレンドとしてよくても、ファイターと結婚することに不安はありませんでしたか? いつ大ケガするかわからない、リスクの高い職業ですから。

**ケリー**　そんな不安はありませんでしたね。ギルバートは試合に備えていつもハードなトレーニングをしているし、そのスキルもあるし、スマートな闘い方をするから、それほど不安にはなりません。信じてますしね。

——夫を信じている! 素晴らしいです! お互いになんと呼び合ってるんですか?

**ケリー**　私は普通に「ギルバート」。向こうも「ケリー」たまに「カリーアン」かな。そういえば、お互いに「ベイブ（BABE）」って呼び合うこともあるわね（笑）。

——ご両親は結婚相手がファイターであることをどう思っている?

**ケリー**　お父さんは他界してしまってるんだけど、お母さんは格闘技が大好きでギルバートの大ファンなの。いつもギルバートの試合を観ることを楽しみにしてるのよ。いまではギルバートの影響でMMAのファンの一人になってるわ。だから、私たちのことについても、凄く応援してくれているの。

——結婚しようと思ったきっかけは?

**ケリー**　いまは婚約中でそのうち正式に結婚する予定なんだけど……なんでだろう? 一緒に住んでいて、いつもそばにいるので、自然な流れだったんだと思う。お互いに助け合って、尊敬し合える人間になりたいと思ってますね。

——ケージの中のギルバートは荒々しいファイターですが、普段のギルバートはどんな人物ですか?

ケリーさんによると、プライベートでのメレンデスは家族を大切にする優しい父親でとてもフレンドリーなナイスガイだという。ストライクフォース世界ライト級王者にも返り咲き、公私ともに充実した日々を送っているようだ。

ケリー　とてもフレンドリーで、ケージ
りして、楽しい時間をすごしています。た
ードな練習をこなしているチームメイト
っているプレゼントは?

# 彼が引退をしたら家族でいろんなところへ旅行したい。子どもも3～4人はほしいわ

**ケリー**　とてもフレンドリーで、ケージの中みたいにアグレッシブじゃないわよ（笑）。とにかくナイスガイ。私はギルバートの試合を観る前から知ってるからなんだろうけど、試合しか観てない人たちは、普段のギルバートがあそこまでナイスガイだなんて想像もつかないから、驚いてしまうようなんですけどね。

――いまギルバートは、ストライクフォース世界ライト級チャンピオンとして、MMA全体のなかでもトップクラスのファイターになりましたけど、チャンピオンに返り咲いてから生活が変わった部分はありますか？

**ケリー**　ギルバート本人は、家族を大切にし、娘にとってはとても優しい父親であり、誰に対しても偉ぶらない昔のままなんだけど、とにかく忙しくなって私たちとすごす時間が少なくなってしまったの。２年前にジョシュ・トムソンに負けたとき、多くのことを学んだみたいで、その頃からさらに集中して、トレーニング漬けの日々になってますね。でも、いまでも謙遜することをとても大事にしていて、本人は何も変わってないギルバートのままですけどね。

――そんななか、休日は家族でどんなことをしてすごしていますか？

**ケリー**　近くの公園やビーチで、また家族のいるサンタアナへ行ったりして、みんなと一緒に雑談をしながら時間をすごしていることが多いかな。あとは、みんながいるとバレーボールやサッカーをしたりして、楽しい時間をすごしています。たまに気晴らしで、サンフランシスコのダウンタウンにあるクラブとかに行くこともあるわ。

――ギルバートにとって、これまでで最大の闘いはナッシュビルでの青木真也戦だったと思いますが、あの試合前、ギルバートはナーバスになってましたか？

**ケリー**　シンヤとの試合にかぎらず、試合前はいつもナーバスになっていると思う。でも私や周りの人たちから見ると、とても落ち着き払っていて試合の準備ができているって感じさせてくれるの。だから、ナーバスという素振りは一度も見せたこともないし、シンヤとの試合に向けては凄くハードなトレーニングを積んできていたのを知っていたから、本人も自信を持って試合に臨んでいたと思う。

――家族ぐるみの付き合いをしているMMAファイターは誰かいますか？

**ケリー**　娘が生まれる前にベイビーシャワー（子どもが生まれる前に行なうお祝い）をしたんだけど、シーザー・グレイシーのチームメイトはもちろんのこと、AKAのジョシュ・トムソンなどたくさんのファイターがお祝いに駆けつけてくれたの。あと家族ぐるみとなると、ネイト・ディアスと彼女と一緒に食事に出かけたりしてるわよ。

――あなたから見て、シーザー・グレイシー、ジェイク・シールズ、ディアス兄弟はどんな人物？

**ケリー**　ほかのジムと比べても本当にハードな練習をこなしているチームメイトだと思うけど、単にトレーニングのパートナーというだけじゃなく、それ以上に「兄弟」や「家族」を感じさせてくれる存在なんです。みんなでいるといつも笑いが絶えないすてきな仲間たちで、しかも、話す内容がMMAのことばかりっていうのも、彼らしくて微笑ましいの（笑）。ジェイクは昔から仲良しで、とても信頼のおけるお兄さんみたいな存在で、ネイトは凄く優しい心を持ったナイスガイ。ニックのことはそれほど知らないんだけど、とてもすてきな人だと思う。シーザーはコーチとしても人間としても尊敬しているし、私たちは凄く感謝もしているの。

Gilbert & Keri

シーザー・グレイシーのチームメイトは、ともにハードな練習をこなすだけのトレーニングパートナーという関係を超えた「兄弟」「家族」のような存在。そんな"男の絆"と"友情パワー"が、シーザー・グレイシーの強さの源だ。

――ギルバートからもらった思い出に残っているプレゼントは？

**ケリー**　去年のクリスマスにはダイヤモンドのネックレスをもらったし、誕生日にはイエローゴールドのダイヤモンドリングを。いつもジムや、こういうインタビュー取材の手伝いをしてあげているので、私がほしいものはなんでもプレゼントしてくれる、優しい人なの（笑）。

――あなたたちの将来の夢は？

**ケリー**　子どもが生まれる前、二人で将来のことをよく話し合ったの。まずギルバートがファイターとして成功し、引退をしたら自分たちのジムを経営して、余裕ができたら家族でいろんなところへ旅行したいと思ってるの。子どもも３～４人はほしいわ。

――MMAファイターとタイボクサーの子どもですから、将来お子さんをファイターにしたい気持ちはありますか？

**ケリー**　まったく思ってないわ（笑）。ただし、ファイティングでも、勉学でも、またはバレエダンスでも、なんでもいいからパッション（情熱）をもって向かえるものを持ってほしいと思ってるの。それさえあれば、あとは本人たちの自主性に任せるべきだと思ってるから。

――今年の大晦日、ギルバートが日本で試合をするとしたら、日本に行きたい気持ちはありますか？

**ケリー**　もちろん行くつもり。私はすべての試合についていくようにしているので、それが日本でもブラジルでもついていくわよ（笑）。

――では、試合が決まった暁には、また日本でお会いしましょう。

**ケリー**　はい。日本の皆さん、これからもギルバートの応援、よろしくお願いします。

【10年11月4日／電話取材にて収録】

## ベラトールFC継続参戦中も、日本マット界にラブコール!?

日本のリングは
とっても
よかったわ!

米MMAファイターの妻＆マネージャー

# お仕事事情

## ダン・ホーンバックル夫人
# メロディ・ホーンバックル

外国人ファイターの奥さま二人目はダン・ホーンバックルの奥さま、メロディさんだ。メロディさんといえば、ダン・ホーンバックルが戦極に参戦した際に、会見やインタビューに必ず同席し、彼のマネージメントも行なっている敏腕マネージャーなのだ。そんなメロディさんにダンとのなれそめや、マネージャーのお仕事などをうかがった。"格闘家のワイフ道"を読め!

聞き手／大川義之



——本日は"格闘家の妻"という変わった企画ですが、よろしくお願いします!

じゃないかもしれないわね。

——長いあいだ付き合っていたんですね。

人格が変わるんですか?

メロディ　やっぱり完全に別人格になる

——格闘技を生業にしている人って、アメリカでもかなり珍しいと思うんですが、メ

普段は"陽気なあんちゃん"だというホーンバックル。しかし試合になるとキリッとしたこの表情だ。ファイターの妻としては、この切り替えに付き合うのはしんどいと思われるが、長年連れ添ったメロディさんにとっては、もう慣れたものなのである！

—本日は〝格闘家の妻〟という変わった企画ですが、よろしくお願いします！

**メロディ・ホーンバックル（以下、メロディ）** メロディです。こちらこそよろしく！ なんでも聞いてね。

—突然こんな質問で恐縮なのですが、ダン・ホーンバックル選手とはいつご結婚されたんですか？

**メロディ** ダンと結婚したのは……、ええと、2009年の4月20日だったかしら。ちょっと待って……、違うわ。4月21日だったわ。

—昨年なのに忘れちゃってるんですか（笑）。でも、まだまだ新婚さんですねえ。

**メロディ** そうね。でもダンとは11年も付き合って結婚したから、新婚という感じじゃないかもしれないわね。

—長いあいだ付き合っていたんですね。お二人の出会いはどこで？

**メロディ** 初めて彼に会ったのは、夜に外でシャンパンを飲んでいるときだったの。ダンが18歳の頃ね。

—18歳でシャンパンって、さすがアメリカ！ 彼の第一印象は？

**メロディ** 最初の印象は「とてもおもしろい人」ね。試合をしているときと違って、普段のダンって顔の表情を変えずに仏頂面でジョークを言ったりするのよ。でも、たぶん私もそういう冗談が好きだから、気が合うんだと思うわ。

—アツアツですねえ。ダン・ホーンバックル選手は試合とプライベートでかなり人格が変わるんですか？

**メロディ** やっぱり完全に別人格になるわね。いつもは社交的な性格だけれど、試合前に「いま自分は何をしなければならないか」ということに集中し始めると、顔つきも徐々に変わっていくの。相手によって、試合前に練習しなければならないことも変わるし、できるだけ早く試合を終わらせるために何をすべきかを考えて試合モードに入っていくのね。そしてリングで自分の名前がコールされるとき、完全にスイッチが入るの。

—最初に出会ったとき、彼がMMAファイターだってことは知ってたんですか？

**メロディ** （即座に）ノー！ ダンのMMAのプロキャリアは5、6年なのよ。だから彼はそのときファイターじゃなかったの（笑）。出会ったとき、まだ彼はただトレーニングをしているだけの普通の子だった。そのあと二人で準備を進めてプロになったのよ。

—それは失礼しました！ では彼がMMAを始めたときはどう思いましたか？

**メロディ** ダンが最初に試合に出ると言ったとき、私は彼がどれだけMMAをやりたいのか、その思いの強さを見てみようと思ったの。ダンはプロで試合をする前に、トレーニング自体は少なくとも8年以上は続けていたから、私は彼のことをサポートしようと思ったのよ。幸運なことに試合に勝つことができたし、彼は心の底から闘うことが大好きなんだということがわかったわ。

—格闘技を生業にしている人って、アメリカでもかなり珍しいと思うんですが、メロディさんは格闘技は好きですか？

**メロディ** 大好きよ！ 私自身もこのMMAというスポーツを楽しんでるわ。

—でもMMAの試合はとても激しいので、試合でケガすることもあります。大切な人が危険な場で闘うのは心配ですか？

**メロディ** ……そうね。確かにいつもダンが試合をするときは不安で、凄く心配になってしまうわ。だからダンの次の相手が決まると、もうジッとしていられなくて対戦相手のことをすみずみまで詳しく調べるの。相手のファイトスタイルはストライカーなのか、グラップラーなのか。バックボーンはレスリングなのか、柔道なのか、ブラジリアン柔術なのか。それからサウスポーなのか、オーソドックスなのかとか、私にできることを探してダンに伝えるのよ。

—かいがいしいですね（笑）。いまも試合で緊張しますか？

**メロディ** いいえ。試合前も私はロッカールームでずっとダンのそばにいるし、試合中も彼のコーナーにいる。だから彼にはナーバスになるところは見せたくないの。彼の前でもできるだけ自然に振る舞っているわ。ときどきダンが入れ込みすぎているときは、私も不安になるけれど、彼には試合に勝てる能力が充分にあるから、彼を信じることにしているわ。もちろん、試合で傷ついて帰ってくることもあるから、その覚悟も同時にしているんだけれ

## 相手が決まるとじっとしていられなくて 私、相手のことをすみずみまで調べるの

# 特別なことというと、ダンのビジネス的な側面を担当していることかしら

ど……。

——確かにベラトールFCやSRCでも、メロディさんをリングサイドでよく見かけます。

**メロディ**　ええ。ちょっと遠すぎて行けなかった試合が何試合かあるけど、ほとんど彼の試合は会場やリングサイドで見ているわ。最近のベラトールFCでの試合もそうだし、日本のSRCでの試合も二度ほど行ったわ。

——日本に来たときの印象はどうでしたか？

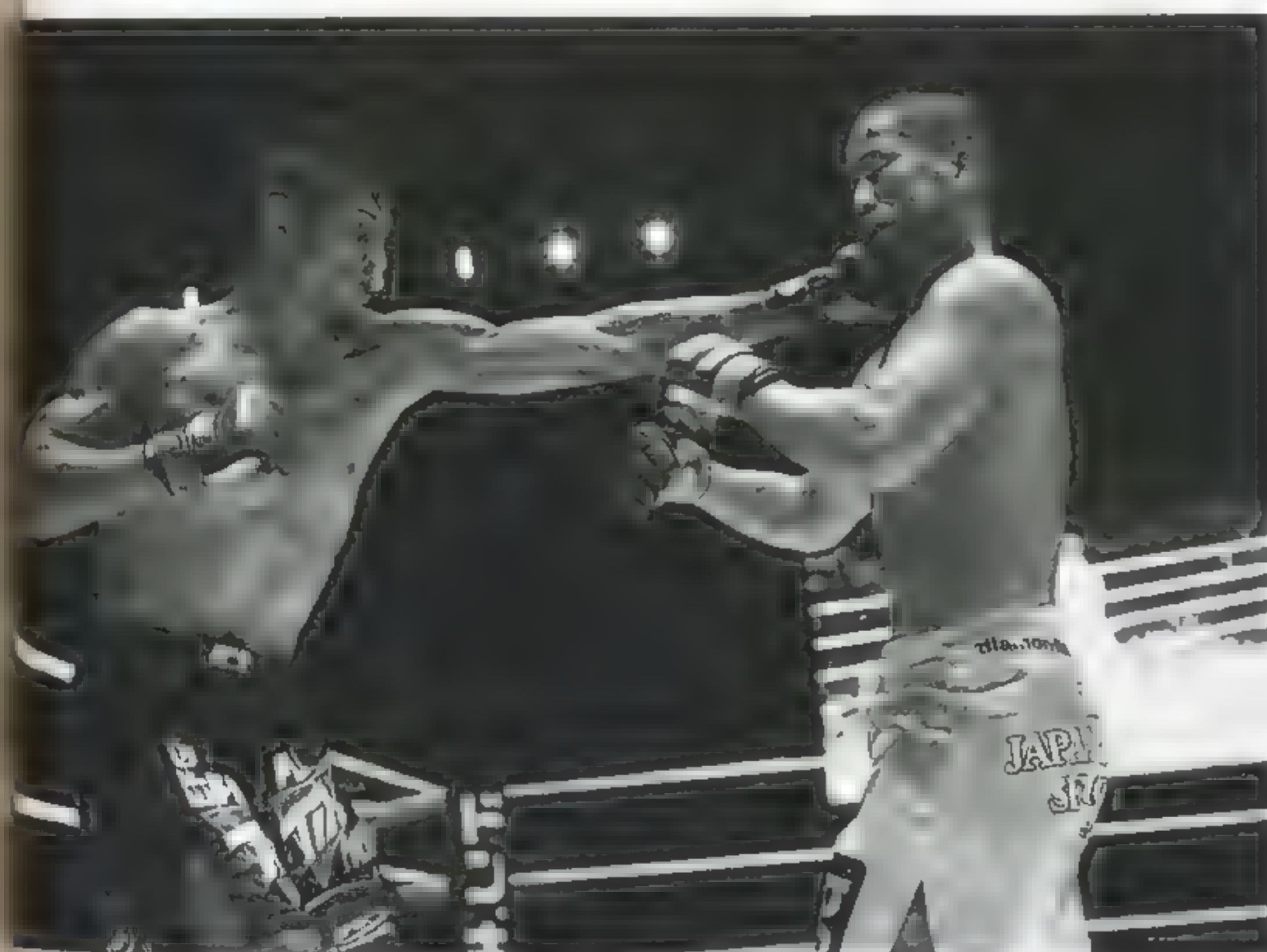
**メロディ**　私は日本が大好きなの！　アメリカに帰ったらよく話しているんだけど、みんな親切にしてくれて人当たりもいいし、アメリカとはかなり違うのよ。だからいつもダンに「どうして早く日本で試合をしないの？」って言ってるわ（笑）。SRCはとても素晴らしいプロモーションで、すべてにおいてキメ細かくオーガナイズされていた。スタッフもみんな謙虚で、会場にも温かい雰囲気が漂っていてすてきだったわね。

——SRCでは最近の2試合で非常にインパクトのある勝ち方をしているので、日本のファンもまた試合を観たがっていると思いますよ。

**メロディ**　もともとダンは10月に試合ができればいいなと思って準備をしていたんだけれど、残念ながら試合自体がなくなってしまったの。ダンもSRCに戻って試合がしたいって言ってるのよ。

——メロディさんはプロMMAファイターの妻として、何か特別なことをしていますか？

**メロディ**　ダンをジムに迎えにいったり、子どもを連れていったり、主婦としての家事もしているけれど、MMAファイターの夫に対して〝特別なこと〟っていうと、ダンのビジネス的な側面を担当していることかしら。彼がトレーニングに集中できるように、スポンサー関係のことで支援をお願いしたり、彼宛てに来ているビジネスメールのチェックや、マネージャーとのビジネス上の商談もするし、練習環境などのこまごましたこと、あらゆることをサポートしているわ。

ダン・ホーンバックルの試合で印象的なのは、やはり戦極での郷野聡寛戦である。UFCから戻ってきたばかりの郷野をハイキックKOで葬った試合は、郷野が試合後長時間倒れ込んでいたシーンも含めて印象深い。

——まさに〝内助の功〟ですね。話は変わりますが、ダン・ホーンバックル選手は、ネイティブ・アメリカンの東部チェロキー族（※注）であることをあきらかにしていますね？

**メロディ**　ええ。チェロキー族のことについては私も勉強中なの。彼はいつも私たちとは異なる〝伝統〟を持っていたけれど、一緒になってからはそれを私も学んでいるのよ。

——ネイティブ・アメリカンの人と通常のアメリカ人は、生活とか考え方においてかなり違うものですか？

**メロディ**　確かに通常のアメリカ人とは少し違うとは思うけれど、私はただその人が何を信じているかという違いだけだと思っているわ。ネイティブ・アメリカンの人は、もっと魂の導きや示しといったものを信じているの。ときどきダンもスピリチュアルな儀式のようなものをしているわ。

——そういえば、SRCでも試合前のリングチェックのときに、ダン・ホーンバックル選手がリングの四隅のコーナーポストのところにお香を焚いてお祈りをしていたという話を聞いたことがあります。

**メロディ**　勉強中だからはっきりとしたことはわからないけれど、彼は〝大いなる力（ハイヤー・パワー）〟からの守護を願い、安全にリングに上がって無事に戻ってくることを祈ったのだと思うわ。じつは数年前に私はある手術を受けたんだけれど、その手術の前にも彼は同じことをしていたの。〝大いなる力〟というのは、安全の護りを生み出すものだから、彼がリングの周りでしていたことも、自らの安全を願っていたのだと思うわ。

——決して相手を呪う〝ブードゥー（呪術）〟の類ではないと？（笑）。

**メロディ**　アハハハハ！　もちろん違うわよ！　むしろ彼は自分のことだけを祈ったんじゃなく、きっと相手の選手の安全も同じように祈っていたはずだわ。彼は決して暴力的な人間ではないし、リングに上がって相手と殴り合うけれども、それは相手選手の人格や肉体を傷つけたいと思

## 東部チェロキー族とは？

**東部チェロキー族**
**Eastern band Cherokee**

ネイティブ・アメリカンの一部族。〝チェロキー〟は「山（または洞窟）に住む者」が語源。ヨーロッパ人が入植し始めた16世紀頃、ネイティブ・アメリカンは北米大陸の東部から南東部のミシシッピ川流域に住んでいたが、18世紀以降は入植に訪れたイギリス人らに対し、自らの住む土地を守るために〝チカマウガ戦争〟と呼ばれる抵抗闘争を続けた。1794年にアメリカ合衆国と休戦条約を結んでからは文明化の道を歩み、周辺の白人との混血も進んだ。だが、1830年代にジョージア州で起きたゴールドラッシュをきっかけに押し寄せてきた白人は、チェロキー族をインディアン準州（現在のオクラホマ州）へと強制移住させようとしたため、これに対してチェロキー族らは〝インディアン戦争〟でもって抵抗戦をしたが、最終的に6万人のネイティブ・アメリカンは強制移住を余儀なくされた。現在の東部チェロキー族（約1万人）は、白人の助けを借り、また山深く隠れて強制移住を免れた者たちの子孫である。

って闘っているからじゃないの。去年、ダ
ンは日本のSRCでゴーノ（郷野聡寛）選

選手たちは、エリート中のエリートである
ことは知っているわ。でも、UFCが作っ

UFCで彼が闘うとしたらその理由は

って闘っているからじゃないの。去年、ダンは日本のSRCでゴーノ（郷野聡寛）選手と闘って、ハイキックでノックアウト勝ちしたけれど、彼は試合後も謙虚さを失なわなかった。むしろゴーノ選手が立ち上がってこないのを見て、戸惑いと驚きを隠せていないようだったわ。もちろん、ダンは試合では判定ではなく、一本やKOを狙って闘うのだけど、あんなシチュエーションを望んでいなかったと思う。あれは彼にとって深刻な瞬間だったし、とても動揺していたわ。

——確かにダン・ホーンバックル選手にとって、あの試合は出世試合でしたけど、試合後はリングで放心状態でしたね。メロディさんは、格闘家の妻として重要なことってなんだと思いますか？

**メロディ**　私が大事だと思うことは……、自分もダンも常に謙虚であろうとし続けること、そして人間として芯の部分でバランスを失なわず、彼と一緒に高いモチベーションを維持することね。格闘家の妻としては、彼が試合に集中できるように、私ができる部分はその部分を引き受けることかしら。格闘家って心配事が多すぎると思うの。スポンサーがいないと困るけれど、それを得ようとして走り回っていたら満足な練習はできない。質の高い練習やいい食事をしようと思っても、仕事もしないと安定した収入は得られない……。そういうよけいな心配を減らす作業は私がするのよ。

——メロディさんはUFCやほかの格闘技イベントも観ますか？

**メロディ**　ええ、よく観るわよ。

——いま花盛りのUFCについてはどう思いますか？

**メロディ**　もちろん、UFCで闘っている選手たちは、エリート中のエリートであることは知っているわ。でも、UFCが作った現在の状況については少し残念に思うわね。というのも、UFCは〝MMA〟というものの価値を奪い去ってしまったと思えるからなの。アメリカの一般的な人は、UFCとMMAの区別がついていない人が多い。だからいろんな人に「私の夫は

ダン・ホーンバックルが戦極に参戦した際、会見やインタビューを含め、常に付き添っていたメロディさん。ダンがマスコミにサインを求められる姿を見て、メロディさんもどこかうれしそうである。10月には日本で試合をするという話もあったそうだが、ぜひまた来日してほしいものだ。

MMAファイターなの」と言っても、「それって、UFCみたいなもの？」と言ってちゃんと理解してくれない。実際にはUFCもただのプロモーションであって、MMAというスポーツの一つにすぎないのだけれど、私はいつもUFCとMMAの違いを〝弁明〟しなければならないのよ。それにUFCって〝スポーツ〟というよりも、

# UFCで彼が闘うとしたらその理由はファイトマネーがいい、ということね

〝相手を傷つけるもの〟というイメージがあるでしょ？

——最近ではスポーツ的なイメージを作ろうとしてますけど、なかなか浸透してないんですね。そんなUFCで闘う旦那さまをいつか観たいですか？

**メロディ**　私が思うに、いつかダンはUFCに行くと思う。いまでも、SRCやベラトールFCは金銭面や待遇面でも、とてもよくしてくれているわ。けれども、彼には養うべき家族がいて、経済的な面について常に不安を抱えている。だから、UFCで彼が闘う理由は〝ファイトマネーがいいから〟ということだけね。来年からUFCは、WECと合併するという大きな変革を行なうけれど、それはアメリカにおけるUFCの独占状態をより一層加速させることになると思う。MMAファイターの数はもの凄く多いのに、プロモーション自体はどんどん数が減っているでしょ？　UFCが有力なライバル会社をどんどん買収して、MMAというスポーツを奪ってるんだと思うわ。日本には独自性のあるMMAのプロモーションがいくつもあってそれが認知されていると思うけれど、アメリカではUFCがスポーツの名称だと思われてるのよ。

——日本でもK-1とかPRIDEという言葉が格闘技の総称のように思われる傾向はありますけど、確かにUFCは選手個人の個性よりも、〝UFCファイター〟として観られることを意識したPRを行なっていますね。

**メロディ**　有名すぎるイベントがスポーツの代名詞になるということは、どこにもあることかもしれないけれど、アメリカではUFCがとても巨大な存在だから心配なの。日本に行ったときにとても驚いたのは、柔道や空手などの発祥の地だからか、観客がMMAをちゃんとスポーツとして理解して観ているってこと。日本ではリングで選手が出血してもそのままにはしておかないでしょ？　だから私は日本が大好きなの！　でも、アメリカでは違う。血が出てもほったらかしで、観客は酒に酔ってただギャアギャア騒いでいるだけ。あんなのスポーツじゃないわ！　MMAは〝ミックスト・マーシャル・アーツ〟と呼ばれる〝アート〟なのよ。

——では、ダン・ホーンバックル選手のMMAファイターとしてのゴールはどこでしょうか？

**メロディ**　……そう聞かれれば、ファイターであれば誰でも最終的な目標は「いつかUFCで闘うこと」って言うと思うわ。だって、UFC以外のプロモーションのことなんて誰も知らないんだもの（笑）。

——なるほど！　では最後に日本のファンにメッセージをお願いします！

**メロディ**　ダンも私も日本が大好きなの。できるだけ早く日本でまたダンの試合が組まれればいいなと思っているわ。そのときは、皆さんゼッタイに観に来てね！

——楽しみにしてます。本日はどうもありがとうございました！

【10年11月3日・電話取材にて収録】

# 「OH! サスケサンハ、タダノバカジャナイネ、カンペキナバカネ!」

## ザ・グレート・サスケ夫人
# 村川メリーさん

**ちっちゃい頃の『紙プロ』からこんな企画を発掘! 我らがサスケ先生のメキシコ人の奥様、メリーさんが15年前に本誌に登場していたのだ。ここではラ・ケブラーダばりにアクロバチックな対談を再録、その情熱的なムードを感じろ!**

聞き手／山口日昇　撮影／伊藤モトイ　構成／鈴木佑

——今回はですね、「最近、サスケ選手が出ないので寂しい」という読者の意見が……。

**サスケ**　おお!

——全然ないんですよ（笑）。

**サスケ**　んあ〜。

——で、あまりにもうれしくなったんで、今日は来てあげました（笑）。

**サスケ**　ありがとうございます（笑）。

今回は「すてきな奥さん」という特集なので、ぜひともメリー夫人に出ていただこうと思いまして。

**サスケ**　いやあ、ボクとしては高野拳磁のインタビューのほうが読みたいな、と（笑）。

——何を言ってるんだ、この人は（笑）。で、サスケさんには今日は通訳に徹してもらいます。大丈夫ですか、スペイン語のほうは。

**サスケ**　ええ、ええ、もちろんもちろん。大丈夫です、メキシコは長かったですから。

——じゃあ奥さんに質問しますからね。いいですか。「メリーさんは、日本語は話せますか?」。さ、社長、キッチリと通訳してもらいましょうか。

**サスケ**　あー、アナタ、ニホンゴ、ダイジョーブ?

——ほら、日本語じゃないっ!!（怒）。

**サスケ**　あ、いやいや、大丈夫です、大丈夫です。

——じゃあ、もう一度。「日本語は話せますか?」。

**メリー夫人**　OH!　チョットダケ。

—それだけしゃべれたら立派なもんです。問題は通訳のほうですね。次の質問です。「サスケさんはただのバカですか?　それとも立派なバカですか?」。はいっ、通訳通訳。

サスケ　……。エー、ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜……え〜と、質問なんでしたっけ？

——あなたはただのバカか、立派なバカかです（笑）。

サスケ　オッケーオッケー。ぺらぺ〜ら。

メリー夫人　OH！　ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。

サスケ　「完璧なバカ」だそうです（笑）。

ガッハハハハ。すばらしい奥さんです。よくわかってますね。で、二人はそもそもどこで知り合ったんですか？

サスケ　ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。

メリー夫人　ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。

サスケ　えー、メキシコのあるパーティで知り合ったと言ってます。

——旦那さんは浮気者ですか？

サスケ　ガッハハハハハ。

——いや、笑ってないで、キチンと通訳通訳。

サスケ　えー、ほんとに聞くんですか？

——当然です。

サスケ　ぺらぺ〜ら、サス〜ケ、ウワキモ〜ノ。ぺらぺ〜ら。

メリー夫人　UMMM！　ワカラナ〜イ。ワタシミテナ〜イ。ウフフフ。

サスケ　見られたことないから（笑）。

メリー夫人　OH！　ココ、マンション、ワカラナイ。

サスケ　マンションで一人でいるからわからないと言ってますね。

メリー夫人　OH！　アナタ、ホント、ウワキモ〜ノ。デモ、シンジテルネ、ワタシ。

信じてる！　こんな男を!?　えー、メリーさんはいったい、こんな男のどこに惚れたんですか？（笑）。はいっ、通訳通訳。微妙なニュアンスをしっかり伝えてください。

サスケ　ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。

メリー夫人　OH！　アタマイイ、ココロイイ。イチバン。

——え？　頭が悪いのと腹黒いのがいちばん？（笑）。

サスケ　違いますよ!!（怒）。

メリー夫人　OH！　ココロヤサシイ、アタマヤサシイ。ダカライチバン。デモカッコヨクナイ。

サスケ　ガッハハハハハ。かっこよくないって（笑）。外見はそんなかっこよくないけどやっぱりハートと頭だ、と言いたいんだと思います、ええ。

——んあー。メリーさんは日本の生活には慣れましたか？

サスケ　ぺらぺ〜ら、ジャポーン。

メリー夫人　OH！　チョットタイヘン。デモイッパイ、チンパ〜イネ。コミュニケーション、イチバンタイヘン。イマ、コドモガッコウダカラネ。ムズカシイ。デモ、ワタシ、ガンバッテガンバッテ。

サスケ　あと、いつもメリーが言うのはね、どうしても外国人っていうと日本人もコミュニケーションとってくれないんですよね、やっぱり。たとえば学校のPTAとかでもね、「ああ、外国人だからいいや」ってなっちゃうんですよね。

——東北は冷たいですよね。

メリー夫人　UMMM！　デモ、ヤッパリ、スキ。

# アナタ、ホント、ウワキモ〜ノ。デモ、シンジテルネ、ワタシ

こちらがなんとも愛らしいサスケの愛娘、メリッサちゃん（当時1歳）。サスケの教育がいいのか、「BAKA●●NE」を呪文のように繰り返していたとかなんとか。BABUUUU!!

サスケ　でも日本は好きだそうです。

メリッサちゃん　バブー！

サスケ　ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。

メリー夫人　ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。

サスケ　あの〜、凄く日本は平和で安全でいいですね、と。とくに盛岡は好きですよ、と。

——メリーさんは、日本に来るのをよく決心できましたね。

サスケ　あの〜、う〜んとね。

はい、通訳通訳！

サスケ　大丈夫大丈夫、大丈夫です（笑）。「決心」の単語がね、ちょっとね（笑）。え〜と、ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。

メリー夫人　UMMM！　サミシイネ、サミシカッタネ。ダカラ、ぺらぺ〜ら。

サスケ　やっぱりホームシックにはなりますよね。

メリー夫人　OH！　サスケサン、イッパイアイシテル、ダカラネ。

サスケ　あの〜、ボクのこといっぱい愛してる、と。だから来たということですね。

——ほんとに言ってるんですか、そんなたわけたことを（笑）。

サスケ　まあ、そういうことですね（笑）。

——プロポーズの言葉はなんですか。

サスケ　ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。

メリー夫人　OH！　アイシテルネ。イッパイアイシテルネ。バイバイジャナイネ。アイシテルネ♡

——なんだかよくわかりませんね（笑）。

サスケ　だからあの〜、「愛してる」っていうその一言ですよ。

——「結婚しよう」とかそんなことは言わなかったんですか？

サスケ　ま、「愛してる」っていうのも「結婚しようよ」っていうのも、もうシツコイぐらい言いましたね。

——んあ〜。

サスケ　だから毎日がプロポーズみたいなもんで。

——何を言ってるんでしょうか、そんな顔して（笑）。メヒコ（メキシコ）では毎日会ってたんですか？

サスケ　もちろん！　毎日、毎晩。

——毎晩会ってて、ドラマのような激しい恋愛場面はなかったんですか。

サスケ　いやあ、もうねえ、毎日がドラマでした。あ、ああ、ドラマといえばね。

——ドラマといえば！

サスケ　あの〜、ちょっと離ればなれになったことがあるんですよね。ボクがメキシコ修行終わって日本に帰ってくるときは一緒に来たんですよ。でも、そのあとすぐ、とりあえずメリーは一人で帰ったんですね。やっぱり家族のところにいたいって言うんで。でもボクと結婚したいっていう気持ちは変わらないんだけども。それで一年ぐらいですかね、離ればなれになったのが。

——よく我慢できましたね。

サスケ　いやあ、つらかったですよ。

——いや、その鬼のような下半身が（笑）。

サスケ　んあ〜。いやあボクはマインドコントロールで制御できますんでね（笑）。ま、下半身は置いといて、一日二回ぐらい国際電話してましたね。それがユニバーサルからみちプ

ロ設立にかけてのときですね。
——ギャラも出てないときに大変だったわけですね。
**サスケ** そうそう、新間家のお利口さんなご子息がギャラをくれやがらないんで(笑)。まあ、そんな時期にお互いの気持ちを高め合ったというか。
——最初に会った頃って会話は通じてたんですか?
**サスケ** いまも昔もあんまり変わんないですね(笑)。結局、愛に言葉はいらないってことですね!
——何を言ってやがんだ、言葉が通じないだけじゃ……いや、ステキですね。
**サスケ** ほんとねえ、言葉がいらないんですね。不思議なもんで。テレパシーで人の気持ちってだいたい通じるもんなんですよ。
**メリッサちゃん** バブー!
**サスケ** ああ、なになにどうちたのー、メリッサ。よちよち。
——で、このガキ……この子がメリッサちゃんですね。
**サスケ** はい。1歳です。
**メリッサちゃん** バブー!
——家庭でプロレスの話なんか出ます?
**サスケ** まったくしないですね! うん。たまにテレビでプロレス観るくらいで。
——奥さんは仕事のこととか聞かない?
**サスケ** 聞かないです! だからもともとルチャが好きじゃないんですよね。
——巡業には一緒について回ることはあるんですか。
**サスケ** いまはもうないですね。っていうのは子どもが手がかかってしょうがないんで。
——ああ、そうかそうか。メリーさん、ご主人のプロレスを観た感想はいかがですか。
**サスケ** ぺらぺ〜ら、ルチャ、ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。
**メリー夫人** OH! ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。
**サスケ** 観たことあります、と。
——そんなにしゃべって、それだけってこたあないだろっ!(怒)。
**サスケ** いやいやいや(笑)。
**メリー夫人** OH! ダカラワタシイッモ、チンパイ、チンパイ、チンパ〜イ。ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。
**サスケ** 場外に飛んだときとかが心配みたいですね。
——サスケさんの家族とはうまくやっていけてるんですか?
**サスケ** ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。
**メリー夫人** OH! ハイハイ、ダイジョウブネ。オジイチャン、オバアチャント、ダイジョウブネ。
——メリーさん、旦那さんは怒ったりしないんですか?
**メリー夫人** OH! トキドキ。デモ、イツモチョットウルサイ(笑)。イッモ「ツカレタ」ネ。チンパイチンパ〜イ。デモ、イツモヤサシイ。ダカラワタシ、ニホンキタ。ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。
**サスケ** まあ、ときどきうるさいっていうか、ストレスが溜まって爆発するときがあるんで。
——どんなふうに?
**サスケ** やっぱりつらく当たったりしますねえ。「ああ、疲れた!」とか言って。
——「ああ、疲れた!」とか言って、「さ、ベッド行こうか」とか(笑)。
**サスケ** いやいやいや(笑)。疲れたときはもう別々に寝るんですよ。
——疲れてるときは、奥さんからアドバイスみたいなものはあるんですか?「あなた、あんまり張りきりすぎちゃダメよ」みたいな。
**サスケ** ああ、それはいつも言われてますね。だから突然死っていうのがメヒコでも評判になってるらしいんですよ。日本人のサラリーマンの突然死っていうのが向こうのニュースでも流れてたりとか。だからあんまり働きすぎて突然死されちゃ困るから、と。
——いやあ、社長の場合、腹上死の心配をしたほうがいいと思いますけどね(笑)。
**サスケ** ガッハハハハ。まあ、「ほどほどにしてね」と(笑)。まあ、「なるべく家族との時間はとってくれ」といつも言われますね。全然ないんで。
——逆に奥さんがストレス溜まっちゃうこともあるでしょう?
**サスケ** しょっちゅうでしょうね。なかなかかまってやれてないんで。
——ふだん一人でいるわけでしょう、巡業中は。
**サスケ** そうですよ。まだ小さい子がいるんで気が紛れてると思うんですけど。でもやっぱり寂しいっていつも言ってますけどね。そうそう! でも、子どもをきっかけに友だちができたりしますよ。たとえば上の子のアンドレスがスイミングスクールとか通ってますね。そこの奥さまたちと友だちになったりとかありますね。そうだ! あのね、彼女はエアロビクスとかウェートトレーニングとかスイミングとか好きなんですよ。スポーツクラブ通ってるんで。
——へえ。小さい頃からなんかスポーツはやってたんですか?
**サスケ** ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。
**メリー夫人** ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。
**サスケ** 13歳から体操競技を。器械体操ですね。スポーツはもうなんでも好きっと。
——社長はどちらかといえば活発なパッキン娘が好きですか(笑)。
**サスケ** そうですね。でへへへへへ。
**メリッサちゃん** バブー!!
——社長は最長でどれくらい家を空けてるんですか。
**サスケ** いやあ、やっぱりシーズンによって違いますよね。夏場のピークのときは2週間会わなかったりっていうのがありますね。最大で2週間ですかね。ただ毎日帰れたとしてももの凄く深夜で朝が早かったりするんで、会っても寝顔だけっていうのがありますね。
——でも、奥さんだって毎日会うのは嫌でしょ?
**サスケ** ガッハハハハ。そんなことないですよ(笑)。
**メリー夫人** ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。
——そんなことないって、社長には聞いてません! はい、通訳通訳!
**サスケ** そうかそうか(笑)。ぺらぺ〜ら、ぺらぺ〜ら。
**メリー夫人** アイシテル。アキタナイ。イッパイアイシテル。アキタダメ。
**サスケ** 絶対に飽きないそうです。
**メリッサちゃん** ウルセーナー!
——いまメリッサ、「ウルセーナー!」って言ってなかった?

昨年のDDT両国大会で、高木三四郎とウエポンランブル(お互いの公認凶器が1分おきに入場)で対戦したサスケ。そこに高木は凶器としてメリー夫人を投入! うれしそうに旦那に竹刀を振るうメリー夫人、すてきだ。

サスケ　ガッハハハハ。言ってました言ってました。
—どんな教育してるんだ（笑）。メリーさんがメキシコで住んでたのはどんなところですか？
サスケ　ダウンタウンですね。まあ、東京の新宿っぽいところですよね。ただ実家はもちろん田舎のほうにあるんですけどね。山のほうに。
—だから盛岡に来ても驚かなかったんだ。
サスケ　いや、でも盛岡のほうが都会なんじゃないですか。だってメキシコの都会でもたいしたことないですもん。
—東京に住みたいと思ったことはないですか？
サスケ　ぺらぺ～ら、ぺらぺ～ら。
メリー夫人　ＯＨ！　デモ、モリオカ、イナカダカラスキ。ぺらぺ～ら、ぺらぺ～ら。
サスケ　「大都会はうるさくて大変だから」と言ってますね。
—で、そのド田舎でサスケさんと暮らしてみて、最初会ったときとイメージは違いましたか？（笑）
サスケ　ぺらぺ～ら、ぺらぺ～ら。
メリー夫人　ぺらぺ～ら、ぺらぺ～ら。
サスケ　う～ん、そうじゃないよ。えー、なんでしたっけ質問？
—テッメー、ちゃんと聞いてろ……すいません、サスケさんと暮らしてみて、イメージどおりだったかどうか、聞いていただけますか。
サスケ　ああ、ああ！　そうだそうだ！　ぺらぺ～ら、ぺらぺ～ら。
メリー夫人　チョットネエ、マエ、イッパイヤサシイ。イマ、チョットダケ（笑）。
—だんだん本性を現わしてきた、と（笑）。
メリー夫人　ダカラワタシカンガエル。ラテンアメリカノオトコノヒト、ミンナミンナヤサシイヤサシイ。
サスケ　恋人時代は、もうボクはラテンアメリカ系の男性みたいにデートのときとか、バッチリ、エスコートして、すんごく優しくしてたんですよ。
メリー夫人　デモコイビトノトキ、テ、ツナイデタ。デモイマ、シナイ。ダカラワタシ、チョットオコッテル（笑）。
サスケ　結婚して手をつなぐのはねえ（笑）。
—あ、このあいだ新宿で手をつないでたのは奥さんじゃなかったんですか？
サスケ　どこで！　何をー（怒）。
—通訳をお願いします。
サスケ　えー（冷や汗）。ぺらぺ～ら。
メリー夫人　ＵＭＭＭ。ハイハイハイハイ、ワッカリマシタ（笑）。
—さすがメリーさんは達観してますね（笑）。メリーさん、日本の言葉で好きな言葉はなんですか？
サスケ　ぺらぺ～ら、ぺらぺ～ら。ジャポン！
メリー夫人　ＯＨ！　サスケサン、「アイシテル」（笑）。

# アイシテル。アキタナイ イッパイアイシテル。アキタダメ

仲睦まじさがうかがいしれる二人。ちなみにメリー夫人は1967年8月8日生まれでサスケよりも二つ年上の姉さん女房。インタビュー[illegible]録時はサスケ[illegible]6歳、メリー夫人[illegible]28歳でした。OH! UMMM!!

サスケ　まあ、「愛してる」という言葉が好きですね。それもボクが言う「愛してる」が。
—毎日言ってるんですか？
サスケ　ええ！　もちろんもちろん！
—バッカじゃねえか。
サスケ　「愛してる」って言ったっていいじゃないっ！（怒）。
—すごいすご～い。えーと、スペイン語で「愛してる」っていうのはなんて言うんですか？
サスケ　テ・アモ。
—テ・アモ。それはラ・ケブラーダとなんか関係あるんですか？
サスケ　ガハハハハハ。何も関係ないですね（笑）。
—メリーさんは泣きごと言ったりとかないんですか？
サスケ　やっぱりたま～にね。「1カ月ぐらいメキシコに里帰りしたいわ」とか。でも、「ちょっと待てよ」と。「せめて上の子のアンドレスがいま学校なんだから夏休みになるまで我慢しなさい」と。ズバリ言ってやりましたね、ええ。だから今度夏休みに1カ月ぐらい里帰りするんですけどね。家族と一緒にいたい、と。お母さんがまだ健在なんで。子どもも、二人とも連れていきます、ええ。
—あ、1カ月も。ということは、そのひと月はサスケ社長は独身ということですね。
サスケ　ガッハハハハハ。いえいえいえ。まあ、ゆっくり羽伸ばそうかな、と（笑）。
—ゆっくり夜の街を飛ぼうかな、と（笑）。
メリッサちゃん　バブー！
メリー夫人　ＯＨ！　ヤマグチサ～ン、ぺらぺ～ら、ぺらぺ～ら（笑）。
サスケ　ああ、山口さんに、ボクが浮気しないように監視してくれって（笑）。メリー、大丈夫大丈夫♡
—……。そういえばリンカーンはどうなんですか、調子は？
サスケ　いやあ、もう、廃車にします。『紙プロ』にぶっかけられたクソがとれないんで。違うか（笑）。いや、今度ね、キャデラック買うんですよ、ええ。今度は新車で。
—ナニーッ！（怒）。
サスケ　またこれで借金ですよ。
—キャデラックはいくら！（怒）。
サスケ　１０００万以上ですね。まけてもらって１０００万！
〈ドンガラガッシャーン！＝メリッサちゃんがテレコをテーブルから落とした音〉
メリッサちゃん　バブー！
—「バブー」じゃねえ、このクソガ……。
メリー夫人　ＯＨ！　スイマセンデスネ。
—いやいや、いいんですよ、これくらい。……今度、キャデラックにもクソぶっかけてやる。あ、もうこんな時間だ。じゃ、社長さん、メリーさん、帰ります。
サスケ　じゃあ、駅まで車でお送りしますよ。じゃあ行ってくるよ。
メリー夫人　ＯＨ！　ＯＨＨＨ！　キヲツケテネ。チュッ♡
サスケ　愛してるよ、メリー。チュッ♡
—ＯＨ！　ＯＨＨＨ！　ＵＭＭＭ！
【95年6月19日／岩手県、ザ・グレート・サスケ邸にて収録】

都内ワンルームマンション一人暮らし

# 独身大物格闘家 北岡悟の結婚観

「すてきな奥さん」特集の最後を飾るのは、あの美貌を誇る奥さん……と思いきや、なぜか北岡悟が登場! このところ青木真也をはじめとして、練習仲間が次々と結婚していくなか、独身を貫いている北岡に話を聞くべくオファーすると、都心にあるワンルームマンションの自宅に招いてくれた。はたして北岡悟の結婚観とは?

聞き手/橋本宗洋（38歳独身）　撮影&構成/堀江ガンツ（37歳独身）

——このところ連続で登場していただいてる北岡さんなんですが、今回の特集テーマは〝結婚〟なんですよ。

**北岡**　ほう。その特集で僕に、人暮らしの自宅で取材ってことは……。

——企画意図をお察しいただいて助かります(笑)。実際、最近は格闘技界で結婚する選手が多い感じがするんですよ。

**北岡**　みんな、そういう年齢ってことなんだと思いますけどね。だから驚きはないですよ。

——周りで結婚する人が増えると、自分も結婚したいっていう気持ちが高まりませんか？

**北岡**　したいとは思いますね。でも順序がありますから。

——いまは「婚活」って言葉もありますけども。

**北岡**　婚活って、恋愛も結婚のためのものなんですよね？　それはあんまりいい言葉じゃないですねぇ。

——恋愛が成就したものが結婚であって、目的にするものではないっていうことですかね、北岡さんとしては。ところで北岡さん、付き合う人に左右されるタイプですか？

**北岡**　左右されないって言ったらウソになりますよね。だから、それをプラスにもっていけるかどうかですよね。ともすればよけいなものになりかねないわけですから。

# 戦極でチャンピオンになったあと 新規の出会いがまったくなかった

——練習と試合が最優先の生活に理解がある相手かどうかっていうのも重要でしょうね。

**北岡**　でも、いまの生活をしているかぎり、格闘技のことを知ってる女性としか出会わないんですよね(笑)。

——格闘技漬けの生活をしているだけに、という。「あの北岡悟」としてしか見られていないわけですよね。

**北岡**　さらに言うとですね、僕が有名になったのって2年前くらいじゃないですか。そこから、ニューカマーの女性に出会ってないという事実があるわけですよ(笑)。

——マジですか!?

**北岡**　ええ。この事実で震撼していただきたいな、と(笑)。

——普通、逆ですよね？　この2年間でモテなくてどうするって感じじゃないですか。

**北岡**　ん〜。

——格闘技に集中してるから夜遊びもしてないってことですかね。

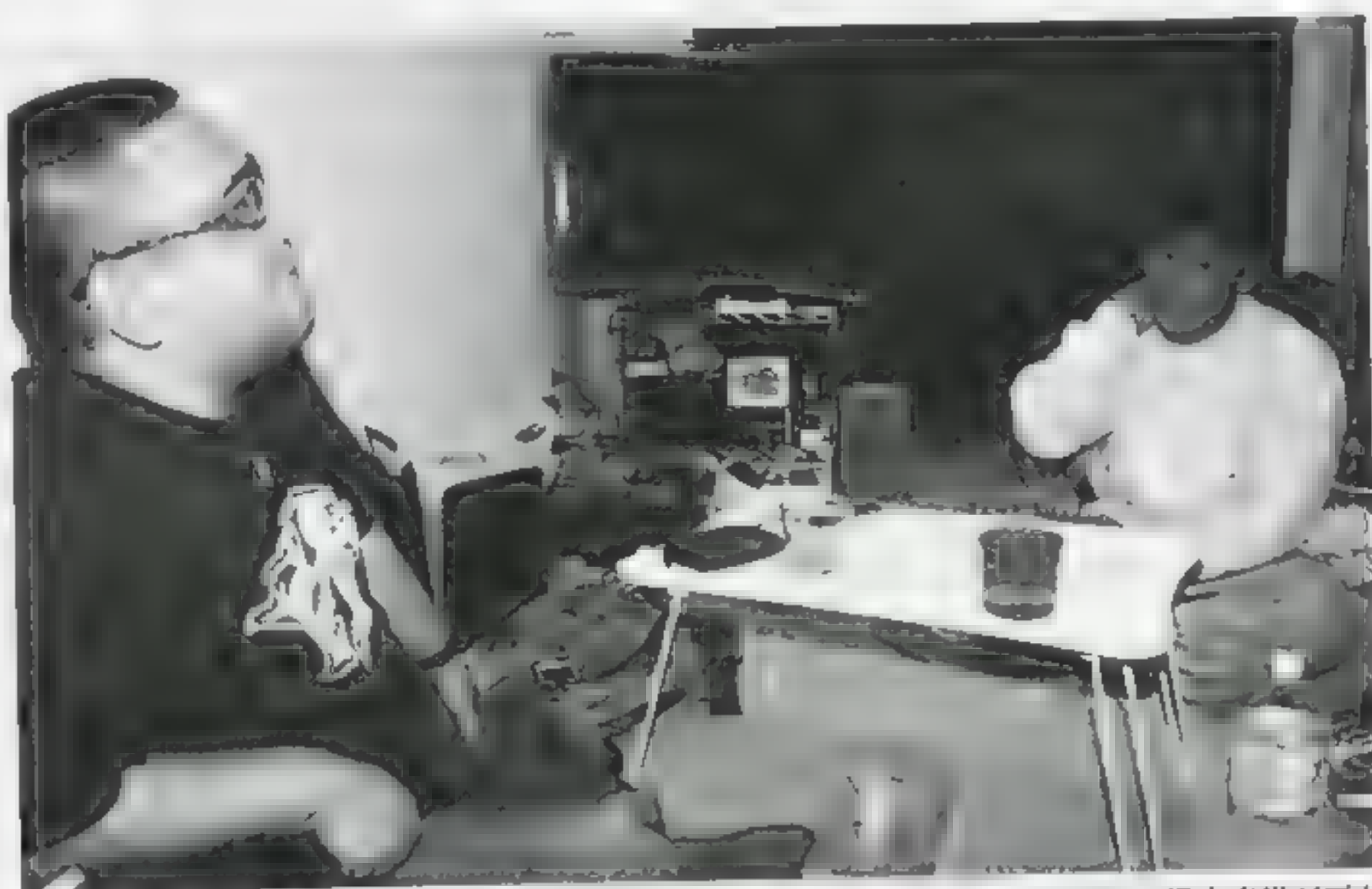
**北岡**　夜遊びはしてないですね。去年の6月くらいに朴(光哲)さんに呼ばれてクラブ行ったくらいですね。そのときも、その場に居づらくてひたすら飲んじゃったんですけど。コンパとかも苦手っていうか、いちいち自分の職業を説明するのもめんどくさいですしねぇ。時間もお金ももったいないんですよね。それだったら、男だけでメシ食べたりするほうが楽しいですよ。

——昔からそうなんですか？

**北岡**　大昔はもうちょっと、ありましたね。なんでもいいからっていう、ドブさらいみたいなことしてましたけど。

——凄い表現だな(笑)。かつての恋愛は、振り返ってみるとどんな感じでした？

**北岡**　振り返って……振り返りたくはないんですよねぇ。

——失礼しました(笑)。いまは、あえてストイックにしてる部分もあるわけですよね。格闘技に集中するためにっていう。

都内ワンルームマンションに一人暮らししている北岡悟の自宅に、大物独身ライター橋本宗洋がズカズカ上がり込んでインタビュー。30歳の北岡にとって、38歳の橋本氏は独身の大先輩だけに、インタビューするその姿も貫禄たっぷりだ。

**北岡**　多少はありますよね。枯渇する感じが力になるというか。この部屋も、賑やかな場所に近いじゃないですか。だから年末年始なんか、チャラい奴らがいっぱいウヨウヨしてるんですよ。そのなかを、僕は練習で疲れきった身体で部屋に戻っていくわけですよ。

——あぁ、それは負のエネルギーが湧きますね。

**北岡**　「俺はなぁ、おまえらには味わえない経験してんだよ、●●が！」って気分ですよ。肩でもぶつかったら事故が起こりかねない(笑)。

——それが試合のパワーにつながるという。

**北岡**　〝不幸玉〟ってやつですよね(笑)。恋愛でも「次の試合で勝ってアタックする」みたいな気持ちの燃やし方でいいんじゃないですかね。でも本当は、まったく関係ないんですけどね。どれだけ勝とうが、どんなに強くなろうが、それとこれとは別で。それもわかってはいるんですけど……自分が輝いてるのは、格闘技を頑張ってるときだと思うんで。だからやるしかないっすよ。

——有名だからって近寄ってくるような相手でもしょうがないですしね。

**北岡**　そうなんですよ。

——部屋も大きいところに引っ越すわけじゃないですし、本当に変わってないですよね。

**北岡**　そんなに広い部屋じゃないですけど、場所は便利ですし、いまの生活をしているぶんには充分ですからね。あと今年に入ってから、土曜の朝に八隅(孝平)さんとランニングしてるんですよ。四部連(一日に4回練習)ですし。だからよけい、金曜の夜は遊ばないですよね。日曜日は疲れきって寝るしかないですし。

——生活がよりシンプルになっていくというか。

**北岡**　今回も試合前に部屋の片づけをやったんですよ。前は追い込みの時期になると散らかり放題だったんですけど、追い込みながらでも片づけができたんで、そこは成長したのかなって思いますね。それも、ほかの無駄を省いたからかなって。

——文字どおり、余分なものがない生活に。

**北岡**　前は、ほかの人の試合にも興味があったんですけど、それもなくなってきちゃいましたしね。いまDVDがあるのは、自分の試合以外は本当に厳選したものだけで。

——ちなみになんですけど、AVのほうは？

**北岡**　それも大量処分しましたね。いまあるのは厳選したものだけです(笑)。

——なるほど(笑)。これから結婚するような相手と出会ったとして、「ここだけは譲れない」って部分はあったりしますか？

**北岡**　●●は嫌ですね(キッパリ)。

——またおもいっきり断言しましたね(笑)。たとえば、格闘家ならではの生活パターンは変えられないとか、そういうのもあると思うんですけど。

いまから約2年前に、あの五味隆典を倒し初代戦極ライト級王座を奪取。押しも押されもせぬトップファイターの仲間入りをはたしたが、なんとこのブレイクがきっかけとなった出会いは皆無だったという……。

**北岡**　僕、意外と合わせられるんですよ。

――有名になったことで、女性に対するハードルが上がったってこともないですか。

**北岡**　それもないですねぇ。逆に自分がハードルを課せられてるというか、出会うのが格闘技を知ってる女性ばかりだと、勝ってあたりまえと思われちゃうところがあるんですよね。「勝つのはわかってた」みたいな。

――じゃあ、格闘技界の外に向かうしかないですよね。

**北岡**　それをやっていくのが婚活ってことになるわけですよね。

――いや、まあたとえば友だちの彼女とか奥さんの知り合いを紹介してもらうとか。

**北岡**　え～、気持ち悪い！

――そうなのか……。やっぱりナチュラルに出会わないと、という。

**北岡**　そうかもしれないですねぇ。

――ただ、30歳すぎると「そんなこと言ってたら、いつまで経ってもダメだぞ」とか言われませんか？

**北岡**　普通だったら言われるでしょうね。でもまあ、僕はやることやってるし……僕の人生だから（笑）。

――結婚すると、責任感が出てくるって話も聞きますよね。それこそ収入の面だったり。

**北岡**　そうでしょうね。ただ、それはいまの時点でも危機感持ってますけどね。いまは格闘技一本でやっていけてますけど、どこかでコケたら続けられないですよ。それに、いまのレベルの生活というか、練習ができなくなったら僕は辞めますよ。うん、辞めます。このクオリティからは落とせないです。

## 誌面に出てるどの奥さんよりもすてきな女性と結婚してやる！

# 北岡悟の結婚観

――格闘技一本で生活していけるからこそいい練習ができるし、それが試合のクオリティにも表われる、と。

**北岡**　そう。よく勘違いされるんですけど、お金じゃないんですよ。練習とか食事、身体のケアのクオリティを下げたくないんですよ。

――そういう意味では、結婚するとスポーツ選手にはプラスが大きいっていうイメージはありますよね。奥さんが食事、栄養管理に気を使ってくれたりとか。

**北岡**　ん～、でも自分で作ったほうが納得いくと思うんですよね。

――ベタですけど、練習から帰ったら奥さんが料理を作って待っててくれるとか憧れませんか？

**北岡**　確かに、家に帰ったら鶏肉がゆで上がってたらうれしいでしょうねぇ。

――でも鶏肉（笑）。

**北岡**　ああ、でもゆで加減も自分の好みでやりたいですね。人がゆでたのってあんまりおいしくないんですよ。いまだったらそれも許せる気もしますけど。

――北岡さん、なんでも自分でするのが好きなタイプですよね、きっと。「俺がやっちゃったほうが早い」っていう。

**北岡**　そうそうそう！　洗濯物とかも自分で干したくなっちゃうんですよね。やらせるのが悪いなっていうのもありますし。

――畳み方も気になったり。

**北岡**　いや、「畳み」は大丈夫なんですけど。「干し」ですね。……くだらない話だな（笑）。

――じゃあ「ちゃんとしなさい」とは言われないタイプですか。

**北岡**　いや、だらしないんですけどね。前は部屋も散らかってましたし。

――でも、散らかっていながらもものの置き場所にこだわりがありそうですよね。散らかってるなかにも自分独自の秩序があるっていう。

**北岡**　ありますね、完全に。

――あぁ、気が合いますねぇ。38で独身の僕と気が合っても困るでしょうけど（笑）。

**北岡**　へんに片づけられても嫌なんですよね。後輩に「片づけましょうか？」って言われても断りましたし。

――ですよねぇ！

**北岡**　しかし侘びしい会話ですね……。これぞ独身トークですよ（笑）。

――失礼ながら、北岡さん独身が長くなりそうですね（笑）。

**北岡**　いや、結婚はしたいし、絶対しますから。

――あ、でも結婚以前に、これからは選手としての〝新生活〟が待ってるわけですよね。

**北岡**　そうですね。ラストスパート……未来へのラストスパートです。

――前号のインタビューでは「多くやっても5試合ぐらい」とおっしゃってましたけど、決してカウントダウンではないわけですよね。

**北岡**　だから不安もないわけじゃないですけど、ワクワクしてる部分もありますし。たぶん、この号が出る頃にはどうなるか決まってると思うんですけどね。

――これから、初めて経験することもいっぱいあるんでしょうね。

**北岡**　頑張らないといけないっすね。まだ見ぬ家族のためにも（笑）。ちなみに、この特集は僕のほかにどんな選手が載るんですか？

――選手じゃなく、奥さんに登場してもらってますね。

**北岡**　ほう。で、そのなかで僕の独身生活が出てくる、と。……結婚、絶対しますから。今回、出てるどの奥さんよりもステキな女性と結婚してやりますよ！

――出た、これが不幸王ですね（笑）。

**北岡**　いや、僕の不幸王はこんなもんじゃないです。年末が近づいたら、もっとデカくなりますよ（笑）。

【10年11月1日／都内・北岡悟宅にて収録】

きたおか・さとる■1980年2月4日、奈良県出身。2000年にパンクラスに入門し、プロデビュー。08年より「戦極」に参戦し、五味隆典を下して初代戦極ライト級王者となる。09年8月に廣田瑞人に敗れ王座転落。今年10月にパンクラスを退団。今後の動向が注目される。168センチ、70キロ。

武藤全日本が産み落とした
〝怪物〟の真実
諏訪魔
本誌初登場!
この男はエリートなのか?
アウトローなのか??
現・三冠統一ヘビー級王者
レスラー半生に迫る!!
レスリングエリートから
全日本のエースとして
確固たる地位を築いた
スケールの大きな
名勝負を展開
マイクを投げつける
無軌道ぶりを
その実像に迫る!
97 kamipro

——今日は諏訪魔さんのレスラー人生を振り返ろうかと思うんですが、レスリングエリートっていうイメージがあったんですけど、高校時代は柔道をやられてたんですね。

**諏訪魔**　そうですね。小学校・中学校と野球部だったんですよ。で、小さい頃からプロレスは大好きだったんですけど、野球部の仲間にプロレスが大好きなヤツがいて、そいつと「将来、プロレスラーになりてえな」っていう夢を語っていたわけですよ。

——子どもの頃からプロレスラー志望だったんですね。

**諏訪魔**　そうッスね。だから、そいつと「まず受け身を覚えなきゃいけない。それには柔道だろう」っていう話になって、中学2年生のときに町の柔道場に通うようになったんですよ、野球部と掛け持ちでね。

——じゃあ、柔道を始められたのはプロレスラーになる目的があってのことだったんですね。

**諏訪魔**　まあ、その頃は軽い気持ちでしたけどね。

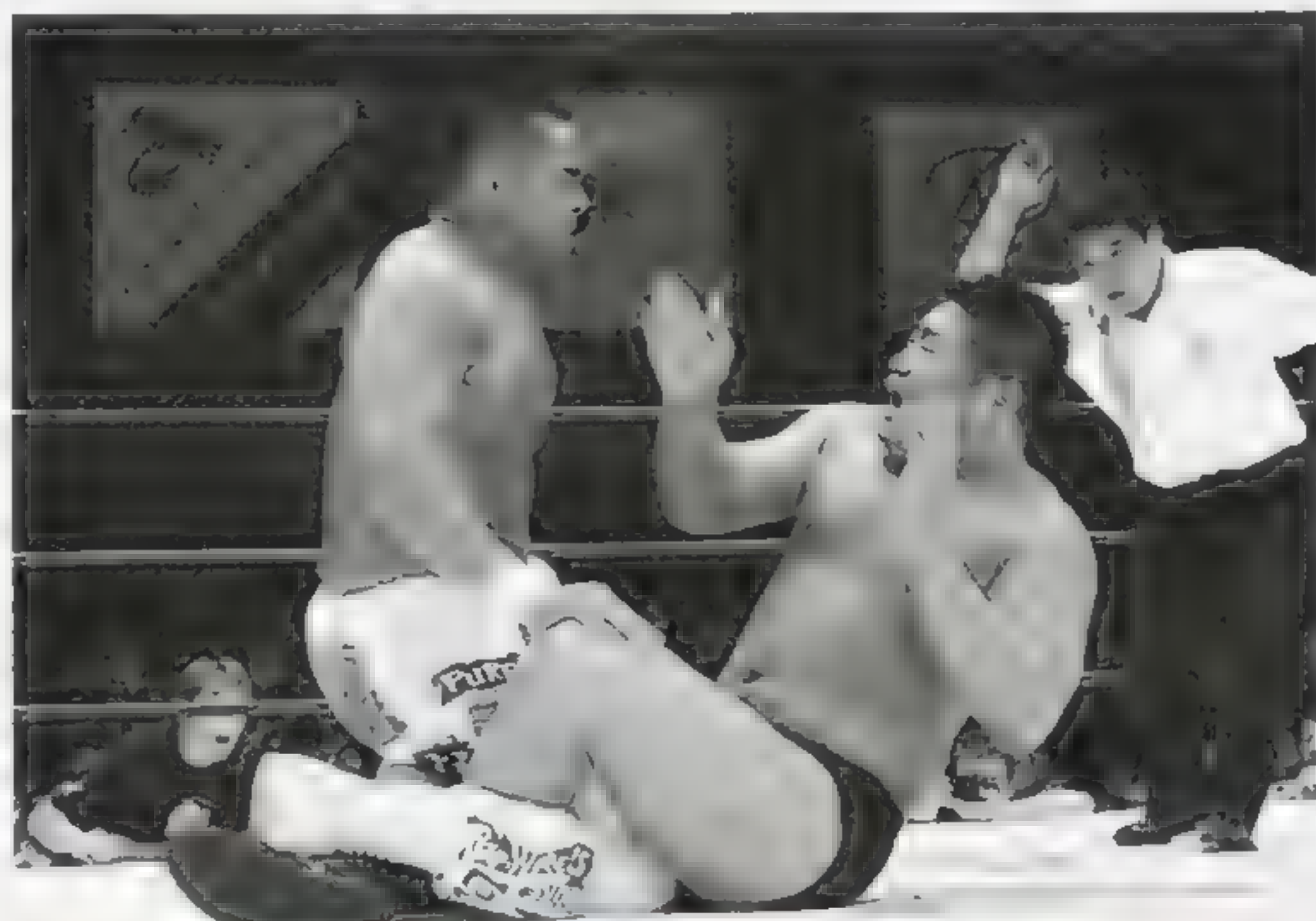
——最近、お話によく出ますけど、その頃は全日本プロレスが好きで、とくに天龍源一郎さんのファンだったんですよね？

**諏訪魔**　うん、よく日本武道館にも行ってましたね。天龍同盟とかが俺らの仲間のなかで流行っていたんですよ。ジャンボ鶴田さんも「スゲエな」って思ってましたけど、天龍さんとかスタン・ハンセンのような荒くれ者みたいなレスラーに惹かれてましたね。

——当時の諏訪魔さんも性格的にはそんな感じだったんですか？

**諏訪魔**　いや、優しかったですよ！　絶対に優しかったはずです（笑）。

——やんちゃではなかった、と（笑）。高校時代は柔道部で凄まじいイジメを受けていたらしいですね。

**諏訪魔**　ああ、もう凄かったですよ。半端じゃないよ。柔道部ですから、上下関係には厳しいっていうのはありましたけど、自分に対してだけはより一層厳しかったですね。まあ、その頃の厳しさがあるから、どこに行っても耐えられるんですけどね。

その風貌が初々しい若き日の諏訪魔。デビュー戦は太陽ケアと闘う予定だったが、来日の延期で自分をスカウトしてくれた馳浩と対戦。試合は逆エビ固めに敗れたが、スープレックスや張り手など激しいファイトを展開。試合後のコメントは「気持ちいいっすね。アマとは比較にならない」

——そんなに厳しかったんですか!?

**諏訪魔**　ハッキリ言って、載せられるような話じゃないですよ。いまあんなことをやったら、社会的な大問題になりますよ。

——でも、3年間、続けたんですね。

**諏訪魔**　続けましたよ。意地でも行ってましたからね。でも、柔道も全国大会に行かないと道が開けないんですよね。

——プロレスラーへの道がっていうことですか？

**諏訪魔**　そう。でも、そんななか、柔道部の部員は年に一度、レスリングか相撲かどちらかの大会に駆り出されるんですよ。うちの高校ではスポーツで関東大会以上に出ると、学校から表彰される制度があって。

——そんな制度がありましたか。

**諏訪魔**　でね、相撲とレスリングって関東大会に出やすいんですよ、競技人口が少ないから。うちの高校にはレスリング部も相撲部もなかったんですけど、柔道部の先生がその表彰目的で部員をどちらかの大会に出していたんですよ。俺はレスリングを選んだんだけど、関東大会にも行けたし、全国大会にも行けたんですよ。

——いきなり凄い結果を出しますね。

**諏訪魔**　うん、凄く自分に合っていたね。だから、新しいことをやってみようかなと思って、大学でレスリングをやることにしたんですよ。誘っていただいたんで。

——中央大学からですか。

**諏訪魔**　はい。高校もそうだったんですよ。誘われたら、基本俺は流されるタイプなんで（笑）。気分いいじゃないですか？

——まあ、自分の力を買ってくれているわけですからね。じゃあ、迷うことなく中央大学でレスリング部に入られた、と。

**諏訪魔**　そうですね。なんとなく、プロレスに近づいているのかなって。

——中央大学のレスリング部っていうと鶴田さんもそうですし、いまは総合格闘技をやっていますけど、桜庭和志さんもOBだし、確実に近づいてはいましたよね。

**諏訪魔**　ただ、柔道のときもそうだったんですけど、レスリングでも自分が強くなることに熱中しちゃって、なんかプロレスが少し遠ざかったんですよね。

——レスリングに夢中になって。学生時代はどんな成績を残したんですか？

**諏訪魔**　それが全部3番だったんですよ。新人戦もそうだし、ジュニアの大会もそうだし、全日本選手権も3番。優勝っていうのがなかったですね。だから、「一番になりてえな」っていうこだわりができちゃって。それで社会人になっても続けてしまったわけですね。

——じゃあ、頭の中からプロレスラーになりたいっていう夢はなくなっちゃったんですか？

**諏訪魔**　いや、大学4年生のときも「プロレスに行きてえな」って思ったんで、大学のOBで修斗のコミッショナーをやっている浦田昇さんっていう人に相談しに行ったんですよ。そうしたら、「プロの世界は冠があったほうがいいぞ」って言われましてね。じゃあ、もっと強くなったほうがいいなということで、実業団のクリナップに進んだんですよ。

——社会人時代は全日本選手権で優勝して、国体でも優勝して、世界選手権にも出場と、成績が上がっていきましたよね。

**諏訪魔**　実業団に入ると、最初にナショナルチームの練習に放りこまれちゃうんですよ。当然、レベルの高い環境で大変な思いもしたんだけど、入っちゃえば慣れるし、自分も伸びていきますからね。

——なるほど。そこでメキメキと力をつけて、プロに行くための冠も手に入れた、と。この社会人時代に馳浩さんからスカウトを受けるわけですか？

**諏訪魔**　社会人になって2年目ぐらいですかね？　馳さんがナショナルチームの合宿に専修大学を引き連れて、練習に来ていたんですよ。で、俺は重量級だから、馳

## アマレスでは乱闘になって暴行問題のように発展したこともありました

さんとスパーリングをしたわけですね。

——おお、馳先生と!

**諏訪魔**　そのときに「この野郎!」っていう感じで、激しくやり合ったんですよ。そうしたら、「おまえはプロレスのほうが向いているよ。プロレスにどうだ?」って誘っていただいて。

——「いますぐに来い!」っていう感じだったんですか?

**諏訪魔**　そうッスね。でも、そのときは「けじめがつくまではレスリングを最後までやらしてください」って言って。自分で納得のいくまでレスリングをやって、それから「全日本プロレスでよろしくお願いします」って入門したんですよ。

——そういえば、馳先生の大学のチームと試合をしたときに、諏訪魔さんが相手を踏みつけたっていうエピソードを聞いたことがあるんですよ。それで馳先生が、「こいつはプロレス向きだ」って思ったって。

**諏訪魔**　ああ、それは大学時代ですね。ちょっとその頃に問題を起こしてしまってですね(笑)。

——ちょっとですか(笑)。

**諏訪魔**　大学時代はけっこう問題を起こしてたんですよ。まあ、監督とは辞める辞めないでめちゃくちゃやり合ったしね。レスリング部の規則で車やバイクに乗ったらいけなかったんですけど、乗っているのがバレたり。まあ、ガキみたいなことをやっていたんですよ(笑)。

——でも、たしか主将だったんですよね?

**諏訪魔**　あ、それは間違い! ウィキペディアかなんかに書かれたんですよね? 違いますよ。俺は平社員の問題児でしたから(笑)。

——真実は問題児だった、と(笑)。

**諏訪魔**　うん(笑)。で、大学4年生のときに団体のリーグ戦があって、相手は専修大学だったんですよ。そのときは馳さんはいなかったけど。試合は接戦だったんですけど、みんな勝つとパフォーマンスをし始めたんですよね、腕を上げたりしながら。

——いわゆるプロレスっぽいパフォーマンスを(笑)。

**諏訪魔**　そうそう(笑)。それでトリの試合で俺も勝ったんで、相手を踏みつけながら「ウォー!」って応援席にアピールしたんですよ。

——ダッハハハハ!

**諏訪魔**　そうしたら、相手もエキサイトしちゃって大乱闘ですよ(笑)。暴行問題のように発展しちゃってね。もう、へこみましたね、始末書とか書かされたりして。

——やってることは鈴木みのると一緒ですよね(笑)。

**諏訪魔**　だから、教育上よくないですよね、プロレスは(笑)。

——中学時代は優しい性格だったんですよね?

**諏訪魔**　優しかったはずです。高校で柔道をやって、心が歪んでしまったんですよ(笑)。高校では静かにしていると痛い目に遭った。じゃあ、大学では言いたいことを

TARU率いるブードゥー・マーダーズに合流してから頭角を徐々に現わし始めた諏訪魔。髪を金髪と赤に染めたのもここから。「ヒールは反応がダイレクトに入ってくる。好きにやらせてもらって、楽しかったし、いい経験になった」。確かにイキイキした表情だ

### 諏訪魔の軌跡

**▶2004年**

4月　馳浩のスカウトで全日本レスリング選抜選手権、国体優勝の実績を引っ提げて全日本プロレスに入門。

10月11日　後楽園ホール大会での馳浩戦でプロレスデビュー。

[illegible]　「試練の七番勝負」開始。初戦のベイダーに完敗するもジャーマンで投げるなど大健闘(同企画はヒール転向により5戦で終了、戦績は0勝5敗)。

**▶2005年**

2月2日　デビュー4ヵ月で武藤敬司とのコンビで太陽ケア&ジャマール組が保持する世界タッグ王座に挑戦(諏訪魔がフォール負け)。

8月4日　「WRESTLE−1 GP 2005」に出場。1回戦でザ・プレデターを破るも、10月2日の2回戦では鈴木みのるに敗れる。

**▶2006年**

1月8日　ブードゥー・マーダーズ入り。翌月、本名(諏訪間幸平)から「諏訪魔」に改名。

[illegible]　チャンピオン・カーニバルで準優勝(優勝は太陽ケア)。

[illegible]　世界最強タッグ決定リーグ戦で準優勝(パートナーはRO'Z、優勝は小島聡&天山広吉)。

**▶2007年**

1月4日　新日本プロレスに初参戦(長州力&中西学&飯塚高史&山本尚史vsTARU&諏訪魔&RO'Z&ジャイアント・バーナード)。

12月9日　世界最強タッグ決定リーグ戦で準優勝(パートナーは小島、優勝は武藤敬司&ジョー・ドーリング)。

**▶2008年**

[illegible]　ブードゥー・マーダーズを離脱。

4月9日　棚橋弘至を破り、チャンピオン・カーニバル初優勝。

4月29日　佐々木健介を破り、第37代三冠統一ヘビー級王者に輝く。

[illegible]　一騎打ちした雷神明が脳震盪となり、緊急搬送されるというアクシデントに遭遇。武藤に休場届を出すほどのトラウマとなるが、雷神自身からの檄により復調。

[illegible]　グレート・ムタに敗れ、三冠統一ヘビー級王座陥落。

12月8日　世界最強タッグ決定リーグ戦で準優勝(パートナーは近藤修司、優勝は小島&天山)。

**▶2009年**

12月6日　世界最強タッグ決定リーグ戦で準優勝(パートナーは河野真幸、優勝は武藤&船木誠勝)。

**▶2010年**

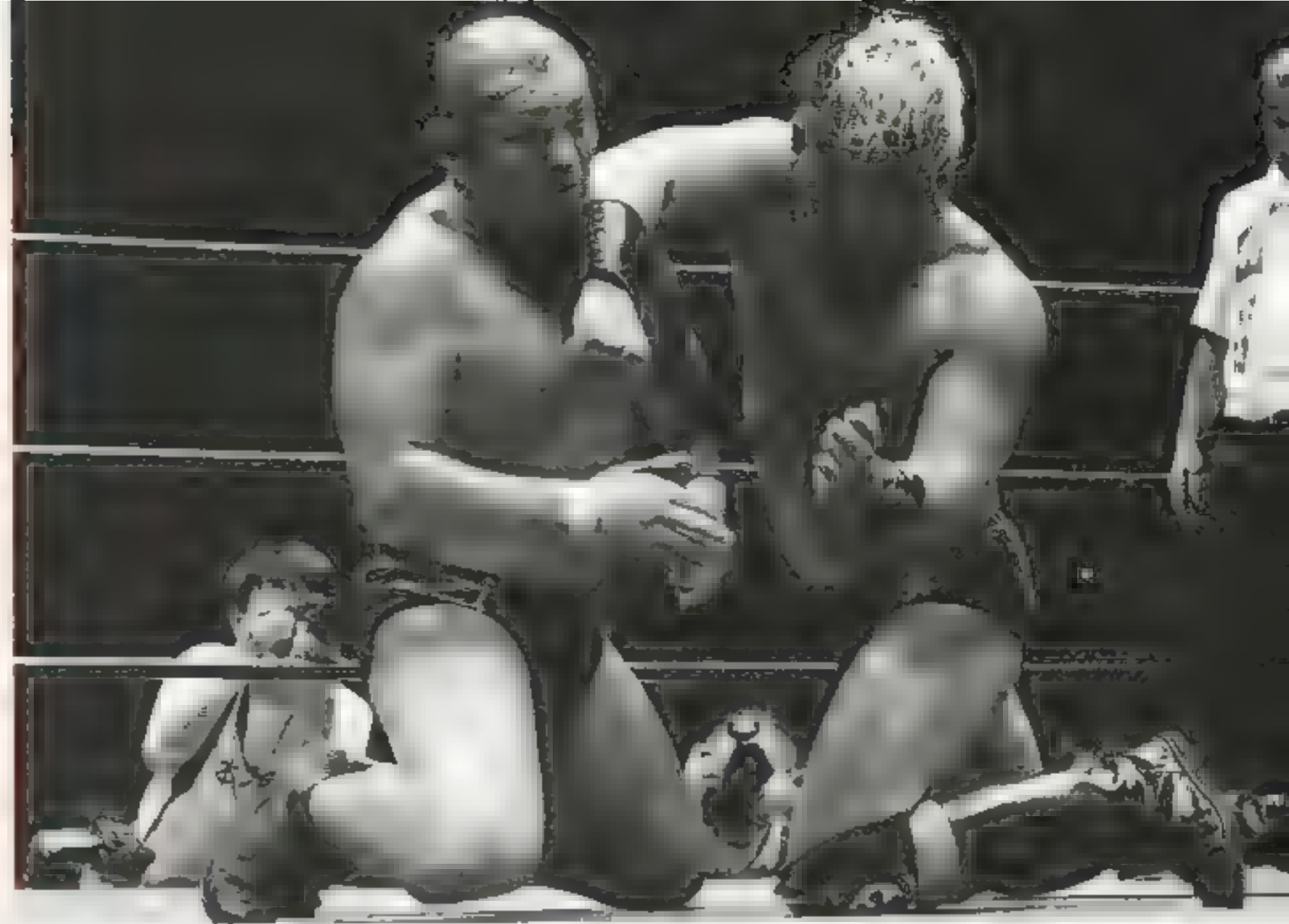
4月　小島の全日本退団について「この辞め方はプロレスラーの辞め方じゃない」と怒りをぶちまける。

5月2日　鈴木みのるが三冠王座奪取直後に船木、ケア、曙らと結成した超党派軍に対抗するかたちで、諏訪魔率いる新世代軍(河野、真田聖也、浜亮太、征矢学)が本格決起。

8月29日　鈴木みのるを破り、第43代三冠統一ヘビー級王者に輝く。翌日には選手会長にも就任。

9月10日　諏訪魔&河野vs征矢&真田の試合後、新世代軍同士の意見の食い違いから、諏訪魔が同軍を電撃解散。それに対して野次を飛ばした観客の方向に向けてマイクを投げつけた諏訪魔には、3カ月間30%の減俸が言い渡された。

9月29日　天龍プロジェクトに初参戦。同団体認定世界6人タッグ王座を奪取するとともに、その場で初防衛戦の2試合を敢行。その後、ベルトは天龍に譲渡した。

10月24日　船木との凄絶な死闘を制し、三冠統一ヘビー級王座の初防衛に成功。

諏訪魔の高い壁であり続けた鈴木みのる。今年8月にそのみのるから三冠王座を奪取した試合では、「みのるか来い！ 全日本！」と叫びながら生で頭突きを繰り出すなど、44分にわたる凄絶死闘に

## ナメられたら終わり。「どうせ手を出せねえ」なんて思ってる客には手を出しますよ

言おうと思ったんでしょうね。そうしたら、周りとぶつかるわけですよ。監督とかともぶつかるから、練習にも行かなくなるし、同期の連中からも「辞めてくれ」とかありましたからね。ただ、優しい監督で、俺のことを立ち直らせようとしてくれるわけですよ。

——更生させよう、と（笑）。

**諏訪魔**　そうそう！　だから、大学の4年の夏ぐらいでようやく気づいて、ラスト数ヵ月だったんですけど、ベビーフェイスにチェンジしましたね（笑）。だから、そこから真剣に取り組み始めた感じですよ。

——なるほど。で、社会人時代に馳先生にスカウトされて、2004年の4月に入門された、と。その頃はもうご結婚されて、お子さんもいたんですよね？

**諏訪魔**　そうッスね。

——それなのに合宿所に半年間も入られたんですよね？

**諏訪魔**　入りましたね。馳さんから、「プロレス界のしきたりとかをちゃんと学ばなきゃいけない」って言われましたから。まあ、言っていることは理解できたし、特別扱いで入ってデビューしても周りも認めてくれないだろうしね。

——しょうがない、と。

**諏訪魔**　うん。ただ、先輩たちの皿を洗いながら、「なんでガキの食った皿を洗わねえで、先輩の皿を洗ってんのかな……」って思ってましたけどね（笑）。まあ、仕事ですから、ちゃんとやりますよ。

——あの頃から諏訪魔さんに対する期待は半端じゃなかったですよね。鶴田さんの後輩ということもあって、会見では「全日本プロレスに就職します」っていう、セリフも言われてましたし。

**諏訪魔**　期待していただけるのは凄くうれしかったですよね。でも、あの会見の言葉は俺の言葉じゃねえし（笑）。

——言わされていましたか（笑）。

**諏訪魔**　うん。まあ、俺もアマチュアだったから、言われたとおりに言っちゃったわけですよ。いま考えたら、あそこから自分の言葉で言わなきゃダメですよね。

——まあ、そんな期待のなか、04年の10月にデビューされて、翌年の2月には早くも武藤（敬司）さんと組んで、世界タッグにも挑戦していましたよね？

**諏訪魔**　してた、してた（笑）。

——それぐらい期待されていたわけですけど、諏訪間幸平試練の七番勝負の一つとして組まれた05年2月16日の佐々木健介戦でボロボロにされて。

**諏訪魔**　されたねぇ（笑）。あの頃は試合のたびに佐々木さんにボロボロにされるわけですよ。頭をかち割られたりとか、アゴの骨が砕かれたりとか。

——最初にプロレスの厳しさを味わった試合だったんじゃないですか？

**諏訪魔**　そうですね。あとは鈴木みのる！　当時、『WRESTLE-1』っていう大会に出ましてね。

——『WRESTLE-1 GP』っていうトーナメントに出て、諏訪魔さんは2回戦の05年10・2代々木第一体育館大会で鈴木さんと対戦したんですよね。

**諏訪魔**　あの試合でもプロレスの難しさっていうのを感じましたよね。

——何もさせてもらえなかったっていう印象があるんですけど。

**諏訪魔**　それまでは全日本という枠組みの中で周りが作ってくれたというか、ある意味助けてくれるような感じで試合をやってたと思うんですよ。でも、初めて自分の実力がないと火傷するんだなって実感させられた試合でしたね。リングの上は怖いところだなって。あの人は潰すときはおもいっきり潰すじゃないですか？　潰すときに自分の力量をおもいっきりさらけ出させられますからね。

——この頃って、ちょうどデビューして1年ぐらいの時期ですよね。それまでプロレスをやっていて、「簡単にできちゃうじゃん」みたいな感覚はありました？

**諏訪魔**　もしかしたら、あったかもしれないですね。でも、それはいま考えれば、キャリアのある職人さんとばかりやってたからなんですよ。だから、「俺はプロレスのことをなんにも知らねえんだな」って痛感させれましたね。

——そのへんで意識が変わったんですか？

**諏訪魔**　はい。もっとドンドン吸収しなきゃ、もっとプロレスを知らなきゃと思いましたね。

——だからなのか、翌年の年明け早々にブードゥー・マーダーズに入って、ヒールに転向されましたけど、そこからプロレスの幅が広がっていきましたよね。

**諏訪魔**　プロレスって、自分で考えて作るんだなっていうことに気づきましたね。当時、武藤さんの付き人だったんですよ。「プロレスっていうのはヒールが作るもんなんだ」って言われたんですけど、わけわかんなかった。でも、ブードゥーに入ってなんとなくわかったというか。

——自分で考えて作っていくということを。

**諏訪魔**　うん、そういうのを勉強しましたね。それに、ブードゥーは自己主張の仕方が合ってたッスね。

——レスリング部の問題児時代を思い起こさせるような（笑）。

**諏訪魔**　相手を潰すこともあったし、その頃の経験がやっとブードゥーで活きましたよ（笑）。

——ダッハハハハ！　鶴田2世というキャラクターよりも、ブードゥーのほうが素でやれたというか。

**諏訪魔**　水が合っていたんですよね（笑）。

——野次を飛ばされたりすると、お客さんにつかみかかったこともありましたよね？

**諏訪魔**　基本、プロレスラーはナメられたら終わりだと思ってますからね。「どうせ手を出せねえ」なんて思っている客には手を出しますよ。

——でも、客にナメられちゃいけないっていうのは大切ですよね。

**諏訪魔**　そりゃそうッスよ。

——ブードゥーに入ってからは小島（聡）

さんにもシングルで連勝したり、三冠王座にも初挑戦したりで、一気にトップ戦線に顔を出すようになりましたよね。

**諏訪魔**　そうなんですけど、またここで川田利明っていう、3つめの壁が立ちはだかってくるんですよ。

――07年の2・17両国大会での世界タッグ王座戦ですよね。

**諏訪魔**　頭をスコーンと蹴られて、記憶が飛んじゃってね。あの人も、故意に入れてきたと思うんだけどね。でも、プロレスの怖さっていうのをここでも教えられましたよね。試合は生モノっていうか、何が起こるかわからないっていうことをね。

――しかも、よりによって両国という大舞台で（笑）。

**諏訪魔**　本当に！　俺も大舞台が怖くなりましたよね、あの試合で（笑）。だからね、この頃はプロレスをやっていけばやっていくほど難しさを感じていましたよね。

――やればやるほど、怖いものが増えてくるという。

**諏訪魔**　そうなんですよね。だから、デビューした頃は全然緊張しなかったですよ、ビッグマッチだろうがなんだろうが。いまは凄い緊張しますね。

――それは逆に怖さを知ったからということですよね？

**諏訪魔**　はい。

――そういう経験を積んで、08年に本隊に復帰しました。この頃から、全日本という会社を自分が引っぱっていこうという意識が出始めたのかなって思うんですけど。

**諏訪魔**　兆しが見えた？（笑）。どうだったんですかね？

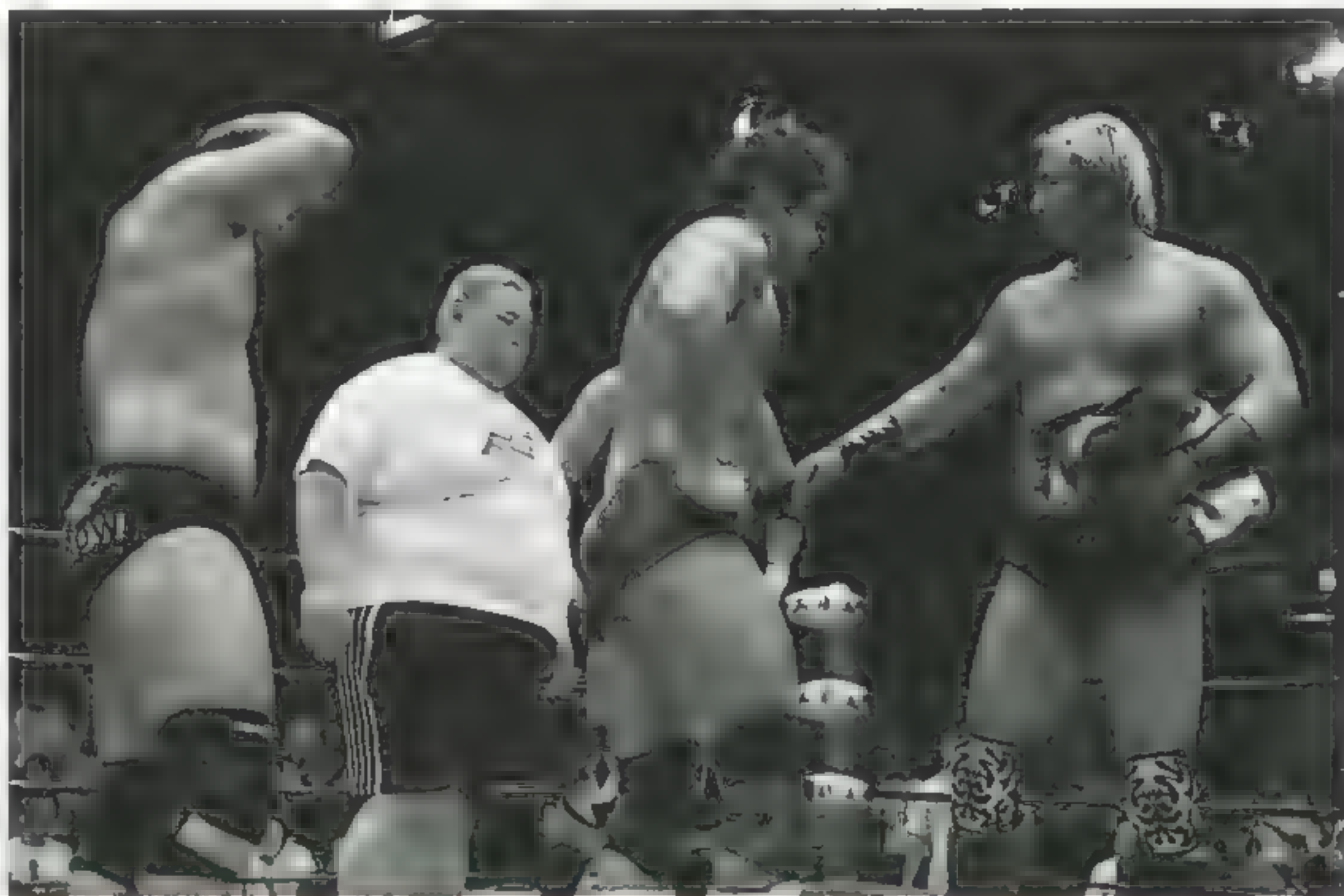
――08年の『チャンピオン・カーニバル』では優勝されましたけど、印象深かったのが、鈴木さんとの公式戦なんですよ。

**諏訪魔**　ああ、あった、あった！　ケンカみたいにやった試合だ。

――お互いにバッチンバッチン打撃を入れて、諏訪魔さんも目が血走っていて、凄かったなっていう印象があるんですけど。

**諏訪魔**　だって、『WRESTLE-1』で全然歯が立たなかった相手ですからね。「あの頃と違うんだぞ！」っていう記憶を残したほうがいいじゃないですか？

――あの試合はプロレスの枠をはみ出しかねないような激しさがありましたけど。

**諏訪魔**　うん。ただ、あの試合をやってた頃って、自分らしさに気づき始めた段階だと思うんですよね。まだ、模索中ではありましたけど、自分がリング上で何をすれば受けるのかっていうことに気づくことができた。あの鈴木戦はいいきっかけになりましたよ。

物議を醸したマイク投げ事件。万が一、観客にケガが起きていたらと考えればけっしてほめられることではないか、エースという立場でありながらも素の感情を爆発させてしまう破天荒なところは、諏訪魔の魅力の一つなのかもしれない

――なるほど。『チャンピオン・カーニバル』のあと、08年の4・29愛知大会で健介さんを破って、三冠王座を初めて獲得されましたけども、初めてなった三冠王者っていうのはどんな感じだったんですか？

**諏訪魔**　まあ、悩みましたよね。プレッシャーも感じたし、周りがまだ俺のことをチャンピオンとして見てないわけですからね。それが一番違和感としてありましたね。「ああ、俺ベルト持っているけど、チャンピオンとして見られてないな」って。

――チャンピオンだけど、エースは武藤敬司っていう。

**諏訪魔**　っていうか、ほかにも一流レスラーがいっぱいいましたからね。そっちのほうがチャンピオンに見られちゃうんですよね。

――その重圧やら違和感がモロに出てしまったのが、その年の8・31両国大会での太陽ケアとの防衛戦だと思うんですけど。

**諏訪魔**　また、やっちまったっていう（笑）。あれで「ビッグマッチに弱い」っていうイメージがつきましたからね。まあ、しょうがないですよね。

――60分ドローでしたけど、お客さんの反応がよくなかったのはわかりました？

**諏訪魔**　わかりますよ。いつかこの空気をひっくり返してやろうって思ってやっていましたけどね。でも、あれがあの当時の俺の実力ですよ。レスラーとしての腕がそのまま出たんじゃないですか？

――さらに悪いことは重なるというか、その直後の9・13後楽園大会で雷陣明（現・KIYOSHI）さんとのシングルマッチで、雷陣さんを失神させて病院送りにしてしまったという。

**諏訪魔**　ああ、頭蹴っちゃって、死にかけちゃうし（笑）。もう、何やってもうまくいかない時期ですよね。本当に苦悩（笑）。

――その後、ベルトを落としてしまうわけですけど、そんな悩んだ時期を経て、去年の8・30両国大会での高山善廣さんとの三冠戦は激しい試合だったじゃないですか？　あの試合から、現在のスタイルが固まってきたのかなと思うんですけど。

**諏訪魔**　はい。まあ、ベルトを落としてから、自分を見つめ直せるというか、そういう時間があったんでね。まあ、一通りいい経験ができていたので、三冠戦に臨む心構えができていた大会でしたよ。

――とにかく、あの試合からファイトスタイルが一層激しくなってきましたよね。今年の8・29両国大会の鈴木戦も、10・24横浜大会の船木誠勝さんとの三冠戦も凄まじかったし。

**諏訪魔**　まあ、たまたまじゃないけど、そういう激しい試合がやれる人がいただけですよ（笑）。

――高山さんも鈴木さんも、あるいは船木さんにしても、打てば響いてくるタイプですからね。

**諏訪魔**　はい。だから、スイングしたのかもしれないし。

――ああいう総合を経験してきた人たちと相対するときって、別の怖さってあります？

**諏訪魔**　まあ、一発入っちゃう怖さはありますよね、打撃なり関節技なりで。でも、怖さは怖さで理解していますけど、波長が合うというか、あの人たちが持っている緊張感とか価値観は合うなとは思いますけどね。

# 俺は24時間、武藤敬司をビックリさせることを考えてるんですよ

――なるほど。ところで、3月から半年間、武藤さんが欠場していました。それを聞いたときはどう思われたんですか？

**諏訪魔**　ビックリしましたけどね。でも、だからこそ、自分が引っぱっていかなきゃっていう責任感も強くなったし、チャンピオンになる心構えもできたわけであって。だから、ずっとメインも張るようになったんですけど、「お客さんをいい気分にして帰すにはどうしたらいいんだろう？」とか、スゲエ考えるようになりましたよね。

――そうやって頑張っていたからこそ、退団する小島さんへの発言も辛辣になったんですかね？

**諏訪魔**　あれは誰もが思っていることだったろうし、「誰も言わないなら、俺が言うよ」って。

――でも、ツイッターでやったのにはビックリしました（笑）。

**諏訪魔**　ちょうどツイッターを始めた時期で、これちょうどいいなと思ってやったんですよ（笑）。でも、言ったことによって自分を追い込めたし、ある意味チャンスですからね。だから、いまは小島聡がいなくなってくれてよかったと思ってます。

――そうですか（笑）。でも、諏訪魔さんたちが頑張っているのにもかかわらず、武藤さんの欠場以来、客足が落ちちゃっているじゃないですか？　こういう現状に対してはどう思われているんですか？

**諏訪魔**　そこを闘っている最中ですよね。もっと集客したいですよ。武藤さんもまだ地方は出てこないわけで、早く俺らでお客を呼べるようにしたいですよね。

――そこに苛立ちを覚えます？

**諏訪魔**　いや、苛立ってはいないけど、もっと試行錯誤していかなきゃいけねえなとは思いますよ。

――いや、あの9・10後楽園大会でのマイク投げ事件は、そんな苛立ちの表われかとも思ったんですけどね。

**諏訪魔**　いや、あれはね、野次が俺に対する野次じゃなくて、仲間に対する野次に聞こえたんだよね。よく言うでしょ？「俺の悪口はいいけど、俺の親への悪口は許さねえぞ！」っていうセリフ。

――時代劇とかでありそうなセリフですね（笑）。

**諏訪魔**　まあ、そういう感覚ですよ。「馬鹿にすんじゃねえぞ、この野郎！　ぶっ殺してやる！」って思いましたからね。

――また、物騒な（笑）。あのときは客席に向かってましたけど、本当に行こうとされたんですか？

すわま■1976年11月23日、神奈川県出身。本名・諏訪間幸平。中央大学進学後にアマレスを始め、クリナップに就職。2002年、世界選手権および国体で優勝。03年の全日本選手権では準優勝に終わり、翌年、全日本プロレス入門。08年に第37代、10年には第4[illegible]代の三冠統一ヘビー級王座に就く。188cm、120kg。

**諏訪魔**　うん。こっちに出てくるんだったら、ぶん殴るつもりでしたからね。

――そこまで（笑）。でも、昔の新日本とかでは汚い野次を飛ばす客を若手がつまみ出すこともありましたよね。

**諏訪魔**　そうでしょ？　ナメられちゃいけないですから。やっちゃいますよ！

――やっちゃいますか（笑）。ある人が言うにはですね、「レスラーは絶対に謝っちゃいけない」ということなんですけど。

**諏訪魔**　謝んねえよ！　謝罪なんか絶対にしねえよ！　まあ、処分は受け入れますけど、あの行動に関しては俺は間違ったとは思ってないし。これは批判されようがかまわないよ。こっちだってプライドをもってやっていますからね。

――わかりました（笑）。ところで、武藤社長って諏訪魔さんにとって、どういう存在なんですか？

**諏訪魔**　師匠ですね。

――60分ドローをやったケア戦のときもその前でIWGP戦をやったり、このあいだの船木戦の前にも世界ジュニアに挑戦したり、諏訪魔さんがメインで三冠戦をやるときに、なんか話題をさらうようなことをしていきますよね（笑）。

**諏訪魔**　まあ、武藤さんは武藤さんで、プロレスに対してハングリーですよね。

――ハングリーすぎますよ（笑）。

**諏訪魔**　でも、俺は俺でいつか食ってやろうって思っていますよ。

――ただ、ケア戦のときは食われちゃったと思うんですけど、このあいだの船木戦は内容で食い返したんじゃないですか？

**諏訪魔**　でも、周りの評価はどうかって言ったら、向こうのほうが絶対に目立っていましたからね。『週プロ』の表紙だって武藤さんだったじゃん（笑）。

――そうでした（笑）。

**諏訪魔**　だから、いまのままじゃダメだなと思いますよ。ここで自分が満足していたら、武藤さん以下のままで終わっちゃうと思うんですよね。だから、驚かすようなことをしたいですよ。

――まあ、今年は一つ驚かされましたけどね（笑）。

**諏訪魔**　え？　俺？　何やった？

――だから、マイク投げ事件（笑）。

**諏訪魔**　いや、悪い事件だったら、いくらでも作れますよ（笑）。あれはある意味邪道なやり方ですから。じゃあ、なんか事件を起こしちゃうか（笑）。

――いや、本当に起こされても困ります（笑）。では、最後に今後の目標を教えてください。

**諏訪魔**　目先の目標は「三冠は諏訪魔、全日本は諏訪魔なんだ」っていうイメージを業界に植えつけたいんですよね。そこから話題になるようなことを提供していきたいですね。どういう話題を作れば武藤さんをビックリさせられるのか？　そればっかり考えてますね。

――ビックリさせたいですか？

**諏訪魔**　ビックリさせたいッスよ（笑）。

――ビックリさせられることが多いですからね（笑）。

**諏訪魔**　ねえ？　だから、俺は24時間、武藤敬司をビックリさせることを考えているんですよ。もう、プロレスのことをしょっちゅう考えてる。頭の中はずっとプロレスばっかりですよ。

――わかりました。今後もおおいに暴れて、プロレス界を盛り上げてください！

**【10年11月9日／神奈川県・全日本プロレス道場にて収録】**

第60回

# 一度は本場で観たい UFCとフーターズ

花くまゆうさく

## 豆リングの汁

尖閣ビデオを見せろ見せないってなってるとき、ツイッターでは「ヒクソンvs安生の道場マッチビデオのようだ」との声が多くあがり。そして尖閣ビデオが『YouTube』に流出すると、「『テレ東』が録ってたらしい」（吉田豪さんつぶやき）、「安生の前田襲撃ビデオなども流出してくれ」との声があちこちからたくさん。

こうして見ると、歴史的な重大未公開ビデオに二つも出演してる安生は凄いんじゃないかと数分思いました。それにしてもこの二本、いつか観れる日は来るのかしら？

WECとUFCの一本化がうれしい。これで日本の実力ある選手でメジャー志向ある人はどんどんUFC目指してほしいな。ジャパニーズMMA（TBSMMA）を観てると、つくづくそう思う。

『サブミッション魂5』を見たら、佐々木憂流迦選手は塩澤正人選手からも一本勝ちしてるんだ、凄いね。次のアブダビ日本予選でいろんな選手とやったらおもしろそう。『DEEP X』でハファエル・メンデスとやるのもいいんじゃないかな。生年月日見たら同い年だ！

Hanakuma Yusaku
『エクスペンダブルズ』パンフレット最高。

## 金ちゃんのどこまでやるの？

第52回 出たかった試合の巻

12・11『DEEP 51 IMPACT』ディファ有明大会で、飛鷲輝選手と闘うことになりました。4カ月ぶりの試合、いま減量頑張ってるので、応援よろしくお願いします！

でも、ホントはこの試合より前に1試合組まれそうになったんだよね。11・9K-1 MAXで石井慧選手の対戦相手が急きょ、柴田（勝頼）くんに変更になったけど、じつは俺のところにも話が来たんだよ。

試合二日前の7日（土）深夜に連絡が来てさ、「月曜日に石井慧と闘えるか」って聞かれてね。もちろん試合用のコンディションなんかできてないけど、柔道のオリンピック金メダリストがどれほどのものか興味があったし、こんな機会はなかなかないと思って「大丈夫です」って答えたんだよね。

まあ、ほかにも何人か聞いてるようだったから、「きっと俺には回ってこないだろうな」ってうすうす思ってたから、あんまり緊張もしなかったけどね（笑）。こういう超直前のオファーは、前にDREAMでムリーロ・ニンジャの相手がいなくなったときにも来たことがあって、あのときは突然、ニンジャみたいな強い選手と闘うことになるかもしれないって緊張したけどね。

ただ、俺じゃないにしても、柴田くんにやらせるのはどうなのかな？ って思っちゃうよね。2週間前のDEEPでTKO負けしたばかりだからさ。やっぱりやらせちゃいけないと思うよね。

というわけで、俺の試合がTBSで流れるチャンスを逃したって話でした。最初に話が来たときは、UWFインター時代にチラッと映って以来のTBS登場かな？ と思ったんたけどね～（笑）。

あと俺がもう一つ出たかったのが10・23DEEPのJCBホール大会。俺も出場して存在をアピールしたかったんだけど、12月の大会のほうで試合が組まれることになって、出場できなかったんだよ。

でも、ちゃんと会場には行って、じっくりと試合を観戦したんだけど、俺が一番注目してたのは山本（宜久）さんの試合。リングスで同じ釜の飯を食った同年代の選手だからね。しかも、リングス時代は100キロ以上あって、バリバリのヘビー級だった山本さんが77キロまで落としてやるっていうんで、「どうなるんだろう？」って注目してたんだよね。

試合はやっぱり3年ぶりの試合というブランクが響いちゃったかな。同世代の選手が負けると悔しいよ。でも、山本さんはなんで減量しちゃったのかな？

ちょっと聞いてみたら「自然と通常体重が85キロぐらいになったんで、試合用に77キロまで落としてみた」って言ってたけど、なんか昔の筋肉まで落ちちゃったような気がするんだよな。

山本さんはリングスで時間をかけて、ヘビー級の肉体を作り上げたわけじゃん。その肉体って財産だからさ、なくしちゃうのはもったいないと思うんだけどな。しかも、ヘビー級の身体を作るために、かなりリングスの経費を使ってるからね（笑）。

リングス時代、山本さんはちゃんこのとき、玉子の白身を15個ぐらい食べてたし、プロテインもガンガン飲んでたからね。それで、ケビン山崎さんのところで身体をデカくして、動けるようにしてさ。そんだけやって作った肉体だから、もったいないな～って思ったんだけどね。

俺も減量してるとたまに「せっかくでかくした身体なんだけどな～」とか思うけど、いまの時代はしょうがないのかな。とにかく12月の試合、頑張ります！

Hiromitsu Kanehara
本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

ギャンブル、自殺未遂騒動、養豚場破綻、ブラジル移住……

# その波瀾万丈すぎる“人間劇場”を激語り!!

# 「俺から博打を取ったら何も残らないからさ」

## 来年2月4日に引退決定!

# 安田忠夫

な、な、な〜んとあのマット界随一のお騒がせ男、安田忠夫が引退を発表!“借金王”“ナマクラ”など、さまざまな肩書きで業界をにぎわせてきた安田。なんでも来年2月4日の後楽園ホール大会での引退後はブラジルに渡り現地で相撲を教えるとかなんとか。その真相を含め、これまでの波瀾万丈にもほどがあるレスラー人生を振り返ってもらいました!

聞き手 佐藤篤(THE PEHLWANS) 構成 鈴木佑 試合写真 平工幸雄

――安田さん！ 来年2月4日に後楽園ホールで行なわれる引退興行で17年間のレスラー生活にピリオドを打たれるということですが、今回は引退を決意された理由も踏まえて、これまでのレスラー人生を振り返っていただければと思います！

**安田** 引退興行のアピールができるのであれば、なんでもお話しさせていただきます（笑）。

――わかりました！ では、早速なんですが引退を決意した理由から教えてください。

**安田** 3年前に〝エア焼肉〟の一件があったでしょ？

　安田さんは、焼肉が食べたかったんだけど、ガスが止められていたのでとりあえず七輪を二つ購入した、と。そうしたら、肉を買うお金がなくなってしまったので、空想で〝エア焼肉〟をしていたら、その前に睡眠薬を飲んでいたこともあって寝てしまった。その結果、一酸化炭素中毒になって生死の境をさまよったという、例のお騒がせ事件ですね（笑）。

**安田** そうそう（笑）。で、〝エア焼肉〟のあとにお世話になったパチンコ屋の社長さんが、俺に「10年後、安っさんは何してる？」って聞いてきたんだよね。そのとき俺は、「明日のメシを食うカネもねえのに、10年後なんか考えられねえよ」って思ったんだけど、いまになってみると、その社長さんが若い人材を育てているのを見たりしているうちに、そういうことを自分もやってみたいなって思ったんだよね。

――人材育成をしてみたい、と？

**安田** うん。そういう気持ちになったときに、石澤くん（常光＝ケンドー・カシン）と早稲田大学つながりで田崎健太さんというスポーツ関係のライターさんがいるんだけど、田崎さんから「安田さん、ブラジルで相撲を教えてみませんか？」っていう話をもらったんですよ。

――つまり、安田さんがブラジルで少年らに相撲を教える、と。

**安田** うん。そのときに、田崎さんから「ブラジルに行く前にキレイにしたほうがいいんじゃない？」っていうのも言われてて、俺もレスラー人生にケジメをつけたいっていうのがあったんだよね。

道場での下積みを経て、コーチである馳浩を相手にデビューを飾った安田。そのセコンドには永田や石澤といった当時のヤングライオンがつき、31歳の新人を全面バックアップ。ヤスディのレスラー人生はスタートからドラマチックだったのだ

――失礼を承知で言いますけど、真剣に考えられてたんですね？（笑）。

**安田** 真剣だよ！（笑）。あとはビザとかを取らないといけないんですけど、来年2月の引退興行を終えたらブラジルに行きますんで。なので、リングに戻ってくることは二度とないと思います。でもまあ、この性格ですから「や～めた！」って言ってブラジルから戻ってくるかもしれないんだけどね（笑）。でも、プロレスに戻ることだけは絶対にしたくないんですよ。だって、プロレス界には何回も引退を繰り返してる人がいるでしょ？

――まあ、誰とは言いませんが、多々いますね（苦笑）。

**安田** そういう人に俺はなりたくないんで。それで、田崎さんには引退興行の仕切りもしていただいているんですよ。まあ、俺が引退興行をやろうとしたって、俺の信用では間違いなく無理だから（笑）。

――それにしても、養豚場を辞められたのに、そのあとでカシン選手のつながりからそのようなお話を紹介をされたわけですよね。その関係性がちょっと不思議といいますか（笑）。ちなみに、養豚場をクビになったきっかけはなんだったんですか？

**安田** 養豚場はクビってことになってるけど、実際は俺から辞めたんだけどね。まあ、その前にパチンコ屋で働いてて、そこも辞めてるんだけど。

――〝エア焼肉〟のあとに、安田さんは新潟市内のパチンコ屋で働かれてたんですよね。

**安田** あのときは、猪木さんが「おまえはギャンブルをやめられないんだから、パチンコ屋で働けばいい。これからは胴元になるんだ」みたいな話になってさ（笑）。

――それも凄い話ですよね（笑）。で、実際に働いてみていかがでしたか？

**安田** 3ヵ月働いてわかったことは、結局、当たる当たらないっていうのは自分のヒキの強さだったり、運なんだな、と。

――中に入ることで極意を学んだわけですね（笑）。

**安田** ただ、仕事に関しては、女性の方と対等な立場で働いたことがそれまでなかったから、ちょっとそこらへんで人間関係にも疲れてしまったというか。だからパチンコ屋をクビになったのも、プロレスの試合が入ってそのための練習を朝にやったら、昼以降は暇になるじゃん？ でも、自分の店で打つわけにはいかないからライバル店に行って打つんだよ。それが問題になっちゃってクビになったんです。プロレスのために休ませてるのに、なんでパチンコしてるんだ、と（笑）。

――それ、人間関係とかじゃなく、自業自得じゃないですか（笑）。

**安田** でも、人間関係に疲れたからパチンコ屋に行ってしまうんだよ。だけど、俺が働いてるところの店員がライバル店にチェックしに行ったら、俺が朝からパチンコ打ってるわけじゃん。そりゃ、やっぱりマズいよね（笑）。で、店から注意をされて、今度はちょっと離れた店に行ったら、そこにたまたまその日が休みだった社員が打ちに来ててさ。そこで、また会社に報告されちゃってね。

――まさに、やることなすこと（笑）。

**安田** それで、もうどうしようもなくなっ

## 人間関係に疲れてくるとパチンコ屋に行っちゃうんだよな

たからクビというか。でも、そのときにお世話になった社長さんの知人がイベントを入れてくれるということで、今月からはそれでメシが食えるようになるんですよ。だから、実際は円満退社ということで。

——もの凄く都合のいい解釈ですね(笑)。で、そのあとに務めることになった養豚場では、どれくらいの期間働いてたんですか?

**安田** 1年8ヵ月だね。もうちょっといたら勤続2年で退職金がもらえたんだけど、そういうのをもらっちゃうとさ(笑)。

——そこらへんは一応気を使われるんですね(笑)。ちなみに、向こうではギャンブルを一切しないでストイックな生活をされてたんですか?

**安田** いや、行ってたよ。タクシーで往復5000円も使ってパチンコ屋に行ったりとか。そんなに何回も行けないけどさ。

——まったく懲りてないじゃないですか!(笑)。

**安田** (無視して)まあ、俺は養豚場で働いたことで、「生きてるものは死ぬんだ」っていうことを学んだよね。

——それはつまり死生観みたいな?

**安田** だって、本当に山の中だから、豚がいるのはあたりまえなんだけど、タヌキ、キツネ、ウサギ、あとクマもいるからね。それで、ある程度すると豚が訴えてくることもわかってくるわけよ。やっぱり生き物だから。

——つまり、豚の言葉も自然に理解できるようになる、と。

**安田** まあ、豚は好奇心が強い動物だから、小屋に入ったら訴えてくるんだよね。で、「なんかへんだな」って思って、あとで小屋に行ってみたら死んでたりとかさ。あとは、豚は群れの中で生活をするんだけど、なかにはほかの豚に先に食べられてしまって、なかなかエサにありつけないのもいるわけよ。そうすると、俺がその群れから連れてきてエサを与えるんだけど、それを何回か繰り返していうちに俺の顔を覚えちゃうから、俺が行っただけで寄ってくるんだよね。まあ、豚の言葉はもちろんわからないんだけどさ、癒されるんだよね(笑)。それに豚はバカじゃないし、みんなが思ってるほど汚い動物でもない。きちんとキレイにしてあげれば、豚は本当にかわいいよ。

——完全に豚にのめり込んでしまったんですね(笑)。

**安田** だってさ、ちゃんと本を買って一生懸命勉強したからね(自慢げに)。あとは、生存競争があるから、群れの中でのイジメもあるんだよ。しかも、豚は徹底していじめるからね。それで死んじゃったりもするんだよ。そういうこともあるから、見つけたときにはいじめられている豚を俺が助けてあげないといけないし。だから、イジメっていうのはある程度まで成長してから起こるんだよね。とくに出荷する前の豚に対してのイジメは凄いんだよ。逆に小さい豚は生存競争があるしさ。

安田は01年の猪木祭りでは藤田和之の代打としてメインでジェロム・レ・バンナと対戦。そして下馬評を覆してバンナからギロチンチョークで奇跡の勝利! ダメ親父が愛娘に捧げた大仕事に、全国のお茶の間が感動につつまれた。

## 養豚場にいた頃はパチンコで負けて 4時間歩いて帰ったこともあったよ

——そう考えると、プロレス界と一緒かもしれないですね。

**安田** そうそう。結局は同じ生き物なんだから(笑)。だから、養豚場での生活はけっこう楽しかったんだよね。

——確かにお話を聞いてると充実ぶりが伝わってきます(笑)。でも、そんなに豚をかわいがっていると、豚肉とか食べられるもんなんですか?

**安田** それは全然平気だったよ(キッパリ)。でも、給料が安かったから国産は食えなかったけどね。そんなこと言うと、石澤クンに怒られるか(笑)。

——ダハハハハ!

**安田** でも、食うぶんには困らなかったし、住むところもあったからね。自然が多いところにいると癒されるし、パチンコ屋の仕事で人間関係に疲れてたから、いいリハビリになりましたよ。だけど、このまま山の中で人生を終えるのも嫌だったんで、出てきちゃったんですよ。

——山の中から出てきちゃった(笑)。

**安田** 本当は3ヵ月の試用期間を終えたらすぐに辞めてやろうと思ってたんだけど、そのうちに豚がかわいくなっちゃってさ(笑)。それで、そのあとは流されるままに生活してたんだけど、やっぱり「このままでいいのかな?」っていう葛藤も自分のなかであったんだよね。

——その葛藤のなかで、タクシーに乗ってパチンコを打ちに行ってた、と(笑)。

**安田** まあ、憂さを晴らしにいって、きっちり負けて帰ってくるんだけどね(笑)。

——期待をまったく裏切りませんね(笑)。ちなみに、負けて帰ってくるときはタクシーで?

**安田** いや、歩いて帰ってきたときもあるよ。徒歩で4時間。

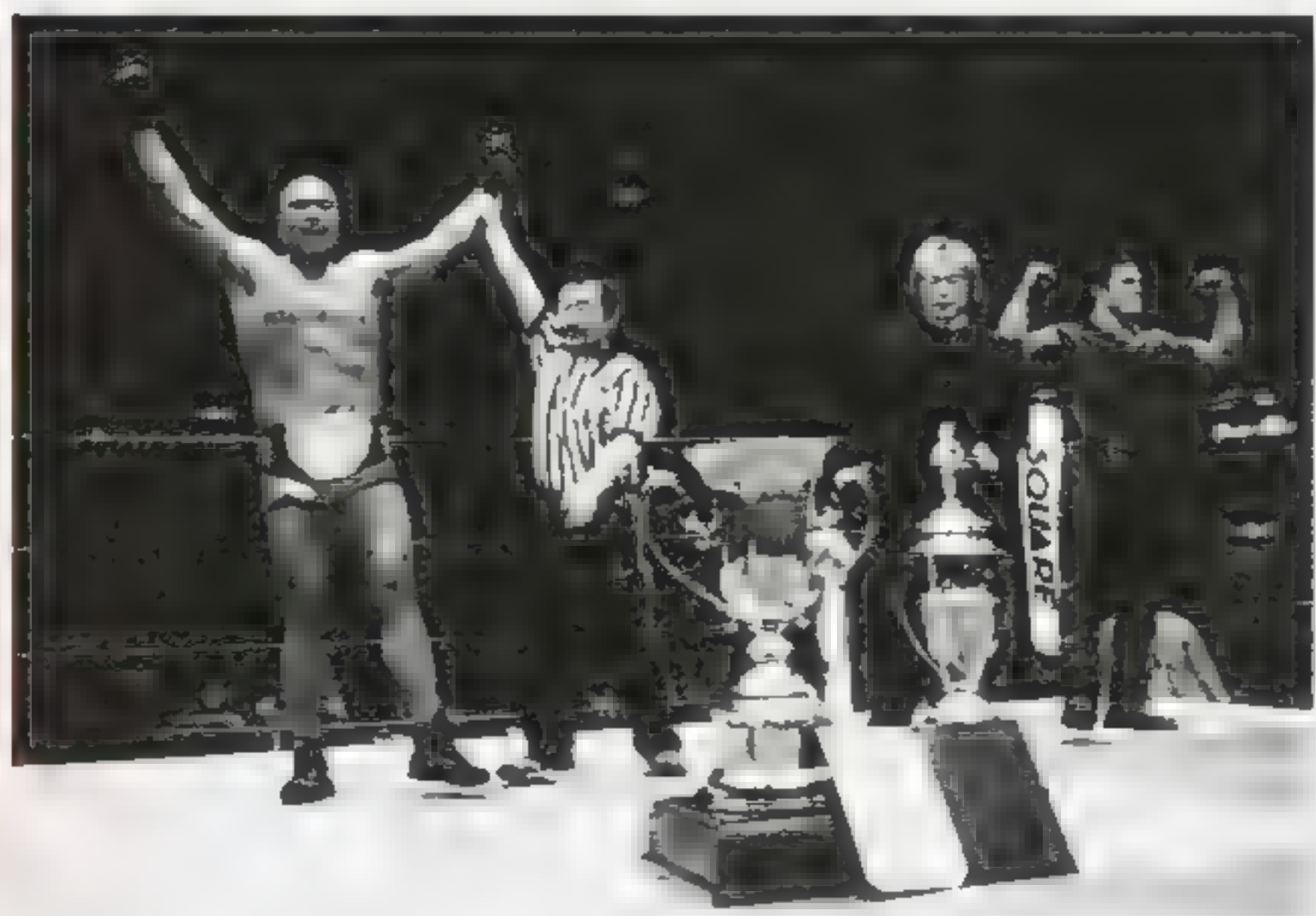
——徒歩で4時間!

**安田** まあ、歩いて帰ってきたことは何回かある。

——しかも一回じゃない(笑)。

**安田** 3000円くらい残しておけよって思うんだけど、やっぱりそれが俺なんだよな(笑)。

——で、養豚場を辞められた時点で、プロレスを続けていこうっていう考えはなかったんですか? たとえば、フリーとしていろいろな団体に出ていくとか。

**安田** でも、それには見合ったギャラをもらえないとね。やっぱりそれ相応のギャ

バンナ戦での勝利で一躍"時の人"となった安田は、その勢いを駆って02年には永田を破って一気にIWGP王座を戴冠! 格闘技戦でのバリューを上げてから一気に飛び級。まさにアントンが介入していた当時の新日マットを象徴する出来事であった。

ラが出ないのに、そこまでしてプロレスをやろうっていう気持ちもないんですよ。安いギャラでプロレスするんだったら、違う仕事でそれ以上稼ぐことはできるわけだし。だから、それ相応のギャラを用意してくれるんであれば出ますよ。ただ、俺が出ることで話題にはなるかもしれないけど、チケットは売れないよ、と(笑)。

――なるほど(笑)。では、プロレスで思い残したことはありませんか?

**安田**　まあ、魔界(倶楽部)のときにもうちょっとまじめにやっておけばよかったなって、それぐらいかなあ。

――お金の話で恐縮なんですが、レスラー時代で一番稼がれたのは、2001年の大晦日にバンナから大金星を挙げて、翌年2月にIWGP王者になった頃ですか?

**安田**　いや、バンナとやった頃はその前に契約書にハンコを押しちゃったからさ。勝ってから押してりゃよかったんだろうけど(笑)。

――それは悔やまれますね(笑)。

**安田**　だから、猪木さんには最近頭にきててよ。俺が電話しても出ねえし。岩手にいた頃は電話したらかけ直してくれてたのに、東京に出てきたら俺に金を取られると思ってるのかもしれないけど、なかなか「来い」って言わないんだよ(笑)。だって、言っちゃ悪いけど、「人の金をさんざんピンハネしておいて、俺に貸してるはねえだろ。アンタに金を借りたことは一回もねえよ」って言いたいもん(笑)。

――ピンハネっていうのは?

**安田**　あとから聞いたことだけど、ギャラの話だよ。それこそ、バンナとの試合とか、み～んなピンハネされてたんですよ。いままで言わなかっただけで。試合した張本人に実入りがないんだからな(笑)。あとは、俺が新日本を辞めたときにさんざん悪者にされたからね。これもいまだから言える話なんだけど、俺はずっと契約書にハンコを押してたんだから。

――えっ、どういうことですか?

**安田**　俺が猪木事務所の預かりになってたときだって、新日本と契約してないとか、解雇になったとか言われながらも実際は新日本と契約してたからね。だから、それを知らない社員もいたし、俺が経費の精算をするために会社に行くと、「なんで金をもらうときだけ新日本に来るんだ」って言われたりとかさ(笑)。

――事実を知らない人からすれば、「安田さんは金にうるさい人」っていうイメージしかなかった、と(笑)。

05年に新日を退団してからはさまざまなリングを渡り歩いた安田。一時期は“借金王”のTシャツを着用してあの「ハッスル」を主戦場にしていたことも。もちろん、そのスキットではギャンブル好きのキャラを全面フィーチャー。借金つながりという意味で、いまとなっては最も“ハッスル”を体現していたのかもしれない?

**安田**　だから、プロレス界は知ってる者だけが偉いみたいなところがあるだろ? 社員の中でだって、そういう風潮があるわけだし。俺はそれが嫌なんだよ。だって、プロレスはエンターテインメントなんだから。それはハッキリ言ってやるよ。

――「素行が悪い」という理由で無期限出場停止になったときもありましたよね。

**安田**　素行が悪いって、本当に悪いことをしたのは、一、二回しかないんだから(笑)。あとは会社が「休め」って言うから俺はそのとおりにしただけなのに、周りの選手にそのことを伝えてないから「またかよ、ヤス」みたいに言われるしさ。

――試合をすっぽかしたとか。

**安田**　でも、本当にすっぽかしたことはあるよ(笑)。まあ、遅刻もあるけどそれも一、二回だし、それ以外でサボったのも別の仕事が入っていただけでさ。

――あのときの安田選手のイメージとしては、完全に遅刻あるいはサボりキャラでしたけどね(笑)。

**安田**　だから、選手の結婚式なんかに行くと、わざと乾杯が終わったあたりで式場に入っていくんだよ。そうすると、遅刻キャラがあるからそれだけでウケるんだよな。

――「安田、また遅刻してるよ」みたいな感じになる、と(笑)。

**安田**　そうそう(笑)。でも、やってるほうは、それで笑ってもらえるから楽しいんだよ。

――確かに魔界倶楽部のときの安田選手はキャラクターが完全にハマってましたよね。

**安田**　でも、俺がそこにハマってしまったからいけないんだよ(笑)。まあ、周りからも「あの頃はおもしろかったね」って言われるけど、俺もあの当時はキャラに迷って

## 安田忠夫年表

- [illegible] 本場所を最後に大相撲廃業(四股名は孝乃富士、最高位は小結)。
- [illegible] 新日本プロレス入門。
- [illegible] 馳浩を相手にプロレスデビュー。
- [illegible] 安田忠夫「飛翔」五番勝負開催。(1勝4敗)
- [illegible] G1クライマックス初出場(以降、03年まで毎年出場)。
- [illegible] 「失踪説」が専門誌に掲載される。
- [illegible]12月31日 「INOKI BOM-BA-YE」での小川直也戦で復帰(レフェリーストップ負け)。
- [illegible] 橋本真也率いるZERO-ONEの旗揚げ戦に登場。以降、断続的に参戦。
- [illegible] 猪木軍としてひさびさに新日本マットに登場。「生きてます!」と武者修行帰国の挨拶を行なう。
- [illegible] 「PRIDE.13」にて総合格闘技に初挑戦。佐竹雅昭を判定で破る。
- [illegible] 「K-1 JAPAN GP」での猪木軍vsK-1対抗戦に出陣。レネ・ローゼに失神TKO負けを喫す。
- [illegible] 「INOKI BOM-BA-YE」でジェロム・レ・バンナを破る大金星。
- [illegible] 第30代IWGPヘビー級王者決定トーナメントを勝ち抜き、新日本の至宝を初戴冠。
- [illegible] 永田裕志に敗れIWGPヘビー級王座陥落。
- [illegible]8月[illegible] 「UFO LEGEND」で藤田和之と一騎討ち。[illegible]に敗れる。同日、欠場した新日本のリングで「安田忠夫壮行試合」「アントニオ猪木近衛軍団」を名乗る「魔界倶楽部」が結成される。以降、安田も軍団として闘う。
- [illegible] 度重なる遅刻、無断欠場に新日本プロレスから無期限出場停止処分を言い渡される。
- 2005年1月10日 新日本プロレスから解雇される。
- [illegible]5月23日 WJ、WAジャパンに初参戦。以降、チョコボール向井との抗争を数カ月にわたり行なう。
- 7月[illegible]日 「ハッスル10」で同リング初参戦。一時主戦場に。
- [illegible] ZERO1-MAXに登場。以降も断続的に参戦。
- 11月3日 「ハッスル・マニア2005」において大[illegible]とのタッグでハッスル・スーパータッグ王座に輝く(翌年3月に陥落)。
- [illegible] IGFの旗揚げ戦に参戦。ジョシュ・バーネットに裸絞めで敗れる。以降「GENOME3」まで試合出場。
- [illegible] 練炭による一酸化炭素中毒で、意識不明に緊急入院。一命をとりとめる。
- [illegible] ケンドー・カシンの実兄が経営する「トキワ[illegible]」の[illegible]に就職(のちに解雇)。
- 2009年1月31日 ベイダータイム(興行)に初参戦。以降、[illegible]大会に参戦。
- 2010年10月 「東京スポーツ」紙にて来年初頭の引退が発表される(その後、2月4日と発表)。

たりもしてたし、逆にマスコミとかに言われて開き直ってた部分もあるしね。

——あのときのキャラクターはすべて安田選手自身が考えて作られたものなんですか?

**安田**　素のままだよね(笑)。まあ、みんなは俺に師匠がいっぱいいるようなことを言うけどさ、基本を教えてくれたのは馳さんだけど、プロレスに関しては橋本さんだからね。橋本さんにはよく、「人のマネをするんだったら、そいつを超えるマネをしろ」って言われてたし。そういう部分の教えはすべて橋本さんの影響だよね。だから契約更改に行く前なんかも、必ず橋本さんにレクチャーを受けるわけ。

——橋本さんが影の代理人みたいな感じだったんですね(笑)。

**安田**　そうそう。で、橋本さんに連絡をすると、「●●●●万円以下だったら契約するな」って言われて。だから、まあ、バンナに勝った翌年の契約更改が一番稼いだ時期だったのかな。

——それこそ生活するには充分なお給料をもらえていたわけですよね。

**安田**　まあ、博打にさえ手を出さなければね(笑)。

——あっ、そうか(笑)。ちなみに、いまと昔ではギャンブルに対する姿勢は変わりましたか?

**安田**　まあ、ストレス解消みたいなもんだよね。だって、俺から博打を取ったら何も残らねえじゃん。こんなこと言うと、みんな笑うんだけどさ(笑)。

——いや、まさに人生のギャンブラーですよ(笑)。

**安田**　だけど、声を大にして言いたいのは、今回の引退興行で、お金のことに関して僕は一切ノータッチなんで!

——ダハハハハ! 興行の売り上げを持ったまま後楽園の場外馬券売り場に行かれても困りますからね(笑)。

**安田**　だから、引退興行に出てくださる選手の皆さま、お金のことは心配しないで大丈夫です(ニヤリ)。

——なんちゅうアピールだ!(笑)。ちなみに、人生をやり直せるならどの時代に戻ってみたいですか?

**安田**　それは無理でしょ(キッパリ)。

——確かにそうですけど(笑)。

**安田**　まあ、戻れるなら相撲時代かな。昔に戻ってもっと一生懸命やりたいよね。

——では、レスラー人生を振り返ってみて、安田さんにとっての一番よかった時期っていうのはいつになりますか?

**安田**　やっぱり道場にいたときかな。

——ヤングライオン時代?

**安田**　あの頃は毎日が充実してたよね。夢はあったんだけど鳴かず飛ばずでさ。よかったというのとは違うかもしれないけど、みんなと一緒にやってた頃が一番楽しかったような気がするね。

——いわゆる青春みたいな?

**安田**　そうそう、二回目の青春みたいな(笑)。もともと俺の場合は、家族を食わせるためにプロレスを始めたっていうのがあるんだけど、いざ道場に入ったらみんなが助けてくれてね。あの頃の仲間でいえば、西やん(西村修)をはじめ、小島(聡)選手、中西(学)選手、永田(裕志)選手、大谷(晋二郎)選手、高岩(竜一)、彼らがいたから俺も頑張れたんだろうし。

——そして、一番かわいがってくれたのは付き人を務めた橋本さん?

**安田**　まあ、あの頃は闘魂三銃士の付き人は全部やってるんだけど、橋本さんは1年くらいなのかな。でも、そのあとに橋本さんの付き人になった藤田クンと橋本さんと俺で、いつも3人で一緒に行動してたからさ。やっぱり、その頃がおもしろかったよ。

——当時の現場監督だった長州さんとの関係はどうだったんですか?

**安田**　いつも怒られてた(笑)。まあ、プロレスラーとしては尊敬するけど、やってることは考えられねえなって。だって、3回くらい新日本に出戻ってるわけでしょ?

——やっぱり橋本さんと仲よかったことで、長州さんに怒られることも多かったんでしょうか?

**安田**　まあ、長州さんも橋本さんには言えない部分もあるからね。だから、その言えないぶんが俺に来るわけ。そうすると、俺が怒られたあとでライガーさんが「安田氏、我慢しな。しょうがないから」って慰めにきてくれてさ(笑)。

——たとえば地方巡業なんかも楽しかったんじゃないですか。元関取だとタニマチなんかも。

**安田**　いや、そうでもないんですよ。だって、相撲時代にあまりそういう付き合いをしなかったし。

——あっ、それは意外ですね。

**安田**　その当時は、付き合いで飲みに行ってご祝儀もらうよりも、麻雀やってたほうが楽しかったからね(笑)。

——結局はギャンブルに(笑)。

**安田**　だから、橋本さんの付き人になってからだよね。橋本さんもスポンサーとのお付き合いの場によく行ってて、お金が出るときは俺を連れていってくれたりしてさ。そのときなんかも、俺は「チャンピオンなんだから、もっとドシッと構えてればいいじゃないですか」って言うんだけど、橋本さんは「ヤス、せっかく呼んでもらえるんだから、楽しく遊んで帰らなきゃ損や

## 俺と橋本さんと藤田くん、その3人で行動してた頃はおもしろかったね

01年に「PRIDE 13」に参戦、総合初挑戦で佐竹を下した安田。セコンドにはブライアン・ジョンストン、藤田和之のほかに師匠である橋本真也の姿も　ちなみに長州力は破壊王、安田、藤田の3人をナマクラ1号、2号、3号と呼んでいたとか

ろ!」ってあの口調で言われると、確かにそうだな、と。それから考え方が変わったよね。だから、相撲時代にそれができていれば、間違いなくプロレス界には入ってなかったからさ。

──そう考えると、安田さんは堅気の仕事をけっこうやられてますよね。

**安田**　パチンコ屋、養豚場、ソーラーシステム販売……まあ、ソーラーは1週間だし、やったって言うのも恥ずかしいから、かじったぐらいにしておいて（笑）。

──その1週間かじったソーラーシステムの営業マンを始められたきっかけはなんだったんですか？

**安田**　それは、いまもお世話になっている方が経営されてる会社だったんだよね。で、やってみたんだけど無理だった（笑）。

──無理だった（笑）。

**安田**　でも、講習も受けたんだよ。2時間。

──2時間で営業マニュアルを覚えた、と。そして、元新日本プロレス代表取締役の草間政一さんのところに営業に行かれたんですよね？

**安田**　俺の営業担当地区がちょうど千葉の流山だったんだよ。でも、結局は訪問販売だからさ。しかも、俺がスーツを着たらヤクザにしか見えないじゃん？（笑）。

──まあ、僕だったら絶対にドアは開けませんし、警察に通報しますよ（笑）。でも、実際に飛び込みで営業をされていたわけですよね？

**安田**　1週間だけね。

──獲得できました？

**安田**　無理無理（笑）。だって、ピンポンを押しても居留守使って出てこない家がほとんどでさ。

──やっぱり（笑）。

**安田**　で、たまに出てきても、マニュアルどおりにうまく説明するのが無理なんですよ。

──口説き落とすという、一つのテクニックですからね。

**安田**　そうそう。「言わなきゃ、言わなきゃ」って思うことが先走って、言葉が出てこないんだよ。

──相手に威圧感を与えるだけで（笑）。

**安田**　だから思ったよ、プロレスファンに当たらねえかなって。でも、そういうときにかぎって当たらねえんだよな（笑）。

──そこではヒキの強さを発揮できなかったんですね。

**安田**　だから、インターホン越しで断られるのはいいんだけど、玄関まで出てきて「そんなのいりません!」って怒られたときは、俺も「あ～、すみません……」って謝ってさ。まあ、親会社の名前を使って営業をしてるから、「うるせえ、バカ野郎!」って言うわけにもいかないじゃん（笑）。

──親会社にクレームが確実にいきますからね（笑）。結局、営業マンは1週間かじって終了、と。

**安田**　そういうことです。無理だったので断念させていただきました。

──まさに紆余曲折の人生を歩まれているわけですが、でも逆にそういった人生を楽しんだりもするんじゃないですか？

**安田**　まあ、楽しんでるとは言えないけど、天国も地獄も見たからね。でも、俺はこのまま変わらねえんだなって（笑）。

──ダハハハ!

**安田**　だから、振り返ってみればよかったんじゃないかな。それで、いまがあるわけだし。あとは早いうちに見切りをつけて、プロレス界からおさらばしたい、というのが本音でございます。

──引退興行に向けて、安田さんのなかで最後にやっておきたいことってありますか？

**安田**　それはいまから言ったらおもしろくないじゃん（キッパリ）。

──それを言われたら、身も蓋もないんですが（苦笑）。

**安田**　でもまあ、引退に向けて石澤クンがトレーニングコーチをしてくれるみたいなんで。とにかくこのカラダではみっともないっていうことなので、どこに連れていかれるかはわかんないんですけど（笑）。

──地獄の特訓が待ち受けている、と。ちなみに、引退の報告はほかのレスラーの方々にはされているんですか？

**安田**　馳さんには電話したよ。ただ、2月4日は金曜日で委員会があるから、早く終わったら会場に行くけど、行けなかった場合は祝電と花は出してやるから、っていうのは言われました。

──馳先生はデビュー戦の相手ですからね。

**安田**　本当は最後の相手も馳さんで考えていたんだよね。だけど、馳さん「俺はもう辞めた身だから」って言われて、確かにそうだな、と。俺も考えは一緒だから。

──そこで馳さんを復帰させたら本末転倒ですもんね（笑）。

**安田**　でも、2月4日に引退興行をやるっていうのも、おととい決まったばかりだからね。

──なるほど。ちなみに、安田さんの愛娘であるＡＹＡＭＩさんとの関係は、いまはいかがですか？

**安田**　お友だちみたいなもんです。いや、お友だち以下かな。だって、娘にタカってるもん、俺（笑）。

──ダハハハ!　完全なダメ親父じゃないですか（笑）。

**安田**　でも、娘が「バンナ戦のときにいま戻れるなら、もっと笑顔でかわいく写真に写れていたのに」って言ってたんだよね。やっぱり、あの当時は「お父さんはママを苦しめた人」ってことで俺を凄く恨んでたからさ。

──ということは、大晦日でバンナに勝って肩車をされてたときなんかは。

**安田**　内心では「ふざけんな!」って思ってたんだろうね（笑）。でも、いまはそういうのが解けたから、お友だち感覚の関係です。

──そのお話を聞いて、ちょっと安心しました。

**安田**　でも、たまに思いますよ。俺は待ち合わせなんかしても、どっちかっていうと時間前には来るでしょ？　意外とそういうところはキッチリしてるほうなんで。俺、本当はまじめなんだよ。博打さえしなければ（ケロっと）。

──ダハハハ!　いえいえ、ブラジルに行かれてもギャンブラー魂は貫き通してください!

【10年11月2日／都内・某所にて収録】

やす[illegible]■1[illegible]3年10月9日　東京都出身。大相撲で[illegible]廃業後に新日本プロレスへ入門。[illegible]プロレス人生を送[illegible]引退[illegible]詳細は「安田[illegible]退興行実行委員会」ブログにて!
•http://yasudatadao.cocolog-nifty.com/blog

## NOVEMBER号へのお便り紹介

石井慧の記事がおもしろかった。石井選手の人柄がよく伝わってきてよかったと思います。金メダリストからの転向で初戦から吉田選手に負けてどうなるんだろう?と気になっていましたが、総合格闘技の厳しさを私たちよりずっとわかってて、それだけではなくプロモートとか広報の大切さもよく考えているのではないかと思いました。総合格闘技をさらにメジャーにすることを考えてK-1参戦が出たのだと思っています。頑張ってもらいたい。

【山口県・武田真弥さん・学生・19歳】

Ⓓそうそう、ユーが言うとおり、サトシ・イシイはK-1にも出たらしいじゃないか。しかも総合ルールってのは『Dynamite!!』に向けてはいい流れなんじゃないのかい? え? どうせオマエは正月は寝てるだけだろって? おいおい、そういうのを図星って言うんだぜい

小見川選手のインタビューがおもしろかった。小見川選手がいうようにTBSの放送では小見川の試合はハイライトだし、メイヘムの入場もカットだし、しまいには石井の試合をノーカット放送。石井の試合をハイライトにすべきだし、TBSは新しいスターを発掘する気がないのだろうかと思ってしまう。

【埼玉県・岡田圭介さん・14歳】

Ⓓおいおい、ユーは中学生なのにテレビ局にやたらと厳しいじゃないか。サトシ・イシイの試合をハイライトだなんて、こりゃ贅沢な起用だぜ。しかし、ミッチーの試合がハイライトというのはディサポイントだよなあ。こりゃTBSは尺をのばすしかないぜ! アッハッハッハ!

ゆずポンの記事がおもしろかった。ゆずポンがダイスキだし、凄い努力してるんだと思ったし、読んでいていろいろ勉強になったし、おもしろかったから。

【福井県・大事一さん・無職・33歳】

Ⓓゆずポンってガールはユーのような30代以降のボーイズたちに大人気なんだな。ハガキもわいわい届いたぜ。編集部・スズキイに聞いたところ、試合もすばらしかったらしいじゃないか。こりゃ、正真正銘のゆずポン祭りだったらてとこかい? クックックック

突撃! 俺の晩ごはんがおもしろかった。アルコールが駄目な僕には大変興味深い話満載でおもしろかった!

【石川県・浅井清治さん・会社員・38歳】

Ⓓポルシェ・オキテの連載はさっそく好評らしいじゃないか。しかし、これは人の店に行ってごはんをねだる企画だろ? おっと、俺はいまうってつけの人物が思い浮かんでしまったが言わぬが花ってヤツかい? クックックック

北岡悟のラストパンクラスがおもしろかった。北岡選手の強い思いが伝わってきました。パンクラスの北岡というフレーズを聞けなくなるのは寂しい気がします。しかし、最後の目標に向かって動き出す北岡選手をこれからも応援し続けたいです。

【福島県・相野幸樹さん・会社員・30歳】

Ⓓユーはサトルの大ファンなんだな。しかし、サトルのラストパンクラスの試合はサイコーだったぜ。これからサトルがどこで見られるか楽しみだぜ。え? 大戸屋!?

シーザー武志会長の狂気あふれるエピソードの数々にシビれました。この人についていきたいと思わせる人ですよね。素晴らしいです。あと三又さん本当にどんどんシーザー会長に似ていきましたよねえ~。武田鉄矢のモノマネされてた方ですよね。もはやシーザー会長そのものですね。

【神奈川県・鈴木和宣さん・会社員・45歳】

Ⓓプレジデント・シーザーってジェントルはとんでもない伝説の持ち主らしいじゃないか。まさに「♪はい、あんたが大将~」ってヤツだぜ! アッハッハッハ! え? そのギャグ、寒いって!?

お! 今回の『kamipro』の特集は「すてきな■さん」なのかい? 今回は出てないようだが、オレはミッチーの奥さんがいいぜ。それからドラゴンの奥さんも好きだ。あと、マサさんの奥さんも……。え? オマエは浮気性で目移りしすぎだって? 確かにそうだが、プロレスラー&格闘家ってのはみんないい奥さんをつかまえるもんだぜ。チキショー!!

### NOVEMBER号 おもしろかった記事 RANKING

- NO 1 小見川道大
- NO 2 愛川ゆず季
- NO 3 DEEP10周年特集
- NO 4 シーザー武志伝説
- NO 5 北岡悟

クソッタレ魂のミッチーが1位ってのは初めてなんじゃないのかい? 確かに、この号のミッチーは飛ばしてたなあ。しかし、大晦日と来年以降、どこに上がるのかは今号のインタビューを読んで想像してくれよお。そして2位はゆずポンってヤツか。最近の『kamipro』は女子率が高いようだが、読者もなかなかキライじゃないみたいだな。

ひさびさの登場だった菊地成孔さんのインタビューがおもしろかった。ツイッター論について語ってあったが、さす

ジェイソン メイヘム ミラー

兵庫県・ハワイアン・グレイシーさん/ひさびさついでに、ユーは2枚も描いてくれたのかい? これからもどんどんナイスなイラストを送ってくれよな!

兵庫県・ハワイアン・グレイシーさん/これはエアギターのヨアキムを描いて送ってくれたんだな。それにしてもハワイアン・グレイシーはひさしぶりじゃないか。

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
**Check it out!!**

# "読者ペイジ" ジャクソン

## 152号へのお便り紹介

ヨアキム・ハンセンとマーティ・フリードマンの対談がよかった。とくにヨアキムの照れっぷりがおもしろい。全体的に話が盛り上がっていてよかった。
【岐阜県・江崎亮太さん・中学生・14歳】

D 14歳のボーイにもヨアキムの照れっぷりが伝わったようだな。しかし、自分が作った曲のデモテープを持参するとは予想外だったぜ。マーティ・フリードマンはちゃんと聴いてくれたのか、ヨアキムも気になってるだろうな。アッハッハッハー！

KID選手と福田力選手の対談がおもしろかった。ピュアなリキ選手が目をキラキラさせている光景が目に浮かびます。いい対談でしたね。
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・31歳】

Dリキってボーイは KID のことが大好きなんだな。そうじゃなきゃ、洗濯物なくして怒られても一緒にいるってのはなかなかないぜ。UFC参戦はいつになるかわからないが、リキにはガッポリ稼いでほしいよな！

北岡悟の記事がおもしろかった。PANCRASEの北岡が終わり、自分の最終章の道へ。いろんな思いがあっての卒業。これからまたPANCRASEの北岡でなく、北岡悟としての闘いに注目していきたいです。
【福島県・紺野春樹さん・会社員・30歳】

Dユーはサトル・キタオカのことがよっぽど好きなんだな。右のページでもたしか「サトルの記事がよかった」って投稿してなかったかい？　今号もサトルの記事が載ってるから、ぜひ彼の結婚も応援してやってくれよな。アッハッハッハー！

最狂団体「全日本女子プロレス」の話は本当にハズレがないですね。松永兄弟、ロッシー小川さんと一緒にされていた今井さんもなかなかの強者だと思いました。
【神奈川県・廣木和宣さん・会社員・45歳】

D今回のポルシェ・オキテも絶好調だったみたいだな。しかし、ゼンジョってところはいったいどういう団体なんだい？　ヘンなヤツばっかりだが、それでもポルシェ・オキテは楽しそうだなあ。マツナガ、ロッシーとともにオキテも女子プロ界に名を連ねてほしいぜ。

ひさびさの登場だった菊地成孔さんのインタビューがおもしろかった。ツイッター論について語ってあったが、さすが！　ツイッターはある意味中毒だと思います。実際、そうなっている人もいますし……。
【埼玉県・つぶやきクローさん・会社員・30歳】

Dツイッターに熱狂しているボーイズ&ガールズはナルヨシ・キクチのインタビューを読んだら複雑な気持ちになるんだろうなあ。クックックック。え？　オマエはツイッターをやらないのかって？　オレはツイッターのヒーロー！　気取りはノーサンキューだからな。それは、オレという世界のヒーローに失礼だって話だぜ。アッハッハッハー！

RENAさんの自宅の写真に感激です!!　女性がお尻のことをケツというのに抵抗がありましたが、RENAさんが言うならすべてオッケーです!!　ケツです、お尻は！
【京都府・■■芳浩さん・会社員・35歳】

Dおいおい、RENAがかわいいからって、ユーたちはなんでも許してしまうってことかい？　まあ、気持ちはわからんでもないぜ。オレも、RENAの兄弟ケンカはRENAのシスターたちがすべて悪いと思ってるからな。アッハッハッハー！

● kamipro152号
おもしろかった記事
**RANKING**

NO.1 山本"KID"徳郁×福田力
NO.2 中井りん
NO.3 谷津義章
NO.4 RENA
NO.5 入場曲変態座談会

これはひさびさに本誌に登場してくれたKIDがトップにランクインだぜ。しかし、やっぱりオレが読みたいのはサスケってヤツとの対談だぜ。ぜひUFOの謎を解明してくれよな！　そして、リン・ナカイにRENAとここでもガールズがランクインしているぜ。女子格ブレイクまであと一歩って感じだな！　頼むぜ!!

## おハガキ募集!!

おハガキ、どんとん送ってくれよ!
ケータイからでもOKだぜ!!
とんな意見、感想、苦情、抗議、
お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって!　待ってるぜ!

こんな情報も24時間どんとこい!
ってヤツだ。
■譲ってほしいもの
●タレコミ情報
●選手に対するコメント、試合の感想
●その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・
イラストのあて先は

〒162-0805
東京都新宿区矢来町41-1
ザ・フタガミハウスNo.1
kamipro編集部「UEXILEっす」
係まで。

携帯サイト「kamipro Move」
からの投稿もできます。

匿名希望さん／ユーはまた京都大骨董祭のハガキに無理やり描いて送って来やがったな。いくら匿名希望でも、ユーが京都付近で活動していることはわかってるんだからな。

## 団体オフィシャルおよび関係者のツイッターアカウント

※オフィシャルや代表者のアカウントを集めたんだが、載ってないものがあったらぜひ教えてくれよな!

谷川貞治 FEG代表「K1_Tany」
FEG宣伝熊「K1_Kuma」
DREAM「dreamPR」
笹原圭一 DREAM EP「sasaharakeiichi」
SRC「SRC_mobile」
向井徹 SRC代表「SRCbyWVR」
DEEP「deep_official」
佐伯繁 DEEP代表「sigeru_saeki」
パンクラス「_PANCRASE_」
UFC「ufc」

ダナ・ホワイト「danawhite」
ジュエルス「JEWELS_info」
ヴァルキリー「valkyrie_cf」
久保豊喜 GCM代表「kubotoyoki」
WWE「WWE」
新日本「njpw1972」
菅林直樹 新日本プロレス代表「NJPWSUGABAYASHI」
武藤敬司「muto_keiji」
DDT「ddtpro」
高木三四郎「t346fire」

マッスル坂井「musclesakai」
ゼロワン「zero1_fos」
ハッスル「321hustlehustle」
山口日昇「hustle_yamaaa」
SMASH「SMASH_2010」
酒井正和 SMASH代表「SMASH_Sakai」
アイスリボン「ice_ribbon」
さくらえみ「sakuraemi」
19時女子プロレス「19pro」
アントニオ猪木「Inoki_Kanji」

テレビと競技の狭間で悩める男を独占直撃!

# kamipro books 驚ガク! 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ! 死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

## 中邑真輔の一見さんお断り

**プロレス界史上最高に難解な男の脳みそを解き明かす!!**

昨年、唐突にアントニオ猪木への挑戦をリング上でブチ上げて物議をかもすなど、その行動と発言が刺激的な男・中邑真輔。そんな男が初の単行本をリリース。"プロレス界で最も難解な男"がつぶやく10万字!! その名も『中邑真輔の一見さんお断り』。タイトルとは裏腹に一見さんは大歓迎だったりする内容です!

B6変型判 224ページ
定価=1,890円(本体1,800+税)

## 悪役道 ヒールたちのブルース

**悪の道を歩けるのは選ばしれ者のみ!**

"悪の道"に精通する豪華16名が珠玉の"ヒール哲学"を激白! 反則攻撃、挑発行為、ラフファイト、モンスター、エゴイスト、アナーキスト、アンチヒーロー……。悪とは何か? 悪役とは何か? 本書は因縁の内藤大助戦に勝利を収めた亀田興毅をはじめ、『kamipro』誌上に掲載されたさまざまな悪役のインタビューを厳選収録。時代に憎まれし、ヒールたちのブルースを聴け!

B6変型 304ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

## 新日本プロレス学習帳

**"業界の盟主"の魅力を凝縮したインタビュー12連発!**

★鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー★小林邦昭★平田淳嗣★金本浩二★山本小鉄★新倉史祐★田中秀和★中西学★天山広吉&金原弘光★マサ斎藤★永田裕志★中邑真輔

『kamipro』に掲載された新日育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に! これを読めば老舗団体の過去・現在・未来がまるわかり!!

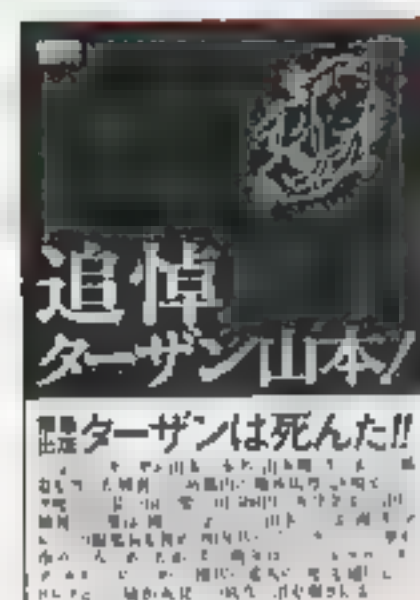
B6変型判 320ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

## 魔王 秋山成勲 二つの祖国を持つ男

**秋山成勲なのか チユ・ソンフンなのか——。**

2006年12月31日大晦日、秋山成勲vs桜庭和志戦で発生したクリーム塗布事件。この一件以降、秋山は日本では悪質な反則選手、片や韓国では悲劇の元・在日韓国人と、評価が真っ二つに分かれた。本書籍は秋山成勲が、柔道界での挫折ののち、総合格闘技家としてデビューして"魔王"と呼ばれる怪物に至るまでを検証するノンフィクションだ。

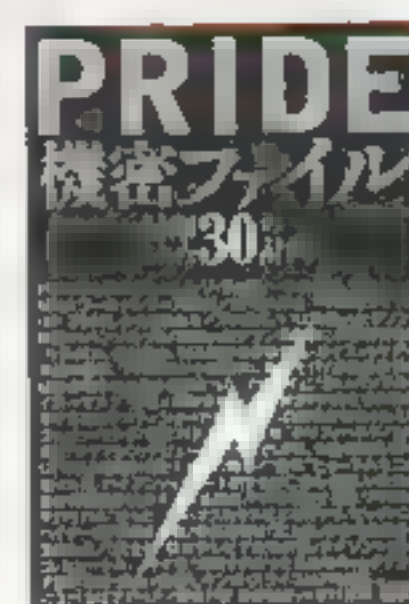
B6変型判 264ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

## 生前追悼 ターザン山本!

**え、ターザンが死んだ!? 90年代プロレスを徹底検証!**

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る!

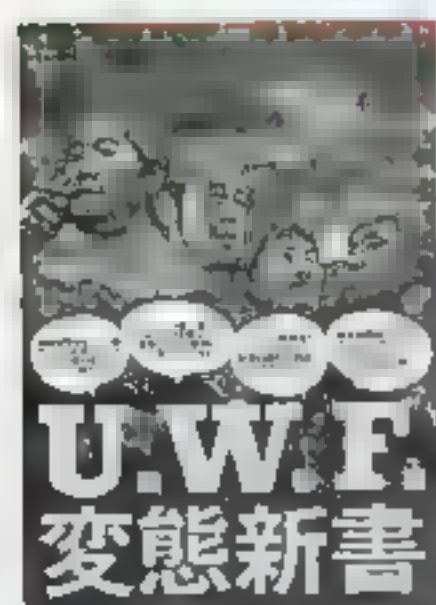
B6変型判 304ページ
定価=1,470円(本体1,400円+税)

## PRIDE機密ファイル 封印された30の計画

**ついにその秘密のベールを解禁!! PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!**

★高田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★"皇帝"ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早2年——世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘! さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

## U.W.F.変態新書

**ダメな大人たちへ捧げる"変態"とUWFの晩餐!**

★UWF★前田日明★船木誠勝★高田延彦★桜庭和志★ターザン山本!★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か?(菊地成孔スペシャルインタビュー)★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

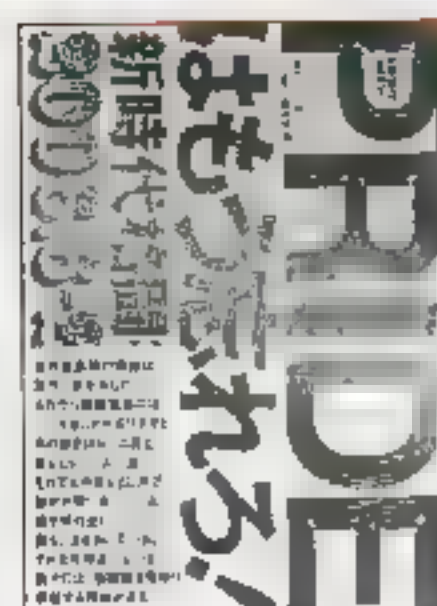
## 八百長★野郎

**ミスター高橋本から7年…… "呪いなき"時代のプロレス再入門書!!**

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊池孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初"台本"全文掲載!

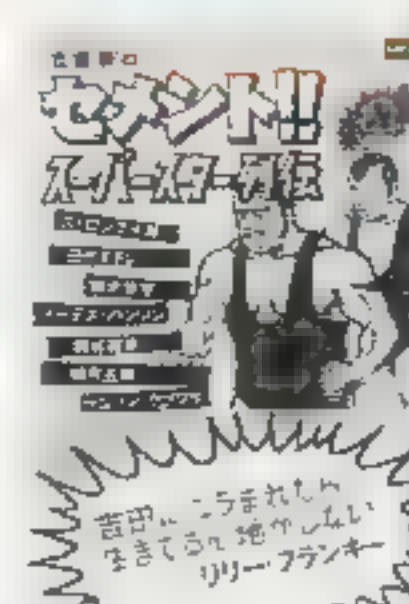
カミングアウト当事者から元ファンの知識人まで総動員してプロレスを再考! "プロレスの向こう側、『マッスル』"の世界に迫る!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

## PRIDEはもう忘れろ!

**フジテレビショックから始まった日本マット界激動の歴史を追う!**

フジテレビショックは日本格闘技界に何をもたらしたのか? 本誌でおなじみのライター橋本宗洋が送るMMAクロニクル。本書は、本誌携帯サイト『kamipro Move』で好評連載中の週刊コラムを厳選収録したものである。PRIDE凋落の時期からスタートした連載は、あらためてPRIDEの存在意義、役割を見つめ直し、そしてPRIDE消滅後、それでも生き続ける格闘技のおもしろさを綴っている!

B6変型判 336ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

## 吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 パート1

**吉田豪インタビュー11連発!! インタビュー本の最濃傑作!**

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判 344ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

発行/株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)
発売/株式会社角川グループパブリッシング
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/

テレビと競技の狭間で悩める男を独占直撃！

# 石井慧

11・8『K－1 WORLD MAX 2010』での、DREAMルールによる特別試合で柴田勝頼に完勝し、国内2勝目を挙げた石井慧。混迷をきわめる入場テーマ曲のセレクト、桜庭への対戦表明、そして巷でささやかれる「石井は体重の軽い相手を選んでいる」疑惑についても聞いてみた！

聞き手&撮影　堀江ガンツ　試合写真　今村陽子

# 僕だって本当は視聴率を気にしないで試合したいですよ！

## 桜庭さんが怒ってるんですか？本気でやろうなんて思ってませんよ

——国内2勝目おめでとうございます！

**石井**　ありがとうございます。

——まず試合のことを聞く前に、今回も入場テーマ曲についてうかがいますけど、あれはどうしちゃったんですか？

**石井**　ＡＫＢ48！

——それはわかってますけど、なんでＡＫＢ48なんですか？

**石井**　前回の試合のあと、猪木さんに叩かれちゃったんで、初心に帰るという意味で『Ｂｅｇｉｎｎｅｒ』にしたんですよ。

——まあ、意味はあるんでしょうけど……。

**石井**　意味があるだけじゃなくて、ちゃんと秋元康さんに許可も得てるんですよ！

——猪木さんに続いて、今回は秋元康からちゃんと許可取ってますか（笑）。

**石井**　筋を通す男ですから。誰にも文句は言わせねえ！

——でも、入場テーマ曲は選手をイメージづける重要なツールですから、そろそろ「石井慧のテーマはこれだ！」っていう曲を決めたほうがいいんじゃないですか？

**石井**　いや、それはいらない。

——なぜ？

**石井**　僕はさらに先のことを考えてますから。毎回、そのときに成功してる人の曲をかけて、それにあやかっていきます！

——乗っかっていきますか（笑）。

**石井**　コバンザメみたいなもんです！

——コバンザメ宣言（笑）。でも、あんまりうまくもいってないような……。

**石井**　そうですか？

——今回の入場だって正直、観客はキョトンでしたよ。

**石井**　でも「けっこうよかった」っていう声もあったんですよ。

——まあ、『炎のファイター』よりは好評だと思いますが（笑）。

**石井**　いろんな人から「私の着メロと同じです」とか言われたし。全国のアキバ系に勇気を与えていきますよ！　いまオタクを味方につけると強いから。

——それ、完全に長島☆自演乙☆雄一郎と被ってるじゃないですか。

**石井**　あれとは違う。あれは品がない。あからさますぎですよ。要するに森永卓郎のような、頭はいいけども、そのお金を全部フィギュアに使っちゃうようなのはダメなんです！

——もう少し、さりげなくメッセージを送りたい、と。あとは前回からの話でいうと、石井選手の発言に対して、桜庭選手がどうやら怒ってるっぽいんですよね。

**石井**　えっ!?　なんでですか？

——前回の渡米前にスポーツ紙記者を集めて囲みをやったじゃないですか。そんときの「大晦日はバーサクとやりたい」という発言に対して、即ブログで「自分のことを聞いたこともない呼び方で話している人がいた。軽い階級の人ばかり選ばないで、アリスターとかいるじゃん」って書いてたんですよ。

**石井**　そんなに怒ってたんですか？

——新聞記事になったその日に即書いてましたからね。おそらく怒ったんでしょう。

**石井**　やっぱり「バーサク」って言ったのがマズかったんですかね？

——まあ、それもあるでしょうね。この世界の大先輩に対して「バーサク」ですから。

**石井**　僕、桜庭さんをリスペクトしてるんですよ。「バーサク」は六本木を反対にした「ギロッポン」みたいなもんじゃないですか。リスペクトですよ！

——「ギロッポン」がリスペクトっていう意味がわからない（笑）。

**石井**　ホントに他意はないんですから。じゃあ、桜庭さんに言っておいてくださいよ。「最初から、本気でやろうと思ってません。話題になればいいと思って言っただけです。気分を害させてしまい、すいませんでした」って。

——えっ!?　本気で対戦したいと思ってなかったんですか？

**石井**　本気じゃないですよ！　前にガンツさんが「桜庭さんとやったらいい」って言ったんじゃないですか。

——あ、僕のせい（笑）。

**石井**　そうですよ！　それで新聞記者の方々が、個人名を出してほしがってたから言っちゃったんですよ！

——いや、僕は確かに「石井選手と桜庭さんの試合が観たい」とは言いましたけど、石井選手のほうから挑戦状みたいにしろとは……。

**石井**　僕だって自分から2階級下の選手とやろうとは思わないですから。桜庭さんも「石井はプロとして業界を盛り上げるために言ってるんだろうな」って、思ってくれなかったんですかね？

——「若造にナメられた」ぐらいに思って

前回のミノワマン戦ではアントニオ猪木の入場テーマ『炎のファイター』で入場し、ファンの不評を買ったばかりだが、なんと今回はAKB48の『Beginner』に乗って入場。またもや観客を置いてけぼりにしたのだった……。

[10.1[illegible] K-1 WORLD MAX 2010]
東京・両国国技館
○石井慧 vs 柴田勝頼×
（1R 3分30秒 アームロック）
二日前に急きょ対戦相手変更というアクシデントのなか、柴田を1R3分30秒、アームロックで一蹴。これで石井は前回ミノワマン戦に続いて国内2勝目。体重差を抜[illegible]石井の成長が見られる試合内容であった。

# 石井慧

るような気がします（笑）。

石井　全然、ナメてないですよ～。あ！　だから柴田選手のセコンドについてなかったんですかね？

―そういえば、セコンドにいませんでしたね。

石井　たぶん会場にもいなかったと思うんですよ。試合後、自分に絡まれると思ったんですかね？

―それはあるかもしれない。「柴田選手倒したんで、次、桜庭さん対戦お願[illegible]す」とか言われないように（笑）。

石井　全然、そんなつもりないんで[illegible]よ！　自分、泉浩先輩の逆パターンみた[illegible]しないですよ！

―では、桜庭選手への対戦表明は、盛り上げるために言っただけで、本気ではありませんでした」と。

石井　そういうことです。誌面を通じて、[illegible]桜庭さんにお詫びします。

―了解しました。では、試合の話に戻しますけど、今回は直前に対戦相手が変わりましたけど、試合前日の変更っていうのは、ご自身ではどうだったんですか？

石井　（小声で）軽い相手ばっかり選んでやってます。

―いじけないでくださいよ（笑）。対戦相手変更を聞いたのは二日前ですか？

石井　はい。二日前に「ナンセンが出られなくなった」って聞いて、試合前日、記者会見のちょっと前に軽いヤツになりました。

―いじけない！（笑）。直前の対戦相手変更は「しゃーない」って感じですか？

石井　「誰になろうと、やるしかない」って思いました。

―だから石井選手は被害者なんですよね。試合直前に対戦相手が変わって、しかもテレビ的な目玉だから中止にするわけにもいかない、という。

石井　そうなんですよ。だから、なんで自分が軽い相手とやってるとか言われなきゃいけないのか……。試合前日に出場を承諾してくれた柴田選手にも失礼だし。

―それなのに、石井慧が軽いの選んでるみたいに思われてるんですよね。

石井　ファンにも思われてるんですか？

―思われてるみたいですね。

石井　なんでですか？

―今回、前回と80キロ台の相手だったからですよ。

石井　吉田（秀彦）選手なんか、自分より全然重かったじゃないですか！　ハワイでやった[illegible]球野郎も自分より重かったし。

―そこは地上波の影響力というか、二回続いたことで、そんなイメージが少なからずついてしまったんだと思います。

石井　それって、2ちゃんねるとかに書かれてるってことですか？

―いや、ファンのブログとかも含めてですね。

石井　それって、前回の試合から言われてたんですか？

―言われてましたね。

石井　教えてくださいよ～。知ってたら自分、相手は誰でもいいですけど、軽いのだけはやめてください」って言ってますよ！　あ～、なんでそんなこと言われなきゃいけないんですか。自分、全然ちっちゃい人、選んでるわけじゃないですよ。

―基本的に主催者、テレビ局、そしてマネージメント側が話し合って決めてることですもんね。

石井　ミノワマン選手は好きな選手だし、「やってみたい」と思ってましたけど、それは軽いからじゃなくて、ミノワマン選手が110キロだろうが、120キロだろう

# 数字ばかり言われるから純粋に格闘技ができない

# 石井慧

がやってましたよ！

——今回もテレビ局側から「なるべく名前の知れた日本人選手」という要望があったって聞きました。

**石井**　自分は決められた相手と必死に闘ってるんですよ。それなのに、選んでるとか言われて……言ってるのはコアなファンなんですか？

——まあ、ネットとか書き込むぐらいですから、比較的コアでしょうね。

**石井**　『ゴン格』の記者みたいな人ですか？

——知りませんよ（笑）。まあ、あんまり気にしないほうがいいですよ。ファンの評価って、1試合でひっくり返ったりしますから。

**石井**　たとえば誰とやったらいいですか？

——たとえば、実現可能な相手で言うと、元UFCヘビー級チャンピオンで一昨年、ヒョードルとも対戦してるティム・シルビアとかいいと思いますけど。

**石井**　でも、そういう相手だと「数字持ってない」とか言われちゃうんですよ。

——テレビ的にNGが出てしまう（笑）。

**石井**　みんな数字のことしか言わないんですよ。自分はなかなか純粋に格闘技ができないんです。

——しかも「石井を勝たせるための相手を用意してる」みたいに言われて。

**石井**　でも「勝たせる相手を用意する」って悪いことではないと思うんですよ。ミノワマン選手は全然「勝たせる相手」じゃないと思いますけど、アメリカなんかでは、育てていこうとしてる選手には、まず何試合か勝たせるって言ってましたからね。それから経験を積んでUFCとか大きい大会に挑ませるって。

——確かにそうなんですよね。いまのUFC王者のケイン・ヴェラスケスとか、ジュニオール・ドス・サントスなんかも、5試合ぐらいは無名な選手相手に経験積んで、それから大きな舞台に出て、UFCでも何試合か経験して、トップクラスと対戦してますからね。

**石井**　でも、それができるのは、彼らが〝格闘技を純粋に楽しめる人たち〟だからじゃないですか。

——視聴率が関係ない世界で経験を積める人たちですよね。

**石井**　だから僕も本当は視聴率とか関係なしに、いろんなタイプの選手と経験積みたいんですよね。だからアメリカでやりたいんですよ。本音を言えば、数字ばかり言われる世界から逃げたいんですよ。

——海外なら雑音もないですしね。

**石井**　自分にとっては、ミノワマン戦だってチャレンジでしたからね。相手はプロで48試合ぐらいやってて、僕は4戦目ですよ。こんなの体格差以上のハンデじゃないですか。

——柔道でいえば、大きな大会に初めて出る100キロ超級の選手と、何度も大きな大会に出てる90キロ以下級の選手がやるようなもんですよね。

**石井**　そしたら、普通は90キロ以下級が秒殺勝ちですよ。

——だから、なんかあまりにも体重差だけがクローズアップされすぎだと思うんですよね。今回の柴田戦だって、相手の体重とか抜きにして、試合だけをちゃんと観たら、成長が見えましたからね。

**石井**　どこらへんがですか？

——打撃から組んでグラウンドへ移行する流れがスムーズだったし、寝技になってからも、腕狙いをエサにしてマウント奪ったり。ニーオンザベリーから、相手が起き上がろうとしたところで腕取ってアームロックにいったり、寝技もよかったんですよね。

**石井**　ちゃんと観てくれて、ありがとうございます。

——いえいえ（笑）。ご自身ではどうでしたか？

**石井**　今回のテーマは「リラックス」ってことだったんで、日本で3試合目にして、ちょっと硬さが抜けてきたかなって思い始めました。

——あと、試合前には「打撃を試[illegible]言ってましたけど。

**石井**　自分、けっこうローキックが[illegible]るん[illegible]ですよ。走ってませんでした？

——一発、いい内股ローが入って[illegible]よね。

**石井**　あと、懐に飛び込むのも速いでしょ？

——あれはよかったですね。至近距離からの左フックが当たってたら、もっと印象が違ってたんでしょうけど。

**石井**　自分の左フックは「当たれば、誰でも倒れる」ってみんなに言われるんですけど、なかなか試合で当たらないん[illegible]すよ（笑）。あとカウンターのアッパーも練習してたんですけどね。

——ちょっと出そうとしてました[illegible]でも、みんなもっと打撃で闘うのかと思ってたみたいですけど。

**石井**　立ち技の試合じゃないんで、ただ打撃だけやっても意味ないですよ。総合格闘技だから総合格闘技の打撃。

——石井選手の場合、組むための打撃ですよね。

**石井**　でも、アメリカにはレスリングあがりが多いじゃないですか。レスリングが強い選手に柔道は通じないから、もっと打撃を磨かないといけないんですけどね。

——石井選手でもレスラー相手は難しいんですか？

**石井**　裸同士でレスリングのトップクラスを倒すのは無理ですね。

——でも、柔道の足技はMMAで使い手が少ないから大きな武器になるんじゃないですか？　秋山選手も、テイクダウンするときは小外刈りとかで倒してますし。

**石井**　でも、それは相手がレスリングあがりじゃないでしょ？　レスリングがしっか[illegible]きる相手だとキツいと思うんです。[illegible]から、いまのうちにしっかり打撃を[illegible]けておきたいんです。

——[illegible]まあ、今回については試合前に「打撃」[illegible]すぎたために「なんですぐに寝技にいってんだよ！」って思われた部分が大きいんですよね。

**石井**　自分は練習を一生懸命やって、打撃を試したいから言っただけですから。な[illegible]んで、そんなふうに揚げ足取られなきゃいけないのか……。まあ、僕を応援してくれる人たちもいるんで、そういう人たちのためにも頑張りたい。それでも言うヤツは[illegible]てくれ、と。これからは「見ざる、言わざる、聞かざる」ですよ。

——[illegible]いまくってるじゃないですか（笑）。

**石井**　[illegible]それはメディアの皆さんのためです[illegible]僕が何も言わなかったら『kamipro』も記事書けないですよ。どんな質問しても「はい」「いいえ」しか答えなかったり。

——それは困りますね。石井慧がしゃべらないと、スポーツ紙のバトル欄も小さくなる一方でしょうしね。

**石井**　でも、リップサービスすると、ブログで叩かれるわけでしょ？

——そういう時期なんですよ。

**石井**　しょうがない。

——柴田戦後は『Dynamite!!』不

出場宣言みたいなものもありましたけど？

出場宣言みたいなものもありましたけど？

**石井**　そう。いまのところ出ない！

――でも、試合前は「柴田に勝って、大晦日に小川直也を引っぱり出す」とか言ってたじゃないですか（笑）。

**石井**　あれは『東スポ』用です。

――『東スポ』専用ネタでしたか（笑）。

**石井**　僕は対戦相手はマネージャーに任せてありますんで、決められた相手とやるだけです。……こういう答え方でいいわけですね？

――急に優等生発言を連発しても嫌みなだけですよ！（笑）。

**石井**　とにかく自分はまだホップ・ステップ・ジャンプの「ホップ」の段階なんで、ここでつまづいていられないんですよ。「軽い相手を選んでる」とか言われてるの知って、ちょっとブルーになりましたけど、そういう雑音の世界から雲隠れしに、明日またロサンゼルスに帰ります。

――もうロサンゼルスに戻るんですか。

**石井**　向こうで試合もしたいし、視聴率のこととか考えずに、練習するだけですよ。アメリカのファンはネットに悪口書いたりしないですよね？

――いやいや、マニアはアメリカのほうがひどいんじゃないですか？（笑）。

**石井**　アメリカもそうなのかよ～。ま、英語を読まなけりゃいいや。やるしかない！

――では、次の試合に期待してます！

**石井**　また軽いの選びますよ。

――だからいじけない！（笑）。

【10年11月9日／都内・某レストランにて収録】

いしい・さとし■1986年12月19日、大阪府茨木市出身。06年に史上最年少の19歳4カ月で柔道全日本選手権優勝。08年には北京オリンピック100kg超級で金メダルを獲得する。その後、総合格闘家に転向し、09年の大晦日に吉田秀彦戦でデビュー。現在、国内2連勝中。181cm、105kg。

視聴率、石井慧ほか、今号もサダハルンバに直撃！

# K-1MAXと大晦日はどこへ向かうのか!?

## FEG代表 谷川貞治

隠し球は二つあります！

今号もサダハルンバに格闘技界のアレコレを直撃！　とくに11.8K-1MAXの視聴率を受けて、そして石井慧の可能性について、サダハルンバの構想を聞いてみた。さらに大晦日に向けた“隠し球”とはなんなのか!?　さっそく読め！

聞き手／ジャン斉藤　試合写真／今村陽子

——今日はおうかがいしないといけないことが山ほどあるんですけど、何からいきましょうか？

谷川　いや、ボクはもうなんにもしゃべりたくない！　いまはそっとしといてください……（遠くを見つめて）。

　ダハハハハハ！

谷川　もう、ボクにムチを打つようなインタビューは勘弁してよお。……まあ、それでもこうやって取材を受けてしまうのがボクの人の良さなんだけどさ。

——いつもありがとうございます（笑）。じつはここに来る前に谷川さんをよく知る松林貴に「今日、谷川さんのインタビューなんです」という話をしたら、「谷川さんは"こういうとき"は絶対になかったことにするよ」と言っておりました。

谷川　そう、なかったことです。もう過去のことは忘れたよお！

——（聞かずに）では、しょうがないので、もうイヤなことから振り返らせてください。

谷川　んあ〜。振り返りたくないなあ。

——平均視聴率7・6パーセントというのは、K-1始まって以来の大事件といいますか。

谷川　……うん。ひとケタだったというのもまだ二回目ですよ。7月のK-1MAXが9・0パーセントだったからね。

——正直、もっと獲れると思いました？

# 石井慧をMAXに投入したのは間違いじゃなかったって思った

谷川　やっぱり10は目指したいと思って石井くんを入れたんだからね。グラフを見ると7～8パーセントのところでウロウロしてて、コマーシャルのところで1パーセント下がるという感じで。

——石井選手の試合はどれくらいだったんですか？

谷川　瞬間最高の12・1パーセント。そこだけちょっと上がってるんですよ。だから石井選手を入れたことは間違いじゃなかったっていうのはあらためて思いました。

——今回の数字は谷川さん的にどのように分析しました？

谷川　だから、いまのK-1MAXのメンバーだったり真新しさでいうと、やっぱり二ケタを獲るのが苦しい時代だということですよね。ホントに新しいエースとか新しい人材が必要だということですよ。7月のMAXは試合内容がよくて9・0という結果だったから。今回は試合内容が伝わりにくかったから、そのとおりに数字が下がったという印象ですね。

——大会前、谷川さんは「サワーやブアカーオを入れるとレベルが高いんだけど、うまさだけが先行しちゃって伝わりづらい。新しい風景を作らないといけない」と言われてましたが、それは凄くいいビジョンだなと思ったんですよ。でも今大会はうまさだけが先行しちゃった感じがしたというか。

谷川　すべてペトロシアンと佐藤くんの闘い方だよね。2トップがああいうスタイルだから、どの試合もああいう試合になっちゃうんだよ。それはもの凄く悩むね〜。

　競技的にはそれを否定するわけにもいかないですし。

王者ペトロシアンと佐藤に引きずられ、バチバチ系の選手のよさが消されたというサダハルンバ。確かに素晴らしいテクニックの応酬だったのかもしれないが、やっぱり一般視聴者には難しすぎる。

谷川　ボク、ペトロシアンみたいな達人系って大好きなんですよ。ただ、ペトロシアンがチャンピオンであるかぎりはクラウスもザンビディスも、あのバチバチ系のよさを消されちゃうよね。

——それでもペトロシアンをよく追い込んだほうですよね。

谷川　いや〜、よく戦略を練ってたよ。ただ、ペトロシアンや佐藤くんを崩すために、普段のバチバチ系の選手のスタイルが消えちゃってるんだよね。そこが競技として凄く問題なんですよ。だから思ったのは、スタイルを消されてもペトロシアンを光らせることができるのは、やっぱり魔裟斗くんしかいないなあって。魔裟斗くんだったら魔裟斗くん目線でお客さんが感情移入できるじゃない。

　ああ、それはわかりますね。

谷川　ボクはクラウスやザンビディスにも感情移入ができるんですよ。彼らが相手でも「いや〜、惜しいなぁ」とか「顔、殴れ！」って思えるんだけど、一般の人は魔裟斗が相手じゃないと無理ですよね。だから昨日僕は終わったあと久保きゅんにめちゃくちゃダメ出ししたんです。「キミのテーマは『HIROYA、初のKO負け』でしょ？」って。そんなこともできずにかわした試合をやって満足しててどうするんだ、って。

——競技者としてはあの試合はいいけれども、MAXに出るプロ選手としてはそんな意識じゃダメだ、と。

谷川　あの試合はHIROYAが初めてKO負けをする、そこまで追い込んで初めて久保きゅんが上がるんですよ。HIROYAくんよりあんな年上で、背も大きくてリーチも長くて経験が多い人間が、いなして勝ってどうするんだって。

——それはもうペトロシアンがいるんだから、ってことですよね（笑）。

谷川　……って言ってたんだけど、ボクが久保きゅんにダメ出ししたところにペトロシアンがやってきて、「キミは素晴らしい！　いままで観た日本人ファイターのなかで一番いい！」って言うんだよお。

——ククククク。

谷川　だからそういう競技と興行の狭間での苦しさはあるよね。昨日は「悪い試合じゃなかった」って言ったんだけど、やっぱりいい試合でもなかったから。

——要は、伝わらない試合だったというか。

谷川　そう、伝わらないだけ。それから今回の視聴率を分析すると、TBSさんで世界バレーの放送があったのも理由だと思うんですよ。というのは、いつもTBSさんはMAXなんかやるときは二回ぐらい一時間番組とか深夜番組でプロモーションをやってくれてたんですよ。それが今回は1回もなしになって、ニュースでも扱われず……。

——宣伝不足の影響は多分にある、と。

谷川　そこもやっぱり1パーセント、2パーセントの影響があるんですよ。たまたま今年の世界バレーがTBSさんでの放送だったことで、K-1MAXというムードが社内的にもなかったし、ファンにも伝わらなかったんだと思うんだよね。石井くんが（スポーツ紙の）一面になって初めて「あ、

K-1MAXがあるんだ」って感じだったと思うし。でもへんな話、日本シリーズがまだ続いてたらもっと悲惨な目に遭っただろうねえ。

—MAXの一日前にロッテの優勝が決まったんですよね。

**谷川** 失礼な話だけど、普段数字獲らないテレ東が数字獲っちゃうと思うからさ。それに、いまのチャンネルって手で回すヤツじゃないし、リモコンでもテレ東の「7」（地デジ）ってチャンネルの並び方が真ん中らへんにあるから、わりとザッピングしやすいんだよ。そういう意味では逆に運のよさもあったのかなあとは思うんだけど。でも、底力という意味で、はやっぱり新しいスターを早急に育てないといけないですね。

—その点、中島選手や日菜太選手の活躍に期待したいですね。

**谷川** そうだね。佐藤くんなんかはとくに昔のMAXのイメージを引きずっちゃってるから。だから今年、佐藤くんが優勝できなかったのは苦しい結果ですよね。じつは昨日ほど控室に行って選手に声をかけた大会もないんだよ。

—それだけ危機感があったということですか。

**谷川** うん。もう「とにかく頑張れよ」って選手一人ずつに言って回ってたんだから。佐藤くん、ペトロシアン、クラウスもそうだし、とにかく一人一人とよくしゃべったなあ。「頑張れ！ 頑張れ！」って。でも、佐藤くん自身も優勝できなかったのは苦しいでしょう。

—なるほど。ところで、谷川さんは石井慧についてはどう評価されているんですか？

**谷川** 石井くん？ ええっと、お世辞を言うわけじゃないんですけど、やっぱり新しい時代の凄い大きな玉であることは間違いないですよ。寝技も強いし、よく練習した感じもあるし。ただ、石井慧のプロモーションがまだできてない感じがするよね。

—へんな話ですけど、日本で3戦やってて、1戦目は戦極でやるはずだったのが急きょ『Dynamite!!』になり、2戦目は放送の1日前ぐらいに決定、3戦目の今回も土壇場で対戦相手が変わったという、どこか不運な感じがありますよね。

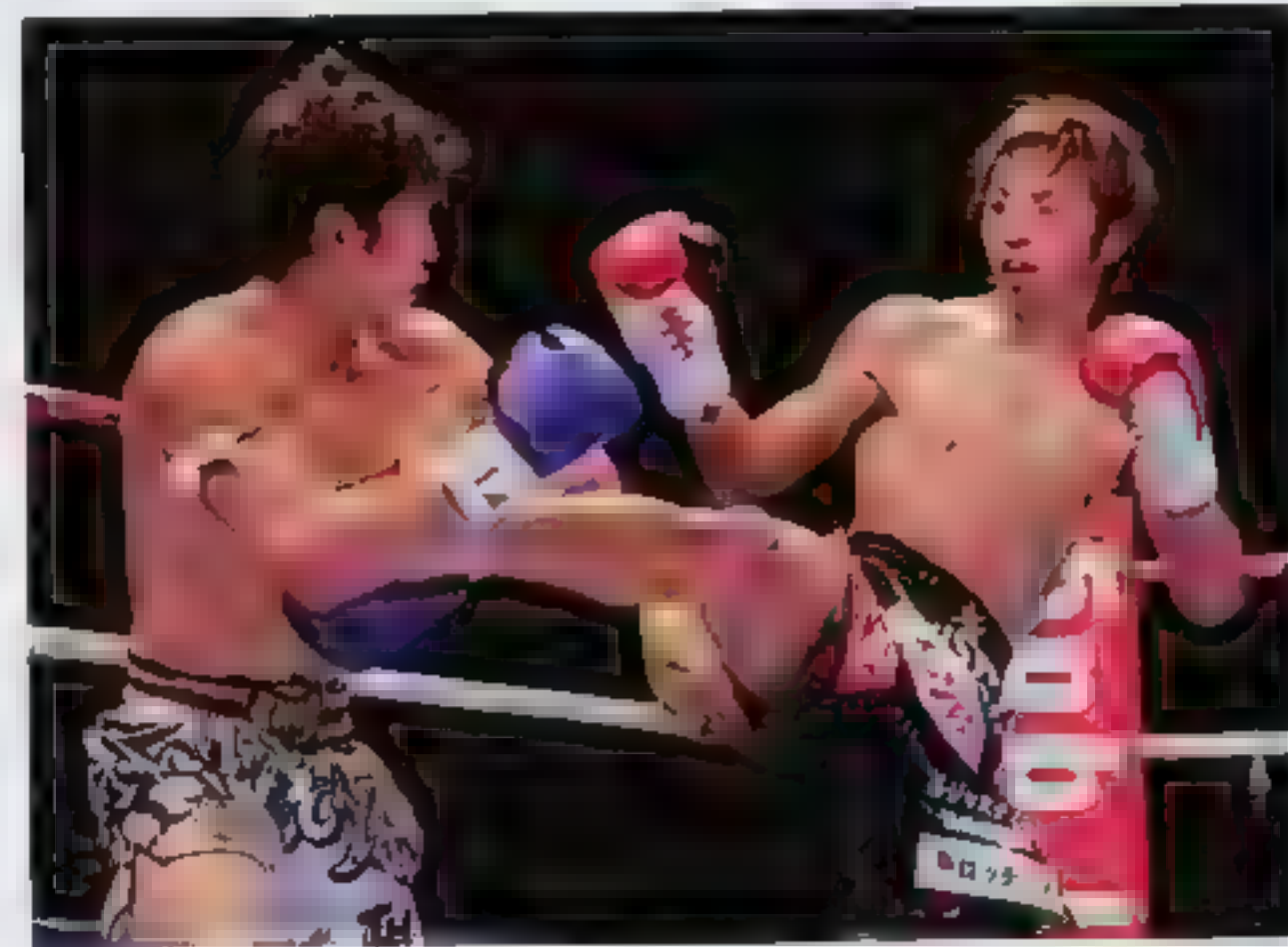
**谷川** だからプロモーションもそうだし、石井選手自身の発言なんかもチグハグになってしまってるというか。本質的には凄くいいものを持ってるんだけど、うまく活かせてないんだよ。

—現状だと狙いがわからない部分が多いですけど、それがハマったのが北京五輪だったんですけどね。

**谷川** そうそう。あれぐらいハマらないと難しいなあ。それが課題なんだけど、ただ石井くんは必要ないとかはまったく思わない。だから石井くん自身も一刻も早くコアなファンのハートをつかむことですよ。

—そういう意味では、小川直也でいうところのゲーリー・グッドリッジ戦が必要ですよね。小川さんもあの恐怖感のある相手に立ち向かっていって、初めてファンに認められたというか。そこはミノワマンや柴田選手ではそのムードが高まりづらかったですよね。

**谷川** そうだね。それに、コアなファンに対して何を言えばいいかをもうちょっと練る、と。そこは石井くん頼りというわけではないんだけど、大化けする可能性があるだけにもったいないですよ。ただ、今回に関しては本当に石井くんはまったく悪くないんだよね。

K-1MAXに新しい風を吹き込むならば、やはり70キロなら日菜太や中島弘貴の勢いある試合が観たいぞ。

サダハルンバに愛のダメ出しをされたという久保さん。K-1MAXに新風を吹き込む意味で63キロのおもしろい試合は不可欠だ。

## でもへんな話、日本シリーズがまだ続いていたらMAXは……

—直前のナンセン選手欠場は本当に〝不慮の事故〟です。ちなみに、柴田選手を選んだのは谷川さんなんですか？

**谷川** 候補には選びました。

—最終的には石井選手サイドが選んだ、と。

**谷川** そうですね。石井選手のマネージメント側がボクらやTBSに気を使って柴田選手を選んだみたいですね。「テレビ的には柴田選手のほうがいいんでしょうかね？」という。でも、本当に時間がなかったからさ、とにかく外国人は間に合わないので日本人か在住の外国人になるじゃない。それで「いいな」と思ったのはファビアーノ・サイクロン。それから「やってくれるだろうな」と思ったのは柴田選手。ほかに、当たったのは西島洋介選手ですね。

—西島選手はダメだったんですか？

**谷川** 西島選手は迷って迷って「K-1ルールなら出ます」ということで、非常に一生懸命考えてくれたけどね。ボクが本当に推したかったのは西島選手だったんだけど。あとは極真の選手にも声をかけたし、大山（俊護）くんからは「ぜひ！」ってメールをもらって、たまたま来日してたアリスターにも声をかけた。

さすがサダハルンバ！（笑）。

**谷川** それから……あ！ 思い出した！ それで声はかけなかったんだけど、一番最初に頭に思い浮かんで、絶対に出てくるだろうなと思ったのはね、田村潔司。

—ワハハハハハハハ！

**谷川** 声はかけてないけどね。

—でも、ちゃっかり出てきそうですよね（笑）。

**谷川** でも交渉が面倒くさそうだからさあ。あと考えたのは船木さんも考えたね。でもいま全日本プロレスの興行で台湾にいるって言うし、出るとなっても全日本プロレスに迷惑かかるよね。いま全日本でどんなことやってるかわかんないけど。だから前日の夜に選んだのはファビアーノと柴田くんの二人。それで昼ぐらいに「柴田でいきます」ってなったんですよね。

—「約2週間前にKO負けした柴田選手にオファーしたのもいかがなものか」という声も出てます。

**谷川** そうだよね～（アッサリ）。

—あ、認めますか（笑）。

**谷川** いや、ホントにそうだと思う。よくないでしょう。とはいえ、そういえば泉選手にもオファーしちゃったけど。

—泉選手もSRCで試合したばかりですね。

**谷川** だから島田レフェリーには「パウンドであれば、長く打たせないでくれ」って言ったんですよ。柴田選手は我慢強い選手だから、それはもう止めてくれって言いました。

—話を入れたとき、柴田選手はどういう反応だったんですか？

**谷川** 本人は出る気はあった。まず桜庭選手に連絡したんですけど、桜

## 隠し球はねえ、やっぱり石井くんとさっき話した「アノ人」だなあ

庭選手は嫌がりましたよ。だから本当はいけないことだってことはわかってるけど……。

う~~~~ん。

**谷川** 本当に石井選手や柴田選手には迷惑をかけちゃいましたねえ。

—しかし、こうなると石井選手は次のマッチメイクが大事になってきますよね。

**谷川** うん、今回うまくお膳立てができなかったからね。

—石井さん自身、また「大晦日出ない」という石井節が炸裂してますけど。

**谷川** ボクが髪型のこと言っちゃったからねえ。でもさあ、あれはへんだよねえ！

—ボクと谷川さんが人の髪型のこと言う権利はない気がします（笑）。

**谷川** んあ～！ まあそうなんだけどさ。でも記者会見で会うなり「へんだよ」って言ってしまって、たいへん無礼なことをしてしまいました。まずカードが変わったことを謝れよって感じだよね。

石井選手に関して、大晦日は誰を考えてますか？

**谷川** う~ん、昨日の試合を踏まえたら……アノ人かなあ。

—アノ人？

**谷川** ただ、まず大事なのは石井くんサイドとちゃんと話し合って、どう売り出していくかを考えたいですよ。

—今回こういう視聴率になったことで、来年の放送に影響とかはあるんですか？

**谷川** いや、それはまったくないですね。そこは心配しないでください。

—ただ、数字ってのは一つの結果ですから、もともとテレビの視聴率自体が低いことを考えれば苦しい時代になってきましたね。

**谷川** ますますそういう時代になってきたなあって感じはするなあ。ただ地上波ばかりに頼ってるわけにはいかないし、もちろん地上波の中でも盛り返さないといけないし、両方の作業が必要ですね。

—という感じで大晦日、隠し球でいろんな噂が飛び交ってますけども、温まっている球は何かあるんでしょうか？

抜群のマッチメイクで観たいと思われながらも、どこかうまくいかずに"非難の的"となってしまっている石井慧。今年の大晦日こそはバッチリなマッチメイクで、対戦相手、事前のプロモーションともに万全の状態で観たい！

**谷川** 隠し球はねえ、一つはやっぱり石井くんと、さっき話した「アノ人」だなあ。まだ言えないんだけど。ヒントは格闘家です。

—格闘家！（笑）。

**谷川** 隠し球は二つ用意してるんだけど……間に合うかなあ。

—あら、二つも（笑）。せめて石井選手絡みの「アノ人」を教えてくださいよ。

**谷川** ○○だよ。どう思う？

—あ、それはいいですねぇ！

**谷川** ホント？

—いいと思いますよ。というか、いまの状況ならそれしかないと思います。

**谷川** ああ、そう？ 斉藤くん、連絡先、知らない？

ダハハハハ！ 知らなくはないですけど（笑）。

**谷川** じゃあ、そのカードで頑張ろうかなあ。あとはまあ、青木くんとか含めて普通にいいカードはいくらでも並べられると思うんだよね。タイトルマッチもできるだろうし。

—ちなみに、ボクが入手した噂だと、某プロ野球関係者もデビューするんじゃないかと聞いたんですよ。長島一茂さんのことなんですけど。

**谷川** へえ～、そうなんだ。でもボク、いっさい話もしてないです（アッサリ）。

—ということはやっぱりデマ（笑）。

**谷川** ウフフフ。まあ、隠し球はいろいろ夢のある感じでやりたいですね。

ちなみに、コアなファン向けのカードとしてSRCとの対抗戦もやるみたいですけど。

**谷川** 対抗戦？ 対抗戦はやらないですよ。

—あ、やらないんですか？

**谷川** というか、SRCさんとは「協力できることがあったら協力しましょう」ってことですよ。だから、DREAMに参戦している一部の選手は出るかもしれない。そういう意味での交流戦はあるってことですね。でも、向こうの選手が出るかというと、今年の『Dynamite!!』はたぶん12試合ぐらいでコンパクトにやるつもりなんで、自分たちの選手でいっぱいでしょうね。まあ、いいカードだったらやりますけど。

—無理やり頭数を入れてやることはないってことですか？

**谷川** たとえばサンドロvsビビアーノとかは個人的には観たいけど大晦日は違うでしょ。だからSRCさんには、たぶんキック系の選手とかが出ることになると思う。総合の選手も出たいって人がいれば出すと思うし。

なるほど。しかし、大晦日は正念場ですね。

**谷川** うーん、やっぱり課題はいかに無党派層を取り入れるかなんだよなあ。好きな人は観てくれるから……（ぶつぶつ）。マスに向けてどうするかというのが課題なんだけど、マスに向けるからって石井くんの昨日みたいな試合はやっちゃいけないし。

—マスは敏感ですよね。「石井を楽に勝たせようとしてる」みたいに受け取りますし。

**谷川** だから今回はそこが残念だったんだよね。なんかほかにメインの試合があって石井くんのカードがあるんだったらいいだろうし、そもそも今回はそういうことをやろうとしたわけじゃないから。でもまあ、頑張ります。頑張ってればどっかで神様が報いはしてくれると思うからさ（遠くを見つめて）。

—あ、まさかの神頼み！

**谷川** それを期待してもうちょっと頑張る。来年は！

—来年って、大晦日も頑張ってくださいよ！（笑）。

**谷川** いやいや、もちろんなんだけど。大晦日も含めて、来年はめちゃくちゃ巻き返すぞお！ ……ところでサクちゃんvs△△もおもしろそうじゃない？

—あ、いいと思いますよ、それも。実現したらビックリしますよ！ そもそもできるんかいな（笑）。

**谷川** やろうかな～。斉藤くん、△△の連絡先、知らない？

—大丈夫かいな（笑）。

**【10年11月9日／都内・FEG赤坂分室にて収録】**

ん」と否定されました。

ガンツ　まあ、ある種予想どおりと

ガンツ　あのー、じつは昨日本人に

やっぱりショックを受けてたね。

座談会出席者

11・8K-1MAXに出場し、[illegible]3戦目を勝利で飾った石井慧。しかし、あいかわらず石井の試合に対してはファンの厳しい意見が飛び交い[illegible]ている。なぜ石井は嫌われているのか？　その"誤解"について考察した。

構成　松下ミワ

## 石井には"田村潔司戦"が足りない？

――えー、座談会収録の時間になりましたが、出席予定の飲みオジこと橋本宗洋がまだ来ておりません。たぶん、昨日も飲んだんでしょうねぇ。

ガンツ　ま、飲み会の合間に原稿を書いてるような人ですからね。

――ラジコンの合間にピッチャーをやってる山本昌みたいに（笑）。

ガンツ　一緒にしたら名球会入りしてるマサに失礼だから（笑）。

――というわけで、とっとと始めますが、まず堀江さんに注意しなきゃなんないことがあるんですよ。というのは、最近「堀江ガンツはガセネタライターなんじゃないか」みたいな疑惑があるという。

ガンツ　それ、あんたが言ってるんでしょ！

――（無視して）説明すると、堀江メモでは12月30日『戦極SOUL OF FIGHT』は「テリー伊藤プロデュースでやるんじゃないか」とあったんですよね。しかし、昨日ボクが向井代表に「『元気が出る格闘技大会』になる噂がありますが……」って直撃したら、「100パーセント、ありませ

ん」と否定されました。
**ガンツ** ……口を割らなかったかあ(しみじみと)。

――口を割らなかったって、実際にテリー伊藤プロデュースは事実なんだ(笑)。

**ガンツ** これはですね、「そういう動きがあった」と。で、「そういう動きがあった」ということは、「これは事実である」と書くのがジャーナリズムである、そういうことです!

――今号からガンツ☆ホリエに改名してください(笑)。そしてもう一つ……。

**ガンツ** しっ! もう一つって大晦日の"サプライズ"についてでしょ? それは、まだ水面下で動いてるかもしれないから、ここで公表するわけにはいかないでしょ(小声で)。

――でももう長島一茂さんのことはおもいっきり谷川さんのページにも出してますよ(アッサリ)。

**ガンツ** えー! そうなの⁉

――しかも、谷川さんに「一茂さんは出るんですか?」と聞いてみたら、「話すらしてないよ」という感じでした(白い目で)。

**ガンツ** またしても口を割らなかったか……。"スピリット空手ルール"とかで出るのかと思ったんですけどねえ。

――まあ大晦日はガセネタ含めていろんな噂が流れてるんで、それを含めて石井慧の話からやりたいんですけど。

**ガンツ** まあ、ある種予想どおりというか、試合だけの感想を言うと予想以上に石井は動きがよかったと思いました。

――でも、ウェブ上では石井に対して厳しい声が相次いでますよ。

**ガンツ** でも、それって「本人のせいじゃねえじゃん」って思うんだけどね。本人は主催者に頼まれてMAXに出ていき、前日に「対戦相手が変わりました」と言われ、それでも試合をしたわけでしょう。それで完勝してるのに、なぜか文句を言われてるってことだよね。

――おそらく石井への非難って、柴田戦だったということや試合後のマイク、入場テーマ、そして試合後のウソかホントかわからない談話をファンが受けつけないって部分ですよね。それが、一緒くたに批判されてるところがあるというか。そこはかわいそうですよね。前回のミノワマン戦も決定したのは3日前でしたし、今回も直前に相手が柴田に変更になりましたけど、これは決して石井慧のせいではないですもんね。

**ガンツ** そういう緊急事態になってもコンディションがちゃんとできてて、試合をできる状態にあるってことが、何気に凄いことだと思うんだけどなあ。

――いろんな意見があるなかで、まず「軽い相手しか選んでないんじゃないか」みたいな意見があるじゃないですか。

# 近未来の石井の目標が明確なら ファンの見方も変わると思う

**ガンツ** あのー、じつは昨日本人にインタビューしたんですよ。例によって本人はまったくそういう評判を知らなかったですけど、教えたら凄くショックを受けていて、マネージャーに「なんで言ってくれないんですか!」って言ってた。「そんなの試合前に言ったら、おまえ落ち込むだろう」ってマネージャーさんも言ってたんだけど(笑)。

――要するに、本人は何も考えてないってことですね。

大会前日に急きょカード変更となった石井慧。その相手が柴田であったことに対して、なぜか石井が非難されるという不思議な現象に。

**ガンツ** だから本人の希望は「とにかく試合がしたい」なんですよ。強くならなきゃしょうがないしね。それと、自分が試合をするとなると、日本のリングだとメジャーイベントじゃないと出られないわけだからね。そして、自分のカードは、どうしてもテレビありきのカードになるから、いまは自分の思うようなカードじゃなくなるんだっていうことも理解はしてるんだよ。だけど「軽いヤツを選んでる」って思われてることに対してはやっぱりショックを受けてたね。

――そうだよなあ。でも、あの石井節を生理的に嫌がるファンの気持ちもわかりますけどね。

**ガンツ** それも、実際に次の試合とかが決まってるわけではないじゃない。だから、普通にコメントしようとすると「次も試合が決まったら頑張ります」というコメントにしかならないよね。だから、とくに新聞記者なんかに「なんか言ってください」って言われてやるって感じなんだよ。「何かおもしろいことを言わなきゃ取り上げてくれない」というのも感じてるし。それがホントにおもしろいかどうかはともかくね。

――となると、完全に空回りだ(笑)。

**ガンツ** そう。だから桜庭に対戦要求したことについても「どうやら桜庭さんが怒ってるようですよ」って教えてあげたら、それも凄くショックを受けてて(笑)。

――そうやってファンからどんどん嫌われていって。

**ガンツ** 単純に何を考えてるかわかんないんだろうね。だから、ホントは近未来の目標をファンがわかってたら全然違うと思うんだよ。たとえば「DREAMヘビー級のベルトを獲ります」とかね。そしたら、そのためには経験を積まなきゃいけないし、誰と対戦しないといけないとか、ファンも見えてくると思うんだよ。でもその目標がボンヤリしてるから「体重の軽い選手とやってお茶を濁すことがやりたいんじゃないか」って勘違いされて見られるんだろうね。

――なぜそれができないのかな。

**ガンツ** やっぱりマネージメントの方向性も含めて、格闘技界がこの先どうなるかがわからないから「石井はこれを目指します」ってことが言えないんじゃない? これがPRIDEや『HERO'S』があった時代だと「PRIDEや『HERO'S』が揺るぐわけがない」というのがあるから目標も立てやすいんだろうけど、ぶっちゃけた話「このままDREAMについていいんだろうか?」というのもあるだろうしね。

――石井にかぎらず、フェザー級でもあれだけいい選手がいるのに、なかなか絵が描けてない部分がありますし。

**ガンツ** だから本人としては、まったく先が見えない現状のなかで、とりあえず強くなる、試合をする、そのためには来たオファーは受けるという感じしかないんだよ。

――それなのに「石井がヒドい目に遭わなきゃ許さない」みたいなムードってあるじゃないですか。それってマット界のために凄くよくないですよね。

**ガンツ** だから凄く不思議なのは、柴田がDEEPでTKO負けして2

**座談会出席者**

**橋本宗洋**
フリーライター。最近はツイッター上でファンを招集し、日々飲み会を開いていることから「飲みオジ」というあだ名で呼ばれている。今回の座談会はまさかの寝坊ー

**堀江ガンツ**
本誌編集部。ちっちゃな頃から熱狂的プロレスファンでならし、「週プロ」の「プレッシャー」会員という恥ずかしい過去を持つ。変態座談会主宰者。

**[司会]ジャン斉藤**
本誌編集長。"雀鬼"桜井章一の内弟子を経て「Kamipro」編集部へ。永久電機など、アントニオ猪木の怪しげな事業の調査をライフワークとする。

週間で出てきた。それを凄く危険なことだと言う人たちがいるけど、デビューしたての石井とアリスターを闘わせるべきだとか、ゲガール・ムサシとやらせるべきだとか、どんだけ危険なんだって話だよ。グリーンボーイとプロ10年で体重115キロの世界チャンピオンを闘わせたら危ないに決まってるじゃない。あんだけキャリアがあって強い藤田和之だって、アリスターと闘ってあんな目に遭っちゃってるんだよ？

――藤田和之の復帰の話も聞こえてこないですし……。

**ガンツ** それこそ一歩間違ったら大事故になるわけですよ。石井は将来的にそういうヤバいヘビー級ファイターに挑むために徐々に経験を積みたいってことでしょ。

――しかし、そうなると石井の対戦相手は誰がいいですかね？

**ガンツ** 先月はセーム・シュルトって言ったんだけど、これはいまでもいいカードだと思うんだよなあ（笑）。まあ、K-1チャンピオンだから、これでも普通に考えたら危険なカードなんだけど。

［ここでようやく飲みオジが到着］

**橋本** すいません、遅くなりました！

――こんな時間まで飲んでたんですか？

**橋本** もうお昼すぎだよ！　すいません。完全な寝坊でした。

――というわけで、破壊王ばりの大遅刻をしてきた橋本さん。さっそくですが、どうでしたか、石井慧は。

**橋本** （いそいそと席に着きながら）石井の話なの？　そうだねえ。遅刻してきて上から目線で語らせていただきますけど、なんか結局、相手が柴田でも凄く盛り上がったわけではないでしょ。話題性としては石井単体であって、カードの魅力じゃなかった。だったら、相手は普通でいいんじゃねえかなって。今回は無理して柴田を相手に持ってきて、強引に話題性を持たせようとしたけど、そこまでの効果はなかったわけでしょ。それなら石井のキャリアに見合った相手とやってほしいなあっていう感じはあるね。

**ガンツ** いや、それが最初は（アンズ・〝ノトリアス〟・）ナンセンだったって ことでしょ？　そこが柴田に変わったのはしょうがないんじゃない？

――ただ、あの緊急事態のなかでTBSへのプレゼンも含めて、たとえば今回の谷川さんの取材で、大山俊護から「ボクもできますよ」というメールが来たという話を聞いたんですよ。それをツイキャスでしゃべったらファンから「大山と柴田だったら全然変わらないのに、なんで大山を選ばないんだ」という書き込みがあったんだけど、やっぱり少なくとも柴田はTBSの登場人物だから選ばれたという部分は絶対にあるわけですからね。

**橋本** でも柴田は2週間前のTKOが凄く気になるね。オレ、そこはちょっと「しょうがない」とは言いたくないね、どうしても。

いいか悪いかって言ったら全然ダメですよ、そりゃ。ただそれは石井サイドというより、オファーしたFEGと受けた柴田サイドが考えなきゃならない。

**橋本** でも、柴田本人のせいでもないよ。だって選手は「やるか？」って言われたら「やる」って言うしかないもん。ダメージってケース・バイ・ケースだからなんとも言えないけど、だからこそちゃんと一線引いたほうがいいと思うし。ファビアーノ・サイクロンも候補に挙がってたけど、ファビアーノだって今度の日曜日に試合があるからね。M-1っていうムエタイ大会で。

――それはFEGもこんだけ興行やってるんだからマズイことはわかってる。それでも止められない状況にあったということですよねえ。

**橋本** だからこのカードに関しては、

# いまの石井は評論のされ方が一時期の青木真也に似ている

「これでいい」と思ってる人は一人もいないってことだよね。思ってる人がいたら怖いけどね。

**ガンツ** 選手はそれでも「やるしかねえ」ってことなんだよね。それで精一杯やったのに選手が批判されるのはやっぱりおかしいよ。石井はこの悪条件をすべて受け入れて「わかりました、やります」って言ってるのにさ、まったくタイプの違う相手に完勝して文句をつけられてるんだから。

だから、多くのファンは理屈じゃないところで石井選手が嫌いなんでしょうね。「弱い相手を選んでる」「同じ階級の選手とはやってない」というのは一理あるけど、石井慧のせいじゃないし。だからいまの石井慧を見ていると、評論のされ方が一時期の青木真也に似てるなあって。

**橋本** いまの石井って昔の青木真也でいうところの「挨拶がない」って状態だよね。青木は古株のメディアの人たちに対して「挨拶がない」状態だったじゃん。石井はファンに対して「挨拶がない」って判断をされてる状態だと思うよ。

――スペースローンウルフ時代の武藤敬司のときから団体側がキャリアのない新人を上げるときは絶対そういうことになりますよ。だから石井に必要なのはやっぱり小川直也でいうところのゲーリー・グッドリッジ戦ですよね。そういうものがいま日本の格闘技界では用意できてないというのが課題というか。たとえば吉田秀彦なんかはデビュー戦にして国立競技場でホイス・グレイシーと闘って、2戦目がドン・フライ、3戦目は佐竹雅昭ですよ。これ以上ないしいい相手がいたんだよ。

**橋本** となると、吉田が本来の意味でファンと気持ちを共有できたのっていつからだろう？

**ガンツ** やっぱりヴァンダレイ・シウバ戦でしょう。それと田村潔司戦を経たのが大きいってのもありますよ。アマチュアの金メダリストがプロの権化みたいな田村とやったっていうのが。

――「プロにまみえた」瞬間ですよね。

**ガンツ** だからオレはミノワマンや柴田が〝田村潔司〟になれないのも大きいと思うんだよ。みんながなぜ批判するかというと、ミノワマンや柴田が〝負け役〟をやらされてる思ってるからだと思うんですよ。でも、体重差はあるけどキャリアが全然違うんだから、泡吹かせられると思うんだよね。なのに、その雰囲気すら全然なくて。「弱いヤツを連れてきた」って言うけど、ミノワマンなんて本来全然弱くないじゃん。

**橋本** ミノワマンなんか、スーパーハルクE者だからね。

**ガンツ** だって石井はミノワマンのことを「凄いヤバい選手だ」と思ってたんだよ。ミノワマンってプロで50戦近くやってるわけだから。それが見せ場なくワンサイドなんだから。

柔道界からの転向組は“新参者”とされファンにも受け入れられにくいが、吉田秀彦でいうヴァンダレイ戦のような試合をきっかけに大化けする瞬間がある。

# 見逃しがちなのは今回の石井は凄く動きがよかったってこと

「石井戦のミノワマンはプロ失格」っていう声がどこからも上がらないほうが不思議。

**橋本**　そういう意味で柴田とかミノワマンがもともと〝田村潔司〟ではなかったということか。

**ガンツ**　田村なんかプロのいやらしさで「どんなことをしてでも自分のほうが上に見せるぞ」って企みが、もうプンプンしてるじゃない。で、試合自体も田村が「この距離で蹴ったら、経験がないヤツは絶対に入ってこれません」ってのがわかっててやるっていうところが凄いし。そういう意味で、石井にもプロの洗礼を浴びせられる人が必要ということなんだよね。

――だから前に「桜庭和志がいいんじゃないか」って話がありましたけど、それは夢のカードとかじゃなくて、プロの洗礼を浴びせられる選手だって話ですよね。

**ガンツ**　そうそう。でもさっきはセーム・シュルトとか言ったけど、ここまできたら「田村でもいいかな」とか思っちゃうもんね（笑）。田村は石井とやって華を持たせるような男じゃないから。

――それは競技者としての勝ち負けじゃなくて、存在としての勝ち負けですよね。だって吉田vs田村だって、どっちが勝ったかと言えば、ずっと語られるのは田村というか。あのとき吉田はヘタしたらプロとしての価値が抹殺されたかもしれなかったじゃないですか。そういう勝負なんですよね。

**橋本**　それこそ石井が試合でどうなるかじゃなくて、前の晩に石井が寝れなくなるような相手ってことか。

**ガンツ**　でも、現MMAのチャンピオンクラスとやるとなると、それは2週間前にKO負けした選手に試合をやれって言ってるのと近いぐらい危険なことだと思うんだよね。

――個人的には吉田や小川はそういうのをやってもいいと思うんですよ。というのは、彼らはいわゆる「柔道タレント」じゃないですか。MMAファイターとして競技の道をきわめるというより、柔道をバックボーンにMMAでもプロとして食べていきますという。でも、石井って全然違いますよね。

**橋本**　石井はMMAファイターになろうとしてるもんね。だから、あとはもうプロデュースの仕方だろうね。

……でもさ、あの石井のギャグセンスってのはどうなの？

――だから、あれは北京五輪だったからハマったんですよ。日本の柔道が危機である、と。「柔道」じゃなくて「JUDO」化が進んでるなかで。

**橋本**　ジャケットレスリングだぐらいのことを言われてたわけだもんね。

――石井は国内でも「あいつは守る柔道だ」って言われてたわけじゃないですか。それが五輪では決勝まで一本で勝ち上がってて、そのうえでわけのわからないことを言ってるのがおもしろいかったという。だから、もっとMMAのプロの洗礼を浴びせられるような選手と闘ったうえで飄々とああいうことを言ったらおもしろいと思いますよ。それが柴田相手に言ってたら「なんじゃこれ！」ってなりますよね。

**橋本**　そりゃ、そうだ。

これはちょっと外れるけど、破壊王だって新日本プロレスに入門してシャバっ気がいっさい抜かれたからこそ受け入れられたってのがあると思うんですよ。シャバっ気を抜かれないまま独特のギャグセンスを言われても、受け入れられないっていうのはあるかもしれないですね。

**橋本**　柔道ギャグみたいな感じはあるからねえ、内輪だけの笑い。それを成立させるには、ジャンクスポーツにおける浜ちゃん（浜田雅功）みたいな変換機が必要になってくるもんな。スポーツマン同士がワイワイガヤガヤしゃべっててもちっともおもしろくないし、浜ちゃんや明石家さんまみたいな変換機があってこそのおもしろさだからね。その点、石井には浜ちゃんもいないし、そもそも柔道タレントじゃないのに柔道タレントみたいなことになっちゃってるから。

**ガンツ**　ただ、俺は文句を言いながら観てる人がいてもいいと思うんだけどさ、なんか見逃しがちなのは、今回の柴田戦はメチャメチャ動きがよかったってことだよね。闘い方が固まりつつあるというか、勝ちパターンができ始めてるじゃない。

**橋本**　単に試合として観たら「石井ってのはこういうスタイルなんだなあ」っていうのがなんとなくできてきたよね。一回テイクダウンしてパスガード、上四方で一周しちゃったときはおもしろかったけどね。「回転体だ！」って感じで。

――ちなみに、ブロック・レスナーも意外と回転体なんですよね（笑）。

**ガンツ**　石井って抑え込みなのに止まらないっていうね。

**橋本**　結局、なんで上四方にいったかっていったら、アームロックから の腕十字を狙ってるからで、それで「ディフェンスされるな」と思って戻ったから、思わず一周しちゃったんであって、なんかやろうっていう姿勢はあるってことだよね。

**ガンツ**　デビュー戦であの動きができてたらなあってつくづく思うけど（笑）。

――となると、やっぱりあとはお膳立ての問題か。

**ガンツ**　石井を使うのはお金がかかる。石井を使うのは地上波テレビ放映をしてもらうための一つの切り札でもある。そうすると、何かしらのそういうカードになるっていう状況はしばらくは変わらないと思うんだよ。だから本人はそれを消化して「誰が相手でもこういうふうにやります」と。もし断るとしたらファイターとして「ホントにこれは勝てませんー！」という相手だけだよね。それは試合じゃないから。

――石井は文句を言われながらもやるしかないってことですね。

**ガンツ**　格闘技って一試合ですぐ評価が変わるから。そういう日はきっと来るんだよ。

**橋本**　田村やヴァンダレイとやった吉田はヒントかもしれないね。ついでに、吉田でいうところのTKがいるといいよなあ。なんかTKと一緒に練習しているというだけで、こっち側の人間が心を許す部分ってあるじゃない。そう考えると、『kamipro』の流れでいくと筋肉3兄弟が後見人っていうのが美しかったかもしれないよね（笑）。

――フィル・バローニでいいのかって話なんだけど（笑）。確かにスポークスマンがいないってのはあるかもしれないですね。

**ガンツ**　とにかく、いまは石井慧をいい意味で利用して、格闘技を盛り上げていくしかないよ。もう、そこに期待しましょう！

【10年11月10日、kamipro編集部にて収録】

いわゆる"MMA新参者"にことごとくプロの洗礼を浴びせてきた田村潔司。石井もあのヒリヒリ感を味わうことで転換期が来るということなのか!?

――向井さん、最近はお忙しいんじゃないですか？　ドン・キホーキのお仕事もさ

った意見がありまして。それともう一つは、純粋に入場者とかPPV件数のことで

トはクリスマス前ぐらいにやろうかとも思っていたんですけど、それは会場の都合

関係や試合数の関係で組めないのであれば、対抗戦というよりは交流戦みたいなか

――向井さん、最近はお忙しいんじゃないですか? ドン・キホーテのお仕事もされてることですし。

**向井** いや、いまはもう時間の9割はSRC関連の仕事をやっています。最初は半々くらいでしたが徐々にこうなりまして。

――そうなると力の入れ方も変わってきます?

**向井** やらなければいけないことがいっぱいありますね。10月の大会が終わって、もうすぐ年末じゃないですか? だからいまが最も忙しいかもしれませんね。

――まさに今日はその年末についてお聞きしたいんですが、そもそも12月30日に『戦極ソウル・オブ・ファイト』を開催することになった経緯というと?

**向井** まず一つは、大会のキャッチフレーズが「朝から晩まで格闘技」なんで、ホントに一日中やろうと思っているんですね。

――それ、相当大変だと思うんですけど(笑)。

**向井** はい(苦笑)。そもそもこうなったのは、SRCも加盟している日本格闘競技連盟のほかの加盟団体から、「年末にやるのなら我々も協力させてください」というお話をいただいたからなんですね。そこで連盟の会長でもあるレスリング協会の福田(富昭)会長とお話をして、「せっかくだからみんな集まってやればいいんじゃないか」と。で、日程を調整していたら圧倒的に「30日のほうがいい」という声が多かったんですよ。

――それはなぜですか?

**向井** もともと我々は31日に有明コロシアムに申し込んでいたんです。でも、総合の人たちなら大晦日に試合をやって年を越すことに慣れているんですけども、他競技から「31日だと身動きがとれない」といった意見がありまして。それともう一つは、純粋に入場者とかPPV件数のことですよね。これらを考えると31日よりも30日のほうがあきらかにいいと思いまして。

――『Dynamite!!』と食い合うのも業界的にはよくないですしね。同日開催で相乗効果があればいいですけど、そういう時代でもないですし。

**向井** そうですね。それに31日は『Dynamite!!』だけではなく、世の中で年越しイベントが多いじゃないですか?

――大掃除もしなきゃいけないですし(笑)。

**向井** そうなんですよ(笑)。それにホントはクリスマス前ぐらいにやろうかとも思っていたんですけど、それは会場の都合もあって難しくて。で、30日に落ち着いたかたちですね。

昨年は『Dynamite!!』でDREAM vs SRCの全面対抗戦が実現。4勝4敗で迎えた青木真也vs廣田瑞人の大将戦では腕折り事件が勃発した。"交流戦"といえども、やはり団体のメンツをかけた闘いには注目が集まる。

――開始は午前11時ということですが、それから終わりまでずーっと試合を?

**向井** 一応予定としては21時までやると思います。まぁ、スカパー!さんとの兼ね合いもあるので、休憩時間で調整するみたいな感じになるとは思いますけど。それで、お客さんにはパスを発行して会場の出入りを自由にして。

――そうなるとイメージ的には音楽フェスに近いんですかね?

**向井** そうですね。ですから「大会の合間にご自由にお台場で買い物してきてください」というのもありなんじゃないか、と。

――なるほど(笑)。

**向井** あとはやはり30、31日で分かれることで、FEGさんたちと連携して盛り上げていきたいというのもありますね。コアなファンの方は両方に来ていただけるかもしれませんし。

――いまFEGさんの名前が出ましたけど、交互に選手を派遣するみたいな話は進んでるんですか?

**向井** 具体的に誰というところまでは進んでないんですが、おそらく最終的には2~3試合になると思います。『Dynamite!!』のほうも今年はあまり試合数を増やせないらしいですしね。本来の年末だったら、去年みたいに対抗戦をやるとおもしろいと思うんですよ。でもテレビの関係や試合数の関係で組めないのであれば、対抗戦というよりは交流戦みたいなかたちがいいんじゃないかな、と。

## DREAMとの交流戦はおそらく2~3試合になると思います

――泉浩選手が石井慧戦をアピールしてますけど、あれはFEG側とは別の流れの話なんですか?

**向井** そうですね、FEGさんとはお話していませんが、泉選手は純粋にやりたいんでしょうね。いま柔道のメダリストで総合をやっている日本人選手は彼らしかいませんから、話題性はあると思います。

――でも、マッチメイクも難航しそうですよね。団体同士が合意してもそこからまた選手のお話をしなきゃいけないですし。

**向井** そうですね。お互い調整しなければいけないことはたくさんありますから、すぐにカード発表というのはなかなか難しいんじゃないかなという気はするんですけどね。

――たとえば真騎士選手や泉選手というSRCのトップファイターを派遣する心積もりは?

**向井** 私としては、業界を盛り上げるためなら派遣してもいいですし、DREAMのトップ選手に来ていただいてもいいと思っています。もちろん、トーナメントのようにどうしてもこちらでやらなければいけない試合はありますけどね。

――なるほど。現段階でメイン級のマッチメイクとして、どのようなものを考えてますか?

**向井** まず今回の年末イベントの流れとしては、最初に立ち技をやるんですね。

――あ、立ち技をやるんですか？

**向井**　はい。それから道衣の異種格闘技マッチもやります。

――いろいろやるわけですね。もしかして向井代表の得意な相撲も？（笑）。

**向井**　いや、モンゴル相撲とかもやりたかったんですけど、ちょっと時間的に無理かな、と（笑）。というのは、大会全体で30試合近くになるんですね。あとは女子格もやりたいですし。そのなかでメインという意味では、立ち技にMMA、場合によっては女子を加えて2～3試合、そのワン・ツー・スリーのおもしろいカードで締めくくりたいと考えています。

――いつものSRCというイベントのカラーとはだいぶ違う感じなんですね。

**向井**　全然違います（キッパリ）。大きなイベントの一要素としてSRCが入ってる、と。

――あの、なんでも今回のイベントをテリー伊藤さんがプロデュースするという噂があるんですが？（笑）。

**向井**　ハハハハ！　いや、それは今回100パーセントないと思います（笑）。テリー伊藤さんの話に関しては、ドン・キホーキが夏にコスプレのイベントを渋谷でやったときにメインプロデューサーをやられていたので、それでそういう噂になったんじゃないですかね。まぁ、僕もそのイベントに行って、テリーさんの横で見ていましたし。

――なるほど、それで話が一人歩きしたんですね。いや、てっきり格闘技だけじゃなくダンスとかいろいろショーアップした感じでやるんじゃないか、と。

**向井**　それはそれでおもしろいんでしょうけど、ダンスは大澤（茂樹）選手の入場だけでいいでしょう（笑）。

――ハハハハ。では形式としては音楽フェスみたいなかたちをとりながら、格闘技だけの試合をずっとやる、と。

**向井**　そうですね。もし誰か知名度があるアーティストの方が年末にアポイント取れるならライブを入れたいなとは思っていますけど、実現はちょっと難しいかもしれないですね。

――今回はいわゆる変化球をあまり投げずに、基本的に直球で勝負なんですね。

**向井**　はい、朝から晩まで直球でやります。今回はさまざまな格闘技の相乗効果が少しでもあればと思っているんですよ。たとえば、いつもは立ち技しか観てない人がMMAを観て興味を持ったり、その逆もあるかと。それに女子格なんかは、より広い認知につながると思いますしね。今回は微力ながら業界の底上げにつながれば、と。

――それでFEGとも連携を図るわけですね。

**向井**　そうですね。だいぶ、FEGさんたちとも協力体制が整ってきましたよ。

――では来年以降はいまよりも密接にやっていく、と？

**向井**　そうできればいいと思っていますね。やっぱり仲間意識みたいなのがお互いに生まれてきていると思うんですよ。

――去年の『Dynamite!!』以降は業界の荒波もまれ軍団ということで（笑）。とくに交流はなかったわけですけど、ここでもう一度かたちをつなげていきたいというのがあるんですね。

**向井**　そうですね。これから年末じゃないタイミングでも団体戦、対抗戦みたいなものができるのであれば、それもおもしろいでしょうしね。

――なるほど。少し話が変わりますけど、

# RU MUKAI

北岡悟選手が先日、パンクラスを離脱した件に関して向井代表はどういうかたちでお話を聞かれたんですか？

**向井**　いや、私は何も聞いてませんでした。

――あ、そうなんですか？　北岡選手のパンクラス最後の試合をご覧には？

**向井**　会場で観ましたよ。あんな話（パンクラス退団）が出るとはつゆ知らず。

――まぁ、北岡さんは試合前のコメントでも退団を匂わせるような発言をしてましたけど。

**向井**　私には坂本（靖＝パンクラス運営本部長）さんがどこまで今回の件を知っていて、本人とどのような話し合いをしてたかもわかりませんが、そもそも我々は8月の『SRC14』に出てもらおうと北岡選手にレオ・サントス戦のオファーを出したんですね。そうしたら彼は「2～3日、考えさせてもらえませんか」ということだった。で、その考えてるあいだに彼はアマチュアの試合に出場して、足を剥離骨折したんです。

――そうだったんですか。

**向井**　僕はそのケガもあってサントス戦は流れたと思っていたんですが、いま考えるとケガをしていなくても彼は断っていたのかもしれませんね。たとえば、SRCに上がるほぼすべての選手はオファーの条件に納得がいかなければ、我々と直接話をして接点を見つけるんですけど、彼の場合は近いところにいたはずなのに、残念ながらそういうことができなかったんですね。

――単純にコミュニケーションが取れなかった？

**向井**　そうですね。去年までは個人的に会ったりはしていたんですが、いまの私の立場的には全選手に公平に接するべきですし、なかなか以前のようにはコミュニケーションが取れなかった部分もあります。ただ、ちょっと耳にしたのは、彼が「自分

SRCを主戦場とし、いまや日本格闘技界が誇る"名勝負製造器"である三崎和雄も、年末決戦の目玉としてその名を連ねてくるだろう。

## なぜ北岡選手は後ろ足で砂をかけるようなことをしたのか理解できません

は『戦極』を背負ってきたのに、SRCは大事にしてくれなかった」という話をしている、と。それは誤解というか、ちょっと違うんじゃないかなとは思いましたよね。

—向井さんからすると裏切られたという気持ちがあるわけですか？

**向井**　そうですね。パンクラスの選手たちやスタッフ、スポンサードしてきたドン・キホーテもきっとそうだと思います。だから非常に残念ですね。で、アメリカに行くのだったらまだしも、彼は『Dynamite!!』に出たい」と発言している。それならそれで、ちゃんと話をしていれば出る方法だってほかにもあるわけなんですよ。

—いわゆるSRCとFEGが一致団結しようとするなかで、こういう行動はいかがなものかという？

**向井**　やっぱりSRCも私が代表になって、ある意味、いまは企業再生に取り組んでいるみたいなものなんですよ。格闘技業界が冷え込んでいると言われているなかで、少しでも正常に戻すように努力をしているわけです。それにはゲート収入やPPV収入、スポンサー収入などを見て経費を削減したり、ある程度はファイトマネーなんかも適正化していかなきゃいけない。

—なるほど。

**向井**　選手の評価はおもに実力と人気（集客力）で判断しますが、当然連敗した選手はそれなりにファンの目というか、シビアですけど市場の価値は下がるわけじゃないですか。いままでの日本のMMA文化は、よくも悪くも一度上がったファイトマネーは下がらない習慣があったかもしれません。でもそこはアメリカのようにもっとビジネス的に考えないと。下から上がってくる選手もいるわけですから、企業としては長続きしないですよね。

—野球の契約更改じゃないですけど、「去年が不振だったから今年はこれでお願いしますよ」という話をせざるをえない、と。

**向井**　まぁ、格闘家だからいろんな個性があっていいと思うんですけども、北岡選手みたいなタイプは私からすると初めてでしたね。ああいうふうに秩序を乱すというか、筋を通さないという選手はあまりいないですよ。普通はできるかぎりの調整をしたり、コンセンサスを得て事を起こすものなんですけど。私は、なぜ彼が充分な話し合いもしないでこのような後ろ足で砂をかけるようなことをしてしまったのか理解できません。

10.3パンクラスで「自分のパンクラスismは終わりになります」と卒業を宣言した北岡。本誌前号ではSRCに対して「僕は大きな失礼をしたとは思ってないですから」と語っていたが……。

—そうでしたか。

**向井**　あの、僕たちは選手にはホントにカッコよくあってほしいと思っているわけですよ。前にお話しした十カ条じゃないですけど。

—スターになるための十カ条ですね。

**向井**　はい。カッコよくないと選手の価値も上がらないし、業界の人気も上がらないと思うんです。それがこういうカッコ悪いことばっかりやると、「そんなもんどうでもいいよ」ってなっちゃうわけですよね。それがひとえに残念ですね。

—こういうリング外の政治問題で選手が出る出ないという話になると、ファンとしても戸惑うと思うんですよね。

**向井**　我々もそうですよ。私にしてみれば政治問題も何も関係なくて、一方的に30歳にもなって物事をわからない人がムチャをして、せっかくの業界のいいムードを壊したと言うしかないんです。政治的な話をすれば、いまはFEGさんとも非常に友好的になっていますから。

—そうですね。まぁ、この業界には一癖も二癖もある方も多いですけども（笑）。

**向井**　だから私は正直、戸惑う部分はありますけどね。ほかの業界から来たので。

—なるほど（笑）。

**向井**　私がドン・キホーテの人間であることを知って、「ウチもスポンサードしてよ」とか要求してくる人もいますし（笑）。だいたい、僕はそんなこと決められる立場じゃないんですから。

—向井さんの決断だけでポンと決められると思ってる人がいるんですか？

**向井**　いるんですよ！（キッパリ）。

—ダハハハ！　ここはちょっと声を大きくして「そんなことはない」、と（笑）。

**向井**　だから困っているんです。ホントに格闘技を取り巻く環境は厳しいですよ、いま……。

—だからこそ『戦極』からSRCになって、その体制を変えていったわけですよね。

**向井**　そうなんですよ。前に僕は「興行をやるのはお金儲けじゃない」って言いましたよね？　確かに収支的にはホントにトントンが一番いいんですけど、やっぱりイベントとして自立はしなきゃいけないですから。

—なるほど。

**向井**　……我々もファンドを立ち上げましょうか（笑）。まぁ、いまのご時世じゃ難しいでしょうけどね。

—でも「オレがイベントを支えてるんだ」っていう気持ちになる格闘技ファンもいるかもしれませんよ。ボクもファンのときは「オレが行かなかったら潰れるかもしれない、だから行かなきゃ」って思ってましたからね（笑）。

**向井**　すばらしい！

—そういうファンが昔はたくさんいたと思うんですけどね。

**向井**　私もパンクラスのチケットを毎回買っていましたからね（笑）。まぁ、暗い話をしていてもしょうがないですね。とにかく我々は前を向いて、年末はこれまでにない格闘技イベントを実現して業界を盛り上げたいと思っているので期待してください！

【10年11月9日　都内・ドン・キホーテ本部にて収録】

TORU

# 椎名基樹のサムライ三昧

第55回

## ド迫力のヘビー級頂上対決

あの怪物レスナーをパウンドの連打で、文字どおり血の海に沈めたケイン・ヴェラスケス。これからのUFCは、ヘビー級とは思えないスピードとテクニックを持ったこの"新怪物"が支配する。

もうベストバウトは決まりだろう。今年はこれ以上は出てこないだろう。

ブロック・レスナーvsケイン・ヴェラスケス。

ド迫力の肉弾戦。想像を超える結末。とんでもない大喧嘩であった。でっかくて、狂暴で、鍛え上げられた男がぶつかり合う、格闘技の神髄、醍醐味をたっぷりと味わうことができた。

ヘビー級の頂上対決といえば、やはり、PRIDEのクライマックスともいえる、ヒョードルvsノゲイラ、ヒョードルvsミルコの興奮、緊張感が忘れられない。

しかし、この一年あまりのUFCも、それに匹敵するヘビー級の興奮を味わわせてくれている。

ただ、時代のなかでファイトスタイルが変化したのか、団体の色なのか、選手の体格の違いなのか、PRIDEとUFCのヘビー級バトルでは、試合内容がまったく違うのが興味深い。

先述したPRIDEのヘビー級頂上対決は、どちらもフルタイム闘った末の判定であったが、UFCではほとんどが1ラウンドに完全決着している。大排気量の車が正面衝突して、エンジンが止まったほうが負け、UFCはそんな闘いだ。

そしてUFCでは、そんなリアルタイムの頂上対決が、じつにあっさりと、出し惜しみなく決定するところもPRIDEとは違う。それは、時に無慈悲にすら感じられる。もうちょっと、ファンに妄想する時間をくれてもいいんじゃないかと思う。いや、やっぱり、ばんばんカードを切ってくれ！

レスナーvsヴェラスケスがベストバウトにふさわしい試合だったと感じるのは、そのUFCの出し惜しみしない姿勢のなかで行なわれた、この対決に至る、いわばトーナメントともいえる試合の数々が、またどれもこれも素晴らしかったからだ。ちょっと整理してよう。

ノゲイラvsクートゥアー×
フランク・ミアvsノゲイラ×
シェーン・カーウィンvsフランク・ミア×
ヴェラスケスvsノゲイラ×
レスナーvsシェーン・カーウィン×

そして、今回のタイトルマッチでヴェラスケスが王者となったわけだ。この充実ぶりはちょっと凄い。どの試合も、アンドレvsハンセンの田コロ仕様。すべての壮絶なKOシーンや、ダウンシーンを鮮明に思い出すことができる。

だが、こう見ると、ちょっとレスナーがかわいそうだなとも思う。夏にカーウィンと闘って、秋にはもうヴェラスケスと闘うなんてちょっと無謀だ。青木真也が、川尻達也と闘って、数カ月後に真騎士と闘うようなものか？いや、もっと過酷だろう。

レスナーはこの試合後、引退をほのめかしているようであるが、ここはなんとかダナ社長、猛烈に引き留めてください！

また、勝ったヴェラスケスの次の相手は、カーウィンを希望したい。が、どうやらジュニオール・ドス・サントス戦に決定したようだ。これまた、興味深い。どうやらヘビー級は完全に世代交代しつつあるようだ。でも、ジュニオールよりヴェラスケスのほうが全然強くね？

ヘビー級の話題の次はうって変わって、世界最軽量、おそらくMMAのなかでは全世界で唯一だと思われる、修斗のフライ級戦線について。

9月の興行と、ちょっと古い話になってしまうが、猿丸ジュンジvsジェシー・タイタノは、凄まじい好試合だった。勝ったほうが、チャンピオンのランバー・ソムデートへの挑戦権が見えてくるという対決を、壮絶な打撃戦で猿丸選手が制した。

おそらく、というか間違いなく、川口会長の独特なセンスで名づけられてしまったと思われる、シューティングジム横浜所属の猿丸選手（ウィッキーといい猿ネタ好き？）。横浜スタイルの打撃中心、そして横浜魂とでもいうべき、恐ろしく気が強そうな選手だ。

ランバーが王者になったことで目標ができて、絶対王者を喰ってやろうという気運が高まり、フライ級が活性化しているようだ。

華やかなUFCヘビー級と比べれば、やはりじつに小さな世界と言わざるをえない修斗の、そしてその最軽量のフライ級であるが、だからこそMMAの世界観をかたち作るための、地道な努力の象徴のように感じられる。それは、日本のMMAが、数年前は確かに世界の中心であった証明のようにも思える。

どっこい生き抜いて、また日本のMMAに華やかな時代が、しかし、それはPRIDE時代とは、少し違うかたちで訪れることをファンとして願う。そのためにも、こうしたフライ級戦線は大事な礎だ。

最後にこの猿丸選手の試合があった興行では、クレイジー・ビーの凄いヤチ、矢地祐介選手が登場した。彼などは、間違いなく次代のエースとなれる選手だろう。どーにもしょんぼりな、最近の日本のMMAであるが、選手は次々と育っているようだ。

強い選手がゴロゴロいれば、自然とシーンはできあがるはず。これまた期待しています！

15周年 サラブレ

# サラブレ

12月号 2010 December

特別定価 740円

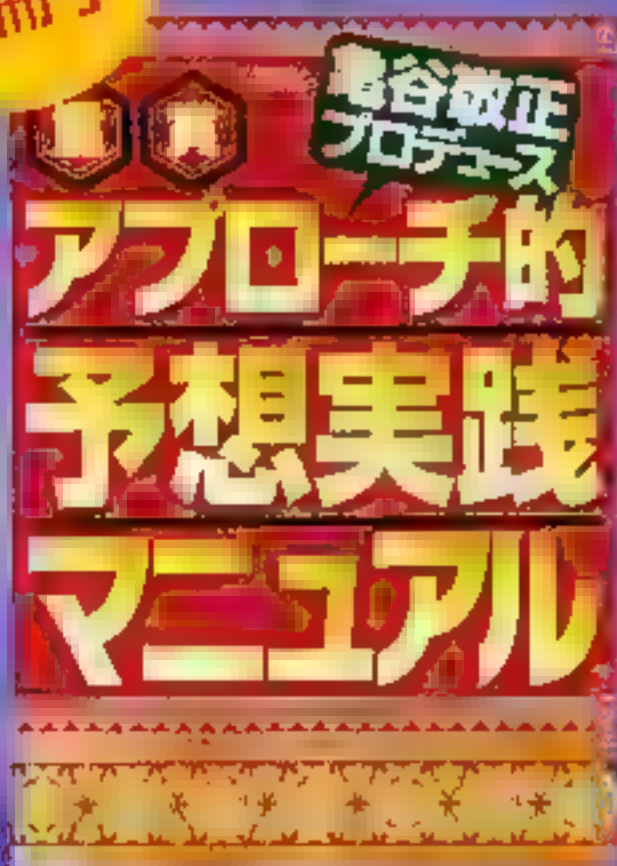
付録小冊子

亀谷敬正プロデュース

重賞アプローチ的予想実践マニュアル

単行本発売記念

重賞アプローチ的予想実践マニュアル

シーズン大詰め、これからの見所と馬券収支年間プラスに導く情報満載

2010年競馬シーズン

# 100の衝撃予測

絶賛発売中!!

創刊15周年特別企画

安藤勝己騎手インタビュー

---

お待たせしました!単行本第2弾

## うままんが日記2

【収録馬】アグネスデジタル、アドマイヤベガ、ヴァーミリアン、ウオッカ、エアグルーヴ、カネヒキリ、カンパニー、サンデーサイレンス、ゼンノロブロイ、ダイワメジャー、タニノギムレット、テイエムオペラオー、トウカイテイオー、ナリタトップロード、ブエナビスタ、メジロマックイーン、ユキチャン、レッドディザイア など。

A5判　128ページ　定価1260円（税込み）

美麗フォトと渾身のストーリーで贈る!

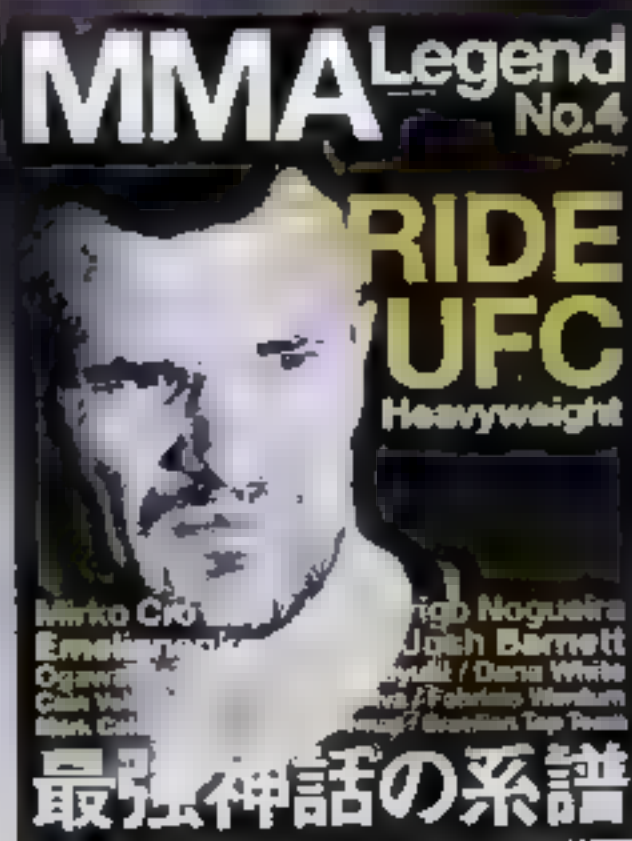
## 名馬物語 2001-2010 ～21世紀の名馬たち～

エンターブレイン・ムック

【収録馬】ウオッカ、キングカメハメハ、トウザヴィクトリー、ディープインパクト、タップダンスシチー、デュランダル、ファインモーション、ネオユニヴァース、ハーツクライ、シーザリオ、ゼンノロブロイ、シンボリクリスエス、メイショウサムソン、スイープトウショウ、テイエムオーシャン、アグネスデジタル、ダイワスカーレット

A4判変型　146ページ　定価1400円（税込み）

ANNIVERSARY 10th thanks! eb!

eb! enterbrain 株式会社 エンターブレイン 電話0570-060-555（代表） URL:http://www.enterbrain.co.jp/ 発売元:株式会社角川グループパブリッシング

ジュリアナ詩子は
維新力のすてきな奥さん!

新連載
掟ポルシェの
# 突撃! 俺の晩ごはん

4杯目
# 穂積詩子
## 『どりんくばぁ～ 維新力の店』
DRINK BAR ISHINRIKI-NO MISE

6F
どりんくばぁ～
維新力の店
☎0422
(45) 4933

出刃包丁を口にくわえて闘魂ショップでウインドーショッピングするのが趣味の迷惑男児・掟ポルシェの『突撃! 俺の晩ごはん』。
今回のゲストはジュリアナでおなじみの元LLPW・穂積詩子さん!
旦那さままでプロレスラーの維新力選手と東京・吉祥寺に『どりんくばぁ～ 維新力の店』を開店して早16年!
長続きする秘訣をうかがってきました! ではいつものやつ、いきますかーッ! ひぃ、ふぅ、みぃ、うたこ――ッ(他人の奥さまを呼び捨て)!

構成&撮影/堀江ガンツ

**掟**　こちらのお店は1994年10月にオープンということで、プロレスラーのお店では長く続いてるほうですよね。詩子さんもお店には出られているんですか？

**詩子**　基本的に私は金曜日だけなんですけど、あとは主人が仕事でいないときに出てますね。

**掟**　お店のキャッチフレーズが「力は強いがお酒は弱い維新力と、悩殺スマイル詩子にぜひ会いにいらしてください」ですけど、悩殺スマイルはあいかわらず健在ですね！　まだまだアイドルレスラーでいけますよ！　きれいだとほめるのにやぶさかではないです！

**詩子**　ありがとうございます。うまいですね（笑）。

**掟**　同い年とは思えませんよ！　維新力さんはお酒、強くなりました？

**詩子**　最近ビールとかは飲んでますね。飲めない人だと思ってなかったんですけど、「全然飲めないよ」って結婚後に言われて。私が飲むから合わせようとしてたみたいで。

**掟**　全然飲めない人がよく「どりんくばぁ〜」を開店しましたね（笑）。維新力さんとの出会いは、LLPWがWARと業務提携していた頃ですか？

**詩子**　いや、そのちょっと前なんですよ。たまたま飲み屋さんで会ったんですけど、そこのママさんがプロレス好きでいろんな団体の方々が出入りしているようなお店だったので。私たちはプロレス仲間で飲んでいたら、主人が大会ポスターか何かを持ってきていて。ママさんが「せっかくプロレスラー同士なんだから」って紹介してくれたんですよ。

**掟**　「こちら、平成の牛若丸さん」とか？

**詩子**　いやいや（笑）。

**掟**　維新力さんの第一印象はいかがでしたか？

**詩子**　あまり覚えてないんですよ。

**掟**　ママさんから「こちら、上田馬之助さんと出刃包丁マッチをやった平成の牛若丸さん」って紹介されていたら印象もだいぶ変わったんでしょうけど（笑）。

**詩子**　そういうことをやってたのも知らなかったんですよ（笑）。元関取っていうのも知らなかったくらいなので。その後にLLPWが大田区体育館で興行があったんですけど、そのときに主人が控室まで

## 主人と出会った頃、風間さんから「気をつけな」って心配されました（笑）

挨拶しに来てくれて。それで、「一緒に写真を撮ってください」っていきなり言われて、こっちは「えっ、この人いったいなんなんだろう？」って思って。

**掟**　単なるファンじゃないか、と（笑）。そもそも大田区体育館というのは、ジュリアナ詩子に変身されたとき（1993年6月15日）じゃないですか？

**詩子**　そうです。よくご存知で（笑）。

**掟**　よりによってそんな大事な日に。

**詩子**　そうなんですよ。私もジュリアナスタイルに変身するってことで凄く緊張していたので、控室に来たときには「ホントに、なんなのこの人！」って感じで（笑）。

**掟**　これからジュリ扇を持って踊らなきゃいけないときに勘弁してくれ、と（笑）。

**詩子**　なので、最初の印象はよくなかったですね（笑）。そのあとにお世話になってる方との食事会にもいらっしゃって、「送りますよ」って言われて、断ったのに無理矢理「僕が送ります！」みたいな感じで。そこから食事に誘っていただいたりして。

**掟**　そのときは紳士的に送ってもらえたんですか？

**詩子**　そうですね。風間さんから「あのあと大丈夫だった？」「維新力には気をつけな」みたいな感じで心配されて（笑）。

**掟**　そりゃ、元関取で男前だったらモテないわけがないですからね（笑）。

**詩子**　そういうのもみんな心配だったみたいですよ。

**掟**　気をつけた結果、無事ご結婚までされて（笑）。交際1年もしないうちに引退、結婚、そして「どりんくばぁ〜」開業と急展開でしたよね。

**詩子**　べつに結婚を焦ってたわけじゃないんですけど、なんか話がトントン拍子で進んだというか。ああいうのはタイミングだなって思うんですけど。両親がプロレスをすることにはずっと反対していたので、結婚の「け」の字が出ようもんなら、「ハイ！　辞めて結婚式やりましょう！」みたいな感じで。心配だったんでしょう

広々とした明るい店内。奥には維新力の化粧まわしも飾られている。「どりんくばぁ〜」だけに、ドリンクが中心のお店だが、食べ物もリーズナブル。維新力特製のちゃんこ鍋は要予約！

## LLPWは私たちが風間さんにお願いして旗揚げすることになったんですよ

引退して早16年が経つが、現役時代と変わらぬ若々しさを保っている詩子さん。ご覧のように詩子スマイルは[illegible] 毎週金曜日はお店に出ているということで、これは行くしかない!

ね。

**掟** ジュリアナスタイルでやられてたのも実質1年間くらいなんですよね。

**詩子** そうなんです。25歳で辞めているのでレスラー生活もまる7年ぐらいですし。

**掟** そもそもプロレスラーを目指すきっかけは?

**詩子** 男子はまったく興味がなかったんですけど、ビューティ・ペアの頃から女子プロレスが好きで。私は八王子に住んでたんですけど、当時サマーランドに全日本女子プロレスが来たとき、お小遣いを握りしめて観に行ったりとか。それが小学生のときでしたね。

**掟** ビューティ・ペアも当時はピンク・レディーと並ぶくらい人気があったとはいえ、小学生がそこまで興味を持つのは珍しいですよね。

**詩子** クラスでビューティを好きな子は一人もいませんでしたよね。だけど凄く好きで、テレビにかじりついて観てましたよ。

**掟** その後、ジャッキー佐藤さんと同じ団体であるジャパン女子プロレスに入るわけですから不思議なもんですよね。

**詩子** でも、自分が女子プロレスラーになるなんて、その当時はまったく思ってなかったんですよ。

**掟** プロレスラーになりたいと思うようになったのはいつ頃から?

**詩子** クラッシュ全盛期の頃に全女のオーディションがあって、気楽な気持ちで1回受けたんですよね。そうしたら、書類審査の結果が返ってきて、オーディションの受験番号が1番だったんですよ。それで、「これはなんかある!」って思って(笑)。

**掟** キレイどころが応募してきたからフジテレビ側が画を押さえるために1番にしたんですよ、きっと。

**詩子** 対抗戦があったりして、あとで全女の関係者とも仲良くなったので聞いたんですけど、当時は応募が来たら書類の半分は中も見ないで捨ててたらしいんですよ。凄く大量に来るので。

**掟** じつは書類すら選考してなかったと! それも運ってことなんですかねぇ。

**詩子** 私も身長、体重が規定よりも全然足りなかったのでごまかしてたので、その甲斐があったんだと思ってたら、全然そんなの関係なくて。そのときは第一次選考の基礎体力テストのあと、すぐに落とされたんですけどね。でも、それで火がついちゃって。

**掟** スポーツ歴はあるんですか?

**詩子** スポーツも何もやってなくて、吹奏楽部にずっといたんですよ。で、お金を払って全女の練習生として通ってたんですけど、その練習生だけのオーディションでもダメだったので、全女はもう無理だなって。そうしたら、ジャパン女子プロレスができたので、これはもうこだわってる場合じゃないな、と(笑)。

**掟** それでジャパン女子の2期生としてデビューですね。ジャパン女子といえば、秋元康先生が1期生のリングネームをおもしろ半分思いつき半分でつけたという(笑)。

**詩子** 2期生はああいうのが何もなくて、物足りないぐらい野放し状態でしたよ。

**掟** ボンド(芸能事務所)との提携は終わって芸能色もなくなってたんですね。どうでした? 入ってみてからは。

**詩子** ほかはキックや柔道などの格闘技を経験している子ばかりだったので、「私、どうしよう……」みたいな感じでずっと落ちこぼれでしたよね。同期は6人いたんですけど、常にみんなのうしろを走ってるような感じで。入門1年ぐらいで靭帯を切って、2カ月入院していたので、同期どころか後輩にも抜かされてしまって。

**掟** そのときは辞めようかと思いました?

**詩子** 辞めたいというか、きっと自分なんて必要とされないと思いましたね。で、私がケガをして戻ってきた頃には、みんなバイトを始めてました。

**掟** 詩子さんもバイトされてたんですか?

**詩子** 水商売ですね。

**掟** 「どりんくばぁ~」の原点がそこに(笑)。やってみて水商売は向いてました?

**詩子** 向いてないと思いましたけど、あの頃はまだ20歳くらいだったんで、横に座って笑ってるだけでも喜ばれるじゃないですか(笑)。

**掟** そして、ほどなくしてジャパン女子が崩壊した、と。

**詩子** 私と半田(美希)、(レオ)北村はジャパン女子が解散する少し前に辞めてるんですよね。

**掟** それは会社に不満があって?

**詩子** 社長不信ですよね。その頃は給料もほとんどもらえてなかったので。

**掟** 「社長は選手がやるべきだ」という半田さんグループの意向があったから、LLPWでは風間さんを社長に据えたと聞きましたけども。

**詩子** そうです。それで、私たちが毎日のように風間さんの家に行って「団体を作ってください!」ってお願いして。それで風間さんも姉御肌だから、「じゃあ、やろう

か」みたいな。

**掟**　よし、やろう！　風間ルミさんのことが好きになるコ……です！　そして、LLPW旗揚げになるわけですが、ほどなくして団体対抗戦ブームがやってきますよね。穂積さんも紅夜叉さんらと組んで、全女勢でもキャラクターレスラーのぬまっちゃ白鳥智香子選手と対戦するわけですけど

**詩子**　やっぱり意地の張り合いじゃないですけど、プロレスができてなかったと思うんですよ。やっぱりプロレスラーだったら、ちゃんとした試合をしなければいけないんじゃないかな、と思いましたね。入場はあれでしたけど、試合内容はメチャメチャだったんじゃないかな、と。

**掟**　全女のプロレスとは具体的にどう違いました？

**詩子**　私たちは（グラン）浜田さん、（山本）小鉄先生といった男子選手に教えられていたので、ボディスラムにしても投げ方が違うんですよね。そういうのは気になりましたよね。あとは、リングが女子用に作られていて小さかったので、逆に凄くやりやすかったですね。LLPWは男子と同じリングを使ってたので。ロープワークなんかにしても、一歩が短くて済むので走りやすかったですし。コーナーに登ってもそんなに怖くないですし。LLPWのリングだと、凄く怖いと思うんですよね。

**掟**　その後、WARとの提携によって、LLPWの選手がWARの興行に出られてましたよね。

**詩子**　地方巡業にも一緒に行きましたね。でも、ミックスドマッチをやらされるわけではないのでいつもどおりっていう感じでしたけど。バス移動が一緒だったので、それがちょっと……あっ、前のほうにミル・マスカラスさんが座ってたりとかして。

**掟**　マスカラスにバス移動させてたんですか⁉　仮面貴族にも集団行動を求めるWARって凄いですねえ。

**詩子**　物静かで男前な方だったんですけど（笑）。

**掟**　通称が貴族なだけのことはある、と（笑）。試合後、WARの方々と一緒にお酒を飲まれたりは？

**詩子**　そういう席があったときは大勢で行きましたよ。

**掟**　そして、1995年に引退されるわけですが、未練はありませんでしたか？

**詩子**　未練というよりも、ジュリアナスタイルをやる前に自分のなかで、「あと1年やったら辞めよう」っていうのがあったので。それを同期に話したときに、「もっといい思いをしてから辞めなよ」みたいな感じで言われて、それで最後になんかやってから辞めようってことで、ジュリアナスタイルになったんですよ（笑）。

**掟**　あのキャラクターを考えられたのは誰なんですか？

**詩子**　あれは風間さんですね。

**掟**　LLPWといえば、キャラクターレスラーの宝庫と言われてましたけど、社長の発案だったんですね

**詩子**　そうですね。当時のLLPWのキャッチコピーが〝華激ルネッサンス〟だったんですけど、でも華がないんじゃないかなと思って。

維[illegible]力特製ラベルが貼られた焼酎がズラリ。維新力ラベルつきのバーボンウィスキー「ジム・ビーム」もある。ボトルを入れたほうが断然オトクとのことだ。

## ジュリアナのあとは制服を着るキャラになる予定だったみたいなんですよ

**掟**　格闘スタイルの神取・風間の団体で、華担当が必要だったということですよね。あのスタイルはハマってると思ってました？

**詩子**　そうですね。でも、最初は凄く恥ずかしかったですけど（笑）。後楽園とかはお客さんが扇子を持ってきてくれたりしてよかったんですけど、地方は……悲しかったですね。

**掟**　ジュリ扇も振り損だと（笑）。

**詩子**　でも、しばらくしたら風間さんのなかではキャラクターチェンジさせるつもりだったみたいですけどね。結局、結婚してしまったので実現しませんでしたが。

**掟**　どういうキャラクターだったんですか？

**詩子**　具体的にはわからないんですけど、もしかしたら制服を着てたかもしれないですしね。

**掟**　ジュリアナを卒業した女子大生が、卒業して急に真面目な銀行員のキャラになるとか（笑）。穂積詩子とジュリアナ詩子では、性格の違いってありました？

**詩子**　ジュリアナは、ずっと笑ってないといけないキャラだったんですけど、本当は私は怖いじゃないですか。

**掟**　中の人は怖い人？

**詩子**　私はそう思ってないんですけど、周りからはいつも怒ってるイメージがあったみたいで。現役時代も同期では私が一番年上だったので、まったく威張ってないのに「ボス」と呼ばれたりして（笑）。

**掟**　ジュリアナがじつは影番だった（笑）。いまも家庭ではボスだったり？

**詩子**　そうですね。顔も怖いですし。

**掟**　こんな美人にならゴリゴリに叱られてみたいです！　ちなみに、息子さんは、「いしん」くんと「りき」くんということで、二人合わせて維新力と。

**詩子**　漢字はちょっと違うんですけどね。

**掟**　スポーツはされているんですか？

**詩子**　兄が水泳で、弟はサッカーをしてますね。でも、プロレスが大好きみたいですよ。どっちもドラゲー（ドラゴンゲート）が好きで、ホームページで試合結果なんかを欠かさずチェックしてますね。あまりハマってほしくはないんですけど。

**掟**　プロレスラーにはなってほしくない？　ケガも心配だったり。

**詩子**　ケガもそうですし、やっぱり生計がね（笑）。

**掟**　いまどきは儲かる職業じゃないし。

**詩子**　でも、紙になんか一生懸命書いてたりして、「勉強してるのかな？」と思ってチラッとのぞいたら、自作のマッチメイクを書いてたりするんですよ（笑）。

**掟**　俺だけのオールスター戦！　もう、完全にプオタですね（笑）。

**詩子**　どうしようかなって心配で。

**掟**　そこまでくると止められませんよ。

**詩子**　だから、兄弟でよくプロレスごっこをやってるんですけど、意外とうまかった

りするんですよね（笑）。
**掟**　親の遺伝子を感じる話ですね（笑）。いまは両親とも「どりんくばぁ〜」を営まれてるわけですけど、水商売もプロレス以上に天職だと思いますか？
**詩子**　いや〜、私はいまだに向いてないと思ってますよ。やっぱり主人なんかは凄く聞き上手なんですよね。でも、私は自分の意見が強いんで、否定しちゃったりするんですよね。
**掟**　飲み屋の主人は基本的にはお客様の話を「そうだよね」って聞いてあげなければいけないですよね。
**詩子**　だから、主人は凄く合っていると思うんですけど、私は「もう来るんじゃねえ！」って出入り禁止にしちゃった人もいるくらいなんで（笑）。理不尽なことを言ってくる人にだけですけどね。
**掟**　ここは吉祥寺駅からすぐの好立地ですけど、おもな客層というと？
**詩子**　プロレスファンの方も来られますし、お相撲が好きな方もけっこう多いですね。あとは看板がコレ（試合用ビキニパンツ一丁の維新力さんの絵）なので、そういうお店だと思っていらっしゃる人もいます（笑）。
**掟**　あ、男同士の出会いを求めるお客様もいらっしゃいますか（笑）。
**詩子**　でも、意外とそこから常連さんになってくれたんですよ。
**掟**　熱心に通えば維新力さんとアフターに行けるかもしれないですし（笑）。
**詩子**　どうぞ、どうぞ（笑）。
**掟**　今日は旦那さまもお店にいらっしゃるのかと思って、維新力さんも試合用コスチュームに使っていたセーラーズのスタジャンを着てきたんですけど……。
**詩子**　今日はまだなんですよ〜。
**掟**　僕は個人的にセーラーズをコレクションしてまして、維新力さんにもぜひその話を聞きたいと思ってたんですが……。
**詩子**　今度お店でゆっくり（笑）。でも、ジャパン女子のジャージもセーラーズでしたよ。
**掟**　ゲッ！　それは知りませんでした！　ということは、神取さんもダーティー大和もセーラーズで入場？
**詩子**　しかもピンクのジャージだったんで、人によっては違和感がありましたね。世代によって3タイプに分かれてました。
**掟**　それ、あったら買います！　いや、そのブルセラ的な意味じゃなくて！
**詩子**　……実家のどこかにはあると思うんですけどね。ジャージと一緒にツルツルした素材のジャンパーもあって、それは実家に帰ったときお母さんが着てました。「ちょっと羽織るのにちょうどいいのよね」とか言って（笑）。
**掟**　お母さん、連絡ください！　高価買取！　では、最後に何か一言！
**詩子**　「『kamipro』を読んだ」って言ってくれれば、生ビールを1杯サービスしますので、ぜひ！

【10年11月8日　吉祥寺・「どりんくばぁ〜 維新力の店」にて収録】

呪いなき団体の
呪いにかかった男の独白

# 「これまでの人生でいまが一番孤独です」

引退記念&帰郷直前
のらりくらりインタビュー

# マッスル坂井

10・6『マッスルハウス10』で、そのプロレスラー人生にピリオドを打ったマッスル坂井。
そこで本誌は、家業である金型工場を継ぐべく、新潟へ帰郷直前の坂井をキャッチ！
引退を迎え、なんともフワフワした様子のマット界の異能者に、その胸中を語ってもらった。

聞き手／井上崇宏　構成／鈴木佑

――坂井さん、いよいよ新潟への帰省が

**坂井**　いや、虚無感よりも剣道で鍛えに鍛

――なるほど。あのー、生まれて初めて吸

**坂井**　やっぱり当時、肺活量は人の数倍あ

## 引退して新しく始めたこと……ちょっと酒を飲み始めましたね

——坂井さん、いよいよ新潟への帰省が近づいてきましたね。

**坂井** え〜と、今度の土曜日ですから、4日後になるんですかね？ うーん……いや、正直言ってですね、今日のインタビューはスイッチが入りそうもないというか、最後に帳尻が合わない予感が凄くするんですよね。

——なんだか覇気がないですよね？

**坂井** ……こうして今日、約束の時間に遅れずに来てる時点で、凄く間違っちゃってる気がしてるんですよ、自分で。

——なんでですか、すばらしいことじゃないですか（笑）。

**坂井** すいません、ちょっと最初は適当に世間話から入ってもらっていいですかね？

——えー、いいですよ全然（笑）。それではですね、僕、タバコをやめたんですよ。まだ今日で4日目なんですけどね。坂井さんはタバコをやめようと思ったことあります？

**坂井** タバコをやめようと思ったこと？ いや、ないんじゃないですかねえ。

——いつから吸ってるんですか？

**坂井** 僕、タバコは意外と遅いんですよ。高校3年の夏に、剣道でインターハイの団体戦出場を逃したその夏からですよね。剣道を引退してからわりとすぐに吸い始めましたね。

——ははあ、なんとなく「引退」というキーワードが出てきましたね（笑）。それは引退からくる虚無感がタバコへと走らせたんですかね？

**坂井** いや、虚無感よりも剣道で鍛えに鍛えたありあまるスタミナを、なかなか落とせなかったからなんですよ。引退したもんだから、もう体力がありあまっちゃって、ありあまっちゃって、仕方がなくて。かといって、その体力をそのまま受験にはぶつけられなかったんですよね。受験にも遊びにもぶつけらんない。じゃあ、とりあえず煙でモヤモヤさせようというか、タバコでスタミナを落とすという発想しか思いつかなかったんですね。それで、そこはやっぱりニコチンもキツめのタバコで。

引退興行では20年後に『マッスルハウス11』を開催し、自身の子どもを出場させる考えを示した坂井。エンディングではマッスル戦士に扮した子どもたちの映像が流れ、観客には20年後の大会のチケットが配布された。

——なるほど。あの〜、生まれて初めて吸ったタバコって、全然おいしくないですよね？

**坂井** でも、そのときは吸ったという行為だけで「ノルマ達成」というか。

——味がうんぬんじゃなくて、とにかくフィジカルを落としたい（笑）。

**坂井** ええ。実際、それからあとの高校生活では、もうなんにも焦らなかったですもんね。ニコチンによって、「なんかやらなきゃ、やらなきゃ」という、日々のプレッシャーから解放されましたよ。タバコを吸ったっていうだけなんですけど、物理的にも精神的にも満足ができました。それって、ありあまるよけいなフィジカルも落とせたからですよね。

——じゃあ、第一服目から満足のいく喫煙ができてたんですね。

**坂井** ええ。完全にできてましたよね（笑）。

——どうでもいいディテールにこだわりますけど、やっぱり最初はタバコと一緒に、ライターも購入したわけですよね？

**坂井** いや、ライターは所持してたんですよ。なぜかっていうと、キネシオテープってあるじゃないですか？ 肌色のちょっと高級なテーピングというか、伸びるヤツ。

——ああ、なんかそんなのありますね。

**坂井** 剣道の選手って、もの凄い力で踏み込むから、足の裏だったり指の付け根がしょっちゅう割れるんですよ。それで、そこにテーピングをグルグル巻くんじゃなくて、そこの部分にだけ丸く切ったキネシオをあててですね、ライターであぶって粘着度を増して貼っつけるんです。だから、ライターはわりとみんな持ってたんですよ。

——じゃあ、現役を辞めて、足が割れなくなったら、そのライターはどうすんだ、と。「じゃあ、タバコだろ」と（笑）。

**坂井** やっぱり当時、肺活量は人の数倍ありましたからね。持久力もハンパじゃなかったし。だって全国大会で上位を目指そうと思って、3年間準備をしていたわけですから。そりゃ、いまの僕とは全然違いますよ。

——剣道の成績は最高でどこまでいったんでしたっけ？

**坂井** 僕は國學院大學主催の『若木祭・高校剣道大会』、これは〝準・全国大会〟って言われているぐらいの規模のデカイ大会なんですけど、この大会でベスト8です。これは大学の推薦にも使えるぐらいのキャリアですね。あとは北信越大会の団体戦で優勝していますね。

——へえ、なかなか凄いですよね。じゃあ、剣道を辞めたときにタバコを吸ったように、今回プロレスを辞めてからは何か新しいことを始めました？

**坂井** ……酒を飲み始めた。

——アハハハハ！ ウソでしょ（笑）。

**坂井** いやいや、本当なんですよ（笑）。ちょっと酒を飲み始めたんですよねえ。

——剣道を辞めてタバコを覚え、プロレスを辞めて酒を覚えた（笑）。なんだか、本格的に職人になろうとしてません？

**坂井** いや、そんなつもりもないんですけど（笑）。でもホント、これが意外と家でも飲むようになったんですよねえ。いまさらながらに、「お酒って自由なんだ」ってことに気づいたっていう。

——どういう意味で自由？

**坂井** こないだ、DJニラっていう選手がウチに遊びに来たんですけど、そのときに酒の飲み方を教わったんですよ。ワインを指一本ぐらい入れて、あとは三ツ矢サイダーで割ったりとか。氷多めですけどね。

——ははあ、そういう自由ですね。

**坂井**　そうすると飲めるんですよね。もう一晩中飲めますから（笑）。お酒って自由ですよ。そもそも、ボタンを押したら決められた量のお酒が作られて、運ばれてくるっていうのは、おかしな話ですよね。いろんな選択肢があっていいと思うんです。最近は280円均一の居酒屋とかに行ったら、なんだかテーブルに置いてあるiPadみたいなヤツで注文するんですよね？（笑）。でも、酒の内容なんてこっちで決めたらいいんじゃねえかっていう。本当ね、世の中って、何もかも「電車」ばっかなんですよね。

――電車って？

**坂井**　電車って完全に移動する時間とかが決まっていて、止まる場所も決まってて、切符の値段もいつも一緒じゃないですか。だけど、もうちょっとだけ友だちと一緒に乗っていたいときだってあるじゃないですか？「そこの途中でいい」とか。

――ああ、「ここで降ろせ」と。

**坂井**　あるいは、「もっとゆっくり行きたい」とか、「もっと速く！」とか。そんなね、東京駅に15分ぐらいで着かれても、手持ちぶさたで困るじゃん、みたいな（笑）。

――速すぎるし、遅すぎるし、ここで降りたくないし、そもそもここで乗りたくなかったっていう。

**坂井**　そう。だから、一方で家飲みはつまり「自転車」ですよね。勝手にどこだって行けるし。

――いま、ずいぶん浅いことを言いましたよね（笑）。

**坂井**　いやいや、自転車なんですよ！（笑）。プロレスを引退してからの僕の生活も、自転車そのものですから。もういまは、現役時代と違って、あわててタクシーを拾って急いで行く用事もないですし、規則正しく電車に乗ってどこかに移動する必要もないから、のんびり自転車を走らせてるような感じで日々、すごしていますよね。

――意外と10年間のプロレス生活では、坂井さんなりに急いだり慌ただしくしていたという。

**坂井**　うーん、僕なりにそうですねえ。

――僕は勝手に、ようやくこれから本気を出して社会人をやるんだろうと思ってたんですけど（笑）。実際にはこれからの人生のほうが、それこそ電車からチャリに乗り換えたぐらいの緩やかな生活が待ってるんだろうという予感があるわけですね。

**坂井**　そうですね。今後の人生、ひょっとしたらけっこうTSUTAYAに行っちゃうかもしれないですよね。

――TSUTAYA、どんどん行ったらいいと思いますよ（笑）。

**坂井**　だけど、たとえばWWEの選手とか

『マッスル』でも『キン肉マン』の名場面を再現するなど、同作の大ファンであった坂井は、昨年開催された『キン肉マニア2009』で構成を担当。大会成功の大きな原動力となった。

## 僕の乗る〝プロレス電車〟にはほぼ人が乗ってなかった気がします

はチャーター機とか、普通に国際線のファーストクラスで分刻みで移動したりしてますけど、引退後、そこから自転車に乗り換えるっていう生活はないですよね？でも、せいぜい僕は丸ノ内線からママチャリに乗り換えるぐらいの、その程度のほぼ気づかない落差なんですよ。飛行機だって、スカイマーク以外は使ってなかったですし。

――だけど、電車からチャリになったぐらいのことを言いますけど、どうせ新潟に帰ったらベンツなんでしょ？（笑）。

**坂井**　あ～。そうですね。そこからさらに徒歩にはならないですね。さすがにベンツはないですけど……僕、クルマは何が似合うと思います？

――ルックス的には完全にシーマでしょ。

**坂井**　うわ、出た！　ウチの実家の社用車、全部ニッサンですよ！

――あ、そうなんですか（笑）。

**坂井**　でも、一応、僕は実家に帰ってイチから頑張るということなんで……。

――この手の話は気まずいですか（笑）。

**坂井**　あのー、僕の今回の帰省って、どういう横入りの仕方なんですかね？

――アハハハハ！　生活が緩やかになりそうなわりには、生活水準はいまよりグッと上がるでしょうからねえ（笑）。

**坂井**　かといって、橋本大地くん的な、あんな生まれながらに後継を待望されてるって感じでもないですし。でも、けっして横入りではないと思いますけどねえ。

――自分で横入りだって言ったんじゃないですか（笑）。そもそも、10年間乗ってた〝プロレス電車〟の乗り心地って、どうだったんですか？　ハタから見てると、常に混んでそうな印象がありますけど。

**坂井**　いやいや、そんなこともないですよ。やっぱり僕自身はみんなと同じ方向に進む電車には乗っていなかったような気がしますね。プロレスの世界にはいたんですけども、あきらかにやっていることが違っていて、僕の乗る電車にはほとんど人が乗っていなかったような気がします。

――みんなと同じ方向を走っていなかった。

**坂井**　それは日々感じていたことで、「俺一人だけ、凄く的外れな方向に向かってたらどうしよう？」っていう焦りというか、怖さは常にありましたね。

――で、迷ったらつい市ヶ谷で降りて釣り堀に行っちゃうみたいな（笑）。

**坂井**　そんな感じですよ（笑）。でも、魚なんか気にしてないから、竿を放ったらかしにしてぼーっと考えごとをしてたら、いきなり地上にいた鳩が釣れちゃったり……。

――アハハハハ！　僕もその現場にいましたけどね、これは実話です（笑）。だけど、市ヶ谷の釣り堀ってそういう場所だと思うんですよ。あんな駅近くの線路沿いにあってね、あれはどっちの方向に向かっていいかわかんなくなった人が、とりあえず電車を降りてブレイクする場所なんですよ。あそこで本気で釣りしてる人、いないですよね。

**坂井**　だから、そこでプロレス電車に乗っ

てないときに、キッチリ鳩が釣れたりするのが僕の人生なんですよ。

——プロレスがない場所でもそこそこおもしろいことが起こってた、と。

**坂井** そうですね。話を戻すと、周囲とは別方向の電車に乗っていたとはいえ、それって松尾芭蕉や伊能忠敬のように、何百年後も何かハッキリと功績が残るような旅ではないわけですよね。もうホント、町内の住宅地図を作ってる感じというか（笑）。勝手に断わりもなく全世帯の名字も調べて入れちゃうみたいな。

——なるほど（笑）。でも、意外と業界の諸先輩方には気を使ってたでしょう？

**坂井** だけど、あんまり業界のなかで周りと一緒にやってるっていう感じはなかったかもしれないですね。もちろんマッスル坂井として、プロレスラーとしては、プロレス界に身を置くために一応ちょっと足並みを揃えてやっている感じはありましたけど。そういう立ち居振る舞いをしているマッスル坂井とは別に、それをやらせている側というか、そういう感じでいけと決めている人がいるわけですよね。

——はい？　誰ですか、それ？　坂井良宏本人とか？

**坂井** はい（笑）。表のマッスル坂井以外の部分……いろいろ『マッスル』という興行を作ることとか、台本を書いている作業という部分では、なんかじつに寂しい感じでしたよ。孤独というか。

——そりゃ孤独でしょう。そういう仕事ですから。

**坂井** しかもそれって、「トップを走っているがゆえに孤独」というわけではないんですから。『週刊少年ジャンプ』の執筆者みたいに、毎週毎週、シノギを削ってるようなああいう感じじゃないじゃないですか。そういう孤独感じゃなくて……。

——「誰も俺のこと見てないんじゃないか」っていう？

**坂井** そうです。「誰も見てないし、自分のやってることは間違っているんじゃないか？」っていう。そういう孤独と不安がいつもありましたけど。

——それは自分がやっていることに対して、「ちょっとリアクションが薄いんじゃないか？」とか、「あきらかに誤解されて伝わってるぞ」みたいな？

**坂井** ええ。それはもう普段からというか、日々、そう思っていますね。なかでも、これまでの人生で一番孤独を感じているのが、いま現在ですよ。

——いま!?　それは引退したからでしょ？

**坂井** そうですよ、引退したからですよ。最後の『マッスル』で、プロレスラー・マッスル坂井としてのそれなりに納得のいくゴールを作れました。事前に立てていた計画をことごとく遂行できて、なんとなくいいかたちでの引退というものを成功させてしまいました。そのときになんか、「ちょっと、どうしようかな……」と。

——何が困ったんですか？

**坂井** リング上で試合をやっているマッスル坂井はもちろん、そしてそのマッスル坂井の立ち居振る舞いを決めている僕自身のやることがもうなくなっちゃったんですよ……。

## マッスル坂井、そして坂井良宏の やることがなくなっちゃったんです

MUSCLE SAKAI

——これはちょっとマズい展開だなぁ（笑）。え〜と、ようするにプロレス界にいたマッスル坂井という人が引退興行を行なって、そのリング上で起こったことに対して皆さんは感動をしました、と。ハッピーエンドで終わりました、と。「坂井さん、ありがとう。あなたは天才でした。寂しくなります」と。

**坂井** 皆さんがそう思ってくれたことに対しては、ありがたくもあり、うれしくもあり、満足感もあるんですけど……それはリング上にいたマッスル坂井に対しての声ですよね？　最初からそう受け手に感じてもらおうと思って、マッスル坂井にそういう言動をやらせているのも僕じゃないですか？

——そりゃそうですよ。で？

**坂井** 『マッスル』というかプロレスの企画や演出、そういう仕事をしてきたのも僕じゃないですか？　裏方というかマッチメイカーとかそういうのをやってきた僕としては、かなり成長をしてるんですよ。

——ああ、それは最後の最後でかなり感じました。

**坂井** 自分でも最後にかなりいい手応えを感じて。すっげえいい感じなんですよ、いろんなパターンやテクニックを覚えちゃってまして。だけど、その成長がいま行き場を失なってる！

——でも、そこも含めてみんな感動したんじゃないんですか？　「この人、こんなに仕事がうまくできるようになったんだけど、それをもうやんないんだよ」っていう部分で。

**坂井** ああ。

——しかし、「マッスル坂井を引退させたのは俺で、じゃあ、その俺はこれからどうしたらいいんだ？」って、かなりヤバい発言ですよねえ（笑）。

**坂井** ヤバいっスよねえ……。

——身の毛もよだつ（笑）。

**坂井** でも、最後の興行が終わってから1ヵ月くらい経ちますけど、もう1ヵ月ぐらいずっとこんな精神状態ですよ（笑）。

——肩を持つわけじゃないですけど、確かにマッスル坂井を引退させたマッスル坂井に対する評価っていうのを、みんな少しおろそかにしてたかもしれないですね（笑）。

**坂井** わりとそこをね、「『マッスル』っていうのは、マッスル坂井が台本を作っててさー」なんて、みんな言っておきながらね。

——でも、その発想はないわあ（笑）。

**坂井** 本当に困っているわけですよ。これって難しい話ですよねえ……。

——いま、一つ的確なたとえが頭に浮かんだんですけど。恋人と別れるときに、凄く巧妙であと腐れのないいい別れ方を演出しました、と。それでキレイに別れられました、と。本当はそれでオッケーなはずなんだけど、一方で「いやいや、こんな誰も傷つかない演出を考えるほど頭のキレる男、普通は惚れ直すだろが！　別れたく

近年の本誌のインタビューでは、プロレスラーの中で断トツの登場回数だった坂井。「『kamipro』の取材は他団体に出陣するような気持ちでしたね」（坂井談）。08年には「呪いなき時代のプロレス再入門書」として『八百長☆野郎』（小社刊）を上梓。

ならねえだろが！」っていうことでしょ？（笑）。

**坂井**　あるある!!　そうそう、それですよ！（笑）。絶対に「はい、カット〜！」って入りますよね。そこは絶対に入るんですよ。だから最後の興行も、あんなの作りようがないというか、作ろうと思って作れないようにしたのが凄かったんですよ。そこをもっと……って、いまさらですけど、こういう話はしないほうがいいと思うんですよ、僕って……。

——アハハハハ！　いや、おもしろいからしたほうがいいですよ（笑）。

**坂井**　これは相当、面倒くさいですよ……。

——そんなことを考えながらも、引っ越しの準備はしなきゃいかんし、帰る日にちも乗る新幹線の時間も決まっている、と。こんな精神状態で新潟に帰れるんですかね？

**坂井**　いや、ちゃんと帰らなきゃ。ダラダラとまだ東京にいるから駄目なような気がします。

——まあ、新潟に着いたら、雪を見ただけですべて忘れて走りだしちゃいそうな雰囲気もありますよね（笑）。

**坂井**　そうそう。そりゃ雪を見たら走りだしちゃうでしょうね。

——「俺、やっぱり自然には勝てない!!」とか言って（笑）。

**坂井**　だけど真面目な話、僕がいまこんな感じで言っているフワっとしたこととかも、新潟に帰ったら全部ひっくり返されそうなくらいの厳しい現実が間違いなく待っていると思うんで。そう思うと、今日ぐらいはこんなことを言っていてもいいのかなって気がしますよね。向こうに戻ったら、やっぱり中国のこととか考えなきゃいけないでしょうからね。

——なんで中国？

**坂井**　なんでって、こっちが50万円で作るものを、中国では20万円で作っちゃうわけですから、そりゃ考えざるをえないですよ。

——いきなり家業のお話でしたか（笑）。

**坂井**　いま、日本中が〝対中国〟ですよね。中国側も〝対日本〟って言ってるし。そのなかで僕は、そこが意外と盲点というか、ちょっとまだお互いがお互いを難しく考えすぎているところがあるんじゃないかというか。そんなことを最近、父親とかともいろいろ話すんですけども、プロレスだって、言葉が通じないガイジンとか、普段、学校とかで生活していたら絶対に口を利かないような人たちとかとも仕事をするわけじゃないですか？　それこそガイジンとかワケわかんない人とかが相手でも、プロレスができたわけですよ。こっちが言いたいことも言葉がなくても伝えることができたわけです。その点、金型は図面もあるし、機械もあるし、目に見えるものがあれだけたくさんあるわけですから、それはもうなんだってできるんじゃないかなっていう気がするんですけどね。そう思いませんか？

——うーん、いや、全然ピンときません（笑）。

**坂井**　でも、考えてみてくださいよ。「キン肉マニア」の制作の大変さに比べたら、対中国なんてそんなに難しい問題でもないだろうっていう話ですよね（笑）。〝日中友好〟とか言いますけど、友好も何もないですよね。仲良くなれるわけがないんだし。でも、お互いに得というか、あんまり損をしないかたちで、それぞれの食い扶持が長く守られれば、仲間意識が生まれるというか。損をさせなければね、自然と仲良くなれるという気が僕はするんですけどね。プロレスの団体間なんか、日中関係どころじゃないくらい仲が悪かったりするじゃないですか。

——わかりました（笑）。で、今週末に新潟に帰られるわけですけど、帰ったらもうしばらくは東京のほうに来る予定はないんですか？

**坂井**　う〜ん、まあ関東に営業に来るようなヒマがあったら、僕は中国に行きますよね。これからは中国と闘っていかなければいけないわけですから。でも、それは闘っているように見せるだけで、実際は一緒にうまいことお互いに損をしないようにそこそこやっていくだけですから。周りには確実に闘っているように見せる。だけど、お互いに損はない。

——よくわかんないですけど、それがマッスル坂井さんが10年間で培ったプロレス戦術ですね（笑）。お互いに損はない。

**坂井**　いや、ホントにそうなんです。「俺らがやっているプロレスをあいつらが駄目にした」とか言うのは、自分たちと関わったことがない人なんです。関わった人に対しては、絶対に損がないようにしていたというか、一緒に出てくれた人とか手伝ってくれた人が損をしたことってなかったと思うんです。

——「ハメた、ハメられた」みたいなモノもなかったでしょうしね。

**坂井**　そうそう。それが僕のもともとの物作りの姿勢、基盤だったと思うんですよね。そろそろ、ここらあたりから、インタビューっぽい話をしたほうがいいですよね？

——じゃあ、マッスル坂井における現役時代のベストバウトを教えてください！　なーんて（笑）。

**坂井**　いや、やっぱり今日はダメなんですよね。まるでスイッチが入らないんですよ。入らないっていうか、入るのもイヤだなっていう気もしますし。だけど、なんだかこのインタビューを断われなかったし、社会人として断らず、時間どおりに到着したあげくがこれですからね。やっぱり僕は物事を、「遅れて、すいませんでした！」からしか始められなかったんで。そういった僕の人間としてダメな部分を補うために、プロレスというものが存在してくれてたのかなって気がしていますね。

【10年10月27日／都内・某所にて収録】

まっする・さかい■本名・坂井良宏。1977年11月5日、新潟県出身。早稲田大学在学中に映像班としてDDTに関わり、気がつけばプロレスラーに。04年に「マッスル」を旗揚げ、そのほかにも執筆活動からお笑いイベント出演、映画監督など多方面で活躍。実家の金型工場を継ぐため、今年10月の「マッスルハウス10」で惜しまれながら引退。

## プロレスは僕のダメな部分を補うために存在してくれてた気がします

MUSCLE SAKAI

「すごい"おまんじゅう"を用意」な読者プレゼント

# kamipro PRESENTS

**応募要項**

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記のうえ、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合があります のでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2010年12月27日(月)頃発送予定です)。

[質問事項]①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦あなたがマット界で「すてきな奥さん」だと思うのは?⑧あなたがkamiproに望むことは?

【宛先】〒162-0805 東京都新宿区矢来町41-1 ザ・フタガミハウスNo.1
(株)ツー・スリー内「kamipro」編集部 「関係ねえっす」係まで

※応募締切は2010年12月13日(月)当日消印有効

## PRESENT 01 SPECIAL PRESENT

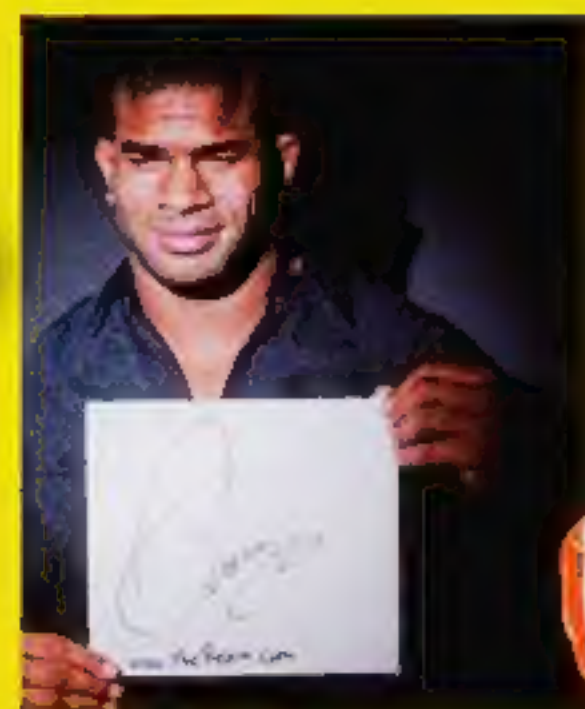
1名様

### ミル・マスカラス 本人使用サイン入りマスク

今回の目玉は"千の顔を持つ男"こと、あのミル・マスカラスの本人使用済みマスク! こちらはメキシコの有名な職人、ロペスの手による逸品で、ベロにはちゃんとマスカラス本人のサイン入り。ぜひともマスカラスばりに気高いスーツと合わせて着用していただきたいものだ。ビバ、メヒコ!

闘道館■http://www.toudoukan.com/

## PRESENT 02

1名様

### アリスター・オーフレイム 直筆サイン色紙

[非売品]

今号の表紙も飾ったアリスター。そのボディもさることながら、顔面の筋肉美も迫力満点! たとえ上手の才賀紀左衛門いわく、「黒いアヒル」。

HP■http://www.thereem.com/

## PRESENT 03

1名様

### 桜井マッハ速人&長南亮 直筆サイン色紙

[非売品]

かつてDEEPで大激闘を繰り広げた二人。今号の対談は「これ、もうカットだよ!」というマッハの声が響くほどの盛り上がりを見せたとか。

ブログ(マッハ)■http://ameblo.jp/sakurai-mach-hayato/

## PRESENT 04

1名様

### 『マッスルハウス11』チケット

[非売品]

10.6『マッスルハウス10』の試合後に、観客に配布された20年後に開催予定の『マッスルハウス11』のチケット。20年保管してください!

DDT■http://www.ddtpro.com/

## PRESENT 05

1名様

### SRCステッカー

[非売品]

こちらは「SRC」の向井社長が「手帳に貼ってください(笑)」と、お土産にくれた本部道場のステッカー! さぁ、きみも手帳に貼るんだ!

SRC■http://www.src-official.com/pc/index.php

## PRESENT 06

1名様

### DETEKOIYA Tシャツ

[リバーサル/¥5,040(税込)]

「リバーサル×髙田道場」コラボから、"男の中の男たち"DETEKOIYA Tシャツが登場! 統括本部長時代を彷彿させるシルエットが激シブ!

リバーサル■http://www.rvddw.com/

## PRESENT 07

1名様

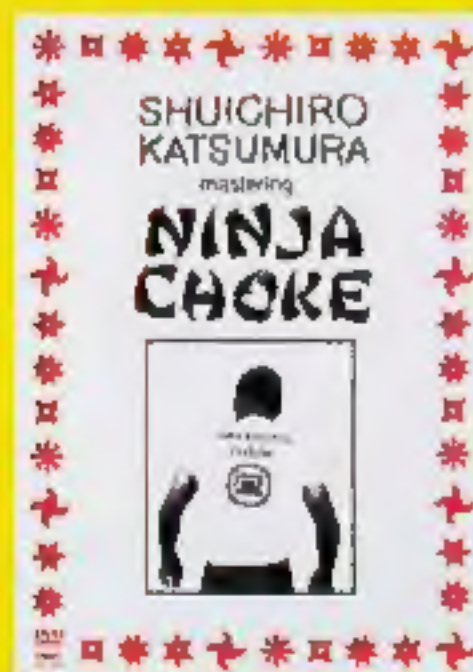
### DVD 『DEEP 2001-2010』～10年目の奇跡～

[クエスト/¥10,500(税込)]

2001年に"格闘技のおもちゃ箱"として産声を上げたDEEP。いまや格闘技界に欠かせない存在となった佐伯ワールドの10年間の軌跡を追う!

クエスト■http://www.queststation.com/

## PRESENT 08

1名様

### DVD 勝村周一朗 『ニンジャチョーク』

[クエスト/¥5,880(税込)]

現在のMMAで注目されている技、ニンジャチョーク。そのかたち、入り方、極め方などを修斗世界フェザー級王者の勝村周一朗が紹介! ニンニン!

## PRESENT 09

1名様

### DVD 伝説のサムライ空手 『三浦美幸 空手基本の提言』

[クエスト/¥5,880(税込)]

海外へ雄飛する空手家の草分けとして、シカゴで長年活動を続けてきた三浦美幸。そのオリジナリティあふれる稽古システムを伝授!

## PRESENT 10

1名様

### DVD UNIBOS(ウニボス) ロシヤ マルチ戦闘システム4 『自己防衛と攻撃 Vol.2』

[クエスト/¥5,040(税込)]

旧ソ連邦の秘密警察として恐れられたKGBに伝わる格闘技DVD。これを観て戦闘用に開発されたヴォルク・ハンばりの実戦技を身につけろ!

## PRESENT 11

1名様

### DVD 『現代に伝わる日本刀の心と技』～備前長船の名刀に挑む～

[クエスト/¥5,880(税込)]

長い歴史のうちに作り上げられてきた日本刀。ぜひともこちらは刀マニアの日明兄さんに観ていただきたいものだ。でしょ!?

クエスト■http://www.queststation.com/

kamipro153 応募券 7.6%

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

# kamipro 紙のプロレス

**No.153**
2010年12月6日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
スズキィ
八木賢太郎（録画ミスのため非番）

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
高橋くん

編集次長（ペルーサ……!?）
松林 貴

デザインGM
出田 一（TwoThree）

デザイン隊長
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
鎌田やっちゃん
白木みのる（以上、TwoThree）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
吉場正和
今村陽子
笹井孝祐
タイコウクニヨシ
梅木麗子
金山フヒト
丸山剛史

演出
irie38（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

業務部
樽本"プラナスクリーム"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

編集チアガール
金川"ナツコ"奈津子
安部"クリン"悠子

ディヴィーノ・マダム
廣橋久美子

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431
東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

発売元
株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177
東京都千代田区富士見2-13-3

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport






本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL: http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。



## NEXT ISSUE

**12.30『戦極ソウル・オブ・ファイト』、**
**12.31『Dynamite!!』直前情報満載!!**
**No.154は12月24日（金）発売予定!**

※地域によっては発売が多少遅れることもありますので良いお年を!

ビスカル 150g

ビスカル 300g

ビスカル 900g

ビスカル 2.5kg

ビスカル小粒 65g

ビスカル小粒 180g

ビスカルシニア小粒 60g

ビスカルシニア 300g

ビスカルダイエット 300g

ビスカルダイエット 900g

ビスカルcat 100g

ビスカルcat 200g